

令和3年度

医学科授業計画

医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。

【開学の祖 ポンペ ファン メールデルフォールトの言葉】

長崎大学医学部医学科

目 次

はじめに	1
アクセシビリティ	2
試験成績の発表	2
追試験に関する取扱い	3
共用試験の判定基準に関する申合せ	4
医学部カリキュラムの概要	6
学年・学期別の試験科目一覧	10
平成23年度以前入学者の科目の読替表	12
平成24～27年度入学者の科目の読替表	13
平成28～29年度入学者の科目の読替表	15
令和3～5年度4年次開講科目名変更に関する読替表	16
平成30～令和2年度入学者の科目の読替表	17
長崎大学ナンバリング・システムについて	19
医学部医学科のディプロマポリシーにおける領域ごとの達成レベル	21
学年・学期別授業計画	
1 年次授業計画	22
2 年次授業計画	55
3 年次授業計画	97
4 年次授業計画	155
5 年次授業計画	223
6 年次授業計画	228

科目別目次

1 年次科目

授業時間割	22
医と社会Ⅰ	23
人体構造系Ⅰ	26
生体分子系	30
発生・組織系	33
内臓機能・体液系Ⅰ	37
医科生物学入門	41
プレリサーチセミナー	43
地域医療ゼミ	45
国際医療ゼミ	49
熱帯医学ゼミ	50
医学ゼミ	51
医学英語	53

2 年次科目

授業時間割	55
医と社会Ⅱ	57
分子遺伝系	60
神経・感覚器系	63
人体構造系Ⅱ	67
動物性機能系	70
内臓機能・体液系Ⅱ	74
感染系	77
免疫系	81
腫瘍系	84
放射線基礎医学	87
プレリサーチセミナー	90
国際医療ゼミ	91
国際医療英語	92
医学ゼミ	93
医学英語	95

3 年次科目

授業時間割	97
医と社会Ⅲ	98
病理総論系	101
基礎医学TBL	103
薬理系	106
血液・リンパ系	109
循環器系	112
呼吸器系	116
内分泌・代謝・栄養系	120
消化器系	124
感染症系	128
運動系	132
腎泌尿器系	135
生殖系	138

放射線医学	142
臨床検査医学	144
プレリサーチセミナー	147
リサーチセミナー	148
国際医療英語	150
医学ゼミ	151
医学英語	153

4 年次科目

授業時間割	155
医と社会Ⅳ	156
人体構造系Ⅲ	159
精神系	162
免疫・アレルギー疾患系	165
脳・神経系	168
皮膚系	172
視覚系	175
耳鼻咽喉口腔系	178
小児系	181
法医学系	184
衛生学・臨床疫学	186
公衆衛生学	189
地域医療学	191
診断学	194
外科治療学	200
総合診療学・医療情報学	204
臨床薬理学	207
東洋医学	209
総合病理学	212
臨床推論PBL	214
臨床実習	215
リサーチセミナー	216
アドバンストリサーチセミナー	218
医学ゼミ	219
医学英語	221

5 年次科目

授業時間割	223
臨床実習	224
高次臨床実習	225
アドバンストリサーチセミナー	226

6 年次科目

授業時間割	228
高次臨床実習	229
アドバンストリサーチセミナー	230
卒前集中講義	231

は じ め に

長崎大学医学部医学科では「大学教育における基本的教養と専門の基盤となる幅広い知識を修得させるとともに、医学に関する高度の専門的知識を修得させ、自立性と社会性を身につけた医師及び科学的創造性をもった医学者を育成すること」を教育目標としております（医学部規程第2条）。

この目標達成のために学科教育では、

- 1) 医学医療の知識と総合的理解（医学を学ぶ）
- 2) 科学性及び医学的創造性の養成（科学を学ぶ）
- 3) 医師としての社会的責任感及び自立性の確立（人間を学ぶ）

を図ることを重視し、この3点をバランスよく併せ持ったカリキュラムが実施されています。一般教育（全学教育）と専門教育を楔形に合わせた6年一貫教育形態が取り入れられており、平成10年度と平成14年度の改訂を経て、その概要は次頁以下に示した通りです。

医学医療の知識の修得と総合的理解の点では基礎医学から臨床医学へと展開していく医学教育の順次性を重視した年次別の授業科目が開設されています。即ち、1年次では2年次以降に学ぶ教科の基盤作りが行えるように、「医科生物学入門」をはじめとする医学の基礎科目が開講されます。2年次では人体の構造、生理機能をさらに詳細にかつ統合的に理解し医学の基礎作りが行えるように、3・4年次においては疾患の発生機序、病態の理解を基に診断、治療、予防の原理の理解へと進み、5・6年次でそれまでに得られた知識を臨床実習や臨床総括講義を通してより実戦的なものとして整理体系づけると共に、診療に必要な思考力、判断力及び技術を養成できるように授業科目が配置されています。

特に4年次からは「Problem-based learning (PBL)」が導入され自己問題解決能力の向上を図ると共に、4・5年次の各科ローテーションを軸とする「臨床実習」と5・6年次の選択必修となる「高次臨床実習」を通して、より現場に即した実習内容が提供されることになっています。また、長崎大学医学部のユニークな授業科目として1年次には「医学史・原爆医学と長崎」が、3年次には「熱帯医学」と「感染症学」を融合させた「感染症系」が設けられています。さらに、4・5年次の「臨床実習」では「離島実習」があり、実際に五島列島などでの離島医療の現場に接していただきます。それらによって、長崎の歴史と地域性に根ざした上で、日本の医療が担うべき国際的な立場の認識、さらにこれからの社会において必要と思われる医師、医学者の国際的感覚をも養っていただくことが期待されています。

科学性及び医学的創造性の養成については、各教科の授業でも当然行われますが、学生の科学的好奇心の喚起、科学的創造性の育成を図って、3年次に10週間の「リサーチセミナー」の期間が設けられています。この期間は医学部基礎系研究室と熱帯医学研究所の各部門で、各自が選択した研究テーマについて終日研究活動に従事することになります。また、平成14年度からの新カリキュラムでは必修選択科目の少人数教育「医学ゼミ」が開始され、特定の分野を深く学ぶことが可能になります。また、6年次の最終講義として卒前集中講義を設けました。

医学教育においては早い時期での医療への接触が大切だとされています。それを踏まえて、「医と社会」が設けられ、そこでは病院体験や看護体験実習での医療現場への参加や、今日的医療テーマについて専門教員を交えての討論の機会が用意されています。

さらに2・3年次の「医と社会」では、医学・医療の社会に入り自立する為の精神的基盤作りを図れるように医の倫理、医療心理学、医学・医療社会問題等について学習します。一方、4～6年次での臨床実習では、実戦的な知識・技術を身に付けるばかりでなく、多くの患者さんに接することによって職業的使命感を養っていただくことが期待されています。

最初に述べた本医学部医学科の教育目標を十分に理解し、“医学を学び”、“科学を学び”、“人間を学び”自立性と社会性を身に付けた医師、科学的創造性を持った医学者に育っていただくことを切望します。

アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。

アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先

（TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948

（E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp

試験成績の発表

専門の成績（可否）については掲示にてお知らせします。

成績結果に疑義がある場合は、成績発表後、1週間以内に学務課へ問い合わせてください。

また、評価については、年度末にお知らせします。

追試験に関する取扱い

平成25年12月18日
医学科会議決定
平成30年 9月19日
一部改正

長崎大学医学部規程第14条の規定に基づく追試験の取扱いは、下記のとおりとする。

1. 病気その他やむを得ない理由により専門教育科目の定期試験を受けることができなかった者に対し、教務委員会において審議し、追試験を行うことがある。病気その他やむを得ない理由とは、次の各号のいずれかに該当する場合をいう。

- (1) 病気又は負傷により入院加療を要する場合（医師の診断書の提出を要する）
- (2) 学校保健安全法施行規則第十八条に定められた感染性の疾患に該当する場合（医師の診断書の提出を要する）
- (3) 忌引の場合（会葬御礼のカード等の提出を要する）
- (4) 交通機関の事故・不通の場合（証明できる書類の提出を要する）
- (5) その他、教務委員会が正当と認める理由である場合

対象となるものは、定期試験実施後、すみやかに上記証明書を添えて追試験願を提出しなければならない。

2. 本人の不注意（寝過し、時間割誤認など）によるものについては、追試験は認められない。また教務委員会での審査にて、定期試験が受験可能であったと判断されるものについては、追試験を許可しない。

3. 追試験を受けようとする者は、担当教員の指定する日時に追試験を受験しなければならない。

4. 当該授業科目の追試験は1回限りとする。

5. 追試験の評価は科目責任者の判断にて減点される場合がある。

6. 尚、専門科目の定期試験以外の試験はこの申し合わせ事項を適応せず、追試験実施の有無は各科目責任者の判断によるものとする。

共用試験の判定基準に関する申合せ

（平成 31 年 4 月 17 日）
医 学 科 会 議 決 定

共用試験の判定基準について、下記のとおり申し合わせる。

記

- 第 1 共用試験の合格の判定は、CBT 及び OSCE の両方に合格した者に対し行う。
- 第 2 共用試験を不合格と判定された者は、翌年度 4 年次科目の臨床推論 PBL、診断学を聴講の上、CBT 及び OSCE の両方を受験しなければならない。
- 2 前項の科目について、各授業を行った時数の 3 分の 1 を超えて欠席した者に対しては、CBT 及び OSCE の受験資格を認めない。
- 3 第 1 項の科目を除く 4 年次科目の聴講については、学生からの申出により、各科目責任者が判断する。
- 第 3 CBT 本試験の評価については、年度毎に別途通知する 能力値（以下 IRT 値）以上をもって合格とし、当該 IRT 値 未満の場合には再試験を行う。なお、追・再試験の評価についても、当該 IRT 値以上 をもって合格とする。
- 第 4 OSCE 本試験の評価については、すべてのステーションで 60 点以上を取得することをもって合格とし、60 点未満のステーションがあった場合には、当該ステーションについて再試験を行う。なお、追・再試験の評価についても、60 点以上を合格とする。
- 第 5 共用試験の本試験及び追・再試験において、病気、忌引、その他特段の事情なく欠席又は遅刻した者は不合格とする。
- 2 前項の規定により、本試験を不合格となった者は追・再試験の対象としない。

附 則

この申合せは、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 23 年 11 月 16 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 27 年 8 月 5 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 28 年 1 月 6 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 29 年 11 月 22 日から施行する。

附 則

- 1 この申合せは、平成 31 年 4 月 17 日から施行し、平成 31 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 31 年 3 月 31 日現在医学部医学科に在籍している者及び平成 31 年度において第 2 年次に編入学する者についても、改正後の本申合せの規定を適用する。

医学部カリキュラムの概要 (1年次生)

(令和3年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
<u>医と社会</u> (1)医と社会I <u>入門科目</u> (2)医科生物学入門 <u>正常構造と機能</u> (3)人体構造系I (4)生体分子系 (5)発生・組織系 (6)内臓機能・体液系 I		<u>医と社会</u> (1)医と社会II <u>入門科目</u> (2)Communication Skill In English (3)医学史・原爆医学と長崎 <u>正常構造と機能</u> (5)神経・感覚器系 (6)人体構造系II (7)動物性機能系 (8)内臓機能・体液系 II <u>疾患総論</u> (10)感染系 (11)免疫系 (12)病理総論系 (13)腫瘍系 (14)基礎医学TBL (15)放射線基礎医学 (16)薬理系 <u>疾患各論</u> (17)血液・リンパ系 (18)循環器系 (19)感染症系		<u>医と社会</u> (1)医と社会III <u>疾患各論</u> (2)呼吸器系 (3)内分泌・代謝・栄養系 (4)消化器系 (5)運動系 (6)腎泌尿器系 (7)生殖系 <u>診療の基本</u> (14)放射線医学 <u>基礎研究実習</u> (15)リサーチセミナー		<u>医と社会</u> (1)医と社会IV <u>正常構造と機能</u> (2)人体構造系III (3)小児系 <u>疾患各論</u> (4)法医学系 (5)衛生学・臨床疫学 (6)公衆衛生学 (7)地域医療学・医療情報学 <u>診療の基本</u> (8)臨床検査医学 (9)外科治療学 (10)救急医学 (11)総合診療学 (12)臨床薬理学 (13)東洋医学 (14)総合病理学 (15)リハビリテーション医学 <u>臨床実習</u> (18)臨床実習 <u>基礎研究実習</u> (19)リサーチセミナー		<u>臨床実習</u> (1)臨床実習 (2)高次臨床実習I		<u>臨床実習</u> (1)高次臨床実習II 卒業試験	
教養教育				医学総合セミナー							
				医学英語							

医学部カリキュラムの概要 (2～4年次生)

(平成30年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
医と社会I 正常構造と機能 生体分子系 人体構造系I 発生・組織系 内臓機能・体液系 I		医と社会II 正常構造と機能 人体構造系II 神経・感覚器系 動物性機能系 内臓機能・体液系 II 疾患総論 感染系 免疫系 腫瘍系 放射線基礎医学		医と社会III 疾患総論 病理総論系 基礎医学TBL 薬理系 疾患各論 血液・リンパ系 循環器系 呼吸器系 感染症系 腎泌尿器系 診療の基本 放射線医学 基礎研究実習 リサーチセミナー (発表会は4年次)		医と社会IV 正常構造と機能 人体構造系III 疾患各論 精神系 免疫・アレルギー系 脳・神経系 皮膚系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 小児系 医学・医療と社会 衛生学・分子疫学 公衆衛生学 地域医療学 診療の基本 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床実習 臨床実習		臨床実習 臨床実習 高次臨床実習I		臨床実習 高次臨床実習II	
学部モジュール 医科生物学入門 医学統計学 医学史・原爆医学と長崎 Communication Skill in English											
教養教育											
医学総合セミナー											
医学英語											
卒業試験											

医学部カリキュラムの概要 (5～6年次生)

(平成28年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
医と社会I 正常構造と機能 生体分子系 人体構造系I 発生・組織系 内臓機能・体液系 I		医と社会II 正常構造と機能 人体構造系II 神経・感覚器系 動物性機能系 内臓機能・体液系 II 疾患総論 感染系 免疫系 腫瘍系 環境因子系		医と社会III 疾患総論 病理総論系 基礎医学TBL 薬理系 疾患各論 血液・リンパ系 循環器系 呼吸器系 感染症系 腎泌尿器系 診療の基本 放射線医学 基礎研究実習 リサーチセミナー (発表会は4年次)		医と社会IV 正常構造と機能 人体構造系III 疾患各論 精神系 免疫・アレルギー系 脳・神経系 皮膚系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 小児系 医学・医療と社会 衛生学・分子疫学 公衆衛生学 地域医療学 診療の基本 診断学 外科治療学 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床推論PBL 臨床実習 臨床実習		臨床実習 臨床実習 高次臨床実習I		臨床実習 高次臨床実習II	
学部モジュール 医科生物学入門 医学統計学 医学史・原爆医学と長崎 Communication Skill in English											
教養教育											
医学総合セミナー											
医学英語											
卒業試験											

医学部カリキュラムの概要(学士2年前期編入学)

(平成29年度以降2年次編入学生適用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
		医と社会II		医と社会III		医と社会IV					
		<u>正常構造と機能</u>		<u>疾患総論</u>		<u>正常構造と機能</u>		<u>臨床実習</u>		<u>臨床実習</u>	
		生体分子系		病理総論系		人体構造系III		臨床実習		高次臨床実習II	
		人体構造系I		基礎医学TBL				高次臨床実習I			
		発生・組織系		薬理系		<u>疾患各論</u>					
		人体構造系II	内臓機能・体液系 I			精神系					
		神経・感覚器系	分子遺伝系	<u>疾患各論</u>		免疫・アレルギー系					
		動物性機能系		血液・リンパ系	内分泌・代謝・栄養系	脳・神経系					
		内臓機能・体液系 II		循環器系		皮膚系					
				呼吸器系	消化器系	視覚系					
		<u>疾患総論</u>		感染症系	運動系	耳鼻咽喉口腔系					
			感染系	腎泌尿器系	生殖系	小児系					
			免疫系								
			腫瘍系	<u>診療の基本</u>		<u>医学・医療と社会</u>					
			環境因子系	放射線医学	臨床検査医学	衛生学・分子疫学	法医学系				
				<u>基礎研究実習</u>		公衆衛生学					
					リサーチセミナー (発表会は4年次)	地域医療学					
						<u>診療の基本</u>					
						診断学					
						外科治療学					
						臨床疫学・医療情報学					
						臨床薬理学					
						東洋医学					
						総合病理学					
						臨床推論PBL					
						<u>臨床実習</u>					
						臨床実習					卒業試験
				医学総合セミナー							
				医学英語							

学年・学期別の試験科目一覧（一般学生用）

学 年	前 期 末 試 験 期 間	後 期 末 試 験 期 間
1 年次		生体分子系 人体構造系Ⅰ 発生・組織系 内臓機能・体液系Ⅰ
2 年次	神経・感覚器系 人体構造系Ⅱ 動物性機能系	分子遺伝系 感染系 免疫系 腫瘍系 放射線基礎医学
3 年次	病理総論系 放射線医学 循環器系 血液・リンパ系 腎泌尿器系 感染症系 呼吸器系 薬理系	生殖系 運動系 臨床検査医学 内分泌・代謝・栄養系 消化器系
4 年次	人体構造系Ⅲ 精神系 免疫・アレルギー疾患系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 小児系 衛生学・臨床疫学 公衆衛生学 地域医療学 総合診療学・医療情報学 東洋医学	法医学系 診断学 外科治療学
5 年次		
6 年次	卒業試験	

学年・学期別の試験科目一覧（学士編入学者用）

学 年	前 期 末 試 験 期 間	後 期 末 試 験 期 間
2 年次	神経・感覚器系 人体構造系Ⅱ 動物性機能系	生体分子系 分子遺伝系 内臓機能・体液系Ⅰ 発生・組織系 感染系 免疫系 腫瘍系 放射線基礎医学
3 年次	病理総論系 放射線医学 循環器系 血液・リンパ系 腎泌尿器系 感染症系 呼吸器系 薬理系	生殖系 運動系 臨床検査医学 内分泌・代謝・栄養系 消化器系
4 年次	人体構造系Ⅲ 精神系 免疫・アレルギー疾患系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 小児系 衛生学・臨床疫学 公衆衛生学 地域医療学 総合診療学・医療情報学 東洋医学	法医学系 診断学 外科治療学
5 年次		
6 年次	卒業試験	

平成23年度以前入学者の科目の読替え表

平成23(2011)年度以前入学者カリキュラム科目				
開講年次	科目区分	科目	受講学期	旧カリ 単位数
1年	医と社会	医と社会	1前	7.5
2年	医と社会	医と社会	2後	
3年	医と社会	医と社会	3前・後	
4年	医と社会	医と社会	4前	
1年	入門科目	人間生物学	1前・後	4.0
1年				
1年	入門科目	細胞生物学	1前	1.0
1年	入門科目	原爆医学概論	1前	0.5
1年	入門科目	医学は長崎から	1前	0.5
1年	入門科目	医学統計学	1後	1.0
1年	入門科目	生物化学	1後	1.0
1年	入門科目	生物・化学実習	1後	2.0
1年	正常構造と機能	人体構造系	1後	6.5
2年	正常構造と機能	人体構造系	2前	
2年				
2年	正常構造と機能	生体分子系	2前	2.5
2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2前	2.0
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2後	2.0
2年				
2年	正常構造と機能	発生・組織系	2後	3.0
2年				
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2後	2.5
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系	2前・後	3.5
2年	正常構造と機能	(生理学実習)	2前	
3年	疾患総論	感染系	3前	3.5
3年	疾患総論	免疫系	3前	2.0
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)	3前	2.5
3年				
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.5
3年	疾患総論	病理各論系	3前・後	4.0
3年				
3年	疾患総論	分子病態系	3前	1.0
3年	疾患総論	腫瘍系	3前	1.0
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	1.5
3年	疾患各論	循環器系	3後	2.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3後	2.0
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後	9.0
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.0
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5
4年	疾患各論	消化器系	4前	2.5
4年	疾患各論	泌尿器系	4前	1.5
4年	疾患各論	生殖系	4前	2.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5
4年	疾患各論	皮膚系	4後	1.5
4年	疾患各論	精神系	4後	1.5
4年	疾患各論	小児系	4後	1.5
4年	疾患各論	感染症系	4後	2.0
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5
4年	医学・医療と社会	社会医学系	4前・後	5.0
4年				
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0
4年	診療の基本	放射線医学	4後	1.0
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0
4年	診療の基本	外科治療学	4後	2.0
5年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床薬理学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床総括講義	5前・後	8.5
5年				
5年	臨床実習	臨床実習	5前・後	42.0
6年	診療の基本	臨床総括講義(卒前集中講義)	6前	
6年	臨床実習	高次臨床実習	6前	

※H27年度までに下記の3科目を未履修でかつ3、4年次に「＊」の科目を履修する機会がなかった者のみ適用する科目				
5年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床薬理学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床総括講義	5前・後	8.5
5年	臨床実習	臨床実習	5前・後	42.0
6年	診療の基本	臨床総括講義(卒前集中講義)	6前	
6年	臨床実習	高次臨床実習	6前	

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者カリキュラム					
開講年次	科目区分	科目	受講学期	新カリ 単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前	2.5	4科目履修すると読替え
2年	医と社会	医と社会II	2後	2.0	
3年	医と社会	医と社会III	3前・後	2.5	
4年	医と社会	医と社会IV	4前	0.5	
1年	入門科目	人間生物学	1前	2.0	4単位に読替え
1年					
1年	学部モジュール科目	細胞生物学	1前	2.0	1単位に読替え
1年	学部モジュール科目	原爆医学概論	1前	2.0	0.5単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学は長崎から	1前	2.0	0.5単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	1単位に読替え
					読替え科目なし
					読替え科目なし
1年	正常構造と機能	人体構造系Ⅰ	1後	2.0	3科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	人体構造系Ⅱ	2前	3.5	
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	1.0	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前	3.0	2.5単位に読替え
1年	正常構造と機能	分子遺伝系	1後	2.0	
1年	正常構造と機能	神経・感覚器系Ⅰ	1後	1.5	2科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系Ⅱ	2後	0.5	
1年	正常構造と機能	発生・組織系Ⅰ	1後	0.5	2科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	発生・組織系Ⅱ	2前	2.5	
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	2.5	
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系Ⅰ	1後	1.0	2科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系Ⅱ	2前	2.5	
2年	正常構造と機能	(生理学実習)	2前	3.5	
2年	疾患総論	感染系	2後		
2年	疾患総論	免疫系	2後	2.0	
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0	
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅰ	3前	2.5	3科目履修すると読替え
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅱ	3後		
4年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅲ	4前		
2年	疾患総論	病理総論系	2後	1.5	
3年	疾患総論	病理各論系Ⅰ	3前	4.0	3科目履修すると読替え
3年	疾患総論	病理各論系Ⅱ	3後		
4年	疾患総論	病理各論系Ⅲ	4前		
2年	疾患総論	基礎医学TBL	2後	1.0	
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	1.0	
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	1.5	
3年	疾患各論	循環器系	3前	2.5	
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	2.0	
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5	
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後	11.5	9単位に読替え
3年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	3後	1.0	
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5	
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5	
3年	疾患各論	消化器系	3前	2.5	
3年	疾患各論	泌尿器系	3後	1.5	
3年	疾患各論	生殖系	3後	2.5	
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.5	1単位に読替え
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5	
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.5	
4年	疾患各論	精神系	4前	1.5	
3年	疾患各論	小児系	3後	1.5	
3年	疾患各論	感染症系	3前	2.0	
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5	
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5	5単位に読替え
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5	
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0	
3年	診療の基本	放射線医学	3後	1.0	
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0	
4年	診療の基本	外科治療学	4前	2.0	
4年	診療の基本	* 臨床疫学・医療情報学	4後	0.5	
4年	診療の基本	* 臨床薬理学	4後	0.5	
3年	診療の基本	* 臨床医学TBLⅠ	3前	2.0	8.5単位に読替え
3年	診療の基本	* 臨床医学TBLⅡ	3後	1.0	
4年	診療の基本	* 臨床医学TBLⅢ	4前	1.0	
4年	診療の基本	* 東洋医学	4後	0.5	
4年	診療の基本	* 総合病理学	4後	1.0	
4年	診療の基本	* 臨床推論PBL	4後	3.0	
4年	臨床実習	* 臨床実習	4後		
5年	臨床実習	臨床実習	5前・後	55.0	42単位に読替え
6年	診療の基本	臨床総括講義	6前	3.0	
6年	臨床実習	高次臨床実習Ⅱ	6前	20.0	

※ の開講年次が変更になった科目については、新カリの開講年次において履修し、進級要件は、旧カリの開講年次の要件に含める。

※ の開講年次が変更になった科目については、新カリの開講年次において履修するが、進級要件には含めない。

平成24～27年度入学者の科目の読替表

(平成28年度以降入学者カリキュラム1～2年次開講科目)

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者 カリキュラム					平成28(2016)年度以降入学者 カリキュラム					
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前	2.5	1年	医と社会	医と社会I	1前・後	2.0	
2年	医と社会	医と社会II	2後	2.0	2年	医と社会	医と社会II	2前・後	2.0	
1年	入門科目	人間生物学(※)	1前	2.0	1年	学部モジュール科目	医科生物学入門	1前	1.0	2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	細胞生物学	1前	2.0	1年	学部モジュール科目	医科生物学入門	1前	1.0	2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	原爆医学概論	1前	2.0	1年	学部モジュール科目	医学史・原爆医学と長崎	1前	2.0	各2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学は長崎から	1前	2.0						
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	
1年	正常構造と機能	人体構造系Ⅰ	1後	2.0	1年	正常構造と機能	人体構造系Ⅰ	1前・後	2.0	
2年	正常構造と機能	人体構造系Ⅱ	2前	3.5	2年	正常構造と機能	人体構造系Ⅱ	2前	3.5	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前	3.0	1年	正常構造と機能	生体分子系	1前・後	1.5	3単位に読替え
1年	正常構造と機能	分子遺伝系(※)	1後	2.0	2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2後	2.0	
1年	正常構造と機能	神経・感覚器系Ⅰ(※)	1後	1.5	2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2前	1.5	1科目履修で2科目に読替え
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系Ⅱ	2後	0.5						
1年	正常構造と機能	発生・組織系Ⅰ	1後	0.5	1年	正常構造と機能	発生・組織系	1前・後	2.0	1科目履修で2科目に読替え
2年	正常構造と機能	発生・組織系Ⅱ	2前	2.5						
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	2.5	2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	1.5	2.5単位に読替え
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系Ⅰ	1後	1.0	1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系Ⅰ	1後	3.5	
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系Ⅱ(※)	2前	2.5	2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系Ⅱ	2前	0.5	
2年	疾患総論	感染系	2後	3.5	2年	疾患総論	感染系	2後	2.5	3.5単位に読替え
2年	疾患総論	免疫系	2後	2.0	2年	疾患総論	免疫系	2後	1.5	2単位に読替え
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0	2年	疾患総論	環境因子系	2後	1.0	
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	1.0	2年	疾患総論	腫瘍系	2後	0.5	1単位に読替え

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者

※ の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成24(2012)～平成27(2015)年度カリの開講年次の要件に含める。

※ の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成28(2016)年度カリの開講年次の要件に含める。なお、開講しない年度の再履修については成績評価のみを実施する。

※ 内臓機能・体液系Ⅱの未修得学生は平成28(2016)年度以降カリの内臓機能・体液系Ⅰも再履修すること。

平成28(2016)年度編入学生

※ 朱書きの科目については、平成28(2016)年度に別途補講・試験等を行う。

平成24～27年度入学者の科目の読替表

(平成28年度以降入学者カリキュラム3～6年次開講科目)

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者 カリキュラム				
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数
3年	医と社会	医と社会Ⅲ	3前・後	2.5
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	0.5
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	1.0
2年	疾患総論	病理総論系	2後	1.5
2年	疾患総論	基礎医学TBL	2後	1.0
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅰ	3前	2.5
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅱ	3後	
4年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)Ⅲ	4前	
3年	疾患総論	病理各論系Ⅰ	3前	4.0
3年	疾患総論	病理各論系Ⅱ	3後	
4年	疾患総論	病理各論系Ⅲ	4前	
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	1.5
3年	疾患各論	循環器系	3前	2.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	2.0
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	疾患各論	消化器系	3前	2.5
3年	疾患各論	感染症系	3前	2.0
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3後	1.5
3年	疾患各論	生殖系	3後	2.5
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5
3年	疾患各論	小児系	3後	1.5
3年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	3後	1.0
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.5
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.5
4年	疾患各論	精神系	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5
3年	診療の基本	放射線医学	3後	1.0
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0
4年	診療の基本	外科治療学	4前	2.0
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4後	0.5
4年	診療の基本	臨床薬理学	4後	0.5
4年	診療の基本	東洋医学	4後	0.5
4年	診療の基本	総合病理学	4後	1.0
3年	診療の基本	臨床医学TBLⅠ	3前	2.0
3年	診療の基本	臨床医学TBLⅡ	3後	1.0
4年	診療の基本	臨床医学TBLⅢ	4前	1.0
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	3.0
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	55.0
5年	臨床実習	高次臨床実習Ⅰ	5後	7.5
6年	診療の基本	臨床総括講義	6前	3.0
6年	臨床実習	高次臨床実習Ⅱ	6前	20.0

平成28(2016)年度以降入学者 カリキュラム					
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	
3年	医と社会	医と社会Ⅲ	3前・後	2.0	2.5単位に読替え
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	1.0	0.5単位に読替え
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	0.5	1単位に読替え
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.0	1.5単位に読替え
3年	疾患総論	基礎医学TBL	3前	1.5	1単位に読替え
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)	3前	1.0	すべて履修することで 2.5単位に読替え
3年	疾患各論	(各科目の薬理系部分を履修)	3前・後		
4年	疾患各論	(各科目の薬理系部分を履修)	4前		
3年	疾患各論	(各科目の病理各論系部分を履修)	3前・後		すべて履修することで 4単位に読替え
4年	疾患各論	(各科目の病理各論系部分を履修)	4前		
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3前	1.5	
3年	疾患各論	循環器系	3前	4.5	2.5単位に読替え
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	1.5	2単位に読替え
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5	
3年	疾患各論	消化器系	3後	3.0	2.5単位に読替え
3年	疾患各論	感染症系	3前	1.5	2単位に読替え
3年	疾患各論	運動系	3後	2.5	1.5単位に読替え
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3前	1.5	
3年	疾患各論	生殖系	3後	3.5	2.5単位に読替え
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5	
4年	疾患各論	小児系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.5	1単位に読替え
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	4.0	2.5単位に読替え
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	疾患各論	精神系	4前	1.0	1.5単位に読替え
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.0	1.5単位に読替え
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5	
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5	2科目履修することで 1科目に読替え
4年	医学・医療と社会	地域医療学	4前	0.5	
3年	診療の基本	放射線医学	3前	0.5	すべて履修することで 1科目に読替え
3年	疾患各論	(各科目の放射線医学部分を履修)	3前・後		
4年	疾患各論	(各科目の放射線医学部分を履修)	4前		
3年	診療の基本	臨床検査医学	3後	0.5	1単位に読替え
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5	3単位に読替え
4年	診療の基本	外科治療学	4後	1.5	2単位に読替え
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4前	0.5	
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5	
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5	1単位に読替え
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	2.0	1科目履修で4科目に 読替え
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0	55単位に読替え
5年	臨床実習	高次臨床実習Ⅰ	5後	12.5	7.5単位に読替え
6年		卒業試験	6前・後		3単位に読替え
6年	臨床実習	高次臨床実習Ⅱ	6前	25.0	20単位に読替え

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者

※ の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成24(2012)～平成27(2015)年度カリの開講年次の要件に含める。

※ の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成28(2016)年度カリの開講年次の要件に含める。なお、開講しない年度の再履修については成績評価のみを実施する。

平成28～平成29年度入学者の科目の読替表

(平成30年度以降入学者カリキュラム)

平成28(2016)年度～平成29(2017)年度 入学者カリキュラム				
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数
1年	医と社会	医と社会I	1前・後	2.0
2年	医と社会	医と社会II	2前・後	2.0
3年	医と社会	医と社会III	3前・後	2.0
4年	医と社会	医と社会IV	4前・後	1.0
1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1前・後	2.0
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前・後	1.5
2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2後	2.0
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2前	1.5
1年	正常構造と機能	発生・組織系	1前・後	2.0
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	3.5
2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	1.5
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	0.5
4年	正常構造と機能	人体構造系 III	4前	0.5
2年	疾患総論	感染系	2後	2.5
2年	疾患総論	免疫系	2後	1.5
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.0
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	0.5
3年	疾患総論	基礎医学TBL	3前	1.5
2年	疾患総論	環境因子系	2後	1.0
3年	疾患総論	薬理系	3前	1.0
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3前	1.5
3年	疾患各論	循環器系	3前	4.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	1.5
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	疾患各論	消化器系	3後	3.0
4年	疾患各論	精神系	4前	1.0
3年	疾患各論	感染症系	3前	1.5
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.5
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	4.0
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.0
3年	疾患各論	運動系	3後	2.5
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3前	1.5
3年	疾患各論	生殖系	3後	3.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.0
4年	疾患各論	小児系	4前	1.0
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.0
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	地域医療学	4前	0.5
3年	診療の基本	放射線医学	3前	0.5
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5
3年	診療の基本	臨床検査医学	3後	0.5
4年	診療の基本	外科治療学	4後	1.5
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4前	0.5
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	2.0
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0
5年	臨床実習	高次臨床実習I	5後	12.5
6年	臨床実習	高次臨床実習II	6前	25.0
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5

平成30 (2018)年度以降入学者 カリキュラム					
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前・後	2.0	
2年	医と社会	医と社会II	2前・後	2.0	
3年	医と社会	医と社会III	3前・後	2.0	
4年	医と社会	医と社会IV	4前・後	1.0	
1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1前・後	2.0	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前・後	1.5	
2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2後	2.0	
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2前	1.5	
1年	正常構造と機能	発生・組織系	1前・後	2.0	
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	3.5	
2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5	
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	1.5	
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	0.5	
4年	正常構造と機能	人体構造系 III	4前	0.5	
2年	疾患総論	感染系	2後	2.5	
2年	疾患総論	免疫系	2後	1.5	
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.0	
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	0.5	
3年	疾患総論	基礎医学TBL	3前	1.5	
2年	疾患総論	放射線基礎医学	2後	1.0	
3年	疾患総論	薬理系	3前	1.0	
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3前	1.5	
3年	疾患各論	循環器系	3前	4.5	
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	1.5	
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5	
3年	疾患各論	消化器系	3後	3.0	
4年	疾患各論	精神系	4前	1.0	
3年	疾患各論	感染症系	3前	1.5	
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.5	
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	4.0	
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.0	
3年	疾患各論	運動系	3後	2.5	
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3前	1.5	
3年	疾患各論	生殖系	3後	3.5	
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0	
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.0	
4年	疾患各論	小児系	4前	1.0	
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.0	
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5	
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5	
4年	医学・医療と社会	地域医療学	4前	0.5	
3年	診療の基本	放射線医学	3前	0.5	
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5	
3年	診療の基本	臨床検査医学	3後	0.5	
4年	診療の基本	外科治療学	4後	1.5	
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4前	0.5	
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5	
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	2.0	
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0	
5年	臨床実習	高次臨床実習I	5後	12.5	
6年	臨床実習	高次臨床実習II	6前	25.0	
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5	

令和3年度～令和5年度 4年次開講科目名変更に関する読替表

平成28(2016)年度～令和2(2020)年度 入学者カリキュラム				
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	1.0
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	0.5
4年	疾患各論	精神系	4前	1.0
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.5
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	4.0
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.0
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.0
4年	疾患各論	小児系	4前	1.0
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.0
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	地域医療学	4前	0.5
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5
4年	診療の基本	外科治療学	4後	1.5
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4前	0.5
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	2.0
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0

令和3(2021)年度～令和5(2023)年度開講科目名					
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	1.0	
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	0.5	
4年	疾患各論	精神系	4前	1.0	
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.5	
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	4.0	
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.0	
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0	
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.0	
4年	疾患各論	小児系	4前	1.0	
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.0	
4年	医学・医療と社会	衛生学・臨床疫学	4前	1.5	
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5	
4年	医学・医療と社会	地域医療学	4前	0.5	
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5	
4年	診療の基本	外科治療学	4後	1.5	
4年	診療の基本	総合診療学・医療情報学	4前	0.5	
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5	
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	2.0	
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0	

平成30～令和2年度入学者の科目の読替表

(令和3年度以降入学者カリキュラム1～2年次開講科目)

平成30(2018)年度～令和2(2020)年度以降入学者カリキュラム					令和3(2021)年度以降入学者カリキュラム					
開講年次	科目区分	科目	受講学期	単位数	開講年次	科目区分	科目	受講学期	単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前・後	2.0	1年	医と社会	医と社会I	1前・後	2.0	
2年	医と社会	医と社会II	2前・後	2.0	2年	医と社会	医と社会II	2前・後	2.0	
1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1前・後	2.0	1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1前・後	2.0	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前・後	1.5	1年	正常構造と機能	生体分子系	1前・後	1.5	
2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2後	2.0	2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2後	2.0	
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2前	1.5	2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2前	1.5	
1年	正常構造と機能	発生・組織系	1前・後	2.0	1年	正常構造と機能	発生・組織系	1前・後	2.0	
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	3.5	1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	3.0	3.5単位に読替
2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5	2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.0	3.5単位に読替
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	1.5	2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	1.5	
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	0.5	2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	0.5	
2年	疾患総論	感染系	2後	2.5	2年	疾患総論	感染系	2後	2.5	
2年	疾患総論	免疫系	2後	1.5	2年	疾患総論	免疫系	2後	1.0	1.5単位に読替
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	0.5	2年	疾患総論	腫瘍系	2後	1.0	0.5単位に読替
2年	疾患総論	放射線基礎医学	2後	1.0	2年	疾患総論	放射線基礎医学	2後	0.5	1.0単位に読替
1年	学部モジュール科目	医科生物学入門	1前	1.0	1年	入門科目	医科生物学入門	1前	1.0	
1年	学部モジュール科目	Communication Skill in English	1前	1.0	2年	入門科目	Communication Skill In English	2前	0.5	1.0単位に読替
1年	学部モジュール科目	医学史・原爆医学と長崎	1前	2.0	2年	入門科目	医学史・原爆医学と長崎	2前	1.0	2.0単位に読替
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	2年	入門科目	医学統計学	2後	0.5	2.0単位に読替

平成28(2016)年度～令和2(2020)年度入学者

※ の開講年次が変更になった科目については、令和3(2021)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は令和3(2021)年度以降カリの開講年次の要件に含める。なお、開講しない年度の再履修については成績評価のみを実施する。

平成30～令和2年度入学者の科目の読替表

(令和3年度以降入学者カリキュラム3～6年次開講科目)

平成30(2018)年度～令和2(2020)年度 入学者カリキュラム				
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数
3年	医と社会	医と社会Ⅲ	3前・後	2.0
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	1.0
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	0.5
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.0
3年	疾患総論	基礎医学TBL	3前	1.5
3年	疾患総論	薬理系	3前	1.0
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3前	1.5
3年	疾患各論	循環器系	3前	4.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	1.5
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	疾患各論	消化器系	3後	3.0
4年	疾患各論	精神系	4前	1.0
3年	疾患各論	感染症系	3前	1.5
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.5
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	4.0
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.0
3年	疾患各論	運動系	3後	2.5
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3前	1.5
3年	疾患各論	生殖系	3後	3.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.0
4年	疾患各論	小児系	4前	1.0
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.0
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5
4年	医学・医療と社会	地域医療学	4前	0.5
3年	診療の基本	放射線医学	3前	0.5
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5
3年	診療の基本	臨床検査医学	3後	0.5
4年	診療の基本	外科治療学	4後	1.5
4年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	4前	0.5
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	2.0
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0
5年	臨床実習	高次臨床実習Ⅰ	5後	12.5
6年	臨床実習	高次臨床実習Ⅱ	6前	25.0
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5

令和3(2021)年度以降入学者 カリキュラム					
開講 年次	科目区分	科目	受講 学期	単位数	
3年	医と社会	医と社会Ⅲ	3前・後	1.5	2.0単位に読替
4年	医と社会	医と社会Ⅳ	4前・後	2.0	1.0単位に読替
4年	診療の基本	リハビリテーション医学	4前	0.5	
4年	正常構造と機能	人体構造系Ⅲ	4前	0.5	
2年	疾患総論	病理総論系	2後	0.5	1.0単位に読替
2年	疾患総論	基礎医学TBL	2後	1.5	
2年	疾患総論	薬理系	2後	1.0	
2年	疾患各論	血液・リンパ系	2後	1.0	1.5単位に読替
2年	疾患各論	循環器系	2後	2.0	4.5単位に読替
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	1.5	
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3前	1.5	
3年	疾患各論	消化器系	3前	3.0	
3年	疾患各論	精神系	3後	2.0	1.0単位に読替
2年	疾患各論	感染症系	2後	1.0	1.5単位に読替
3年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	3後	1.5	
3年	疾患各論	脳・神経系	3後	1.5	4.0単位に読替
3年	疾患各論	皮膚系	3後	1.0	
3年	疾患各論	運動系	3前	2.5	
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3前	1.0	1.5単位に読替
3年	疾患各論	生殖系	3前	1.5	3.5単位に読替
3年	疾患各論	視覚系	3後	1.5	1.0単位に読替
3年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	3後	1.5	1.0単位に読替
4年	疾患各論	小児系	4前	2.0	1.0単位に読替
4年	医学・医療と社会	法医学系	4前	1.5	1.0単位に読替
4年	医学・医療と社会	衛生学・臨床疫学	4前	1.0	1.5単位に読替
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.0	1.5単位に読替
4年	医学・医療と社会	地域医療学・医療情報学	4前	0.5	
3年	診療の基本	放射線医学	3後	0.5	
4年	診療の基本	診断学	4後	2.5	
4年	診療の基本	臨床検査医学	4前	1.0	0.5単位に読替
4年	診療の基本	外科治療学	4前	2.5	1.5単位に読替
4年	診療の基本	救急医学	4前	0.5	
4年	医学・医療と社会	衛生学・臨床疫学	4前	1.0	0.5単位に読替
4年	医学・医療と社会	地域医療学・医療情報学	4前	0.5	
4年	診療の基本	総合診療学	4前	1.0	
4年	診療の基本	臨床薬理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	東洋医学	4前	0.5	
4年	診療の基本	総合病理学	4前	0.5	
4年	診療の基本	臨床推論PBL	4後	3.0	2.0単位に読替
4・5年	臨床実習	臨床実習	4後、5前・後	64.0	
5年	臨床実習	高次臨床実習Ⅰ	5後	19.0	12.5単位に読替
6年	臨床実習	高次臨床実習Ⅱ	6前	25.0	
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後・4前	11.5	

平成28(2016)年度～令和2(2020)年度入学者

- ※ の開講年次が変更になった科目については、令和3(2021)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成30(2018)年度～令和2(2020)年度カリの開講年次の要件に含める。ただし、失格科目を有する場合は進級を認めない。
- ※ の開講年次が変更になった科目については、令和3(2021)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は令和3(2021)年度以降カリの開講年次の要件に含める。なお、開講しない年度の再履修については成績評価のみを実施する。

長崎大学ナンバリング・システムについて

長崎大学ナンバリング・システムとは、長崎大学で開講されているすべての授業科目（教養教育科目・学部専門科目・大学院専門科目等。旧カリキュラム科目は除く）に対し、授業内容・レベル等に応じて特定の記号や数字やナンバーを付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより、体系的な教育プログラムの実現を目指す方法のことです。

1 長崎大学ナンバリング・システムの統一フォーマット

長崎大学の全授業科目には、以下のような統一した形式でナンバーが付されています：

AB	CD	1	234	5
学部等 コード	領域/プログ ラムコード	水準 コード	識別 コード	使用言語 コード

通常表示部分

表示例

専門教育科目 医と社会 GEFY 11111

【学部等コード】科目を提供する学部や研究科等を表す 2 文字の英文字です。医学科は「ME」で統一されています。

【領域/プログラムコード】科目を提供する学部等のカリキュラム体系上の大きな区分を表す 2 文字の英文字です。医学科は「ME」で統一されています。

【水準コード】科目の授業のレベルを示す 1 桁の数字です。数字と学年は必ずしも一致するものではありません。識別コードの詳細については表 2 を参照ください。

【識別コード】「領域/プログラムコード」で大きく区分された科目群を更に識別するための 3 桁の数字です。学部・研究科ごとに独自の規則で識別コードが付与されています。

【使用言語コード】その科目の授業中に使用される言語を表す 1 桁の数字です。表 3 を参照ください。

2 長崎大学ナンバリング・システムの特徴

識別コード

識別コードによって、授業科目の履修体系上でのおよその位置づけが一目で識別できます。

3 ナンバリング・システムの活用方法

記号や数字の意味することを理解した上で、便覧等に表示された学部や研究科ごとの科目ナンバー付与規則を理解してください。慣れてくると、科目ナンバーを見るだけで、カリキュラム体系上どのような位置づけの科目であるか分かるようになります。

識別コードは、体系的に設計してありますので、科目選択や履修順序を判断する際に利用してください。

シラバスに履修の前提とする科目が科目ナンバーで記載されている場合があります。そのときは、NU-Web の検索機能でどのような科目であるか調べてください（平成 27 年 10 月以降使用可）。

専門的な学習を行うようになったら、科目ナンバーの学問分類からその科目の学問上の位置づけを把握することで、履修科目の体系に関する理解が更に深まります。

表 2

0 : 卒業要件外科目 (大学入学前に修得する内容の科目, リメディアル科目, 卒業要件外授業科目)	
1 : 学部専門科目 (入門的内容の科目), 教養教育科目 (語学上級科目, 高年次対象科目を除く)	学部科目
2 : 学部専門科目 (基礎的内容の科目), 教養教育科目 (語学上級, 高年次対象科目)	
3 : 学部専門科目 (発展的内容の科目), 教養教育科目 (高年次対象科目)	
4 : 学部専門科目 (卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬 5～6 年科目)	

表 3

1 : 日本語で行う授業	6 : ドイツ語で行う授業
2 : 英語で行う授業	7 : フランス語で行う授業
3 : 日本語と英語のバイリンガル授業	8 : オランダ語で行う授業
4 : 中国語で行う授業	9 : 日本語と英語以外の外国語のバイリンガル授業
5 : 韓国語で行う授業	0 : (予備)

授業科目区分	科目名	ナンバリング
医と社会	医と社会Ⅰ	MEME21011
	医と社会Ⅱ	MEME21021
	医と社会Ⅲ	MEME31031
	医と社会Ⅳ	MEME31041
正常構造と機能	人体構造系Ⅰ	MEME23011
	人体構造系Ⅱ	MEME23021
	生体分子系	MEME23031
	分子遺伝系	MEME23041
	動物性機能系	MEME23071
	人体構造系Ⅲ	MEME33101
	神経・感覚器系	MEME23051
	発生・組織系	MEME23061
	内臓機能・体液系Ⅰ	MEME23131
	内臓機能・体液系Ⅱ	MEME23161
疾患総論	感染系	MEME24011
	免疫系	MEME24021
	放射線基礎医学	MEME24161
	薬理系	MEME34041
	病理総論系	MEME24051
	腫瘍系	MEME24101
	基礎医学TBL	MEME24111
疾患各論	血液・リンパ系	MEME35011
	循環器系	MEME35021
	呼吸器系	MEME35031
	内分泌・代謝・栄養系	MEME35041
	免疫・アレルギー疾患系	MEME35051
	脳・神経系	MEME35061
	皮膚系	MEME35071
	運動系	MEME35081
	消化器系	MEME35091
	腎泌尿器系	MEME35101
	生殖系	MEME35111
	視覚系	MEME35121
	耳鼻咽喉口腔系	MEME35131
	精神系	MEME35141
	小児系	MEME35151
	感染症系	MEME35161
医学・医療と社会	法医学系	MEME36011
	衛生学・分子疫学	MEME36031
	公衆衛生学	MEME36041
	地域医療学	MEME36051

授業科目区分	科目名	ナンバリング
診療の基本	診断学	MEME37011
	放射線医学	MEME37021
	臨床検査医学	MEME37031
	外科治療学	MEME37041
	臨床疫学・医療情報学	MEME37051
	臨床薬理学	MEME37061
	臨床総括講義	MEME47071
	東洋医学	MEME_3711
	総合病理学	MEME37121
	臨床推論PBL	MEME37131
臨床実習	臨床実習	MEME48011
	高次臨床実習Ⅰ	MEME48311
	高次臨床実習Ⅱ	MEME48321
基礎研究実習	リサーチセミナー	MEME39011
	プレリサーチセミナーⅠ	MEME29041
	プレリサーチセミナーⅡ	MEME29051
	プレリサーチセミナーⅢ	MEME39061
	アドバンストリサーチセミナーⅠ	MEME39071
	アドバンストリサーチセミナーⅡ	MEME39081
	アドバンストリサーチセミナーⅢ	MEME49091
	アドバンストリサーチセミナーⅣ	MEME49101
	アドバンストリサーチセミナーⅤ	MEME49111
医学総合セミナー	医学ゼミⅠ	MEME20011
	医学ゼミⅡ	MEME20021
	医学ゼミⅢ	MEME30031
	地域医療ゼミ	MEME20091
	熱帯医学ゼミ	MEME20251
	国際医療ゼミⅠ	MEME20261
	国際医療ゼミⅡ	MEME20271
医学英語	国際医療英語Ⅰ	MEME20172
	国際医療英語Ⅱ	MEME20182
	医学英語Ⅰ	MEME21512
	医学英語Ⅱ	MEME21522
	医学英語Ⅲ	MEME21532
	医学英語Ⅳ	MEME21542
学部モジュール	医科生物学入門	MEMC16081
	医学統計学	MEME16031
	医学史・原爆医学と長崎	MEME16061
	CommunicationSkillinEnglish	MEME16073

医学部医学科のディプロマポリシーにおける領域ごとの達成レベル

レベル(達成度)	卒後教育	Advanced	Applied	Basic			
I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部学生は卒業時に							
自らの健康管理にも努め、生涯にわたる学習意欲を有し、生命倫理・医療倫理を重んじ、豊かな人間性と社会的使命感に基づいた行動ができる。	診療の現場で医師としての態度・価値観・行動を実践できる	診療の現場で医師としての態度・価値観・行動を实践できる	医師としての態度・価値観をシミュレーションできる	技能・態度を示すことができる	知識を獲得している	経験する機会はあるが、単位認定には関係ない	経験する機会がない
II. 医学・医療に関する知識(ver.2.1)	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部学生は卒業時に							
医学・医療の基本的知識を有し、総合的理解に基づいて課題を探索し、適切に問題解決できる。	実践の場で課題を探索し、適切に問題解決できる	実践の場で課題を探索し、解決への応用ができる	課題解決のための知識を示すことができる	課題解決の道筋を設定できる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	修得する機会がない
III. 医療の実践(ver.3.1)	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部学生は卒業時に							
医師としての業務を遂行する専門職として必要な基本的診療能力(統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的能力)を有し、適切な診療計画を立てることができる。	診療の場で実践することができる	診療の一部として実践することができる	模擬診療を実施できる	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない
IV. コミュニケーション技能(ver.2.0)	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部生は卒業時に							
人間理解に立った高い協調性のもとに医療の場において関わる全ての人の良好な人間関係を構築できる。	診療の場で実践することができる	診療の一部として実践することができる	模擬診療を実施できる	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない
V. 地域医療・社会医学(ver.3.0)	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部生は卒業時に							
医療行政・福祉・保健・医療経済への配慮の下、チームの一員として多職種と協働し、地域社会や国際社会へ貢献するための能力を身につけている。	地域医療のチームの一員として診療を実践できる	地域医療のチーム一員として診療の一部を実践できる	地域における課題の発見と計画立案ができる	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない
VI. 科学的探究	S	A	B	C	D	E	F
長崎大学医学部生は卒業時に							
医学研究の必要性を理解し、研究に参加すると共に、科学性及び医学的創造性に基づいた論理的思考や独創的発想ができる。	計画に沿って、自主的に研究に参加し、常に科学性および医学的創造性に基づいた論理的思考ができる	計画に沿って、一部自主的に参加できる	研究計画の立案、研究の見学、参加する	基盤となるスキル・態度を示すことができる	基盤となる知識を説明できる	経験する機会はある	経験する機会がない

【暫定版:2021.5.11】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 1年前期

月	日	月								日	火								日	水					日	木					日	金				
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:30 \$	12:50 \$	14:30 \$	16:10 \$		8:50 \$	10:30 \$	12:50 \$	14:30 \$	16:10 \$		8:50 \$	10:30 \$	12:50 \$	14:30 \$	16:10 \$
		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		10:20	12:00	14:20	16:00	17:40		10:20	12:00	14:20	16:00	17:40		10:20	12:00	14:20	16:00	17:40
4																									1	医学科オリエンテーション					2	入学式				
	5	医と社会Ⅰ (医療面接・ 身体診察)		人体 構造系 骨学	骨学実習	移動 時間	(教養教育) ※初年次 セミナー	6	医科生物学入門				移動 時間	プレ リサ ー チ セ ※ (教 養 教 育) ※ 初 年 次 セ ミ ナ ー	7						8	教養教育				9	初年次 教養 セ ミ ナ ー	※ (教 養 教 育) ※ 初 年 次 セ ミ ナ ー								
	12							13							14	15	16	23																		
	19							20	医と社会Ⅰ		21	22			23																					
	26							27	医科生物学入門		発生・組織系				28	昭和の日			29	30																
5	3	憲法記念日						4	みどりの日						5				こどもの日				6						7	初 セ ミ						
	10	英語		骨学		移動 時間	初 セ ミ	11	医と社会Ⅰ (共修)		発生・組織系		プレ リ サ ー チ セ ミ ナ ー ※ (教 養 教 育) ※ 初 年 次 セ ミ ナ ー	12	教養教育	13	教養教育	14																		
	17		英語	生体分子系				18			発生・組織系			19		20		21																		
	24	人体構造系 筋学						25	医と社会Ⅰ		発生・組織系			26		27		28																		
	6							31	英語		移動 時間	※ (教 養 教 育) ※ 初 年 次 セ ミ ナ ー		1		医と社会Ⅰ		発生組織系・上皮組織 支持組織		2	3	4														
7				8	医と社会Ⅰ		発生組織系・支持組織 筋組織						9	10	11																					
14		英語		15	医と社会Ⅰ			移動					16	17	18																					
21		医と社会Ⅰ		22	医と社会Ⅰ								23	24	25																					
28			29	30					1	2																										
7	5	医と社会Ⅰ		英語	生体分子系		6	医と社会Ⅰ				移動 時間	7	8	9																					
	12			医と社会			13						14	15																						
	19			生体分子系			20	試験期間					21	22	海の日			23	スポーツの日																	
	26	試験期間					27						28	29	教養教育			30	教養教育																	
8	2					3	夏季休業						4	夏季休業				5	夏季休業			6	夏季休業													
	9	振替休日				10							11					12				13														
	16	夏季休業				17							18					19				20														
	23					24							25					26				27														
	30					31							1					2				3														
9	6	試験期間				7	試験期間				8	試験期間			9	試験期間			10	試験期間																
	13					14					15				16				17																	

令和3年度 授 業 時 間 割 1年後期

月	日	月								日	火								日	水					日	木					日	金																																		
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5																														
		8:50 S	10:00 S	11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S		8:50 S	10:00 S	11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S		8:50 S	10:00 S	11:10 S	13:00 S	14:10 S		8:50 S	10:00 S	11:10 S	13:00 S	14:10 S		8:50 S	10:00 S	11:10 S	13:00 S	14:10 S																														
		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10																														
9	20	敬老の日								21	試験期間								22	試験期間					23	秋分の日					24	試験期間																																		
	27	人体構造系 脈管		内蔵機能体液系 細胞生理 自律神経 循環器						28	生体分子系		発生組織系 脈管・リンパ		国医ゼミ・熱医ゼミ	29	教養教育					30	教養教育					1	教養教育																																					
10	4	人体構造系 脈管		内蔵機能体液系 細胞生理 自律神経 循環器						5			発生組織系 口腔・消化器			6						7						8																																						
	12									発生組織系 口腔・消化器						13						14						15																																						
	18	人体構造系 内蔵 消化器 呼吸器		内蔵機能体液系 消化器・呼吸器									19	発生組織系・呼吸器		20						21						22																																						
25	人体構造系 内蔵 消化器 呼吸器									内蔵機能体液系 消化器・呼吸器						26						発生組織系・泌尿器						27						文化の日					28	29																										
11			1	人体構造系 内蔵 消化器 呼吸器		内蔵機能体液系 消化器・呼吸器										2	発生組織系・呼吸器		3	教養教育					4	5																																								
	8	内蔵機能体液系 消化器・呼吸器										9	発生組織系・泌尿器		10	11			12																																															
	15							人体構造系 泌尿器 生殖器 内分泌 感覚器		内蔵機能体液系 腎・排泄 酸塩基平衡						16	発生組織系・泌尿器		17						18	19																																								
	22	人体構造系 泌尿器 生殖器 内分泌 感覚器		内蔵機能体液系 腎・排泄 酸塩基平衡												23			勤労感謝の日								24	25	26																																					
12	29									人体構造系 泌尿器 生殖器 内分泌 感覚器		内蔵機能体液系 腎・排泄 酸塩基平衡						30	発生組織系・男性生殖器		熱国医ゼミ	1	教養教育					2	3																																					
	6	人体構造系 泌尿器 生殖器 内分泌 感覚器		内蔵機能体液系 腎・排泄 酸塩基平衡														7										発生組織系・女性生殖器		8	9																																			
	13									人体構造系 泌尿器 生殖器 内分泌 感覚器		内蔵機能体液系 腎・排泄 酸塩基平衡						14	発生組織系・内分泌		15	16																																												
	20	人体構造系 泌尿器 生殖器 内分泌 感覚器		内蔵機能体液系 腎・排泄 酸塩基平衡														21			発生組織系・内分泌							22	23																																					
27	冬期休業									28	冬期休業								29	冬期休業					30	冬期休業					31	冬期休業																																		
1	3	冬期休業								4	冬期休業								5	教養教育					6	教養教育					7	教養教育																																		
	10	成人の日								11	発生祖機器系 生化学実習		熱国医ゼミ	12	13	14																																																		
	17	人体構造系 末梢神経		内蔵機能体液系 血液 体温調節						18				発生祖機器系 生化学実習		19	20	21																																																
	24									人体構造系 末梢神経						内蔵機能体液系 血液 体温調節									25						発生祖機器系 生化学実習						26	27	28																											
2	31	退職教授記念講演会										1	発生祖機器系 生化学実習		熱国医ゼミ							2	3	4																																										
	7	退職教授記念講演会								8	試験期間								9	退職教授記念講演会					10	試験期間					11	建国記念の日																																		
	14	試験期間								15	試験期間								16	試験期間					17						試験期間					18	試験期間																													
21	試験期間								22	試験期間								23	天皇誕生日					24	春季休業					25						春季休業																														
3	28	春季休業								1	春季休業								2	春季休業										3	春季休業										4	春季休業																								
	7	春季休業								8	春季休業								9	春季休業										10											春季休業						11	春季休業																		
	14	春分の日								15	春季休業								16	春季休業										17																	春季休業						18	春季休業												
	21	春分の日								22	春季休業								23	春季休業										24																							春季休業						25	春季休業						
28	春季休業								29	春季休業								30	春季休業					31	春季休業					1	春季休業																																			

医と社会 I

責任者	氏名（教室）	安武 亨（先端医育センター）		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medicine and Society 1		

1. 授業の概要及び位置づけ

医学生として、プライマリヘルスケアから先進医療についてまで幅広い知識を得るとともに、チーム医療および医療に必要な患者とのコミュニケーションスキルを学ぶ。また、病院やリハビリテーション施設での体験実習を通して、医師の立場や病める人の立場から見た医療・リハビリテーション・介護について実感する。さらに地域包括ケアシステムを理解し、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。その他にも、情報収集法の会得などの学び方を学び、医学書にはない“大切なこと”を学ぶ。

2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
5. チーム医療の重要性を理解し、関連専門職との連携を図ることができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1) 実習
 - (1) 学内演習（保健学科と共修）
 - (2) 病院見学 長崎大学病院医局
 - (3) 学外施設見学 リハビリテーション施設（保健学科と共修）
- 2) 医学テーマ
 - (1) チーム医療・ワークショップ（保健学科と共修）
 - (2) 実習の心得：病院オリエンテーション（保健学科と共修）
 - (3) プロフェッショナリズム
 - (4) 地域包括ケアシステム
 - (5) 地域医療
 - (6) 臓器移植・再生医療
 - (7) 熱帯医学
 - (8) 対人関係
 - (9) プライマリヘルスケア
 - (10) グローバルヘルス
 - (11) 臨床倫理
 - (12) 図書館の利用法
 - (13) 栄養学
 - (14) 医療面接・身体診察

4. 教科書・教材・参考書

適宜LACSに掲載またはプリントを配付する。

5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場

合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

7. 教員名

安武 亨（先端医育センター）、田中 邦彦（先端医育センター）、江川 亜希子（先端医育センター）、北山 素（先端医育センター）、濱崎 景子（IR室兼先端医育センター）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、川尻 真也（地域医療学）、野中 文陽（離島医療研究所）、森田 公一（熱帯医学研究所）、有吉 紅也（熱帯医学研究所）、奥村 順子（熱帯医学研究所）、篠原 一之（神経生理学）、有馬 和彦（公衆衛生学）、江藤 宏美（保健学科）、黒田 裕美（保健学科）、森藤 香奈子（保健学科）、坂本 淳哉（保健学科）、東 登志夫（保健学科）、澤井 照光（保健学科）、井口 茂（保健学科）、中尾 一彦（病院長）、高畠 英昭（リハビリテーション部）、柳原 克紀（臨床検査医学）、三浦 清徳（産婦人科）、宮本 俊之（外傷センター）

8. 備考

- ・学外実習については、オリエンテーションを行い、実施要項に従う。
- ・行動科学分野責任者：青柳 潔、有馬 和彦

行動科学分野 講義一覧

学年	科目名	授業内容
1	医と社会Ⅰ	行動科学入門
1	医と社会Ⅰ	行動と脳
1	医と社会Ⅰ	行動とライフサイクル
1	医と社会Ⅰ	行動心理学における学習理論
2	医と社会Ⅱ	認知の情報処理
2	医と社会Ⅱ	行動医学と生物統計学
2	医と社会Ⅱ	医療現場におけるコミュニケーション
3	医と社会Ⅲ	動機づけ面接
3	医と社会Ⅲ	認知行動療法
3	医と社会Ⅲ	行動変容・糖尿病

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	月	1	ようこそ先輩	ようこそ先輩	臨床検査医学 柳原 克紀	4 講
4	5	月	2	医療面接・身体診察	大学での学び	先端医育センター 安武 亨	4 講
4	12	月	1	医療面接・身体診察	はじめての医療面接	安武、永田、北山、濱田	4 講
4	12	月	2	医療面接・身体診察	はじめての身体診察、感染防御について	感染防御教育センター 泉川 公一	4 講
4	19	月	1	医療面接・身体診察	はじめての医療面接	安武、高山、大園、濱田、江川	4 講
4	19	月	2	医療面接・身体診察	はじめての身体診察	安武、高山、北山、大園、濱田、江川	4 講
4	20	火	4	未定			オンライン
4	20	火	5	国際医療	熱帯医学	熱帯医学研究所 森田 公一	オンライン
4	26	月	1	医療面接・身体診察	はじめての身体診察	安武、永田、高山、北山、大園 濱田、江川	4 講
4	26	月	2	医療面接・身体診察	はじめての医療面接、地域で求められる医師について	地域包括ケア教育センター 永田 康浩	4 講
5	11	火	1～3	保健学科共修	授業ガイダンス クライアントの理解と現代医療を支える 医療専門職の役割(1)(2)	地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
5	18	火	1～3	保健学科共修	クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割 (3) ー病院見学実習へ向けてー 1.先輩からのメッセージ (医学科、看護、理学、作業) 2.病院内における接遇 自分が目指したい医師・看護師・理学療法士・作業療法士像 (実習グループの交流)	地域医療学・総合診療科 地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
5	25	火	1	行動科学	行動科学入門	公衆衛生学 有馬 和彦	オンライン
5	25	火	2	行動科学	行動と脳	神経生理学 篠原 一之	オンライン
5	25	火	3	行動科学	行動とライフサイクル	神経生理学 篠原 一之	オンライン
6	1	火	1～2	生涯学習	図書館ガイダンス		CBT室
6	8	火	1	栄養学	常識？臨床の現場から栄養学の基礎	高度救命救急センター 泉野 浩生	2 講
6	8	火	2	ようこそ先輩	骨を診るコツ	外傷センター 宮本 俊之	2 講
6	15	火	1～3	保健学科共修	学外施設実習オリエンテーション	地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
6	15	火	4	社会と医学・医療	プライマリヘルスケア	長崎県対馬病院 八坂 貴宏	オンライン
6	15	火	5	基本的資質・能力	病院見学オリエンテーション「大学病院の歩き方」	先端医育センター 安武 亨	オンライン
6	21	月	1	ようこそ先輩	生命の誕生と医療	産婦人科 三浦 清徳	オンライン
6	21	月	2	臨床倫理	臨床倫理入門	廣橋病院 荒木 利卓	オンライン
6	22	火	1～6	実習	学外施設見学／大学病院医局見学	先端医育センター 地域包括ケア教育センター 保健学科	ー
6	29	火	1～6	実習	学外施設見学／大学病院医局見学	先端医育センター 地域包括ケア教育センター 保健学科	ー
7	5	月	1	基本的資質・能力	医師のキャリアパスとプロフェッショナルリズム	医療教育開発センター 松島 加代子	オンライン
7	5	月	2	行動科学	行動心理学における学習理論	保健・医療推進センター 小川 さやか	オンライン
7	6	火	1～3	保健学科共修	ワークショップ：これまでの講義・実習を踏まえた 「望ましいチーム医療とは何か」	地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
7	6	火	4	国際医療	熱帯医学とグローバルヘルス	熱帯医学研究所 有吉 紅也	オンライン
7	6	火	5	国際医療	熱帯医学とグローバルヘルス	熱帯医学研究所 有吉 紅也・奥村 順子	オンライン
7	12	月	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	5年生	4 講
7	13	火	1	栄養学	嚥下と経口摂取	摂食・嚥下リハビリテーションセンター 久松 徳子	オンライン
7	13	火	2	医学知識と問題対応力	PBLとはなにか？	先端医育センター 田中 邦彦	オンライン
7	13	火	3	基本的資質・能力	対人関係	活水女子大学 永田 耕司	オンライン
7	13	火	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩	消化器内科 宮明 寿光	オンライン
7	13	火	5	先進医学	臓器移植・再生医療	移植・消化器外科 江口 晋	オンライン
11	29	月	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	5年生	2 講
11	30	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
11	30	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講
12	7	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
12	7	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講
12	14	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
12	14	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講
12	21	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
12	21	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講

人体構造系 I

責任者	氏名（教室）	弦本 敏行（肉眼解剖学（解剖学第二））		
	電話番号	7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Human Body Structure 1		

1. 授業の概要及び位置づけ

人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を体系的に習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、骨学実習は骨の構造を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

2. 授業到達目標

人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

骨格系、筋系、脈管系、内臓・感覚器系、末梢神経系の講義および骨学実習を行う。

4. 教科書・教材・参考書

★グレイ解剖学（第4版） 塩田浩平 他訳 エルゼビア・ジャパン
 ★ネッター解剖学アトラス（第6版） 相磯貞和 訳 南江堂
 骨学実習の手びき 寺田春水、藤田恒夫 南山堂
 分担解剖学1（総説・骨学・筋学） 小川鼎三、森 於菟他 金原出版
 分担解剖学2（脈管学・神経系） 平沢興 他 金原出版
 分担解剖学3（感覚器学・内臓学） 小川鼎三 他 金原出版
 （★は教科書、必携）

5. 成績評価の方法・基準等

骨格系、筋系、脈管系、内臓・感覚器系についての筆答試験および骨学についての実習試験を行い、総合的に評価する

- ・受験資格 講義：2/3以上出席、実習：原則として皆出席
 - ・分野と配点 骨学実習—50点、骨格系—50点、筋系—50点、脈管系—50点 内臓・感覚器系—100点、末梢神経系—50点
 - ・試験と評価
- 本試験：分野毎に可否を評価
 ○再試験（1回）：本試験の不合格分野のみを受験
 再試験後、課題レポート等も併せて総合的に評価する

6. 事前・事後学修の内容

【予習】LACSに事前にアップロードしているプリントの範囲の教科書該当部分を学習しておいてください。（1h）

【復習】プリントの内容と講義ノートとを、教科書を参考にしながら理解をさらに深めてください。（1h）

7. 教員名

弦本 敏行（肉眼解剖学分野）、佐伯 和信（肉眼解剖学分野）、高村 敬子（肉眼解剖学分野）、遠藤 大輔（肉眼解剖学分野）、村井 清人（肉眼解剖学分野）

8. 備考

- ・ 毎時間、教科書（グレイ解剖学）を必ず持参すること。
- ・ 骨学実習については、実習予定表に沿って十分に予習しておくこと。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

人体構造系 I

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	月	3	骨学 1	骨学総論	肉眼解剖・弦本	4 講
4	5	月	4～5	骨学実習 1	全身骨格の概観	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
4	12	月	3	骨学 2	上肢の骨・脊椎	肉眼解剖・弦本	4 講
4	12	月	4～5	骨学実習 2	上肢の骨・脊椎の観察	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
4	19	月	3	骨学 3	下肢の骨・胸郭	肉眼解剖・弦本	4 講
4	19	月	4～5	骨学実習 3	下肢の骨・胸郭の観察	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
4	26	月	3	骨学 4	頭蓋①	肉眼解剖・佐伯	4 講
4	26	月	4～5	骨学実習 4	頭蓋の観察①	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
5	10	月	3	骨学	頭蓋②	肉眼解剖・佐伯	2 講
5	10	月	4～5	骨学実習 5	頭蓋の観察②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
5	24	月	1	筋学 1	筋学総論	肉眼解剖・佐伯	オンライン
5	24	月	2	筋学 2	頭頸部の筋	肉眼解剖・佐伯	オンライン
5	31	月	1	筋学 3	胸腹部の筋	肉眼解剖・佐伯	オンライン
5	31	月	2	筋学 4	背部の筋	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	7	月	1	筋学 5	上肢の筋①	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	7	月	2	筋学 6	上肢の筋②	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	14	月	1	筋学 7	下肢の筋①	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	14	月	2	筋学 8	下肢の筋②	肉眼解剖・佐伯	オンライン
9	27	月	1	脈管学 1	脈管学総論、心臓①	肉眼解剖・弦本	2 講
9	27	月	2	脈管学 2	心臓②	肉眼解剖・弦本	2 講
9	27	月	3	脈管学 3	心臓③	肉眼解剖・弦本	2 講
10	4	月	1	脈管学 4	動脈系①	肉眼解剖・高村	2 講
10	4	月	2	脈管学 5	動脈系②	肉眼解剖・高村	2 講
10	4	月	3	脈管学 6	動脈系③	肉眼解剖・高村	2 講
10	11	月	1	脈管学 7	動脈系④	肉眼解剖・高村	1 講
10	11	月	2	脈管学 8	静脈系①	肉眼解剖・高村	1 講
10	18	月	1	脈管学 9	静脈系②	肉眼解剖・高村	2 講
10	18	月	2	脈管学 1 0	胎児循環、リンパ系	肉眼解剖・高村	2 講
10	18	月	3	内臓学 1	内臓学総論・腹膜	肉眼解剖・弦本	2 講
10	25	月	1	内臓学 2	消化器系①	肉眼解剖・弦本	1 講
10	25	月	2	内臓学 3	消化器系②	肉眼解剖・弦本	1 講
10	25	月	3	内臓学 4	消化器系③	肉眼解剖・弦本	1 講
11	1	月	1	内臓学 5	消化器系④	肉眼解剖・弦本	2 講
11	1	月	2	内臓学 6	消化器系⑤	肉眼解剖・弦本	2 講
11	8	月	1	内臓学 7	消化器系⑥	肉眼解剖・弦本	2 講
11	8	月	2	内臓学 8	消化器系⑦	肉眼解剖・弦本	2 講

人体構造系 I

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	8	月	3	内臓学 9	呼吸器系①	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	15	月	1	内臓学 1 0	呼吸器系②	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	15	月	2	内臓学 1 1	呼吸器系③	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	15	月	3	内臓学 1 2	呼吸器系④	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	22	月	1	内臓学 1 3	泌尿器系①	肉眼解剖・高村	2 講
11	22	月	2	内臓学 1 4	泌尿器系②	肉眼解剖・高村	2 講
11	29	月	1	内臓学 1 5	男性生殖器系①	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	29	月	2	内臓学 1 6	男性生殖器系②	肉眼解剖・佐伯	2 講
12	6	月	1	内臓学 1 7	女性生殖器系①	肉眼解剖・佐伯	1 講
12	6	月	2	内臓学 1 8	女性生殖器系②	肉眼解剖・佐伯	1 講
12	6	月	3	内臓学 1 9	女性生殖器系③、会陰	肉眼解剖・佐伯	1 講
12	13	月	1	内臓学 2 0	内分泌器系	肉眼解剖・弦本	2 講
12	13	月	2	内臓学 2 1	感覚器系	肉眼解剖・弦本	2 講
1	17	月	1	末梢神経学 1	末梢神経総論	肉眼解剖・弦本	2 講
1	17	月	2	末梢神経学 2	脊髄神経①	肉眼解剖・弦本	2 講
1	17	月	3	末梢神経学 3	脊髄神経②	肉眼解剖・弦本	2 講
1	24	月	1	末梢神経学 4	脊髄神経③	肉眼解剖・弦本	2 講
1	24	月	2	末梢神経学 5	脳神経①	肉眼解剖・弦本	2 講
1	24	月	3	末梢神経学 6	脳神経②	肉眼解剖・弦本	2 講
1	31	月	1	末梢神経学 7	脳神経③	肉眼解剖・弦本	2 講
1	31	月	2	末梢神経学 8	脳神経④	肉眼解剖・弦本	2 講
1	31	月	3	末梢神経学 9	自律神経	肉眼解剖・弦本	2 講

生体分子系

責任者	氏名（教室）	伊藤 敬（生化学）		
	電話番号	7037	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 13:00～17:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
科目英語名	Biochemistry		

1. 授業の概要及び位置づけ

生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。すなわち生化学的知識とその思考法は生命現象の理解のみならず基礎と臨床を含めた医学全般を理解するためにも不可欠である。生体分子系の講義では、蛋白質、糖質、脂質などの生体分子(Biomolecule)の構造・機能・代謝について、生化学的な基本的事柄を学び、細胞、臓器さらには個体の機能や形態と関連させながら分子レベルで理解することを学ぶ。さらに講義の内容の一部は実習により再確認する。実験・学習に際しての心構え・態度を養い、また実験結果のまとめ方を学ぶ。実習には予習が不可欠であり、各項目の内容等については、予め各担当教官からの説明があるが、実習の手引を熟読して内容を理解した上で実験を行うこと。

2. 授業到達目標

生化学の基礎知識の習得のみでなく、種々の疾患の病態や治療を分子レベルで理解しようとする姿勢を養うことが目標である。関連した自習に関して実験項目は各担当教官が設定した目標に従い、計画されているが、学生個々がこの項目の実験を行うことにより、何を学び、何を修得するのか、目標を定め実験することを目指す。

3. 授業内容（講義・実習項目）

次の項目について講義を行う。

(1)生命に必要な元素 (2)有機化合物 (3)化学反応論 (4)有機電子論 (5)不飽和炭化水素
(6)医薬品の化学 (7)生体分子(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸) (8)酵素の構造と機能
(9)代謝総論 (10)糖質の代謝 (11)脂質の代謝 (12)ヌクレオチドの代謝 (13)アミノ酸の代謝
(14)ポルフィリンの代謝 (15)臓器に特有な生化学

4. 教科書・教材・参考書

人体の正常構造と機能 日本医事新報社

ヴォート生化学上下(3版) 村松正實 訳 東京化学同人

ヴォート基礎生化学(3版) 村松正實 訳 東京化学同人

5. 成績評価の方法・基準等

授業内容について100点満点の筆答試験を行い、60点以上を合格とし成績評価とする。実習に関してはレポート、実習状況、出欠状況等を総合して評価する。生化学実習は生化学試験受験のための必修課題である。

6. 事前・事後学修の内容

資料による予習復習、関連する項目を教科書により復習すること

7. 教員名

伊藤 敬(医学部生化学)、中川 武弥(医学部生化学)、米田 光宏(医学部生化学)、奥田 晶彦(埼玉医科大学)、井上 聡(東京都健康長寿医療センター研究所)、宮西 隆幸(環境科学部)、上田 篤志(薬学部 薬科学科)、齋藤 義紀(薬学部 薬科学科)

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	17	月	4	生命に必要な元素とその振舞い	原子の電子配置、化学結合と混成起動	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	17	月	5	有機化合物の多様性	立体構造の表示と異性体の分類、命名	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	24	月	4	有機化合物の振舞い	電気陰性度、酸性度、共鳴、芳香族性	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	24	月	5	化学反応論	結合エネルギーと遷移状態、速度支配と熱力学支配、反応中間体	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	31	月	4	有機電子論	電子の流れ図の書き方と考え方、反応の分類、極性反応、ラジカル反応	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	31	月	5	不飽和炭化水素の化学	アルケン、アルキン、芳香族化合物	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	7	月	4	含酸素有機化合物の化学	アルコール、エーテル、カルボニル化合物	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	7	月	5	含窒素有機化合物の化学	アミン、複素環化合物	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	14	月	4	生体エネルギー学の基礎(1)	エネルギー学と熱力学	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	14	月	5	生体エネルギー学の基礎(2)	生物学的酸化還元反応	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	21	月	4	代謝総論	細胞内小器官と代謝	生化学・伊藤	オンライン
6	21	月	5	代謝総論	代謝の全体像と調節	生化学・伊藤	オンライン
6	28	月	4	酵素の構造・機能	酵素の一般的性質、酵素の触媒機構	生化学・伊藤	オンライン
6	28	月	5	酵素の構造・機能	酵素と補酵素の作用機構	生化学・伊藤	オンライン
7	5	月	4	酵素の構造・機能	酵素反応速度論、酵素の調節機構	生化学・伊藤	オンライン
7	5	月	5	代謝総論	ミトコンドリア呼吸鎖と酸化的リン酸化	生化学・伊藤	オンライン
7	12	月	4	代謝総論	アセチルCoAの異化とクレブス回路	生化学・伊藤	2 講
7	12	月	5	糖質の代謝	解糖系、アセチルCoA生成グリコーゲンの代謝	生化学・伊藤	2 講
7	19	月	4	糖質の代謝	ペントースリン酸サイクル	生化学・伊藤	オンライン
7	19	月	5	糖質の代謝	糖新生、解糖と糖新生の相互関係	生化学・伊藤	オンライン
9	28	火	1	糖質の代謝	糖鎖修飾	生化学・伊藤	2 講
9	28	火	2	糖質の代謝	ムコ多糖とプロテオグリカン	生化学・伊藤	2 講
10	5	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の酸化とケトン体形成	生化学・伊藤	2 講
10	5	火	2	脂質の代謝	ケトン体形成とエネルギー	生化学・伊藤	2 講
10	12	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の合成	生化学・伊藤	1 講
10	12	火	2	脂質の代謝	不飽和脂肪酸とエイコサノイド	生化学・伊藤	1 講
10	19	火	1	脂質の代謝	貯蔵脂質と膜脂質	生化学・伊藤	2 講
10	19	火	2	脂質の代謝	ステロイドの代謝	生化学・伊藤	2 講
10	26	火	1	核酸の代謝	核酸の構造と種類	生化学・伊藤	2 講
10	26	火	2	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成分解と再利用	生化学・伊藤	2 講
11	2	火	1	アミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝と窒素平衡	生化学・伊藤	2 講
11	2	火	2	アミノ酸の代謝	尿素回路	生化学・伊藤	2 講
11	9	火	1	臓器の生化学	骨格筋と平滑筋の生化学	環境科学・宮西	2 講
11	9	火	2	臓器の生化学	心筋細胞の生化学	環境科学・宮西	2 講
11	16	火	1	ゲノム医学	未分化幹細胞維持の機構	埼玉医大・奥田	2 講
11	16	火	2	ゲノム医学	エストロゲン受容体と癌化	埼玉医大・井上	2 講
1	18	火	4	生化学実習	実習に関する講義と説明	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	18	火	5	生化学実習	実習に関する講義と説明	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	18	火	6	生化学実習	実習に関する講義と説明	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	25	火	4	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	25	火	5	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	25	火	6	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
2	1	火	4	生化学実習	2. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
2	1	火	5	生化学実習	2. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
2	1	火	6	生化学実習	2. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、米田	実 1

発生・組織系

責任者	氏名（教室）	柴田 恭明（組織発生解剖学（解剖学第三））		
	電話番号	7027	e-mail	siva@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30～18:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Human development and Histology		

1. 授業の概要及び位置づけ

医師となるために必要とされる正常人体組織学と発生学の基礎知識を修得する。それらの知識と組織標本観察力は、病理組織学を始め後に続いて修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学および組織学の知識のエッセンスを伝えたい。

2. 授業到達目標

本講義により顕微鏡像から組織・器官を特定でき、その形態的特徴を適切な用語を用いて説明できることを到達目標とする。また、各器官の発生学についても説明できることとする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

発生学および組織学総論・各論の講義を行う。講義と平行して組織学の実習を行い、実習内容を必要に応じてチェックする。講義はオンラインもしくは第2講義室、第4講義室で行い、実習は第1実習室と第2実習室で行う。

4. 教科書・教材・参考書

<教科書>

カラーアトラス機能組織学（原著第2版） J. B. Kerr 医歯薬出版 11,000円

標準組織学 総論（5版） 原著：藤田 尚男、藤田 恒夫 改訂：岩永 敏彦 医学書院 9,020円

標準組織学 各論（5版） 原著：藤田 尚男、藤田 恒夫 改訂：岩永 敏彦、石村 和敬 医学書院 12,100円

<参考書>

The Developing Human: Clinically Oriented Embryology(11版) K. L. Moore & T. V. N. Persuad Saunders 12,749円

標準細胞生物学（2版） 石川春律、近藤尚武、柴田洋三郎 編 医学書院 5,940円

ラングマン人体発生学（11版） T. W. Sadler メディカル・サイエンス・インターナショナル 9,240円

ムーア人体発生学（8版） K. L. Moore 医歯薬出版 13,200円

永遠の不死：精子形成細胞の生物学 小路武彦 編 サイエンス社 2,420円

5. 成績評価の方法・基準等

成績の評価は、学期末に行うカラスライドを用いたペーパーテストに実習参加態度を加味し、最終合否判定を行う。また、LACSに掲げる小テストの達成状況を成績評価に加味する。なお、期末試験の受験には講義及び実習時間数の2/3以上の出席が必要でありこれに満たない場合は失格となる。

ペーパーテストは発生学分野30点、組織学講義分野30点、組織学実習分野40点の100点満点とし、合計点が60点以上で、3分野中2分野の得点が60%以上、1分野の得点が45%以上である場合を合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

6. 事前・事後学修の内容

講義・実習の資料および小テストを順次LACSへアップロードする。自主学習の指定した時間帯は実習室を開放するので各自で予習・復習に活用すること。また、LACSに掲げる小テストに

関しては全問正解するまで完遂すること。小テストの達成状況は試験の成績評価に加味する。

7. 教員名

柴田 恭明（解剖学第三）、松本 弦（解剖学第三）、村井 清人（解剖学第二）、大庭 伸介（口腔解剖学第二）、西野 友哉（第二内科）、牟田 久美子（第二内科）、江島 邦彰（非常勤講師（福岡青洲会病院））、進 正志（非常勤講師（崇城大学））、菱川 善隆（非常勤講師（宮崎大学））

8. 備考

授業・実習においては可及的に合理的配慮等のサポートをいたします。特に組織標本スライドでは、赤橙色・青紫色の染色が用いられます。判別が困難な学生はスタッフに申し出て下さい。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	27	火	4	1. 配偶子形成	・体細胞分裂と減数分裂 ・配偶子の発生	解剖3・柴田	オンライン
4	27	火	5	1. 配偶子形成	・形態学的変化	解剖3・柴田	オンライン
5	11	火	4	2. 排卵から着床まで		解剖3・柴田	オンライン
5	11	火	5	3. 2層性胚盤	・三胚葉誘導 ・2か月中の外形	解剖3・柴田	オンライン
5	18	火	4	4. 3層性胚盤		解剖3・柴田	オンライン
5	18	火	5	5. 胚子期		解剖3・柴田	オンライン
5	25	火	4	6. 胎児期	・胎児の発生	非常勤・江島	オンライン
5	25	火	5	7. 体腔と漿膜	・体腔の形成	非常勤・江島	オンライン
6	1	火	3	細胞・組織の概念 上皮組織	・分類・上皮細胞間の特殊分化 ・腺（唾液腺）	解剖3・柴田	2講
6	1	火	4	実習説明	諸注意、顕微鏡引き渡し	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	1	火	5	上皮組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	1	火	6	上皮組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	8	火	3	支持組織、筋組織	・結合組織・軟骨 ・平滑筋・骨格筋・心筋	解剖3・柴田	2講
6	8	火	4	支持組織、筋組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	8	火	5	支持組織、筋組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	8	火	6	支持組織、筋組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
9	28	火	3	脈管系	・心臓脈管の発生・血液 ・毛細血管・動脈・静脈・心臓	解剖3・柴田	2講
9	28	火	4	脈管系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
9	28	火	5	脈管系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
9	28	火	6	脈管系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	5	火	3	リンパ性器官	・リンパ性器官の発生・リンパ ・リンパ節・脾臓・胸腺	非常勤・進	2講
10	5	火	4	リンパ性器官	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・進	実2
10	5	火	5	リンパ性器官	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・進	実2
10	5	火	6	リンパ性器官	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・進	実2
10	19	火	3	消化器系（口腔）	・口腔・歯・唾液腺	口腔解剖2・大庭	2講
10	19	火	4	消化器系（口腔）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	19	火	5	消化器系（口腔）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	19	火	6	消化器系（口腔）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	26	火	3	消化器系（Ⅰ）	・消化管の発生・咽頭 ・食道・胃・小腸・大腸	非常勤・菱川	2講
10	26	火	4	消化器系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・菱川	実2
10	26	火	5	消化器系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・菱川	実2
10	26	火	6	消化器系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・菱川	実2
11	2	火	3	消化器系（Ⅱ）	・肝臓・胆嚢の発生・肝臓と胆嚢 ・膵臓の発生・膵臓	解剖3・柴田	2講

発生・組織系

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	2	火	4	消化器系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	2	火	5	消化器系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	2	火	6	消化器系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	9	火	3	呼吸器系	・呼吸器系の発生 ・鼻腔・喉頭・気管・肺	解剖3・柴田	2講
11	9	火	4	呼吸器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	9	火	5	呼吸器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	9	火	6	呼吸器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	16	火	3	泌尿器系	・泌尿器系の発生 ・腎臓・尿管・膀胱・尿道	内科2・西野／牟田	2講
11	16	火	4	泌尿器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	16	火	5	泌尿器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	16	火	6	泌尿器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	30	火	3	男性生殖器系	・男性生殖器系の発生 ・精巣・精路とその付属腺	解剖3・柴田	4講
11	30	火	4	男性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	30	火	5	男性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	30	火	6	男性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	7	火	3	女性生殖器系	・女性生殖器の発生・卵巣・卵管 ・子宮・膣・外陰部・胎盤・乳腺	非常勤・江島	4講
12	7	火	4	女性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・江島	実2
12	7	火	5	女性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・江島	実2
12	7	火	6	女性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・江島	実2
12	14	火	3	内分泌系（Ⅰ）	・下垂体・上皮小体・甲状腺	解剖3・柴田	4講
12	14	火	4	内分泌系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	14	火	5	内分泌系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	14	火	6	内分泌系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	21	火	3	内分泌系（Ⅱ）	・松果体・副腎・消化管の内分泌 ・パラガングリオン	解剖3・柴田	4講
12	21	火	4	内分泌系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	21	火	5	内分泌系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	21	火	6	内分泌系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
1	11	火	4	総まとめ	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
1	11	火	5	総まとめ	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
1	11	火	6	総まとめ	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2

内臓機能・体液系 I

責任者	氏名（教室）	井上 剛（生理学第一（内臓機能生理学））		
	電話番号	7031	e-mail	ts-inoue@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid		

1. 授業の概要及び位置づけ

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。当科目では、教科書の図説明に留まらず、臨床との関連性を重視したオリジナルな生理学講義を提供する。

2. 授業到達目標

生理学総論および臓器別各論を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1) 細胞生理学
- 2) 自律神経
- 3) 内分泌・代謝
- 4) 循環器
- 5) 呼吸器
- 6) 消化器
- 7) 腎・排泄
- 8) 酸・塩基平衡
- 9) 血液
- 10) 体温調節

4. 教科書・教材・参考書

ギャノン生理学 25版 岡田泰伸（監修）他 丸善出版 10,800円 またはその原著26版 9,136円
 ガイトン生理学 第13版 石川義弘（翻訳）他、エルゼビア・ジャパン株式会社 16,500円 またはその原著14版 19,932円
 標準生理学 第9版 福田 康一郎 他 医学書院 13,200円
 人体の正常構造と機能 第4版 坂井 建雄 他 日本医事新報 19,800円

上記教科書を中心に、パワーポイントで講義する。長崎大学LACSにアクセス、講義用スライド・資料をダウンロードする。紙での配布は行わない。

□ 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

5. 成績評価の方法・基準等

未定。本科目が始まる令和3年9月に、成績評価の方法・基準等を発表する。

6. 事前・事後学修の内容

事前に講義スライド・資料を準備する。事後学修にて、教科書を参照して復習を行い、講義スライド・資料内容を十分に理解する。

7. 教員名

井上 剛（内臓機能生理学）、辻 幸臣（内臓機能生理学）、中村 恭菜（内臓機能生理

学)、光武 範吏(原研医療)、世羅 至子(長崎県立大学)、樽見 航(神経生理学)、児島 将康(久留米大)

8. 備考

本年度、授業計画(担当教員及び内容)が大きく変更される可能性がある。履修に際し、事前の変更通知に十分留意すること。

9. ディプロマポリシー(レベルマトリクス)との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

内臓機能・体液系 I

(1年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	27	月	4	細胞生理1	細胞生理学(1)	内臓機能生理学・井上	2講
9	27	月	5	細胞生理2	細胞生理学(2)	内臓機能生理学・井上	2講
9	27	月	6	自律神経1	自律神経求心性神経と内臓-内臓反射	内臓機能生理学・井上	2講
10	4	月	4	自律神経2	自律神経系とストレス反応	内臓機能生理学・井上	2講
10	4	月	5	循環器1	心臓の構造・心筋の構造・イオンチャネル	内臓機能生理学・辻	2講
10	4	月	6	循環器2	心臓の自動性・膜電位・活動電位	内臓機能生理学・辻	2講
10	11	月	4	循環器3	心筋の興奮伝導と収縮の連関	内臓機能生理学・辻	2講
10	11	月	5	循環器4	ポンプとしての心臓	内臓機能生理学・辻	2講
10	11	月	6	循環器5	心電図(1)	内臓機能生理学・辻	2講
10	18	月	4	循環器6	心電図(2)	内臓機能生理学・辻	2講
10	18	月	5	循環器7	血管の機能・構造	内臓機能生理学・辻	2講
10	18	月	6	循環器8	静脈・リンパ系、微小循環、局所循環	内臓機能生理学・辻	2講
10	25	月	4	循環器9	心臓中枢、血管中枢、循環反射、心血管内分泌	内臓機能生理学・辻	1講
10	25	月	5	消化器1	消化器総論	原研医療・光武	1講
10	25	月	6	消化器2	上部消化管	原研医療・光武	1講
11	1	月	3	消化器3	下部消化管	原研医療・光武	2講
11	1	月	4	消化器4	肝胆膵	原研医療・光武	2講
11	8	月	4	内分泌・代謝1	内分泌総論	原研医療・光武	2講
11	8	月	5	内分泌・代謝2	副腎(視床下部一下垂体一副腎)	神経生理・樽見	2講
11	8	月	6	内分泌・代謝3	性腺(視床下部一下垂体一性腺)	神経生理・樽見	2講
11	15	月	4	内分泌・代謝4	甲状腺(視床下部一下垂体一甲状腺)	原研医療・光武	2講
11	15	月	5	内分泌・代謝5	同化と異化(1)	長崎県立大・世羅	2講
11	15	月	6	内分泌・代謝6	同化と異化(2)	長崎県立大・世羅	2講
11	22	月	3	内分泌・代謝7	骨代謝・副甲状腺	長崎県立大・世羅	2講
11	22	月	4	内分泌・代謝8	特別講義	久留米大・児島	2講
11	22	月	5	腎・排泄1	体液と浸透圧	内臓機能生理学・中村	2講
11	22	月	6	腎・排泄2	腎臓の構造と機能	内臓機能生理学・中村	2講
11	29	月	4	腎・排泄3	糸球体、傍糸球体装置	内臓機能生理学・中村	2講
11	29	月	5	腎・排泄4	尿細管の機能、再吸収	内臓機能生理学・中村	2講
11	29	月	6	腎・排泄5	尿の濃縮、クリアランス、排尿反射	内臓機能生理学・中村	2講
12	6	月	4	腎・排泄6	動脈圧制御に関わる腎臓・体液システム	内臓機能生理学・中村	1講
12	6	月	5	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	内臓機能生理学・井上	1講
12	6	月	6	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗	内臓機能生理学・井上	1講
12	13	月	3	呼吸3	閉塞性と拘束性疾患	内臓機能生理学・井上	2講
12	13	月	4	呼吸4	ガス交換(酸素の運搬)、ヘモグロビンと酸素飽和度	内臓機能生理学・井上	2講
12	13	月	5	呼吸5	ガス交換(炭酸ガスの運搬)、換気血流比	内臓機能生理学・井上	2講
12	13	月	6	呼吸6	肺循環(肺血流、肺血管抵抗、肺内圧)	内臓機能生理学・井上	2講
12	20	月	3	呼吸7	呼吸調節、呼吸中枢	内臓機能生理学・井上	2講

内臓機能・体液系 I

(1年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
12	20	月	4	酸・塩基平衡1	血液ガス、pH、酸塩基平衡調節	内臓機能生理学・中村	2講
12	20	月	5	酸・塩基平衡2	呼吸性と代謝性酸・塩基平衡異常	内臓機能生理学・中村	2講
12	20	月	6	酸・塩基平衡3	酸塩基平衡の腎の代償	内臓機能生理学・中村	2講
1	17	月	4	血液1	赤血球・ヘモグロビン	内臓機能生理学・井上	2講
1	17	月	5	血液2	白血球による生体防御機構	内臓機能生理学・井上	2講
1	17	月	6	血液3	リンパ球による生体防御機構	内臓機能生理学・井上	2講
1	24	月	4	血液4	血小板	内臓機能生理学・辻	2講
1	24	月	5	血液5	血液凝固と線溶1	内臓機能生理学・辻	2講
1	24	月	6	血液6	血液凝固と線溶2	内臓機能生理学・辻	2講
1	31	月	4	体温調節1	基礎代謝と体温調節	内臓機能生理学・井上	2講
1	31	月	5	体温調節2	高体温(発熱とうつ熱)と低体温の病態生理	内臓機能生理学・井上	2講
1	31	月	6	腎・排泄7	腎臓病研究の最前線	内臓機能生理学・井上	2講

医科生物学入門

責任者	氏名（教室）	永山 雄二（原研分子）		
	電話番号	7173	e-mail	nagayama@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	7:30～8:50 毎日		

対象年次・学期	1年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Introductory Course to Medical Biology		

1. 授業の概要及び位置づけ

生物学や生命科学、ひいては医学の基礎となる生物学を高校の教科書である「生物基礎」と「生物」を使って学ぶ。

2. 授業到達目標

「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

全て講義

4. 教科書・教材・参考書

生物基礎、生物（数研出版）

5. 成績評価の方法・基準等

出席2/3以上が必要。

4/27の試験60点以上で合格。本試のみで、再試は施行しない。

6. 事前・事後学修の内容

カリキュラムに沿って、教科書を使った予習復習をすること。

7. 教員名

永山 雄二（原研分子）、吉浦 孝一郎（原研遺伝）、李 桃生（原研幹細胞）、柴田 恭明（組織解剖学）、篠原 一之（神経生理学）、由井 克之（免疫学）、村井 清人（神経形態学）、井上 剛（分子生理学）、浦田 芳重（先端医育センター）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	火	1	基礎生物、生物	生物の多様性と共通性、生体を構成する物質	原研分子、永山	オンライン
4	6	火	2	基礎生物、生物	タンパク質の構造と性質、酵素のはたらき	原研分子、永山	オンライン
4	6	火	3	基礎生物、生物	細胞の構造、物質輸送とタンパク質、情報伝達・認識とたんぱく質	原研分子、永山	オンライン
4	6	火	4	基礎生物、生物	遺伝子情報とDNA、遺伝子情報の発現、DNAの構造と複製、遺伝情報の発現	原研遺伝、吉浦	オンライン
4	6	火	5	基礎生物、生物	遺伝子の発現調節、バイオテクノロジー	原研遺伝、吉浦	オンライン
4	13	火	1	基礎生物、生物	エネルギーと代謝、光合成と呼吸、代謝とエネルギー、呼吸と発酵	原研幹細胞、浦田	オンライン
4	13	火	2	基礎生物、生物	遺伝情報の分配、遺伝子の染色体、減数分裂と遺伝情報の分配、遺伝子の多様な組み合わせ	原研幹細胞、李	オンライン
4	13	火	3	基礎生物、生物	動物の配偶子形成と受精、初期胚の課程	組織解剖学、柴田	オンライン
4	13	火	4	基礎生物、生物	細胞の分化と形態形成	組織解剖学、柴田	オンライン
4	13	火	5	基礎生物、生物	体液という体内環境、腎臓と肝臓	分子生理学、井上	オンライン
4	20	火	1	基礎生物、生物	免疫、免疫とタンパク質	免疫学、由井	オンライン
4	20	火	2	基礎生物、生物	刺激の受容、情報の統合	神経形態学、村井	オンライン
4	20	火	3	基礎生物、生物	神経とホルモンによる調節	神経整理学、篠原	オンライン
4	27	火	1	基礎生物、生物	ニューロンとその興奮、刺激への反応	神経整理学、篠原	オンライン
4	27	火	2	基礎生物、生物	試験	原研分子、永山	オンライン
4	27	火	3	基礎生物、生物	試験	原研分子、永山	オンライン

プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（グローバルヘルス研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1 年次前期：各教室による研究内容等の紹介セミナーを受講する。
- 1 年次後期、2 年次、3 年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

- 1 年次前期：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。
- 1 年次後期～3 年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

配属教室は、1年次前期終了時に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。
また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

プレリサーチセミナー

(1～3年次・通年)

(1 年前期スケジュール)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	火	7	オリエンテーション 研究内容等の紹介 1	オリエンテーション 臨床検査医学	教務委員長	1 講
4	13	火	7	研究内容等の紹介 2	肉眼解剖学、組織解剖学	各教室教員による	1 講
4	20	火	7	研究内容等の紹介 3	内臓機能生理学、神経機能学	各教室教員による	1 講
4	27	火	7	研究内容等の紹介 4	第一病理学、第二病理学	各教室教員による	1 講
5	11	火	7	研究内容等の紹介 5	公衆衛生学、感染分子解析学	各教室教員による	2 講
5	18	火	7	研究内容等の紹介 6	免疫学、腫瘍医学	各教室教員による	1 講
5	25	火	7	研究内容等の紹介 7	法医学	各教室教員による	1 講
6	1	火	7	研究内容等の紹介 8	生化学、薬理学	各教室教員による	1 講
6	8	火	7	研究内容等の紹介 9	原研医療、原研遺伝	各教室教員による	1 講
6	15	火	7	研究内容等の紹介 1 0	原研病理、原研放射	各教室教員による	1 講
6	22	火	7	研究内容等の紹介 1 1	原研分子、原研幹細胞	各教室教員による	1 講
6	29	火	7	研究内容等の紹介 1 2	原研国際	各教室教員による	1 講
7	6	火	7	研究内容等の紹介 1 3	熱帯医学	各教室教員による	1 講
7	13	火	7	振り返り・配属決め		教務委員長	1 講

地域医療ゼミ（しまで学ぶ地域医療）

責任者	氏名（教室）	永田 康浩（地域医療学分野）		
	電話番号	095-819-7189	e-mail	ynagata1961@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9：00～15：00		

対象年次・学期	1年次・前期・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（地域医療枠・地域医療特別枠）	単位数	各1
科目英語名	Comprehensive community medicine in remote islands		

1. 授業の概要及び位置づけ

離島・へき地の包括的な地域医療現場を体験し、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括ケアについての基礎を理解する。また、多専門職との交流や医師以外の医療・介護・福祉職を目指す学生との共修を通して、多職種協働・連携の重要性を学ぶ。地域住民の方との交流を通じ、地域社会とのコミュニケーション能力を養う。

2. 授業到達目標

- ・上記の理解をもとに、地域が抱える課題に対するアセスメントや問題解決の提案ができる。
- ・他職種の職能と役割、多職種協働の重要性について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

五島市で行われる集中合宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問などを通して、地域包括医療・ケアと多職種連携、住民とのコミュニケーションの重要性について理解を深める。

4. 教科書・教材・参考書

地域医療テキスト 自治医科大学（監修） 医学書院 ISBN978-4-260-00805-1
 国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門 診断と治療社
 （購入は必須ではありません。当講座で貸し出しします。）

5. 成績評価の方法・基準等

出席・態度・発表を加味して評価する。

6. 事前・事後学修の内容

事前資料や事前学習会に加え、自分自身で新聞やニュース、地域の情報誌などから広い視野を持った主体的な学習を望みます。

7. 教員名

前田 隆浩（総合診療科）、川尻 真也（地域医療学分野）、延末 謙一（離島・へき地医療学講座）、野中 文陽（離島・へき地医療学講座）、永田 康浩（地域医療学分野）

8. 備考

長崎地域医療セミナー in GOTO 2020年8月23日(日)～8月25日(火)

長崎地域医療セミナー in GOTOへの参加が必須です。地域医療について事前に学習し、自分の意見を持ってからゼミに臨むことが望まれます。セミナーは、基本的に長崎大学医学部と長崎純心大学との共同で開催します。交通手段は、事前に学務係よりフェリーチケットが配布されます。宿泊費の負担はありませんが、地域医療セミナー期間中の参加費については5,000円/人（実費）を予定しています。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

地域医療ゼミ（国境を越えた地域医療）

責任者	氏名（教室）	有吉紅也（国境を越えた地域医療支援機構）		
	電話番号	7774	e-mail	kari@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～17:00		

対象年次・学期	1年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（地域医療枠・地域医療特別枠）	単位数	1
科目英語名	Cross-border community health and medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

経済や人の移動のグローバル化によって、地球規模の健康問題がコミュニティレベルの健康に直接的な影響を与えることが、新型コロナウイルス感染症によって如実に示された。そのような危機に対するコミュニティのレジリエンスは、普段のpracticeによって鍛えられるものであろう。グローバルヘルスの視点でプライマリケアや総合診療の概念を学ぶ。

2. 授業到達目標

・上記のマクロとミクロの視点をもとに、地域が抱える課題に対するアセスメントや問題解決に向けた学習につなげる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

国境を越えた地域医療支援機構の臨床教育拠点がある平戸市において、①平戸市の保健・医療・福祉が連携した地域包括医療・ケア、②国内外の他地域の地域ケア、③グローバルヘルスを、合宿形式の実習と講義を通して学習する。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しないが、インターネットや書籍などを利用してグローバルヘルス、SDGs、地域医療、総合診療について調べておくことが望ましい。

5. 成績評価の方法・基準等

出席、合宿参加、レポート提出

6. 事前・事後学修の内容

国境を越えた地域医療支援機構（<https://hekichi-byoinsaisei.net/>）事前に参照しておくことが望ましい。

7. 教員名

有吉 紅也（国境を越えた地域医療支援機構）、杉本 尊史（国境を越えた地域医療支援機構）

8. 備考

夏期休暇中に、平戸で開催する2泊3日程度の合宿形式の集中講義の参加を必須とする。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

国際医療ゼミ

責任者	氏名（教室）	高村 昇（原研国際）		
	電話番号	7170	e-mail	takamura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2・1年次：後期、2年次：後期	講義形態	講義
必修・選択	必修（国際保健プログラム）	単位数	各1
科目英語名	Global Health Seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

【授業の概要及び位置づけ】世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特にグローバルヘルス分野における活動を紹介する。

【授業内容】グローバルヘルスに関する教科書、および関連する最新の記事について輪読する。

2. 授業到達目標

本学のグローバルヘルス分野における活動や、現在のグローバルヘルスの潮流について理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

グローバルヘルス関連の英語教科書を輪読する。また、グローバルヘルスに関連する事項について、それぞれ課題を設定し、プレゼン資料としてまとめる。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。必要に応じて、講義の際に資料を配布する。

5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。

6. 事前・事後学修の内容

事前に世界保健機関（WHO）やJICAの活動について、HP等で確認しておく

7. 教員名

高村 昇（原研国際）

8. 備考

原研棟4階研修室にて実施。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	B

熱帯医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	有吉 紅也（熱帯医学研究所 臨床感染症学）		
	電話番号	7840	e-mail	kari@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日 12:00～12:30		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（熱帯医学プログラム）	単位数	1
科目英語名	Introduction of Tropical Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

授業のねらいは、将来熱帯医学研究医を目指す学生に、熱帯医学における医学研究の重要性を理解させ、熱帯医学に関連する幅広い視野を持たせることにある。その方法として、本学において進行中の医学研究活動を紹介し、本学の取り組みに興味を抱かせる。

2. 授業到達目標

自分の興味をもった熱帯医学研究について、英語で説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

熱帯医学に関係する医学研究を実施している本学医学系教室及び熱帯医学研究所教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。

5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、レポート（英文）提出等を考慮して評価する。

6. 事前・事後学修の内容

事前は特になし 事後はレポート提出

7. 教員名

有吉 紅也（熱研臨床医学分野）、吉田 レイミント（熱研小児感染症学分野）、皆川 昇（熱研病害動物学分野）、長谷部 太（ベトナム拠点）、金子 聡（熱研生態疫学分野）、北潔（熱帯医学・グローバルヘルス研究科）、児玉 年央（細菌学）、金子 修（熱研原虫学分野）、濱野 真二郎（熱研寄生虫分野）、山本 太郎（熱研国際保健学分野）、森田 公一（熱研ウイルス学分野）、安田二郎（熱研新興感染症学分野）、南保 明日香（感染症研究共同拠点）、平山謙二（熱研免疫遺伝学分野）

8. 備考

開講時間・場所 火曜日 7校時（16:30-17:30）・グローバルヘルス研究棟 5階 小会議室

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	E
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	D

医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次：前期・後期、 3～4年次：後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1
科目英語名	Small group medical seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教員と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。

2. 授業到達目標

各担当教員による。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員による。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

- 1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

医学英語 I

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13:00-17:00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	1年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical English I		

1. 授業の概要及び位置づけ

英語基礎力強化とし、速く正確なReading力、正しく深く理解するListening力を養成します。

【Reading】

・文章構造理解 ・スキミングとスキミング ・Reference words ・語、文章の置き換え
他

【Listening】

・文章構造理解 ・記憶保持 ・メモ取り ・時系列、プロセス等の整理 他

2. 授業到達目標

英語基礎力を強化し、速く正確なReading力、正しく深く理解するListening力を養成することを目標とします。

3. 授業内容（講義・実習項目）

対面授業8回、web学習7回の全15回で行います。

4. 教科書・教材・参考書

eラーニング教材を用います。詳細は初回授業時に説明します。

5. 成績評価の方法・基準等

授業への参加状況、eラーニングの受講状況、終了テストの結果を総合的に判断します。

なお、大学全体で受験するTOEIC IPテストのスコアを成績評価の一部に用います。

6. 事前・事後学修の内容

eラーニングの受講は計画的に行うこと。

7. 教員名

トッド・サンダース（感染分子解析学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	F

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	10	月	2	ガイダンス＋入門テスト	web 入門テスト R：20分、L：20分	トッド	2 講
5	17	月	3	授業 1		トッド	オンライン
				Web 1 Reading (1)	・ Reading Skills(基本のスキル、テクニック) ・ Factual&Negative Factual Qs(重要な情報を探す)	—	自宅学習
5	24	月	3	授業2		トッド	オンライン
				Web2 Reading (2)	・ Refarence Qs(表現の置き換え) ・ Purpose/Method/Opinion Qs(著者の意見を読み取る)	—	自宅学習
5	31	月	3	授業3		トッド	オンライン
				Web3 Reading (3)	・ Inference Qs(文から推論する) ・ Sentence Restatement Qs(精密に内容を把握する)	—	自宅学習
6	7	月	3	授業4		トッド	オンライン
				Web4 Reading (4)	・ Sentence addition Qs(文章間のつながりを把握する) ・ Completing Summaries &Chart Qs(文の全体を理解する)	—	自宅学習
6	14	月	3	授業5		トッド	オンライン
				Web5 Listening (1)	・ Listening Skills(基本のスキル、テクニック、メモ取り) ・ Main Topics& Main Purpose Qs(主題を把握する)	—	自宅学習
6	21	月	3	授業6		トッド	オンライン
				Web6 Listening (2)	・ Factual&Negative Factual Qs(事実を聴きとる) ・ Purpose/Method/Attitude Qs(話者の意見を推論する)	—	自宅学習
7	5	月	3	授業7		トッド	オンライン
				Web7 Listening (3)	・ Ordering &Matching Qs(プロセス、時系列を把握する) ・ Complete the Chart Qs(文の全体を理解する)	—	自宅学習
				試験	web 終了テスト R：20分、L：20分	—	

【暫定版:2021.5.11】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 2年前期

月	日	月							日	火							日	水								日	木								日	金														
		1	2	3	4	7	8	1		2	3	4	7	8	1	2		3	4	5	6	7	8	1	2		3	4	5	6	7	8	1	2		3	4	5	6	7	8									
		8:50 S	10:30 S	12:50 S	14:30 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S		10:30 S	12:50 S	14:30 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S	10:00 S		11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S	10:00 S		11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S	10:00 S		11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S									
		10:20	12:00	14:20	16:00	17:30	18:40			10:20	12:00	14:20	16:00	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40					
4																										1									2															
	5								6										動物性機能系	医学ゼミ	人体構造系実習						8	神経感覚器系				人体構造系実習					9	医学ゼミ	人体構造系実習											
	12	※教養教育							13	※教養教育															15	神経感覚器系							16																	
	19								20															22	神経感覚器系 医と社会									23																
	26								27															29	昭和の日									30																
5	3	憲法記念日							4	みどりの日							5	こどもの日								6	神経感覚器系				人体構造系								7	動物性機能系 医と社会				ゼミ	実習 説明					
	10	※教養教育							11	※教養教育							12	動物	ゼミ	人体構造系実習						13									14															
	17								18											19				20									21																	
	24								25											26				27									28																	
	6	31	※教養教育							1	※教養教育							2	動物性機能系	医学ゼミ	人体構造系実習						3					4					5	生理学実習												
7									8									9						10					11																					
14									15									16						17					18																					
21									22									23						24					25																					
28									29									30	神経感覚器系			1					2																							
7	5	※教養教育							6	※教養教育							7	神経感覚器系	医学ゼミ	人体構造系実習						8	人体構造系実習						9	神経感覚器系実習																
	12								13											14				15					16																					
	19								20											21				22	海の日								23	スポーツの日																
	26								27											28				29	海の日								30	スポーツの日																
																	28										29									30														
8	2	※教養教育							3	※教養教育							4	試験期間							5	試験期間						6	試験期間																	
	9					振替休日											10	振替休日							11	試験期間							12	試験期間								13	試験期間							
	16																17								18								19									20								
	23																24													25								26									27			
	30								31									1				2					3																							
9	6	試験期間							7	試験期間							8	試験期間							9	試験期間								10	試験期間															
	13								14													15								16									17											

令和3年度 授 業 時 間 割 2年後期

月	日	月							日	火							日	水								日	木								日	金																										
		1	2	3	4	7	8	1		2	3	4	7	8	1	2		3	4	5	6	7	8	1	2		3	4	5	6	7	8	1	2		3	4	5	6	7	8																					
		8:50 S	10:30 S	12:50 S	14:30 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S		10:30 S	12:50 S	14:30 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S	10:00 S		11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S	10:00 S		11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S	8:50 S	10:00 S		11:10 S	13:00 S	14:10 S	15:20 S	16:30 S	17:40 S																					
		10:20	12:00	14:20	16:00	17:30	18:40			10:20	12:00	14:20	16:00	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40																	
9	20	敬老の日							21	試験期間								22	秋分の日								23	秋分の日								24	分子遺伝系				国際医療英語 国際医療ゼミ	感染系																				
	27	※教養教育							28	※教養教育				国際医療英語		29	腫瘍系				医と社会Ⅱ (共修)					30	免疫系				英語	1	分子遺伝系																													
10	4								5																	6								7				8	感染系				国際医療ゼミ	医社	分子遺伝																	
	11								12																	13								14				15	分子遺伝系																							
	18								19																	20								21				22	分子遺伝系																							
	25								26																	27								28	感染系	解剖体慰霊祭				英語	29	創立記念講演会																				
11	1					※教養教育																				2					文化の日								4	分子遺伝系				免疫系		5	創立記念講演会				国際医療ゼミ	感染系			(地域・地域特) 活動報告会							
	8				9					腫瘍系				医と社(共修)				11	免疫	免疫学実習					12	分子遺伝系																																				
	15				16													勤労感謝の日								24	免疫系				英語	19	OSCE本試験により休講																													
	22				23					勤労感謝の日								24	医と社会Ⅱ													25	免疫系					26	分子遺伝系																							
12	29	※教養教育							30	教養教育				国際医療英語	1	放射線基礎医学				腫瘍		9	腫瘍				免疫系		10	分子遺伝系				国際医療ゼミ	感染系																											
	6								7													8				9	腫瘍				免疫系		10			分子遺伝系																										
	13								14													15	放射線基礎医学								腫瘍	免疫系				17	分子遺伝系																									
	20								21													22	放射線基礎医学								腫瘍	免疫系				24	冬季休業																									
	27	冬季休業							28	冬季休業							29	冬季休業								30	冬季休業								31	冬季休業																										
1	3	冬季休業							4	教養教育							国医英	5	医と社会Ⅱ								放射線基礎医学	6	免疫系				感染系	英語	7	分子遺伝系				国際医療ゼミ	感染系																					
	10	成人の日							11																										13										14																	
	17	教養教育							18																										19										20				21													
	24								25																										26										27				28													
2	31	教養教育							1	試験期間								3	試験期間					4	試験期間																																					
	7								8	試験期間				9	退職教授記念講演会								10	試験期間					11	建国記念の日																																
	14					試験期間											16	試験期間					17					試験期間					18	試験期間																												
	21																22	天皇誕生日														24	天皇誕生日								25	天皇誕生日																				
3	28	春季休業							1	春季休業							2	春季休業								3	春季休業								4	春季休業																										
	7																																		8												9				10				11							
	14																																		15												16				17				18							
	21								春分の日								22																												23				24				25									
	28								春季休業								29																												30				31													

【暫定版:2021.5.11】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 学士2年前期

月	日	月								日	火								日	水								日	木								日	金							
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$
4																												1									2								
	5	医と社会Ⅰ (医療面接・身体診察)	人体構造系	骨学実習				6									動物性機能系	医学ゼミ	人体構造系実習				8	神経感覚器系	人体構造系実習				9		医学ゼミ	人体構造系実習													
	12							13															14	15					16												17	18			
	19							20															21	22					23																
	26							27															28	29					30																
5	3	憲法記念日								4	みどりの日								5	こどもの日								6	昭和の日								7	昭和の日							
	10	骨学								11	医と社会Ⅰ (共修)								12	動物性機能系								13	人体構造系実習								14	人体構造系実習							
	17									18	発生・組織系								19	発生・組織系								20	発生・組織系								21	発生・組織系							
	24									25	発生・組織系								26	発生・組織系								27	発生・組織系								28	発生・組織系							
	31	人体構造系筋学								1	発生組織系・上皮組織支持組織								2	発生組織系・支持組織筋組織								3	発生組織系・支持組織筋組織								4	発生組織系・支持組織筋組織							
6	7	生体分子系								8	医と社会Ⅰ								9	医と社会Ⅰ								10	医と社会Ⅰ								11	医と社会Ⅰ							
	14									15									16									17									18								
	21									22									23									24									25								
	28									29									30									1									2								
	28									29									30									1									2								
7	5	医と社会Ⅰ								6	医と社会Ⅰ								7	医と社会Ⅰ								8	医と社会Ⅰ								9	医と社会Ⅰ							
	12	生体分子系								13	生体分子系								14	生体分子系								15	生体分子系								16	生体分子系							
	19	生体分子系								20	生体分子系								21	生体分子系								22	生体分子系								23	生体分子系							
	26	試験期間								27	試験期間								28	試験期間								29	試験期間								30	試験期間							
	26	試験期間								27	試験期間								28	試験期間								29	試験期間								30	試験期間							
8	2									3									4									5									6								
	9	振替休日								10	振替休日								11	振替休日								12	振替休日								13	振替休日							
	16	夏季休業								17	夏季休業								18	夏季休業								19	夏季休業								20	夏季休業							
	23	夏季休業								24	夏季休業								25	夏季休業								26	夏季休業								27	夏季休業							
	30	夏季休業								31	夏季休業								1	夏季休業								2	夏季休業								3	夏季休業							
9	6	試験期間								7	試験期間								8	試験期間								9	試験期間								10	試験期間							
	13	試験期間								14	試験期間								15	試験期間								16	試験期間								17	試験期間							

医と社会Ⅱ

責任者	氏名（教室）	安武 亨（先端医育センター）		
	電話番号	7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	2年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Medicine and Society 2		

1. 授業の概要及び位置づけ

病める人と良好なコミュニケーションが行え、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しうる医師となる。病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭や社会への復帰と社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯にめざす医師となる。

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、老健施設などの体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。リハビリテーションについて学ぶ。また、高齢者と接する際の医学生としての基本的マナーや心構えおよび対応の仕方などを学ぶ。前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深め、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。長崎純心大学、保健学科との共修を通して医療・福祉・介護の多方面からの視点を理解し尊重する。

2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
4. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
5. チーム医療の重要性を理解し、関連専門職との連携を図ることができる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握

3. 授業内容（講義・実習項目）

1) 医療と人間（保健学科と共修）

人の心の発達、性と生、高齢期を生きる、医療人と患者及び家庭との関係の4区分で講義を行う。

（1）人の心の発達：乳幼児と親の心、子供と社会 児童虐待の現状から、子供の心の発達、学童期、思春期

（2）性と生：人間の性 概論、ドメスティックバイオレンス

（3）高齢期を生きる：高齢期介護の実際、認知症高齢者を家族と地域で支える、地域における高齢者の生活を考える

2) Early Exposure（医学科）

老健施設などの体験実習に参加し、体験に基づいたレポートを作成する。

3) 診療の心得（診療マナー、バイタルサインの取り方、超音波や心電計等の基本操作）

4) 事例検討（長崎純心大学、保健学科と共修）

5) ようこそ先輩

6) リハビリテーション

7) 研究倫理

8) 栄養学

4. 教科書・教材・参考書

必要に応じて各講義の最初の時間に紹介する。

講義「乳児と親の心」 参考図書「重い障害児に導かれて」著者：福田雅文

5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

7. 教員名

安武 亨（先端医育センター）、田中 邦彦（先端医育センター）、江川 亜希子（先端医育センター）、北山 素（先端医育センター）、濱崎 景子（IR室兼先端医育センター）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、川尻 真也（地域医療学）、福島 千鶴（臨床研究センター）、平野 裕子（保健学科）、井口 茂（保健学科）、中尾 理恵子（保健学科）、有馬 和彦（公衆衛生学）、高島 英昭（リハビリテーション科）、前田 隆浩（総合診療科）、北島 百合子（産婦人科）、辻野 彰（脳神経内科）、古賀 智裕（第一内科）、有吉 紅也（熱研内科）、馬場 史郎（脳神経外科）、山本 和子（第二内科）、小川 さやか（保健医療推進センター）、里 加代子（薬剤部）、高島 美和（栄養管理室）、大町 由里（長崎市介護支援専門員連絡協議会）、菅崎 弘之（すがさきクリニック）、福田 雅文（みさかえの園むつみの家）、小柳 憲司（長崎県立こども医療福祉センター）、樋口 昌巳（長崎県佐世保こども・女性・障害者支援センター）、中田 慶子（DV防止ながさき）、潮谷 有二（日本社会事業大学）

8. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

行動科学分野責任者：青柳 潔、有馬 和彦

リハビリテーション分野責任者：高島 英昭

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	E
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	E

医と社会Ⅱ

(2年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	22	木	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	熱研内科 有吉 紅也	2 講
5	28	金	2	行動科学	認知の情報処理	保健・医療推進センター 小川 さやか	オンライン
9	22	水	4～5	保健学科共修	オリエンテーション 人間の性	産婦人科 北島 百合子	4 講
9	22	水	5～6	保健学科共修	高齢者介護の実際	長崎市介護支援専門員連絡協議会 大町 由里	4 講
9	29	水	4～5	保健学科共修	認知症高齢者を家族と地域で支える	すがさきクリニック 菅崎 弘之	2 講
9	29	水	5～6	保健学科共修	子供の心の発達、学童期、思春期	長崎県立 こども医療福祉センター 小柳 憲司	2 講
10	6	水	4～5	保健学科共修	ドメスティックバイオレンス	N P O 法人 DV防止ながさき 中田 慶子	2 講
10	6	水	5～6	保健学科共修	乳児と親の心	みさかえの園総合発達医療福祉センター 福田 雅文	2 講
10	7	木	4	行動科学	行動医学と生物統計学	公衆衛生学 有馬 和彦	2 講
10	8	金	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩	脳神経内科 辻野 彰	2 講
10	13	水	4～6	地域包括	共修事前授業	地域包括ケア教育センター	記念講堂
10	14	木	4	未定			2 講
10	20	水	3	行動科学・地域医療学	医療現場におけるコミュニケーション	保健・医療推進センター 小川 さやか	2 講
10	20	水	4～6	地域包括	純心・保健学科・医学科共修	地域包括ケア教育センター	専斎ホール、 記念講堂、GH棟
10	27	水	3	地域医療学	地域コミュニティにおける保健医療専門職の役割と活動	保健学科 中尾 理恵子	2 講
10	27	水	4～6	地域包括	純心・保健学科・医学科共修	地域包括ケア教育センター	セミナー室、視聴覚室、GH棟 他
11	10	水	4～5	保健学科共修	未定		2 講
11	10	水	5～6	保健学科共修	子どもの社会的養育 ～児童虐待対応の現場から～	長崎県佐世保こども・女性・ 障害者支援センター 樋口 昌巳	2 講
11	17	水	4～6	地域包括	実習オリエンテーション	地域包括ケア教育センター	2 講
11	24	水	1～6	地域包括	高齢者施設実習	地域包括ケア教育センター	1 講
12	1	水	1～6	地域包括	高齢者施設実習	地域包括ケア教育センター	1 講
12	8	水	1～3	地域包括	実習振り返り	地域包括ケア教育センター	2 講
1	12	水	1	研究倫理	臨床研究と倫理	臨床研究センター 福島 千鶴	2 講
1	12	水	2	リハビリテーション	リハビリテーション概論1 社会と医療（患者・障害者のもつ心理、社会的問題）	リハビリテーション科 高畠 英昭	2 講
1	12	水	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	第一内科 古賀 智裕	2 講
1	19	水	1	栄養学	静脈栄養と経管栄養	薬剤部 里 加代子	2 講
1	19	水	2	リハビリテーション	リハビリテーション概論2 人体の構造と機能（老年期）	リハビリテーション科 高畠 英昭	2 講
1	19	水	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	第二内科 山本 和子	2 講
1	26	水	1	栄養学	栄養と食生活	栄養管理室 高島 美和	2 講
1	26	水	2	リハビリテーション	リハビリテーション概論3 生活習慣とリスク（栄養・食生活、身体活動・運動）	リハビリテーション科 高畠 英昭	2 講
1	26	水	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	脳神経外科 馬場 史郎	2 講

分子遺伝系

責任者	氏名（教室）	吉浦 孝一郎（原研遺伝（人類遺伝学））		
	電話番号	7118	e-mail	kyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火～木曜日 16:00～17:00		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Human Molecular Genetics		

1. 授業の概要及び位置づけ

分子遺伝学の基本事項である遺伝現象、多様性の理解から始め、それらを表出する分子機構を系統講義する。人の病気を DNA 分子から理解しようと試みる過程を習得する。覚える知識は最小に、応用力は最大に。

2. 授業到達目標

病気の成り立ちを理解するために重要な分子遺伝学の基礎知識を講義する。遺伝学は多様性 (variation) と遺伝 (inheritance) を解析する学問である。ヒトの遺伝・多様性について基本的な暗記事項から幅広い応用力を養成し、思考力を養うことを目標とする。病気の成立に関して、DNA・タンパク・細胞から考える考え方を習得する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

分子遺伝学の基本事項である遺伝現象、多様性の理解から始め、それらを表出する分子機構を系統講義する。DNA、染色体・ゲノムの構造と機能、疾患発症に関わる分子病理を講義する。それらの基礎知識の応用として、臨床遺伝学、遺伝子治療、医学に関する生命倫理までを講義する。単一遺伝子病から多因子病までを DNA を通して統一的に理解し、将来の臨床の場に役に立てられるような幅広い知識と応用力を習得して欲しい。

4. 教科書・教材・参考書

遺伝医学への招待 第6版 監修：新川詔夫，共著：太田 亨/吉浦孝一郎/三宅紀子 南江堂 2,200 円

遺伝医学 著者：渡邊 淳 羊土社 4,730 円

トンプソン・トンプソン遺伝医学 第7版 福嶋義光 監訳 メディカルサイエンス・インターナショナル 11,000 円

5. 成績評価の方法・基準等

期末試験：授業内容にそった筆答試験（100点満点）において60点以上を合格とする。
試験および出席等で不正が発覚した場合には、その指示者、実行者ともに当該年度の分子遺伝系の受験資格を与えない（失格）。受験資格を有するか否かについて教務委員会に判断をゆだねることがある。

6. 事前・事後学修の内容

上記教科書による復習を勧める。

7. 教員名

吉浦 孝一郎（原研人類遺伝学）、木下 晃（原研人類遺伝学）、永山 雄二（原研分子医学）、光武 範吏（原研放射線災害医療学）、木住野 達也（先端生命科学研究支援センター）、塚元 和弘（薬学部薬物治療学）、三浦 清徳（産婦人科学）、平山 謙二（熱研免疫遺伝学）、松本 直通（横浜市立大学大学院環境分子医科学）、原田 直樹（京都大学iPS細胞研究所）、近藤 達郎（みさかえの園むつみの家）

8. 備考

期末試験の再試験は行なわないので注意すること。体調不良、事故等の突発的な事情による試験欠席については、追試験を考慮する。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	S

分子遺伝系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	24	金	1	遺伝医学総論I	ヒトの形式遺伝と特性I	原遺・吉浦	2 講
9	24	金	2	遺伝医学総論II	ヒトの形式遺伝と特性II	原遺・吉浦	2 講
10	1	金	1	遺伝医学総論III	ヒトの形式遺伝と特性III	原遺・吉浦	2 講
10	1	金	2	遺伝子の構造I	核酸の生化学	原遺・吉浦	2 講
10	8	金	1	細胞遺伝学I	染色体の構造と解析法	非常勤・原田	2 講
10	8	金	2	細胞遺伝学II	臨床細胞遺伝学・染色体異常症	非常勤・原田	2 講
10	8	金	5	遺伝子の構造II	DNA複製と修復機構	原遺・木下	2 講
10	8	金	6	遺伝子の構造III	ヒトゲノムの構成，遺伝子の構造と機能	原遺・木下	2 講
10	22	金	1	転写と翻訳I	転写・翻訳の機構	原遺・木下	2 講
10	22	金	2	転写と翻訳II	ヒト遺伝子の発現と発現制御	原遺・木下	2 講
10	29	金	1	分子病理I	疾患発症機構I	原遺・吉浦	2 講
10	29	金	2	分子病理II	疾患発症機構II	原遺・吉浦	2 講
11	4	木	3	分子病理III	疾患発症機構III	原遺・吉浦	2 講
11	4	木	4	分子病理IV	疾患発症機構IV	原遺・吉浦	2 講
11	12	金	1	分子病理V	分子遺伝学研究で使われる技術	原遺・吉浦	2 講
11	12	金	2	免疫遺伝学	免疫関連遺伝子と遺伝学	非常勤・平山	2 講
11	26	金	1	ゲノム医学研究I	最先端ゲノム医学研究	非常勤・松本	2 講
11	26	金	2	分子病理VI	ミトコンドリアDNAと遺伝病	原遺・木下	2 講
12	3	金	1	腫瘍遺伝学I	腫瘍遺伝学I	原研細胞・光武	2 講
12	3	金	2	腫瘍遺伝学II	腫瘍遺伝学II	原研細胞・光武	2 講
12	10	金	1	分子病理VI	エピジェネティックス機構	先導生科セ・木住野	2 講
12	10	金	2	分子病理VII	エピジェネティックスと疾患	先導生科セ・木住野	2 講
12	17	金	1	臨床遺伝学I	遺伝性疾患の臨床I	非常勤・近藤	2 講
12	17	金	2	臨床遺伝学II	遺伝性疾患の臨床II	非常勤・近藤	2 講
1	7	金	1	多因子遺伝基礎	集団遺伝学、遺伝子多型、遺伝的浮動	原遺・吉浦	2 講
1	7	金	2	多因子遺伝基礎	多因子疾患と関連解析の基礎	原遺・吉浦	2 講
1	14	金	1	テーラーメード医療	薬理遺伝学I	薬物治療学・塚元	2 講
1	14	金	2	テーラーメード医療	薬理遺伝学II	薬物治療学・塚元	2 講
1	21	金	1	ゲノム医学研究II	ゲノム編集と医学	先導生科セ・木住野	2 講
1	21	金	2	遺伝子治療	遺伝子治療の原理と応用	原研分子・永山	2 講
1	28	金	1	出生前診断	遺伝性疾患と出生前診断	産婦人科・三浦	2 講
1	28	金	2	遺伝カウンセリング	遺伝カウンセリング	非常勤・近藤	2 講

神経・感覚器系

責任者	氏名（教室）	弦本 敏行（肉眼解剖学（解剖学第二））		
	電話番号	7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Neuroanatomy of the human brain		

1. 授業の概要及び位置づけ

神経解剖学の教育目標は、ヒトの脳神経系の形態的な成り立ちとその由来を学び、高度に発達したヒトの脳と神経系の構造を理解することにある。神経系を理解するためには、神経核や神経伝導路の繋がりを知るとともに、情報の伝わる方向を正しく理解する必要がある。神経の形態学的つながりを理解することにより、感覚器を介した知覚がどのように脳に伝達されてその情報が処理されるのか、また、脳がどのようにして運動をコントロールしているのかなどについて系統的に学ぶ。ここでは臨床現場での各種脳神経疾患への対処に通ずる基礎学問として、脊髄、脳、感覚器系の構造と解剖学用語を学び、実際のヒト脳の解剖実習を通して、人間の脳の複雑な構成について立体的に理解することをめざす。

2. 授業到達目標

中枢神経系と末梢神経系の区分を理解した上で、脳と脊髄の内部構造、神経核の名称と神経どうしのつながり、神経回路の名称等を理解する。神経解剖学用語を日本語と英語で覚え、中枢神経系の形態的な位置関係を理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

系統的な講義（総論と各論）と実習で構成する。神経解剖学用語を学び、神経の伝導路と脳の形態学的構造を理解することが重要である。講義は講義資料に沿って行う。実習は4人でグループとし、各グループで協力してご遺体の脳による系統的な脳解剖実習を行う。実習では現場での観察とスケッチを重視する。スケッチブックを持参すること。前半の講義に基本的な知識を習得し、後半の脳解剖実習で実際の脳を見ることにより、知識をより定着させることを目指す。神経解剖学用語（日英）についても改めて理解を深める。

4. 教科書・教材・参考書

☆マーティン カラー神経解剖学 テキストとアトラス 野村嗟、金子武嗣（監訳） 西村書店 6,400円
 ☆脳単 原島（著） NTS 2,730円
 ☆脳神経解剖学-臨床に役立つ- ワックスマン著・樋田一徳（監訳） 西村書店 3,900円
 ☆神経解剖カラーテキスト（第2版） A.R. Crossman, C. Neary（著）、野村、水野（訳） 医学書院 5,600円
 解剖学アトラスⅢ神経系と感覚器（第6版） W.Kahle（著）、平田（訳） 文光堂 5,600円
 プロメテウス解剖学アトラス（頭部／神経解剖） 坂井、河田（監訳） 医学書院 11,000円
 カンデル神経科学 E. R. Kandel他（著）金澤、宮下（監修） MEDSi 14,000円

（☆は推奨）

5. 成績評価の方法・基準等

オンライン授業後の小テスト課題等10%、中間試験40%、神経解剖実習スケッチ等10%、期末試験40%程度とするが、講義・実習への参加態度なども含めて総合評価する。

6. 事前・事後学修の内容

教科書、参考書などを参照しつつ、授業資料を中心に予習、復習を心がけること。

7. 教員名

松本 弦（組織細胞生物学（解剖学第三））、村井 清人（肉眼解剖学（解剖学第二））

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

神経・感覚器系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	8	木	1	講義1	神経解剖学 概論	解3 松本	2 講
4	8	木	2	講義2	中枢神経系の構成（基本構造）	解3 松本	2 講
4	8	木	3	講義3	中枢神経系の構成（神経細胞とグリア細胞）	解3 松本	2 講
4	15	木	1	講義4	中枢神経系の構成（終脳）	解3 松本	2 講
4	15	木	2	講義5	大脳基底核	解3 松本	2 講
4	15	木	3	講義6	大脳基底核（錐体外路系運動制御）	解3 松本	2 講
4	22	木	1	講義7	大脳辺縁系（情動・報酬・記憶）	解3 松本	2 講
4	22	木	2	講義8	大脳辺縁系（大脳神経回路）	解3 松本	2 講
5	6	木	1	講義9	間脳（視床）	解3 松本	オンライン
5	6	木	2	講義10	間脳（視床下部）	解3 松本	オンライン
5	13	木	1	講義11	小脳	解3 松本	オンライン
5	13	木	2	講義12	自律神経系	解3 松本	オンライン
5	20	木	1	講義13	脊髄	解3 松本	オンライン
5	20	木	2	講義14	運動系（下行性運動路）	解3 松本	オンライン
5	27	木	1	講義15	運動系（脳神経運動核）	解2 村井	オンライン
5	27	木	2	講義16	運動系（前庭系と動眼系）	解2 村井	オンライン
6	3	木	1	講義17	体性感覚系（体性感覚/温痛覚）	解3 松本	オンライン
6	3	木	2	講義18	体性感覚系（頭部感覚・三叉神経系）	解3 松本	オンライン
6	10	木	1	講義19	体性感覚系（視覚）	解3 松本	オンライン
6	10	木	2	講義20	体性感覚系（聴覚）	解3 松本	オンライン
6	17	木	1	講義21	体性感覚系（味覚）	解2 村井	オンライン
6	17	木	2	講義22	体性感覚系（嗅覚）	解2 村井	オンライン
6	24	木	1	講義23	神経解剖学 総まとめ	解3 松本	オンライン
6	24	木	2	講義24	神経解剖学 総まとめ	解3 松本	オンライン
6	30	水	1	中間試験	中間試験	解3 松本・解2 村井	2 講
6	30	水	2	中間試験	中間試験	解3 松本・解2 村井	2 講
7	1	木	1	講義25	脳解剖概論（脳構造と伝導路）	解3 松本	オンライン
7	1	木	2	講義26	脳解剖概論（脳構造と伝導路）	解3 松本	オンライン
7	7	水	4	実習1	脳解剖実習(第1回)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	7	水	5	実習2	脳の概観、脳膜、脳底、血管系の観察	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	7	水	6	実習3	大脳皮質外側面(回と溝)の観察	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	8	木	1	講義27	MRI画像診断（大脳基底核・辺縁系）	解3 松本	オンライン
7	8	木	2	講義28	MRI画像診断（小脳・脳幹部）	解3 松本	オンライン
7	8	木	4	実習4	脳解剖実習(第2回)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	8	木	5	実習5	小脳・脳幹の離断、小脳の解剖	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	8	木	6	実習6	脳幹の解剖、脳神経の観察	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	9	金	4	実習7	脳解剖実習(第3回)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	9	金	5	実習8	脳組織染色(小脳活樹、小脳皮質、小脳核)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室

神経・感覚器系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	9	金	6	実習9	脳組織染色(延髄、橋、中脳)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	14	水	4	実習10	脳解剖実習(第4回)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	14	水	5	実習11	大脳半球正中断、内側面の観察、海馬、帯状束、脳弓	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	14	水	6	実習12	島、連合線維、レンズ核、放線冠の剖出	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	15	木	1	講義29	脳組織学:神経系の細胞染色と脳組織染色	解3 松本	オンライン
7	15	木	2	講義30	神経組織学:脳組織、変性疾患	解3 松本	オンライン
7	15	木	4	実習13	脳解剖実習(第5回)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	15	木	5	実習14	大脳半球/前頭断面の観察	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	15	木	6	実習15	大脳半球/水平断面の観察	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	16	金	4	実習16	脳解剖実習(第6回)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	16	金	5	実習17	脳組織染色(海馬、扁桃体、大脳辺縁系)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室
7	16	金	6	実習18	脳組織染色(大脳基底核、大脳新皮質)	解2 弦本・解3 松本 ・解2 村井	解剖実習室

人体構造系Ⅱ

責任者	氏名（教室）	弦本 敏行（肉眼解剖学（解剖学第二））		
	電話番号	7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00～19:00		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Human Body Structure 2		

1. 授業の概要及び位置づけ

解剖学実習は御遺体を自らの手で解剖するという特殊な実習でもあるので、知的修得ばかりでなく「心の学習」の場でもあることを自覚、認識して臨まなくてはならない。人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つ概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、解剖学実習は剖検した構造物を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

2. 授業到達目標

人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について、適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

解剖学実習を決められた手技に則って行う。末梢神経系については講義を行う。

4. 教科書・教材・参考書

★グラント解剖学実習（改訂版） 新井良八 監訳 西村書店
 ★ネッター解剖学アトラス 第6版 相磯貞和 訳 南江堂
 ★グレイ解剖学 第3版（for students） 塩田浩平 他訳 エルゼビア・ジャパン
 分担解剖学1（総説・骨学・筋学） 小川鼎三、森 於菟 他 金原出版
 分担解剖学2（脈管学・神経系） 平沢興 他 金原出版
 分担解剖学3（感覚器学・内臓学） 小川鼎三 他 金原出版
 （★は教科書、必携）

5. 成績評価の方法・基準等

解剖学実習については口答試験と筆答試験を、末梢神経系については筆答試験を行う。

(1) 受験資格 解剖学実習は原則として皆出席、末梢神経系は2/3以上出席。

(2) 試験と評価

○実習中に口答ないし筆答試験を行う

○本試験：解剖学実習、末梢神経学

○再試験(1回)：本試験で不合格分野を受験

再試験後、実習の口答試験結果、課題レポート等も併せて、総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

解剖学実習をプログラム通りに進行させるためには解剖内容の正確な理解が必要であり、十分な予習を必要とする

- 1) 配布するプリントの一般的解剖手技を十分学習し、各構造物の剖出の仕方を実践できるようにしておく
- 2) 実習プログラムに沿って予習しておく
 - ①解剖の大きな流れは3～4回先まで把握する
 - ②頁ごとの手順を理解し、剖出すべき構造物について予習ノートを作成する
 - ③実習日での事前学習は困難であるので、休日等を利用してできるだけ先へ進めておく
- 3) 実習後は、その日の内容を振り返りな

7. 教員名

弦本 敏行（肉眼解剖分野）、佐伯 和信（肉眼解剖分野）、高村 敬子（肉眼解剖分野）、遠藤 大輔（肉眼解剖分野）、村井清人（肉眼解剖分野）、坂本 淳哉（保健学科）

8. 備考

- (1) 実習中は各班にiPadを貸与するが、教科書は必ず購入すること
- (2) 事前に配布される諸注意に沿って、実習に必要な物を注文・購入しておくこと
- (3) 10月24日に催される解剖体慰霊祭には、ご遺族が出席されます。節度ある身なり・服装・態度をもって必ず出席してください。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	1	木	4～6	解剖学実習 1	実習オリエンテーション (解剖学実習総論)	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
4	2	金	4～6	解剖学実習 2	解剖体安置、洗滌 背部の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
4	7	水	4～6	解剖学実習 3	背部の皮下②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
4	8	木	4～6	解剖学実習 4	背部浅層	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
4	9	金	4～6	解剖学実習 5	頸部の皮剥と皮下、浅層① 胸部・腹部の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
4	14	水	4～6	解剖学実習 6	頸部浅層② 浅胸筋	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
4	15	木	4～6	解剖学実習 7	頸部深層、胸鎖関節開放 腋窩	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
4	16	金	4～6	解剖学実習 8	側腹筋 頸部深層②、腋窩②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
4	21	水	4～6	解剖学実習 9	腹直筋 上肢の離断	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
4	22	木	4～6	解剖学実習 1 0	上肢の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、岡本、佐伯、高村、遠藤 非常勤講師・分部	解剖実習室
4	23	金	4～6	解剖学実習 1 1	肩部、上腕伸側	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
4	28	水	4～6	解剖学実習 1 2	背部深層	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
4	30	金	4～6	解剖学実習 1 3	胸腔・腹腔の開放 胸膜、腹膜、自然位の胸腹部内臓	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
5	6	木	4～6	解剖学実習 1 4	上腕屈側	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
5	12	水	4～6	解剖学実習 1 5	胸膜、肺、縦隔・心臓① 前腕伸側、手背①	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
5	13	木	4～6	解剖学実習 1 6	縦隔・心臓② 前腕伸側、手背②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 非常勤講師・分部	解剖実習室
5	19	水	4～6	解剖学実習 1 7	小腸・大腸① 前腕屈側と手掌①	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
5	20	木	4～6	解剖学実習 1 8	小腸・大腸②、上腹部内臓① 前腕屈側、手掌②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
5	26	水	4～6	解剖学実習 1 9	上腹部内臓②、小腸・大腸の摘出 後腹膜臓器、後腹壁、横隔膜	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
5	27	木	4～6	解剖学実習 2 0	骨盤部・殿部・会陰の皮剥と皮下 外生殖器と会陰 顔面の皮剥と皮下（浅層①）	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 非常勤講師・分部	解剖実習室
6	2	水	4～6	解剖学実習 2 1	腰部離断・骨盤折半、骨盤内臓 頭部離断・環椎後頭関節開放 硬膜・内頭蓋底	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
6	3	木	4～6	解剖学実習 2 2	顔面の皮剥と皮下（浅層②） 下肢の皮剥と皮下	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
6	9	水	4～6	解剖学実習 2 3	咽頭・喉頭、顔面浅層③ 大腿伸側・内側	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
6	10	木	4～6	解剖学実習 2 4	顔面深層①、骨盤の血管・神経 殿部、大腿屈側①	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 非常勤講師・分部	解剖実習室
6	16	水	4～6	解剖学実習 2 5	顔面深層② 殿部、大腿屈側②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
6	17	木	4～6	解剖学実習 2 6	鼻腔 下腿屈側、足底①	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 非常勤講師・分部	解剖実習室
6	23	水	4～6	解剖学実習 2 7	口蓋、口腔 下腿屈側、足底②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
6	24	木	4～6	解剖学実習 2 8	眼窩、外耳・中耳・内耳 下腿外側・伸側・足背	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 非常勤講師・分部	解剖実習室
6	30	水	4～6	解剖学実習 2 9	上肢の関節	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井 保健学科・坂本	解剖実習室
7	1	木	4～6	解剖学実習 3 0	下肢の関節	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
7	2	金	4～6	解剖学実習 3 1	納棺、実習室清掃	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室

動物性機能系

責任者	氏名（教室）	篠原 一之（生理学第二（神経機能学））		
	電話番号	7033	e-mail	kazuyuki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Neurobiology and Behavior		

1. 授業の概要及び位置づけ

動物性機能生理学では脳および神経の機能について学習する。最近急速に発展した脳・神経機能を学ぶためには、神経細胞レベルからヒトの認知・行動レベルまで、トータルに学ばねばならない。そこで、授業では、脳・神経科学を、1) 体の内外からの情報を受けて解釈する感覚系、2) 情報に基づいて判断を行う統合系、3) 行動を組織して実行する運動系、に分けて、それぞれ分子レベルから現象レベルまで統合的に理解し、脳・神経系学問領域における思考力を養う。

最近、脳・神経科学領域の進歩は目まぐるしい。膨大な情報の中から、将来医師となった時に知っておくべき、基礎的知識から最先端医療に応用可能な知識を授業で学ぶ。具体的には、神経細胞の情報伝達機構、神経再生、脳の統合機能（記憶、情動、本能）、感覚受容・知覚等のテーマについて、統合的システムとして理解できるようになり、脳・神経科学関連疾患の病態、病因、治療についての考察ができることも目標とする。

2. 授業到達目標

講義：神経科学に含まれる事象について、細胞レベル、運動系の末梢から中枢まで、感覚系、統合的脳機能へと、そのメカニズムと全体における位置付けを重要視しながら、発展的に進めていく。項目によっては各専門家を呼び、高度な最新の内容をわかりやすく講義してもらう。

実習：人体を用いた神経、筋の興奮現象の測定を体験し、観察される現象の機構を説明できるようにする。感覚系および中枢を介した反応についていくつかの課題を実行し、背景となる神経機構についての基本的性質を考察し理解する。

講義用スライド・資料等は、「長崎大学LACS」にアップロードするので、各自以下のURLからダウンロードすること。原則として、講義の際に資料の配布はしない。

・ 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義：神経科学に含まれる事象について、細胞レベル、運動系の末梢から中枢まで、感覚系、統合的脳機能へと、そのメカニズムと全体における位置付けを重要視しながら、発展的に進めていく。項目によっては各専門家を呼び、高度な最新の内容をわかりやすく講義してもらう。

実習：人体を用いた神経、筋の興奮現象の測定を体験し、観察される現象の機構を説明できるようにする。感覚系および中枢を介した反応についていくつかの課題を実行し、背景となる神経機構についての基本的性質を考察し理解する。

講義用スライド・資料等は、「長崎大学LACS」にアップロードするので、各自以下のURLからダウンロードすること。原則として、講義の際に資料の配布はしない。

・ 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

4. 教科書・教材・参考書

第3版カールソン 神経科学テキスト Neil. R. Carlson（泰羅雅登・中村克樹 訳） 丸善 18,900 円

Principles of Neural Science Eric. R. Kandel McGraw-Hill Companies 10,699 円
メカ屋のための脳科学入門-脳をリバーズエンジニアリングする 日刊工業新聞社 2,376 円

5. 成績評価の方法・基準等

原則として筆答試験による。（実習も考慮する。）再試験有（一回）。

6. 事前・事後学修の内容

事前にLACS上に講義資料をアップし、学生が講義・実習内容を予習できるようにする。

【事前学習】Web上に事前に講義・実習用スライドを掲載するので、あらかじめ目を通して講義の流れを把握しておくこと。（1h）

【事後学習】講義・実習内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。（1h）

7. 教員名

篠原 一之（第二生理学）、中畑 泰和（第二生理学）、樽見 航（第二生理学）、青山 晋也（第二生理学）、北岡 隆（眼科）、熊井良彦（耳鼻咽喉科）、石井 浩二（麻醉科）、内匠透（理化学研究所）、中村 孝博（明治大学）、中島 欽一（九州大学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	F

動物性機能系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	7	水	1	動物性機能系	神経科学の基礎と歴史	篠原一之	2 講
4	7	水	2	動物性機能系	神経系を構成する諸要素（形態・機能・分子）	樽見航	2 講
4	14	水	1	動物性機能系	静止状態のニューロンと膜電位	樽見航	2 講
4	14	水	2	動物性機能系	ニューロンの興奮とその伝導	樽見航	2 講
4	21	水	1	動物性機能系	シナプス伝達	篠原一之	2 講
4	21	水	2	動物性機能系	神経伝達物質の放出と受容体	篠原一之	2 講
4	28	水	1	動物性機能系	神経細胞の死	篠原一之	2 講
4	28	水	2	動物性機能系	神経細胞の再生	篠原一之	2 講
5	7	金	1	動物性機能系	骨格筋の構造・機能	青山晋也	オンライン
5	7	金	2	動物性機能系	脊髄反射	青山晋也	オンライン
5	12	水	1	動物性機能系	運動系システムの階層性	中畑泰和	2 講
5	12	水	2	動物性機能系	大脳基底核	青山晋也	2 講
5	14	金	1	動物性機能系	小脳	中畑泰和	オンライン
5	14	金	2	動物性機能系	学習と記憶（シナプスの可塑性）	中畑泰和	オンライン
5	19	水	1	動物性機能系	痛覚	石井浩二	2 講
5	19	水	2	動物性機能系	本能行動（視床下部）	青山晋也	2 講
5	21	金	1	実習説明	オリエンテーション	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	オンライン
5	21	金	2	動物性機能系	体性感覚	中畑泰和	オンライン
5	21	金	4	動物性機能系	平衡感覚	樽見 航	オンライン
5	26	水	1	動物性機能系	聴覚	熊井良彦	2 講
5	26	水	2	動物性機能系	味覚	青山晋也	2 講
5	28	金	1	動物性機能系	学習と記憶（脳内メカニズム）	篠原一之	オンライン
5	28	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
5	28	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
5	28	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
5	28	金	7	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
5	28	金	8	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	2	水	1	動物性機能系	視覚	北岡隆	2 講
6	2	水	2	動物性機能系	嗅覚	篠原一之	2 講
6	4	金	1	動物性機能系	情動（大脳辺縁系）	篠原一之	オンライン
6	4	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	4	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	4	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	4	金	7	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	4	金	8	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	9	水	1	動物性機能系	睡眠と脳波	篠原一之	2 講

動物性機能系

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	9	水	2	動物性機能系	生体リズム	中村孝弘	2 講
6	11	金	1	動物性機能系	意識と注意	中畑泰和	オンライン
6	11	金	4	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	11	金	5	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	11	金	6	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	11	金	7	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	11	金	8	生理学実習	誘発筋電図・脳機能計測など	篠原一之、中畑泰和、青山晋也、樽見航	実1・実2
6	16	水	1	動物性機能系	運動と感覚の連関	中畑泰和	2 講
6	16	水	2	動物性機能系	神経系の細胞制御と再生医療	中島欽一	2 講
6	18	金	1	動物性機能系	高次感覚機能	樽見航	オンライン
6	23	水	1	動物性機能系	脳機能の研究戦略	内匠透	2 講
6	23	水	2	動物性機能系	大脳連合野	樽見航	2 講
6	25	金	1	動物性機能系	筋－脳連関	青山晋也	オンライン
7	2	金	1	動物性機能系	脳の老化と若返り	中畑泰和	オンライン

内臓機能・体液系Ⅱ

責任者	氏名（教室）	井上 剛（生理学第一（内臓機能生理学））		
	電話番号	095-819-7031	e-mail	ts-inoue@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	2年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid 2		

1. 授業の概要及び位置づけ

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。

2. 授業到達目標

循環、呼吸、血糖調節機能の実習を体験することにより基本的な知識の応用力と臨床生理学的知識を獲得する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1) 心電図・肺機能
- 2) 心音・血圧・心エコー
- 3) 循環反射・消化器
- 4) 血糖調節

4. 教科書・教材・参考書

ギャノン生理学 25版 岡田泰伸（監修）他 丸善出版 10,800円 またはその原著26版 9,136円
 ガイトン生理学 第13版 石川義弘（翻訳）他、エルゼビア・ジャパン株式会社 16,500円 またはその原著14版 19,932円
 標準生理学 第9版 福田 康一郎 他 医学書院 13,200円
 人体の正常構造と機能 第4版 坂井 建雄 他 日本医事新報 19,800円
 図解心電図テキスト 第6版 Dale Dubin 文光堂 4,860円教材
 （重要）：長崎大学LACSにアクセス、実習書をダウンロード・印刷し、各自持参すること。
 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

5. 成績評価の方法・基準等

実習は全て履修し、レポートを提出する。出席、実習レポートで成績を評価する。

6. 事前・事後学修の内容

教科書を参照し、予習復習を行うこと。

7. 教員名

井上 剛（内臓機能生理学）、辻 幸臣（内臓機能生理学）、中村 恭菜（内臓機能生理学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

内臓機能・体液系Ⅱ

(2年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	21	金	4	生理学実習 (説明)	実習の事前説明	内臓機能生理学・井上	オンライン
5	28	金	4	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
5	28	金	5	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
5	28	金	6	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
5	28	金	7	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
5	28	金	8	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	4	金	4	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	4	金	5	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	4	金	6	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	4	金	7	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	4	金	8	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	11	金	4	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	11	金	5	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	11	金	6	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	11	金	7	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2
6	11	金	8	生理学実習	心電図、超音波検査法（心臓・腹部）、心音・血圧測定、肺機能検査、グルコース負荷試験	内臓機能生理学・井上、辻、中村	実1・実2

感染系

責任者	氏名（教室）	西田 教行（感染分子解析学）		
	電話番号	7059	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30～18:30		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medical Microbiology and Parasitology		

1. 授業の概要及び位置づけ

感染系ではヒトに感染し、病気を起こす微生物（ウイルス・細菌・真菌・原虫・ぜん虫）の生物学的特性と生活環、感染様式について学び理解する。講義と実習を通しての知識の習得にとどまらず、ケーススタディを通して自ら疑問をもち、問題を発見し問題解決力を養うことを目指している。

2. 授業到達目標

ウイルスの感染・増殖メカニズムを説明できる。細菌・真菌の増殖メカニズムを説明できる。病原性を説明できる。原虫・蠕虫の生活環と感染様式を説明できる。各種病原体の感染経路を説明できる。この授業の終了後には、主要な病原体の地理的分布や、発生頻度、流行状況についての基本的な疫学事項を述べることができる。さらにワクチンその他による予防法についても説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

授業はウイルス学・細菌学（真菌を含む）・寄生虫学（原虫を含む）に大別して行い、学内外の専門家による分担講義とする。講義で内容を補いかつ最先端の研究に触れる。実習の目的は、実際の病原体に触れることにより、現実の「もの」をみる感覚を養い、危険な病原体の取り扱い方法について学び、さらに鑑別診断のロジックを体得することにある。時間は限られているので各論で取り上げていない病原体については自己学習とする。

4. 教科書・教材・参考書

微生物学 基礎から臨床へのアプローチ（2012） 神谷茂、河野茂 監訳 メディカルサイエンスインターナショナル 8,300円
 ブラック微生物学 2版（2007） 林英生ら監訳 丸善 7,900円
 標準微生物学 10版（2009） 平松啓一・中込治 医学書院 7,350円
 戸田新細菌学 33版（2007） 吉田真一・柳雄介 南山堂 15,000円
 図説人体寄生虫学 7版（2006） 吉田幸雄・有菌直樹 南山堂 9,450円

5. 成績評価の方法・基準等

学習態度および到達目標への達成度を課題レポート（4割）、実習レポート（1割）、定期考査（5割）により総合評価し、60点以上の得点をもって合格とする。科目責任者の責任で、再試験（口頭試問）を行うことがある。

6. 事前・事後学修の内容

授業で用いる予告された論文の通読。授業で扱った内容の関連箇所を複数の参考書を用いて復習し、知識を整理。

7. 教員名

西田 教行（感染分子）、内藤 真理子（歯学部）、山城 哲（琉球大学）、小佐井 康介（検査部）、坂本 啓（検査部）、柳原 克紀（検査部）、泉川 公一（臨床感染症学）、宮崎 義継（国立感染症研）、中垣 岳大（感染分子）、金子 美穂（感染分子）、久保 嘉直（熱研）、安田 二郎（熱研）、森田 公一（熱研）、南保 明日香（感染症拠点）、早坂 大輔（山口大学）、金子 修（熱研）、矢幡 一英（熱研）、濱野 真二郎（熱研）、平山 謙二（熱研）、山本 太郎（熱研）、北 潔（グローバルヘルス）

8. 備考

教員の都合により、講義の入れ替えを行うことがある。実習への出席は白衣着用を条件とする。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	S

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	24	金	5	ガイダンス	授業の目的等 微生物と感染症	西田 教行（感染分子）	2 講
9	24	金	6	イントロ	プリオン・ウイルス・細菌	西田 教行（感染分子）	2 講
9	30	木	1	細菌学	細菌の構造	内藤 真理子（歯学部）	2 講
9	30	木	2	細菌学	細菌の代謝	内藤 真理子（歯学部）	2 講
10	1	金	5	細菌学	腸内細菌	非常勤 山城 哲（琉球大学）	2 講
10	1	金	6	細菌学	細菌性下痢	非常勤 山城 哲（琉球大学）	2 講
10	7	木	1	細菌学	クラミジア	小佐井康介（検査部）	2 講
10	7	木	2	細菌学	マイコプラズマ	小佐井康介（検査部）	2 講
10	14	木	1	細菌学	口腔細菌	内藤 真理子（歯学部）	2 講
10	14	木	2	細菌学	緑膿菌	坂本 啓（検査部）	2 講
10	15	金	1	細菌学	細菌性毒素	坂本 啓（検査部）	2 講
10	15	金	2	細菌学	嫌気性菌	柳原 克紀（検査部）	2 講
10	15	金	5	細菌学	滅菌と消毒	柳原 克紀（検査部）	2 講
10	15	金	6	細菌学	化学療法と薬剤耐性化	柳原 克紀（検査部）	2 講
10	21	木	1	細菌学	抗酸菌（1）	泉川 公一（臨床感染症学）	2 講
10	21	木	2	細菌学	抗酸菌（2）	泉川 公一（臨床感染症学）	2 講
10	21	木	3	真菌学	真菌（1）	非常勤 宮崎 義継（感染研）	2 講
10	21	木	4	真菌学	真菌（2）	非常勤 宮崎 義継（感染研）	2 講
10	22	金	5	中間テスト1	細菌学		2 講
10	22	金	6	ガイダンス	ケーススタディについて	中垣 岳大（感染分子）	2 講
10	28	木	1	細菌学	グループワーク	中垣 岳大（感染分子）	2 講
10	28	木	2	細菌学	グループワーク	中垣 岳大（感染分子）	2 講
10	29	金	5	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 1	西田教行・中垣岳大	2 講
10	29	金	6	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 1	西田教行・中垣岳大	2 講
11	4	木	1	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 2	西田教行・金子美穂	2 講
11	4	木	2	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 2	西田教行・金子美穂	2 講
11	5	金	5	ウイルス学	ウイルスの感染様式・複製機構	西田（感染分子）	2 講
11	5	金	6	ウイルス学	ウイルス感染と宿主免疫応答	久保 嘉直（感染分子）	2 講
11	11	木	1	ウイルス学	人獣共通感染症とバイオセーフティ	安田 二郎（熱研）	2 講
11	11	木	2	ウイルス学	パンデミック SARS/Covid19	森田 公一（熱研）	2 講
11	12	金	5	ウイルス学	神経系に感染するウイルス（1）ポリオ、ポリオーマ	金子 美穂（感染分子）	2 講
11	12	金	6	ウイルス学	神経系に感染するウイルス（2） その他	西田（感染分子）	2 講
11	18	木	1	ウイルス学	出血熱ウイルス（1）	南保 明日香（感染症拠点）	2 講
11	18	木	2	ウイルス学	出血熱ウイルス（2）	南保 明日香（感染症拠点）	2 講
11	25	木	1	ウイルス学	嘔吐下痢症を起こすウイルス	金子 美穂（感染分子）	2 講
11	25	木	2	ウイルス学	肝炎ウイルス	中垣 岳大（感染分子）	2 講
11	26	金	4	ウイルス学	麻疹ウイルス	中垣 岳大（感染分子）	2 講
11	26	金	5	特別講義	インフルエンザウイルス	喜田宏先生（感染症拠点）	2 講
11	26	金	6	特別講義	インフルエンザウイルス	喜田宏先生（感染症拠点）	2 講
12	2	木	4	ウイルス学	蚊媒介性ウイルス感染症（1）	森田 公一（熱研）	2 講
12	2	木	5	ウイルス学	蚊媒介性ウイルス感染症（2）	森田 公一（熱研）	2 講
12	2	木	6	ウイルス学	ダニ媒介性ウイルス感染症	非常勤 早坂 大輔（山口大学）	2 講

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
12	3	金	5	ウイルス学	ウイルス感染と腫瘍形成（総論）	西田 教行（感染分子）	2 講
12	3	金	6	ウイルス学	腫瘍ウイルス（1）レトロウイルス HTLV-1	久保 嘉直（熱研）	2 講
12	9	木	4	ウイルス学	レトロウイルス HIV	久保 嘉直（熱研）	2 講
12	9	木	5	ウイルス学	腫瘍ウイルス（2）EBV	南保 明日香（感染症拠点）	2 講
12	9	木	6	ウイルス学	ウイルス感染と生命の進化	久保 嘉直（熱研）	2 講
12	10	金	5	中間テスト2			2 講
12	10	金	6	総合演習	課題研究グループワーク HPVと子宮頸癌	西田 教行・中垣岳大	2 講
12	16	木	4	総合演習	課題研究グループワーク HPVと子宮頸癌	西田 教行・中垣岳大	2 講
12	16	木	5	総合演習	グループワーク発表 HPVと子宮頸癌	西田 教行・中垣岳大	2 講
12	16	木	6	総合演習	グループワーク発表 HPVと子宮頸癌	西田 教行・中垣岳大	2 講
12	17	金	4	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 3	西田教行・金子美穂	2 講
12	17	金	5	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 3	西田教行・金子美穂	2 講
12	23	木	4	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 4	西田教行・中垣岳大	2 講
12	23	木	5	総合演習	ケーススタディ グループ発表 case 4	西田教行・中垣岳大	2 講
1	6	木	5	原虫学	原虫学総論	金子 修（熱研）	2 講
1	6	木	6	原虫学	トリパノソーマ	金子 修（熱研）	2 講
1	7	金	5	原虫学	マラリア	矢幡 一英（熱研）	2 講
1	7	金	6	原虫学	腸管寄生原虫	金子 修（熱研）	2 講
1	13	木	4	原虫学	原虫学実習	金子修、矢幡一英、ハサン・ハキミ（熱研）	実2
1	13	木	5	原虫学	原虫学実習	金子 修、矢幡一英、ハサン・ハキミ（熱研）	実2
1	13	木	6	原虫学	原虫学実習	金子修、矢幡一英、ハサン・ハキミ（熱研）	実2
1	14	金	5	寄生虫学	寄生虫学総論	濱野 真二郎（熱研）	2 講
1	14	金	6	寄生虫学	線虫学	濱野 真二郎（熱研）	2 講
1	20	木	4	寄生虫学	吸虫学	濱野 真二郎（熱研）	2 講
1	20	木	5	寄生虫学	条虫学	濱野 真二郎（熱研）	2 講
1	20	木	6	特別講義	Neglected Tropical diseases	平山 謙二（熱研）	2 講
1	21	金	5	寄生虫学	寄生虫学実習 虫卵など	濱野 真二郎（熱研）	実2
1	21	金	6	寄生虫学	寄生虫学実習	濱野 真二郎（熱研）	実2
1	27	木	4	特別講義	感染症学の基礎	山本 太郎（熱研）	2 講
1	27	木	5	特別講義	感染症の国際保健	山本 太郎（熱研）	2 講
1	27	木	6	特別講義	生態疫学研究	金子 聡（熱研）	2 講
1	28	金	5	特別講義	抗原虫薬開発研究（1）	北 潔（TMGH）	2 講
1	28	金	6	特別講義	抗原虫薬開発研究（2）	北 潔（TMGH）	2 講

免疫系

責任者	氏名（教室）	由井 克之（免疫学）		
	電話番号	7070	e-mail	katsu@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	12:30～13:00		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Immunology		

1. 授業の概要及び位置づけ

免疫系は、ウイルス・細菌・寄生虫など外界の生物や異物の侵入に対して、個体の恒常性維持のために発達した生体系であり、この系を構成する様々な細胞・分子群は、複雑な相互作用を営みながら秩序正しく行動している。この免疫系の成り立ちの基本原理とその破綻の結果生ずる病態の基礎を理解し知識を身につけることが第一目標である。免疫学は実験医学であり個々の原理は実験によって裏付けられている。これらの実験の基本を理解し、医科学の科学的検証法を学ぶことが第二の目標である。さらに、学生諸君が自ら「なぜ？」との疑問を発し、医科学における真理の探究とその応用に思いを馳せることを期待する。講義および実習においては、単に事実の羅列や記憶ではなく、その基礎にある科学的思想と実験的検証に対する理解を深め、問題解決能力の養成を重視する。

2. 授業到達目標

ヒト免疫系の基本的な仕組みと、免疫系に関連して生ずる様々な病態について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

免疫細胞の認識・分化・活性化・エフェクター機能・制御機構を中心に免疫系の基本原理について講義・実習を行う。さらに、外的内的恒常性の変化に対して免疫系がどの様に機能するか、またその制御機構の破綻とその病態について講義する。

4. 教科書・教材・参考書

Janeway's Immunobiology, 9th ed. Kenneth Murphy Garland Science 9,309円
 免疫生物学 原著第9版 笹月健彦・吉開泰信（翻訳） 南江堂 9,180円
 Cellular and Molecular Immunology, 10th ed. A.K.Abbas他 Saunders 9,998円
 分子細胞免疫学 原著第9版 中尾篤人（翻訳） エルゼビアジャパン 10,584円

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験（中間試験10%、本試験90%）。但し、出席・実習レポートも考慮する。60点以上を合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書等の該当する部分を読むこと。

7. 教員名

由井 克之（免疫学）、井上 信一（免疫学）、Bayarsaikhan Ganchimeg（免疫学）、川上 純（第一内科）、森内 浩幸（小児科）、日高 匡章（移植・消化器外科）、室田 浩之（皮膚科・アレルギー科）、鶴殿 平一郎（岡山大学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	30	木	4	免疫学入門	免疫系の特徴・免疫学の歴史	免疫・由井	1 講
9	30	木	5	免疫学入門	免疫細胞と組織	免疫・由井	1 講
9	30	木	6	自然免疫	パターン認識受容体	免疫・由井	1 講
10	7	木	5	自然免疫	自然免疫応答、サイトカイン	免疫・由井	2 講
10	7	木	6	自然免疫	補体	免疫・由井	2 講
10	14	木	5	抗原認識	抗体の構造と機能	免疫・由井	2 講
10	14	木	6	抗原認識	抗体遺伝子	免疫・由井	2 講
10	21	木	5	抗原認識	T細胞の抗原認識	免疫・由井	2 講
10	21	木	6	抗原認識	主要組織適合抗原複合体	免疫・由井	2 講
11	4	木	5	免疫応答	樹状細胞とT細胞活性化	免疫・由井	2 講
11	4	木	6	免疫応答	リンパ球活性化と刺激伝達	免疫・由井	2 講
11	11	木	3	免疫応答	T細胞の分化と選択	免疫・由井	2 講
11	11	木	4	免疫学実習	抗原抗体反応	免疫・Bayarsaikhan他	実1・実2
11	11	木	5	免疫学実習	抗原抗体反応	免疫・Bayarsaikhan他	実1・実2
11	11	木	6	免疫学実習	抗原抗体反応	免疫・Bayarsaikhan他	実1・実2
11	18	木	4	免疫学実習	リンパ球の同定と分離	免疫・井上他	実1・実2
11	18	木	5	免疫学実習	リンパ球の同定と分離	免疫・井上他	実1・実2
11	18	木	6	免疫学実習	リンパ球の同定と分離	免疫・井上他	実1・実2
11	25	木	4	免疫学実習	PFC・フローサイトメトリー	免疫・井上他	実1・実2
11	25	木	5	免疫学実習	PFC・フローサイトメトリー	免疫・井上他	実1・実2
11	25	木	6	免疫学実習	PFC・フローサイトメトリー	免疫・井上他	実1・実2
12	2	木	1	免疫応答	細胞性免疫応答（1）	免疫・井上	2 講
12	2	木	2	免疫応答	細胞性免疫応答（2）	免疫・井上	2 講
12	2	木	3	免疫応答	液性免疫応答（1）	免疫・井上	2 講
12	16	木	2	免疫応答	液性免疫応答（2）	免疫・井上	2 講
12	16	木	3	免疫応答	中間テスト	免疫・由井	2 講
12	23	木	1	免疫応答	中間テスト解説	免疫・由井	2 講
12	23	木	2	免疫応答	免疫寛容と制御（1）	免疫・由井	2 講
12	23	木	3	免疫応答	免疫寛容と制御（2）	免疫・由井	2 講
1	6	木	1	免疫応答	免疫細胞の動態	免疫・井上	2 講
1	6	木	2	免疫応答	免疫記憶	免疫・井上	2 講
1	6	木	3	免疫応答	粘膜免疫	免疫・由井	2 講
1	13	木	1	免疫応答	自然免疫リンパ球、 γ δ T細胞他	免疫・井上	2 講
1	13	木	2	免疫と病気	腫瘍免疫の最前線	非常勤・鵜殿	2 講
1	13	木	3	免疫と病気	腫瘍免疫の最前線	非常勤・鵜殿	2 講
1	20	木	1	免疫と病気	アレルギー	皮膚科・室田	2 講
1	20	木	2	免疫と病気	移植免疫	外科学第二・日高	2 講
1	20	木	3	免疫と病気	免疫不全	小児科・森内	2 講
1	27	木	1	免疫と病気	自己免疫疾患（1）	内科学第一・川上	2 講
1	27	木	2	免疫と病気	自己免疫疾患（2）	内科学第一・川上	2 講
1	27	木	3		まとめ	免疫・由井	2 講

腫瘍系

責任者	氏名（教室）	池田 裕明（腫瘍医学）		
	電話番号	7079	e-mail	hiked@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～18:00		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	The Biology of Cancer		

1. 授業の概要及び位置づけ

本講座は昭和61年、我が国最初の腫瘍医学講座として発足した。

医学教育では腫瘍に関する基礎科学から臨床腫瘍学までを集中的かつ系統的に担当する。とりわけ、近年急速に発展した癌の発生、進展の機構の分子生物学的知見、診断と治療の技術革新の展開に関する内容を大幅に取り入れ、今日的な腫瘍に対する見方を探り、新たな発展の礎となる教育を目指している。

2. 授業到達目標

具体的には発がんからがんの進展、浸潤、転移に関するがんの分子生物学、がんと生体の相互作用、がんの個別性、分子標的薬、免疫機能を利用した治療法や遺伝子治療等の新しい治療法、基礎研究を基に臨床応用を行うトランスレーショナル研究、臨床腫瘍学の入門と、幅広い学習を目指す。また、本課目の学習を通じて、腫瘍学に関する幅広い知識を活用できること、科学的・論理的かつ批判的な思考法、仮説と検証に基づく考え方、柔軟で独創的な考え方ができること、これらについて議論や発表ができることを目指す。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義、小テスト

4. 教科書・教材・参考書

【参考書】

- ・がんの生物学 R.A. ワインバーグ 南江堂 12,000円
- ・Essential 細胞生物学 中村桂子・松原謙一 監訳 南江堂 8,000円
- ・新臨床腫瘍学 南江堂 15,000円

【その他】

PUB Med (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/books>) に無料で公開されている以下の4つの参考書を自在に参照できるようにすること。

- ・Molecular Cell Biology (4th ed.)
- ・Retroviruses
- ・Molecular Biology of the Cell (4th ed.)
- ・Cancer Medicine (6th ed.)

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験およびレポート（小テスト含む）。レポート又は小テストは毎回の授業の最後に実施し、提出を出席とみなす。出席が2/3に満たなかったものは評価の対象としない。

定期考査 90% 、 レポート（小テスト） 10%
再試験有（1回）

6. 事前・事後学修の内容

【準備学習】LACS資料・参考書を基に、毎回、予習を1時間行う。

【復習】講義内容を基に、参考書等を使用し、重要な点をまとめ、1時間の復習を行う。

7. 教員名

池田 裕明（腫瘍医学）、浦野 健（島根大学）、藤田 雅俊（九州大学）、林 日出喜（MEDURA）、今泉 芳孝（原研内科）、益谷 美都子（フロンティア生命科学）、芦澤 和人（臨床腫瘍学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

腫瘍系

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	22	水	1	腫瘍概論	がんの生物学概論Ⅰ	池田	1 講
9	22	水	2	腫瘍概論	がんの生物学概論Ⅱ	池田	1 講
9	29	水	1	腫瘍の発生	細胞周期と細胞増殖シグナル	藤田	2 講
9	29	水	2	腫瘍の発生	DNA修復異常と発がん	藤田	2 講
10	6	水	1	腫瘍の発生	がん発生の分子生物学	浦野	2 講
10	6	水	2	腫瘍の発生	がん遺伝子・がん抑制遺伝子	浦野	2 講
10	13	水	1	腫瘍の発生	多段階発癌	林	2 講
10	13	水	2	腫瘍の発生	がんとアポトーシス	益谷	2 講
10	20	水	1	腫瘍の発生	染色体異常	今泉	2 講
10	20	水	2	腫瘍の進展	がんと血管新生	林	2 講
10	27	水	1	腫瘍の進展	転移・浸潤・EMT	池田	2 講
10	27	水	2	腫瘍の進展	がんと炎症	池田	2 講
11	10	水	1	腫瘍の診断/治療	薬物療法（細胞傷害性抗がん剤と分子標的薬）	益谷	2 講
11	10	水	2	腫瘍の診断/治療	個別化がん治療	池田	2 講
11	17	水	1	腫瘍の診断/治療	がんと免疫	池田	2 講
11	17	水	2	腫瘍の診断/治療	がん免疫療法	池田	2 講
12	8	水	5	腫瘍の診断/治療	研究倫理/トランスレーショナル・リサーチ	池田	2 講
12	16	木	1	腫瘍の診断/治療	臨床腫瘍学入門	芦澤	2 講

放射線基礎医学

責任者	氏名（教室）	工藤 崇（原研放射（アイソトープ診断治療学））		
	電話番号	7101	e-mail	tkudo123@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Basic sciences of radiology		

1. 授業の概要及び位置づけ

生活環境には電離放射線が存在し、医療や研究に利用されている。これらの放射線の性質・作用および医療における利用法を学び、放射線に関する基礎知識を身につける。

2. 授業到達目標

放射線の物理的特性や生物影響などを理解するとともに、放射線の健康影響を自分で調査・評価できる技術を習得する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

放射線の性質・作用・健康リスクを分子レベルから組織レベル、個体レベルにいたる多方面から幅広く解説する。また、福島原発事故の話題も交えながら放射線防護、疫学、およびリスクコミュニケーションについて解説する。

実習では、放射線の測定および被ばくによる健康リスク評価を体験し、技術を習得する。

4. 教科書・教材・参考書

【参考書】放射線基礎医学 青山 喬 編纂 金芳堂 5,900 円
この他に、各自で授業に関連した興味深い本を探してください。

5. 成績評価の方法・基準等

期末試験：70%

講義・実習への取り組み：30%

必要に応じてレポートの提出を課す。

6. 事前・事後学修の内容

LACSに講義資料を掲示するので各自ダウンロードしておくこと。

7. 教員名

工藤 崇（原研放射）、西 弘大（原研放射）、松田 尚樹（原研アイソ）、阿部 悠（原研アイソ）、鈴木 啓司（原研医療）、折田 真紀子（原研国際）、栗井 和夫（広島大学）、長谷川 有史（福島県立医大）

8. 備考

講義中に行う小テストの提出をもって出席とする。

欠席しなければならない場合は、あらかじめ届けるか、連絡すること。

講義資料はLACSにアップロードし、紙媒体での配布は行わない。

質問はLACSでも随時受け付ける。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

放射線基礎医学

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
12	15	水	1	放射線物理学(1)	放射能・放射線の基礎物理学	西	2 講
			2	放射線物理学(2)			
			3	放射線生物学(1)	DNA損傷修復と放射線分子細胞応答	鈴木	2 講
			4	放射線生物学(2)	放射線による細胞死誘導と組織反応		
			5	放射線生物学(3)	放射線による細胞死誘導と組織反応		
			6	放射線生物学(4)	集団レベルの放射線影響	松田	2 講
	22	水	1	放射線生物学(5)	放射性物質による内部被ばくと医療	工藤	2 講
			2	放射線リスク学(1)	放射線健康リスクとリスクコミュニケーション	折田	2 講
			3	放射線リスク学(2)			
			4	放射線リスク学(3)	放射線の規制科学	松田	2 講
			5	外部講師講演(1)	医療被ばく	広島大 栗井	ZOOM
			6				
1	5	水	1	放射線計測学	放射線測定 の原理と基礎	西	2 講
			2	外部講師講演(2)	原子力災害医療	福島医大 長谷川	ZOOM
			3				
			4	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	原研放射 アイソトープ施設	1 講 2 講 専斎ホール アイソトープ施設
			5				
			6				
	12	水	4	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	原研放射 アイソトープ施設	1 講 2 講 専斎ホール アイソトープ施設
			5				
			6				
	19	水	4	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	原研放射 アイソトープ施設	1 講 2 講 専斎ホール アイソトープ施設
			5				
			6				
	26	水	4	放射線基礎医学実習	(1) 放射線の計測 (2) 生物影響の定量化 (3) 健康リスク評価 (4) E-ラーニング	原研放射 アイソトープ施設	1 講 2 講 専斎ホール アイソトープ施設
			5				
			6				

プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（グローバルヘルス研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1 年次前期：各教室による研究内容等の紹介セミナーを受講する。
- 1 年次後期、2 年次、3 年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

- 1 年次前期：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。
- 1 年次後期～3 年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

配属教室は、1年次前期終了時に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。
また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

国際医療ゼミ

責任者	氏名（教室）	高村 昇（原研国際）		
	電話番号	7170	e-mail	takamura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2・1年次：後期、2年次：後期	講義形態	講義
必修・選択	必修（国際保健プログラム）	単位数	各1
科目英語名	Global Health Seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

【授業の概要及び位置づけ】世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特にグローバルヘルス分野における活動を紹介する。

【授業内容】グローバルヘルスに関する教科書、および関連する最新の記事について輪読する。

2. 授業到達目標

本学のグローバルヘルス分野における活動や、現在のグローバルヘルスの潮流について理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

グローバルヘルス関連の英語教科書を輪読する。また、グローバルヘルスに関連する事項について、それぞれ課題を設定し、プレゼン資料としてまとめる。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。必要に応じて、講義の際に資料を配布する。

5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。

6. 事前・事後学修の内容

事前に世界保健機関（WHO）やJICAの活動について、HP等で確認しておく

7. 教員名

高村 昇（原研国際）

8. 備考

原研棟4階研修室にて実施。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	B

国際医療英語

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13：0-17：00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	2～3年	講義形態	講義
必修・選択	必修（国際プログラム）	単位数	各1
科目英語名			

準備中
完成次第更新予定

医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次：前期・後期、 3～4年次：後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1
科目英語名	Small group medical seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教員と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。

2. 授業到達目標

各担当教員による。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員による。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

- 1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

医学英語Ⅱ

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13:00-17:00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	2年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical English II		

1. 授業の概要及び位置づけ

器官別のMedical Terminologyを医学英単語の構造から学び、医学英語Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで全器官を網羅します。また、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を学習します。

【Medical Terminology】

・医学英単語の成り立ち ・図解と名称 ・発音聴き取り ・日常語への置き換え 他

【医学英語論文】

・医学英文法 ・論文の種類と構成 ・疾病の基本知識 ・研究成果の読み取り ・要約 他

2. 授業到達目標

医学英単語の語彙力を身に付けるとともに、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を修得することを目標とします。

3. 授業内容（講義・実習項目）

対面授業8回、web学習7回の全15回で行います。

4. 教科書・教材・参考書

eラーニング教材を用います。詳細は初回授業時に説明します。

5. 成績評価の方法・基準等

授業への参加状況、eラーニングの受講状況、終了テストの結果を総合的に判断します。

6. 事前・事後学修の内容

eラーニングの受講は計画的に行うこと。

7. 教員名

トッド・サンダース（感染分子解析学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F

医学英語Ⅱ

(2年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	30	木	7	ガイダンス		トッド	1 講
				Web1 Med. Terminology(1) Unit9-骨格/Unit10-筋肉・消化器系	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・正常選択	—	自宅学習
10	14	木	7	対面授業1		トッド	2 講
				Web2 医学英語論文(1-1) (基礎知識)	論文の種類、医学英文法	—	自宅学習
10	28	木	7	対面授業2		トッド	1 講
				Web3 Med. Terminology(2) Unit5-消化器系	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・日常語と専門用語 ・正解選択	—	自宅学習
12	2	木	7	対面授業3		トッド	2 講
				Web4 Med. Terminology(3) Unit14-呼吸器系	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・日常語と専門用語 ・正解選択	—	自宅学習
12	16	木	7	対面授業4		トッド	2 講
				Web5 医学英語論文(2) (Case Report-1)	薬の副作用に起因するパーキンソン症候群	—	自宅学習
1	6	木	7	対面授業5		トッド	2 講
				Web6 医学英語論文(2) (Case Report-1)	薬の副作用に起因するパーキンソン症候群	—	自宅学習
1	13	木	7	対面授業6		トッド	2 講
				Web7 Med. Terminology(4) Unit2-循環器系	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・日常語と専門用語 ・正解選択	—	自宅学習
1	27	木	7	対面授業7		トッド	2 講
				試験	web終了テスト	—	

【暫定版:2021.5.11】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 3年前期

月	日	月								日	火								日	水								日	木								日	金							
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$
		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40			9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40						
4																					1	病理総論系				2	薬理系		医学ゼミ	基礎医学TBL															
	5	医と社会Ⅲ		病理総論系						6	医と社会Ⅲ		医学ゼミ	病理総論系				7	医と社会Ⅲ		病理総論系				8	医と社会Ⅲ		放射線医学				9	薬理系												
	12	放射線医学		自主学習						13	放射線試験			病理総論系				14	医と社会Ⅲ		病理総論系				15			病理総論系				16	薬理系												
	19	医と社会Ⅲ		循環器系						20	血リン系			病理総論系				21	自主学習						22	病理総論試験		血液リンバ系				23	循環器系												
	26	血液リンバ系		循環器系						27	循環系			血液リンバ系				28	循環器系		循環病理				29	昭和の日						30	循環器系												
5	3	憲法記念日								4	みどりの日					5	こどもの日					6	循環器系		血リン系		7	薬理系		医学ゼミ	基礎医学TBL														
	10	血リン系		循環器系						11	循環薬理		ゼミ	循環器系				12	循環器系			循環病理						13							14	血リン 血薬									
	17		医と社会		循放 循環器系					18		循環病理				19	循環器系			循環病理				20					21			薬理系													
	24	血リン系		医と社会		循環器系				25	循環薬理			血リン病理				26	循環器系			循環病理				27	循環器系		血リン病理				28	呼吸器系											
6	31	循環器系		自主学習						1	自主学習		循環器試験			2	血液リンバ系		自主学習			3	自主学習		血リン試験			4	呼吸器系		医学ゼミ	医と社会													
	7	感染症系		薬理 呼吸器系						8		医学ゼミ	感染症系				9	感染症系		呼吸病理			10	腎泌尿器系			呼吸器系			11			薬理系												
	14	感染症系		呼吸器系						15			感染症系				16	感染症系					17											18	呼吸放射線										
	21	感染症系		呼吸器系						22	腎泌尿系			呼吸器系				23	腎泌尿系			腎泌尿器病理								24							25	薬理系							
28	感染症系		呼吸器系						29		呼吸器系				30			呼吸器系					1									2	薬理系												
7	5	感染症系		呼吸器系						6			感染症系		感染 病理		7	感染症系			呼吸病理								8					9	薬理系										
	12	感染症系		医と社会		呼吸器系				13	呼薬 腎放			呼吸病理				14			泌尿器病理								15					16	薬理系		火 医ゼミ	薬理学実習							
	19	感染症系		呼吸器系						20	薬理系			自主学習			21	自主学習		薬理系試験						22	海の日					23	スポーツの日												
	26	腎泌尿系		感染症系						27	腎泌尿系		自主学習			28	自主学習		腎泌尿器試験			29	感染症系		自主学習			30	自主学習		感染症試験														
8	2	呼吸器系		自主学習						3	自主学習		呼吸器系試験			4	夏季休業					5	夏季休業					6	夏季休業																
	9	振替休日									10	夏季休業					11	夏季休業					12	夏季休業					13	夏季休業															
	16	夏季休業									17	夏季休業					18	夏季休業					19	夏季休業					20	夏季休業															
	23	再試験期間								24	再試験期間					25	再試験期間					26	再試験期間					27	再試験期間																
30									31												1												2				3								
6									7												8												9				10								
9	13	臨床検査医学		運動系						14	生殖系			生殖系			15	運動系		生殖病理		英語		16	生殖系				生殖系			17	臨床検査医学		運動系										

令和3年度 授 業 時 間 割 3年後期

月	日	月								日	火								日	水								日	木								日	金																											
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8																				
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$																				
9	20	敬老の日								21	生殖系			生殖系			22	運動系	運放	運動系病理				23	秋分の日								24	医と社会																															
	27	臨床検査医学		運動系						28	生殖系				生殖系			29	運動系	運放 生殖病理		英語		30	生殖系			生殖系				1	医と社（共修）		運動系																														
10	4	臨床検査医学		運動系						5	生殖系				生殖系			6		運動系	生殖系		英語		7	生殖系			生殖系				8	臨床検査医学		運動系																													
	11	臨床検査医学		運動系						12	生殖系				生殖系			13			生殖系		英語		14	生殖系			生殖系				15	生殖系		自主学習																													
	18	自主学習		生殖系試験						19	運動系		自主学習			20	自主学習			運動系試験				21	臨床検査医学		自主学習				22	医と社会（共修）																																	
	25	自主学習		臨床検査医学試験						26	消化器系		内分泌薬理			27	消化器系		消化器系		英語		28	内代栄系		消化器 病理			29	内代栄系		消化器系																																	
	1	内代栄系	消化器系						2	消化器系		内分泌病理			3	文化の日											4			消化器 病理			5	内代栄系		消化器系																													
	8						消化器系	消化器病理			9	消化器系		消化器病理		英語		10	消化器系		内分泌病理		英語								11			消化器 病理			12	内代栄系		医と 社会	消化器系																								
11	15	内代栄系	内放	消化器系				消化器病理		16	消化器系		消化器病理			17	消化器系		消化器病理		英語		18				消化器系		消化 薬理						19	OSCE本試験により休講																													
	22				内代栄系		消化器系		勤労感謝の日								23	消化器系		消化器病理		英語		24	消化器系		消化器病理		英語		25	消化器系		消化器病理																															
	29	内代栄系		内放		内分泌病理				30	消化器系		消化器病理			1	内代栄系		自主学習				2	自主学習		内代栄系試験				3	消化器系		自主学習																																
	12	6	自主学習		消化器系試験					7	再試験期間					8	再試験期間						9	再試験期間						10	再試験期間																																		
13		再試験期間						14	再試験期間												15	再試験期間								16					再試験期間																														
20						再試験期間									21	再試験期間										22	再試験期間						23	再試験期間																															
27		冬季休業								28	冬季休業									29	冬季休業										30	冬季休業								31	冬季休業																								
1	3	冬季休業								4	冬季休業								5	冬季休業								6	冬季休業								7	冬季休業																											
	10	成人の日								11	成人の日								12	成人の日								13	成人の日								14	成人の日																											
	17	リサーチセミナー								18	リサーチセミナー								19	リサーチセミナー								20	リサーチセミナー								21	リサーチセミナー																											
	24					リサーチセミナー												25	リサーチセミナー									26					リサーチセミナー												27	リサーチセミナー								28	リサーチセミナー										
2	31	退職教授記念講演会												1	リサーチセミナー												2	リサーチセミナー												3	リサーチセミナー												4	リサーチセミナー											
	7					退職教授記念講演会								8					リサーチセミナー								9					退職教授記念講演会								10					退職教授記念講演会								11					建国記念の日							
	14									リサーチセミナー																15	リサーチセミナー													16									リサーチセミナー												17	リサーチセミナー			
21	リサーチセミナー								22					リサーチセミナー								23	天皇誕生日												24	天皇誕生日								25	天皇誕生日																				
3					28	春季休業												1	春季休業								2	春季休業												3	春季休業								4	春季休業															
	7	春季休業								8	春季休業								9	春季休業								10	春季休業								11	春季休業																											
	14	春季休業								15	春季休業								16	春季休業								17	春季休業								18	春季休業																											
	21	春分の日								22	春分の日								23	春分の日								24	春分の日								25	春分の日																											
	28	春季休業								29	春季休業								30	春季休業								31	春季休業																																				

医と社会Ⅲ

責任者	氏名（教室）	安武 亨（先端医育センター）		
	電話番号	7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medical ethics and philosophy 3		

1. 授業の概要及び位置づけ

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、診療所の体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また、ワークライフバランスについて、仕事と生活の相乗効果を高める考え方を学ぶ。

2年次までは「病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている社会・環境を洞察しうる医師となる」ことなどをめざして、主として医療従事者から見た講義・実習が行われてきた。3年次では、医療従事者でない立場の人から見た場合の、哲学・倫理・社会観・そこで提起される問題について、一緒に考えていく。我々がおかれている現代社会において、「何が正義か?」、「何に価値をおくべきか?」、「倫理観とはどうあるべきか?」といった根本的な哲学については、病気の診断・治療などの現場の対応に追われていると、社会背景を考慮しているようでも、しだいに見えなくなってゆくものである。

加えて、これまでなかなか触れる機会の少なかった歯学系分野についても学ぶ。

2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
5. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握するこ

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1) 実習
 - (1) 診療所体験実習
- 2) 講義(実習も含む)内容
 - (1) 患者とのコミュニケーション(2) 患者診察入門(3) 介護・介助
 - (4) 多職種連携(5) 地域医療(6) ワークライフバランス
 - (7) 地域包括ケアシステム(8) 医療倫理分野(9) 歯学系分野(10) 薬害問題(11) 国家行政
- 3) 体験討論・レポート作成

診療所等の体験について討論し、レポートを作成する。
- 4) リハビリテーション

4. 教科書・教材・参考書

適宜LACSに掲載またはプリントを配付する。

5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

7. 教員名

安武 亨（先端医育センター）、田中 邦彦（先端医育センター）、江川 亜希子（先端医育センター）、北山 素（先端医育センター）、濱崎 景子（IR室兼先端医育センター）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、川尻 真也（地域医療学）、井口 茂（保健学科）、梅田 正博（歯学部）、藤原 卓（歯学部）、吉村 篤利（歯学部）、高畠 英昭（リハビリテーション科）、酒井 和香（リハビリテーション科）、前田 隆浩（総合診療科）、鎌田 昭江（第一内科）、高山 隼人（地域医療支援センター）、小川 さやか（保健・医療推進センター）、本田 美和子（国立病院機構東京医療センター、医長）、手嶋 無限（アイビー薬局）、小澤 竹俊（めぐみ在宅クリニック）、貝沼 茂三郎（富山大学附属病院）、西澤 利夫（西澤国際特許事務所）、間宮 清（）、秋野 公造（参議院議員）、板井 孝壱郎（宮崎大学）、坂上 祐樹（平成医療福祉グループ）、秋葉 悦子（富山大学）、斐 英洙（ハイズ株式会社）、田口 円裕（厚生労働省医政局）

8. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

行動科学分野責任者：青柳 潔、有馬 和彦

リハビリテーション分野責任者：高畠 英昭

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	E

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	1	木	1	地域包括	地域包括ケアにおける医療の役割	地域包括ケア教育センター 永田 康浩	4 講
4	1	木	2～3	地域包括	リハビリテーション総論	保健学科 井口 茂	4 講
4	5	月	1	地域包括	口腔ケアに関して	周術期口腔管理センター 梅田 正博	オンライン
4	5	月	2	地域包括	地域における薬剤師の役割	アイビー薬局 手嶋 無限	オンライン
4	5	月	3	リハビリテーション	リハビリテーション概論4 健康・疾病・障害の概念と社会環境 (社会環境の変動と国民の健康、疾病・障害の概念と社会)	リハビリテーション科 酒井 和香	オンライン
4	6	火	1～2	地域包括	苦しむ人への関わり方を学ぶ	地域包括ケア教育センター めぐみ在宅クリニック 小澤 竹俊	2 講
4	7	水	1～3	地域包括	Humanitudeによるせん妄へ関わり方	地域包括ケア教育センター 国立病院機構東京医療センター 本田美和子	オンライン
4	8	木	1	歯科疾患	歯周病について	歯学部 吉村 篤利	4 講
4	8	木	2	社会人規範	ハラスメント	先端医育センター 安武 亨	4 講
4	8	木	3	行動科学	動機づけ面接	保健・医療推進センター 小川 さやか	4 講
4	14	水	1	地域医療学	漢方について	富山大学附属病院 貝沼 茂三郎	オンライン
4	14	水	2	知的財産権	知的財産権（特許権・著作権など）について知っておこう	西澤国際特許事務所 西澤 利夫	オンライン
4	14	水	3	歯科疾患	う蝕(むし歯について)	歯学部 藤原 卓	オンライン
4	15	木	1	医療安全	薬害問題（市販薬の薬害・サリドマイド）	間宮 清	4 講
4	15	木	2	行動科学	認知行動療法	保健・医療推進センター 小川 さやか	4 講
4	15	木	3	リハビリテーション	リハビリテーション概論5 食事・栄養療法 (食事・栄養療法の基本、栄養摂取の方法、適応、合併症)	リハビリテーション科 酒井 和香	4 講
4	19	月	1	未定			オンライン
4	19	月	2	行動科学	行動変容・糖尿病	第一内科 鎌田 昭江	オンライン
4	19	月	3	リハビリテーション	リハビリテーション概論6 リハビリテーションの概念	リハビリテーション科 高畠 英昭	オンライン
5	17	月	3	地域医療学	長崎県の離島医療施策と医療支援	地域医療支援センター 高山 隼人	2 講
5	24	月	3	リハビリテーション	リハビリテーション概論7 リハビリテーションの技術	リハビリテーション科 酒井 和香	2 講
5	28	金	4～6	Early Exposure	診断所実習の事前学習	地域包括ケア教育センター	4 講
6	4	金	4～6	Early Exposure	実習	地域包括ケア教育センター	4 講
6	11	金	4～6	Early Exposure	実習	地域包括ケア教育センター	4 講
6	18	金	4～6	Early Exposure	実習の振り返り	地域包括ケア教育センター	4 講
7	12	月	3	地域医療学	地域医療	参議院議員 秋野 公造	オンライン
9	24	金	1～6	ワークライフバランス	医師にとってのワークライフバランス	メディカルワークライフ バランスセンター	4 講・チュート
10	1	金	1～2	医歯学共修	医療倫理の基礎と実践-DNAR・終末期を中心に-	宮崎大学 板井 孝壱郎	4 講
10	1	金	3	医歯学共修	普通の医・歯学生から抜け出するための医療マネジメント入門	ハイズ株式会社 斐 英洙	4 講
10	22	金	1	医歯学共修	矯正医療について	福岡矯正管区	4 講
10	22	金	2～3	医歯学共修	終末期医療における倫理と法 -医師の職業倫理に立脚した法の形成に向けて-	富山大学 秋葉 悦子	4 講
10	22	金	4～5	医歯学共修	医療安全や医療の質管理	歯学部 藤原 卓	4 講
10	22	金	5～6	医歯学共修	技術系行政官としての業務 -国民の健康な生活の確保に貢献するために-	厚生労働省医政局 田口 円裕	4 講
11	12	金	3	地域医療学	我が国の医療・介護制度について	平成医療福祉グループ 坂上 祐樹	4 講

病理総論系

責任者	氏名（教室）	下川 功（病理学（旧第一病理学））		
	電話番号	7051	e-mail	shimo@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・水曜日 17:00～18:00（電話で所在を確認すること）		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	General Pathology		

1. 授業の概要及び位置づけ

病理学は疾病（病気）の原因や病態を探究する学問である。病理総論では、まず疾病や病的現象について総体的に把握し理解する。人間に病気を起こす原因（病因）や、それに対する生体の基本的な防御機構や反応を学び、それが組織や臓器にどのような形態的、機能的障害を与えるかを理解する。その上で、関連臓器や人体そのものに与える影響を考えていく。

2. 授業到達目標

病理学を正しく理解するためには、解剖学、生理学、生化学などの基礎教科の十分な知識が要求される。加えて、医学英語に習熟するために、英語の教科書を用いる。疾患名や重要な用語は、英語、日本語とも覚える。以下に挙げた教科書を原著のまま理解できる程度の能力と知識を到達目標とする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義項目：講義予定表を参照のこと。

4. 教科書・教材・参考書

Robbins Basic Pathology 10th edition Kumar V, et al Saunders 99.95 US\$

5. 成績評価の方法・基準等

病理総論筆記試験を行う。出席状況、レポートの提出の有無を含め、総合的に評価する。感染症、事故等やむをえない事情により定期試験を欠席した場合、追試験を行うことはある。原則として再試験は行わない。

6. 事前・事後学修の内容

授業項目に関連する解剖学、組織学、生理学等の知識を再確認しておくこと。推薦された教科書だけではなく、他の病理学の教科書を読み比べること。

7. 教員名

下川 功（病理学）、森 亮一（病理学）、林 洋子（病理学）、朴 盛浚（病理学）、大谷 博（非常勤講師（白十字病院））

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

病理総論系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	1	木	4	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理１・下川	4 講
4	1	木	5	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理１・下川	4 講
4	1	木	6	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理１・下川	4 講
4	5	月	4	炎症	慢性炎症、炎症の組織形態	病理１・森	オンライン
4	5	月	5	炎症	炎症の定義と分類、急性炎症	病理１・森	オンライン
4	5	月	6	炎症	化学走性因子	病理１・森	オンライン
4	6	火	4	組織の修復	再生、創傷治癒	病理１・森	2 講
4	6	火	5	組織障害、炎症、修復	実習	病理１・下川、森、林、朴	実 2
4	6	火	6	腫瘍総論	腫瘍の概念・定義・分類	病理１・森	2 講
4	7	水	4	腫瘍総論	腫瘍の発育・進展、原因	病理１・森	オンライン
4	7	水	5	腫瘍各論	上皮性、非上皮性腫瘍	病理１・林	オンライン
4	7	水	6	腫瘍各論	実習	病理１・下川、森、林、朴	オンライン
4	13	火	4	循環障害	充血・うっ血、出血・凝固	病理１・下川	4 講
4	13	火	5	循環障害	血栓・塞栓・梗塞	病理１・下川	4 講
4	13	火	6	遺伝性疾患	遺伝子、染色体異常	病理１・下川	4 講
4	14	水	4	小児の疾患	奇形、発達異常	病理１・下川	オンライン
4	14	水	5	特別講義	病院病理医の現状と外科病理の魅力	白十字病院・大谷	オンライン
4	14	水	6	特別講義	病院病理医の現状と外科病理の魅力	白十字病院・大谷	オンライン
4	15	木	4	免疫病理	自己免疫疾患、移植の病理	病理１・森	ボードイン
4	15	木	5	環境と疾患	物理的、化学的傷害	病理１・森	ボードイン
4	15	木	6	栄養障害	栄養障害による疾患	病理１・森	ボードイン
4	20	火	4	老化	老化と病態、その制御因子	病理１・下川	2 講
4	20	火	5	老化	老化と病態、その制御因子	病理１・下川	2 講
4	20	火	6	感染症	感染症の一般病理学	病理１・下川	2 講
4	22	木	1～3	試験			4 講

基礎医学TBL

責任者	氏名（教室）	永山 雄二（原研分子）		
	電話番号	095-819-7173	e-mail	nagayama@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	7:30～8:50		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Team-based learning		

1. 授業の概要及び位置づけ

実際の症例から問題点を抽出し、学習目標を設定し、自ら学ぶ。すでに学んだ基礎医学全般の知識を使えるものにするために知識の整理を行う。医学的知識を用いて実際の患者の抱える種々の問題を理解し、解決するために医師が取った行動、判断について批判的に学ぶ。必要な情報・知識を収集する能力を高め、実践での知識の応用力を養う。同時に病態の理解を具体例の検討をすることで理解を深め、解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識と用語の復習と再確認を必要に応じて行う。

2. 授業到達目標

実際の症例から問題点を抽出できる。学習目標を設定し、自ら学ぶことができる。解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識の応用できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

実際の患者のシナリオを入院まで、入院時、入院後と時系列にて提示し、それぞれを読み解く作業をグループワークとして行う。学習課題については自己学習し、グループ内で情報を共有し、議論を深める。授業で自らの考えを発表し、他のグループと意見交換を行う。議論に積極的に参加し、チームワーク医療における個人の役割を理解する。

4. 教科書・教材・参考書

資料を適宜配布する。

参考書：ハワイ大学式PBLマニュアル 黒川 清 監修 羊土社 3,999円

5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、課題レポートの総合判断で評価する。

不合格者には、再試を施行する。

6. 事前・事後学修の内容

配布するシナリオの内容について、次週までに学習・理解・調査していただくこと。

7. 教員名

永山 雄二（原研分子）、佐藤 克也（保健学科）、田中 邦彦（先端医育センター）、池田 裕明（腫瘍医学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	F

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	金	4~6	第1クール	オリエンテーション	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2
4	9	金	4~6	第2クール	症例1	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2
4	16	金	4~6	第3クール	症例1	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2
4	23	金	4~6	第4クール	症例3	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2
4	30	金	4~6	第5クール	症例4	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2
5	7	金	4~6	第6クール	症例5	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2
5	14	金	4~6	第7クール	症例6	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2
5	21	金	4~6	第8クール	症例7	永山、池田、田中、佐藤	実1・実2

薬理系

責任者	氏名（教室）	有賀 純（医科薬理学）		
	電話番号	7043	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical Pharmacology		

1. 授業の概要及び位置づけ

薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

2. 授業到達目標

生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。
薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。
適切に取り扱いのもとに動物実験を行い、結果を評価することができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。一部項目については実習を課す。

4. 教科書・教材・参考書

薬がみえる（vol. 1-4）医療情報科学研究所 メディックメディア 3,600円/vol
NEW薬理学（第7版）編者：田中千賀子、加藤隆一、成宮周 南江堂 8,800円
イラストレイテッド薬理学（原書6版）編者：R. A. Harvey 監訳：柳澤輝行、丸山敬 7,800円
ハーバード大学講義テキスト：臨床薬理学（原書3版）編者：D. E. Golan 監訳：渡邊 裕司 丸善 14,580円
ラング・デール 薬理学（原書8版）編者：H. P. Rang他 監訳：渡邊 直樹 丸善 9,500円
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (13th Ed) 編者：L. L. Brunton McGraw-Hill 24,120円

5. 成績評価の方法・基準等

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。薬理学実習は、薬理学筆答試験受験のために必修である。実習を行い、実習レポートをすべて提出し、受理された者のみが、薬理学筆答試験を受験する資格を有する。

6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。
実習前には、配布される実習テキストを読んで予習しておくこと。

7. 教員名

有賀 純（医科薬理学）、藤田 和歌子（医科薬理学）、畑山 実（医科薬理学）、松永 隼人（医科薬理学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	S

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	金	1	薬理学総論1	薬理学への導入・薬力学	薬理・有賀	4 講
4	2	金	2	薬理学総論2	薬物受容体と細胞内情報伝達系	薬理・有賀	4 講
4	9	金	1	生理活性物質1	カテコールアミン	薬理・有賀	2 講
4	9	金	2	末梢神経作用薬 1	アドレナリン作用薬	薬理・有賀	2 講
4	16	金	1	末梢神経作用薬2	抗アドレナリン薬	薬理・有賀	2 講
4	16	金	2	生理活性物質2	アセチルコリン	薬理・有賀	2 講
5	7	金	1	末梢神経作用薬3	コリン薬・抗コリン薬	薬理・有賀	2 講
5	7	金	2	生理活性物質3	ペプチド	薬理・藤田	2 講
5	21	金	1	末梢神経作用薬4	自律神経作用薬・神経筋作用薬	薬理・藤田	2 講
5	21	金	2	末梢神経作用薬5	局所麻酔薬	薬理・藤田	2 講
6	7	月	4	中間テスト		薬理学教員	4 講
6	11	金	1	生理活性物質4	セロトニン・ヒスタミン	薬理・松永	4 講
6	11	金	2	生理活性物質5	アミノ酸	薬理・畑山	4 講
6	25	金	1	生理活性物質6	エイコサノイド・サイトカイン	薬理・藤田	2 講
6	25	金	2	薬理学総論5	臨床試験・実験動物の取り扱い	薬理・有賀	2 講
6	25	金	4～6	(薬理学実習1)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	2	金	1	炎症免疫薬理学1	鎮痛薬・解熱薬	薬理・藤田	2 講
7	2	金	2	炎症免疫薬理学2	抗炎症薬・副腎皮質ステロイド	薬理・藤田	2 講
7	2	金	4～6	(薬理学実習2)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	9	金	1	薬理学総論3	薬物代謝・薬物相互作用	薬理・有賀	2 講
7	9	金	2	感染症治療薬1	抗菌薬	薬理・有賀	2 講
7	9	金	4～6	(薬理学実習3)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	16	金	1	感染症治療薬2	抗真菌薬	薬理・有賀	2 講
7	16	金	2	感染症治療薬3	抗ウイルス薬	薬理・有賀	2 講
7	16	金	4～6	(薬理学実習4)	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・実2
7	20	火	1	腫瘍薬理学1	抗腫瘍薬	薬理・畑山	4 講
7	20	火	2	腫瘍薬理学2	抗腫瘍性分子標的薬	薬理・畑山	4 講
7	21	水	4～6	試験			2 講

血液・リンパ系

責任者	氏名（教室）	宮崎 泰司（原研内科（血液内科学））		
	電話番号	7109	e-mail	y-miyaza@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 17:00～17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Hematopoietic and lymphoid system		

1. 授業の概要及び位置づけ

骨髄とリンパ節の構造、そこで産生される造血細胞（赤血球、白血球[顆粒球・リンパ球]、血小板）の形態、機能、産生機序、および止血機構を理解する。これらの基本的理解に立って、各血液疾患、リンパ系疾患、止血・線溶機構異常による疾患の病因と病態、臨床事項について理解する。臨床実習において実際に血液疾患を抱えた患者の病態を理解し、正確な診断するために必須の知識である。

2. 授業到達目標

正常血球の認識に基づき血液細胞の産生や機能，凝固止血機構を説明できる。主要血液疾患の病因と病態、臨床事項（症状、所見、診断と治療）を説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- ・血液の構成成分、骨髄と血球産生機序を学習する。
- ・血球形態理解のために、正常末梢血および正常骨髄標本を顕微鏡を用いて観察し、血球をスケッチする実習を行う。
- ・赤血球の異常、造血幹細胞異常、顆粒球の異常、リンパ球および免疫細胞の異常、止血機構と出血性素因、小児の血液疾患、血液疾患の治療の各項目について講義を行う。
- ・7～8人ずつの小グループに分かれ、実際の症例を提示しながらチーム基盤型学習（TBL）を行う。

4. 教科書・教材・参考書

LACSにあらかじめ資料を提示する。各担当教官より必要に応じて資料が配布される。

講義録 血液・造血器疾患学 小澤敬也 他 メジカルビュー社 5,500円
 カラーテキスト血液病学（参考書） 木崎 昌弘 他 中外医学社 26,000円
 三輪 血液病学（参考書） 浅野茂隆 他 文光堂 45,000円
 血液専門医テキスト（参考書） 日本血液学会編集 南江堂 15,000円
 臨床に直結する血栓止血学 朝倉 英策 他 中外医学社 7,600円

5. 成績評価の方法・基準等

毎回、学生証によるカード出席の確認を行う。実習ではレポートを提出する。出席率2/3以上の者は定期試験の受験資格を有する。内科・小児血液についての定期試験と実習レポートをあわせて評価する。合計60点以上を合格とする。

また、本論、病理、薬理の各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSの資料にて予習することが望ましい。

7. 教員名

宮崎 泰司（原研内科）、波多智子（非常勤講師）、今泉 芳孝（原研内科）、澤山 靖（原研内科）、安東 恒史（原研内科）、佐藤 信也（原研内科）、舩越 康智（小児科）、中島正洋（病理学）、有賀 純（薬理）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

血液・リンパ系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	20	火	1	血液学総論	造血総論	原研内科、宮崎 泰司	2 講
4	20	火	2	白血球疾患（1）	白血球総論	非常勤講師、波多 智子	2 講
4	22	木	4	血液形態顕微鏡実習	正常末梢血液細胞	原研内科、宮崎 泰司	実1・実2
4	22	木	5	血液形態顕微鏡実習	正常骨髓細胞	原研内科、宮崎 泰司	実1・実2
4	22	木	6	リンパ系疾患（1）	リンパ系総論	原研内科、今泉 芳孝	2 講
4	26	月	1	出血性・血栓性疾患（1）	止血機構	原研内科、佐藤 信也	オンライン
4	26	月	2	出血性・血栓性疾患（2）	血小板異常・凝固異常	原研内科、佐藤 信也	オンライン
4	26	月	3	出血性・血栓性疾患（3）	DIC・血栓性疾患	原研内科、佐藤 信也	オンライン
4	27	火	4	白血球疾患（2）	白血球系疾患	非常勤講師、波多 智子	4 講
4	27	火	5	白血球疾患（3）	急性白血病	非常勤講師、波多 智子	4 講
4	27	火	6	リンパ系疾患（2）	反応性リンパ系疾患・脾疾患	原研内科、今泉 芳孝	4 講
5	6	木	5	白血球疾患（4）	慢性骨髄性白血病、骨髄増殖腫瘍	原研内科、波多 智子	4 講
5	6	木	6	リンパ系疾患（3）	血漿蛋白質の異常	原研内科、加藤 丈晴	4 講
5	10	月	1	赤血球疾患（1）	赤血球総論・貧血総論	原研内科、安東 恒史	4 講
5	10	月	2	赤血球疾患（2）	鉄欠乏性貧血・二次性貧血	原研内科、安東 恒史	4 講
5	13	木	5	リンパ系疾患（4）	悪性リンパ腫	原研内科、今泉 芳孝	2 講
5	13	木	6	リンパ系疾患（5）	慢性リンパ性白血病、成人T細胞白血病	原研内科、今泉 芳孝	2 講
5	14	金	1	赤血球疾患（3）	巨赤芽球性貧血・溶血性貧血	原研内科、安東 恒史	4 講
5	14	金	2	薬理	抗凝固・抗血小板薬	薬理、有賀 純	4 講
5	17	月	1	赤血球疾患（4）	再生不良性貧血・PNH	原研内科、安東 恒史	2 講
5	17	月	2	小児血液（1）	小児貧血（溶血性貧血、Fanconi貧血など）	小児科、舩越 康智	2 講
5	20	木	5	TBL	リンパ系疾患	原研内科、今泉 芳孝	4 講
5	20	木	6	TBL	リンパ系疾患	原研内科、今泉 芳孝	4 講
5	24	月	1	小児血液（2）	好中球機能と先天異常、出血性素因	小児科、舩越 康智	2 講
5	24	月	2	小児血液（3）	悪性新生物（小児白血病など）	小児科、舩越 康智	2 講
5	25	火	4	病理	血液・リンパ系(腫瘍/非腫瘍)	病理学、中島 正洋	2 講
5	25	火	5	病理	血液・リンパ系(腫瘍/非腫瘍)	病理学、中島 正洋	2 講
5	25	火	6	病理	血液・リンパ系(腫瘍/非腫瘍)	病理学、中島 正洋	2 講
5	27	木	4	病理	血液・リンパ系(腫瘍/非腫瘍) 実習	病理学、中島 正洋	実1・実2
5	27	木	5	病理	血液・リンパ系(腫瘍/非腫瘍) 実習	病理学、中島 正洋	実1・実2
5	27	木	6	病理	血液・リンパ系(腫瘍/非腫瘍) 実習	病理学、中島 正洋	実1・実2
6	2	水	1	血液疾患の治療	造血幹細胞移植	原研内科、澤山 靖	4 講
6	2	水	2	TBL	血球減少症	原研内科、澤山 靖	4 講
6	2	水	3	TBL	血球減少症	原研内科、澤山 靖	4 講
6	3	木	4～6	試験			4 講

循環器系

責任者	氏名（教室）	前村 浩二（循環器内科学）		
	電話番号	7288	e-mail	maemura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	4.5
科目英語名	Cardiovascular Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

本講は循環器疾患全般の概説を、主に診断・検査・治療といった臨床的側面から行う。各学生は自ら主体的に学習するアクティブラーニングの精神をもって授業に臨む必要があり、本講は学生が行うアクティブラーニングでの不足を補うための授業と位置づけられる。放射線、病理、薬理における循環器関連分野の授業も並行して行われるため、より多面的に多角的に循環器疾患の理解が進むことを期待する。

2. 授業到達目標

心電図、心エコーなどの検査法を理解するとともに、循環器疾患の病因と病態を説明でき、診断、治療についても系統的かつ効率よく理解できるようにすることを目標とする。単に知識だけの習得にとどまらず、循環器疾患特有の即座に対応せねばならない病態であるかなどの判断ができるようにする。また、倫理観を踏まえた上で、患者さんに対して問診、身体診察および説明ができるようにする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義内容は心臓血管系の発生、形態および機能、循環器検査法、循環器診断学、心不全、先天性心疾患、心臓弁膜症、心筋症、心内膜疾患、心膜疾患、心臓腫瘍、循環器感染症、虚血性心疾患、肺循環障害、動脈硬化、大動脈疾患、中・小動脈疾患、静脈疾患、不整脈、高血圧、低血圧とする。

近年の循環器疾患の進歩は目覚ましく、従来のように心行動態を中心とした理解のみでは不十分である。講義内容はその領域の専門家に重要事項がもれないようにお願いし、しかも簡潔に要領よく講義して疾患および病態の本質が正確に理解できるように努める。また、講義内容があまり専門的にならず基本的事項を十分に理解できるようにすることを原則とする。

4. 教科書・教材・参考書

内科学（第11版） 矢崎 義雄 監修 朝倉書店 24,800円＋税

新臨床内科学（第9版） 高久 史麿 他監修 医学書院 22,000円＋税

循環器内科学 水野 杏一 他編 丸善出版 4,900円＋税

HARRISON'S PRINCIPLES OF INTERNAL MEDICINE, 20th Edition Longo, et.al 南江堂 30,680円＋税

Braunwald's Heart Disease: Textbook of Cardiovascular Medicine, 11th Edition Mann et.al 南江堂 39,190円＋税

標準小児科学 第8版 内山 聖 監修 医学書院 8,800円＋税

周生期循環異常 中澤 誠 編 メジカルビュー社 5,500円＋税

新 目で見る循環器病シリーズ13－先天性心疾患－ 中澤 誠 編 メジカルビュー社 9,500円＋税

5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に試験を施行して評価する。試験100%であるが、国家試験形式では評価できない修得度は記述式問題で評価する。本論（循環器内科、小児科、心臓血管外科）、放射線、病理、薬理の各分野を総合して評価し、60%以上を合格とする。

不合格者に対して、再試験は1回に限り施行するものとする。

6. 事前・事後学修の内容

循環器学教科書および診断学教科書を用いて講義の前に予め予習しておくこと。

7. 教員名

前村 浩二（循環器内科）、河野 浩章（循環器内科）、池田 聡司（循環器内科）、武居 明日美（循環器内科）、深江 学芸（循環器内科）、土居 寿志（循環器内科）、吉牟田 剛（循環器内科）、米倉 剛（循環器内科）、南 貴子（循環器内科）、江口 正倫（循環器内科）、荒川 修司（循環器内科）、泉田 誠也（循環器内科）、赤司 良平（循環器内科）、蓮把 朋之（小児科）、江石 清行（心臓血管外科）、松丸 一郎（心臓血管外科）、末吉 英純（放射線科）、工藤 崇（アイソトープ診断治療）、有賀 純（医科薬理学）、下川 功（病理学）、森 亮一（病理学）、林 洋子（病理学）、朴 盛浚（病理学）、福岡 順也（病理学）、芦澤 直人（長崎原爆病院）、山近 史郎（井上病院）、本村 秀樹（長崎医療センター）、濱脇 正好（長崎医療センター）、坂本 一郎（長崎みなとメディカルセンター）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	19	月	4	循環器総論	総論・症候学	循環器内科・前村	オンライン
4	19	月	5	心電図	心電図の基本（1）	循環器内科・深江	オンライン
4	19	月	6	心電図	心電図の基本（2）	循環器内科・深江	オンライン
4	23	金	1	肺循環・静脈疾患	肺循環と静脈疾患（1）	循環器内科・池田	2 講
4	23	金	2	肺循環・静脈疾患	肺循環と静脈疾患（2）	循環器内科・池田	2 講
4	26	月	4	循環器画像診断	大血管、末梢血管の画像診断	放射線科・末吉	オンライン
4	26	月	5	検査	心エコー図	循環器内科・南	オンライン
4	26	月	6	心膜・心内膜・腫瘍	心膜炎、感染性心内膜炎、心臓腫瘍	循環器内科・吉牟田	オンライン
4	27	火	1	検査	心臓カテーテル検査	循環器内科・江口	4 講
4	27	火	2	虚血性心疾患	虚血性心疾患(1)	循環器内科・江口	4 講
4	28	水	1	虚血性心疾患	虚血性心疾患(2)	循環器内科・米倉	オンライン
4	28	水	2	不整脈	上室性不整脈、WPW症候群	循環器内科・土居	オンライン
4	28	水	3	不整脈	房室ブロック、洞不全症候群	循環器内科・土居	オンライン
4	28	水	4	病理	心不全の病態(講義)	第一病理・下川	オンライン
4	28	水	5	病理	虚血性心疾患(講義)	第一病理・下川	オンライン
4	28	水	6	病理	高血圧性心疾患(講義)	第一病理・下川	オンライン
4	30	金	1	虚血性心疾患	虚血性心疾患(3)	循環器内科・米倉	2 講
4	30	金	2	虚血性心疾患	虚血性心疾患(4)	循環器内科・米倉	2 講
5	6	木	1	小児心疾患	リウマチ熱、川崎病	小児科・蓮把	4 講
5	6	木	2	不整脈	心室性不整脈、心臓突然死	循環器内科・武居	4 講
5	6	木	3	不整脈	不整脈治療、デバイス	循環器内科・武居	4 講
5	10	月	4	心筋疾患	心筋症・心筋炎（1）	非常勤(循)・芦澤	4 講
5	10	月	5	心筋疾患	心筋症・心筋炎（2）	非常勤(循)・芦澤	4 講
5	10	月	6	心筋疾患	心筋症・心筋炎（3）	非常勤(循)・芦澤	4 講
5	11	火	1	(薬理) 循環薬理 1	降圧薬 1	医科薬理学・有賀	4 講
5	11	火	2	(薬理) 循環薬理 2	降圧薬 2	医科薬理学・有賀	4 講
5	11	火	4	循環器画像診断	心臓の画像診断	非常勤(放)・坂本	4 講
5	11	火	5	先天性心疾患	非チアノーゼ群	小児科・蓮把	4 講
5	11	火	6	先天性心疾患	チアノーゼ群	小児科・蓮把	4 講
5	12	水	1	先天性心疾患	先天性心疾患の外科	非常勤(心)・濱脇	4 講
5	12	水	2	先天性心疾患	成人にみられる先天性心疾患	非常勤(循)・山近	4 講
5	12	水	4	病理	弁膜疾患(講義)	第一病理・下川	CBT
5	12	水	5	病理	脈管系(講義・実習)	第二病理・福岡	CBT
5	12	水	6	病理	脈管系(講義・実習)	第二病理・福岡	CBT
5	13	木	1	弁膜疾患	心エコー・手術適応	非常勤(循)・山近	2 講
5	13	木	2	心不全	急性心不全	循環器内科・泉田	2 講
5	13	木	3	心不全	慢性心不全	循環器内科・泉田	2 講
5	17	月	4	(放射) 血管系のIVR	大動脈や末梢血管の血管内治療について	非常勤(放)・坂本	2 講
5	17	月	5	血圧異常	本態性高血圧症	循環器内科・河野	2 講
5	17	月	6	血圧異常	二次性高血圧症、低血圧	循環器内科・河野	2 講
5	18	火	1	(薬理) 循環薬理 3	虚血性心疾患治療薬	医科薬理学・有賀	2 講

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	18	火	2	(薬理) 循環薬理 4	心不全治療薬	医科薬理学・有賀	2 講
5	18	火	5	病理	脈管系(講義・実習)	第二病理・福岡	CBT
5	18	火	6	病理	脈管系(講義・実習)	第二病理・福岡	CBT
5	19	水	1	虚血性心疾患	虚血性心疾患の外科	心臓血管外科・江石(三浦)	オンライン
5	19	水	2	循環器画像診断	循環器系の核医学検査	アイソトープ診断治療・工藤	オンライン
5	19	水	4	病理	心筋症(講義)	第一病理・下川	2 講
5	19	水	5	病理	心筋炎(講義)	第一病理・下川	2 講
5	19	水	6	病理	心奇形・腫瘍(講義)	第一病理・下川	2 講
5	20	木	1	心電図	心電図判読の実際	循環器内科・荒川	4 講
5	20	木	2	弁膜疾患	弁膜症 (1)	循環器内科・吉牟田	4 講
5	20	木	3	弁膜疾患	弁膜症 (2)	循環器内科・吉牟田	4 講
5	24	月	5	弁膜疾患	弁膜症の外科 (1)	心臓血管外科・江石(三浦)	2 講
5	24	月	6	弁膜疾患	弁膜症の外科 (2)	心臓血管外科・江石(三浦)	2 講
5	25	火	1	(薬理) 循環薬理 5	利尿薬	医科薬理学・有賀	2 講
5	25	火	2	(薬理) 循環薬理 6	抗不整脈薬	医科薬理学・有賀	2 講
5	26	水	1	TBL	循環器系TBL	循環器内科・河野	オンライン
5	26	水	2	TBL	循環器系TBL	循環器内科・河野	オンライン
5	26	水	4	病理	心疾患(実習)	第一病理・下川、森、林、朴	CBT
5	26	水	5	病理	心疾患(実習)	第一病理・下川、森、林、朴	CBT
5	26	水	6	病理	心疾患(実習)	第一病理、下川、森、林、朴	CBT
5	27	木	1	動脈疾患	動脈疾患	循環器内科・赤司	4 講
5	27	木	2	動静脈疾患	動脈・静脈疾患の外科	心臓血管外科・松丸	4 講
5	31	月	1	心電図	心電図演習	循環器内科・荒川	4 講
5	31	月	2	TBL	循環器系TBL	循環器内科・赤司	4 講
5	31	月	3	TBL	循環器系TBL	循環器内科・赤司	4 講
6	1	火	4～6	試験			4 講

呼吸器系

責任者	氏名（教室）	迎 寛（内科学第二（呼吸器内科））		
	電話番号	095-819-7271	e-mail	hmukae@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 9:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Respiratory Diseases		

1. 授業の概要及び位置づけ

正常呼吸器系の解剖と生理、並びに画像評価の知識をもとに、各呼吸器系疾患の病態、診断、治療方法を理解する。

2. 授業到達目標

- (1) 正常呼吸器系の構造と機能を説明できる。
- (2) 各呼吸器疾患の病態について説明できる。
- (3) 各呼吸器疾患の診断について説明できる。
- (4) 各呼吸器疾患の治療について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

正常呼吸器系の構造・機能を基本として各疾患の病態について学ぶ。さらに、内科、外科、放射線、病理、薬理学的立場から疾患の症候、診断方法を理解し、疾患に応じた内科および外科的治療について学ぶ。

4. 教科書・教材・参考書

ガイドラインをふまえた成人市中肺炎診療の実際 河野 茂 編 医学書院 4,830円
 レジデントのための呼吸器疾患診療マニュアル（第2版） 河野 茂、早田 宏 編 医学書院 4,700円
 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2019（委員長、迎 寛）日本呼吸器学会 4,000円
 臨床腫瘍学 日本臨床腫瘍学会 編 癌と化学療法社 25,000円
 呼吸器外科テキスト 日本呼吸器外科学会 編 南江堂 13,000円
 新版：胸部単純X線診断 林 邦昭、中田 肇 編 秀潤社 4,800円
 胸部単純X線アトラス vol.1肺 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,500円
 胸部単純X線アトラス vol.2縦隔、胸膜他 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,300円

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査を90%、アクティブラーニング(TBL) は全体の10%(5%×2)として100点満点で評価する。正当な理由なく全授業時間(予備以外の48コマ)の3分の1を超えて欠席した場合(29コマ未満)は失格とする。定期考査は授業時間に応じて各分野(内科・外科・放射線科・病理・薬理学)から出題する。合計60点以上を合格とするが、各分野の得点が4割に満たない場合は不合格となる。再試験および健康上の都合などで理由ある本試験の欠席に対する追試験は一度のみで、その採点方法も本試験と同様とする。再試験及び追試験不合格者

6. 事前・事後学修の内容

【準備学習】LACS上に事前に講義用スライドを掲載するので、あらかじめ目を通して講義の流れを把握しておくこと。(1h)

【復習】講義ノートおよびWeb上の資料により復習を行う。特に、講義中に出る練習問題については復習により、よく理解しておくこと。(1h)

7. 教員名

迎 寛（呼吸器内科）、福島 千鶴（呼吸器内科）、尾長谷 靖（呼吸器内科）、坂本 憲穂（呼吸器内科）、宮崎 泰可（呼吸器内科）、石本 裕士（呼吸器内科）、岩永 直樹（呼吸器内科）、山本 和子（呼吸器内科）、平山 達朗（呼吸器内科）、山口 博之（呼吸器内科）、城戸 貴志（呼吸器内科）、永安 武（腫瘍外科）、松本 桂太郎（腫瘍外科）、宮崎 拓郎（腫瘍外科）、土谷 智史（腫瘍外科）、泉川 公一（臨床感染症学）、芦澤 和人（臨床腫瘍学）、竹本 真之輔（呼吸器内科）、福岡 順也（病理診断科・病理部）、松永 隼人（医科薬理学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	A

呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	28	金	1	呼吸器腫瘍	分子標的薬総論	呼吸器内科・竹本 真之輔	4 講
5	28	金	2	呼吸器病学総論	構造と疾患	呼吸器内科・迎 寛	4 講
6	4	金	1	呼吸器画像診断	画像診断総論（1）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	4	金	2	呼吸器画像診断	画像診断総論（2）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	7	月	5	呼吸器感染症	呼吸器感染症総論	臨床感染症学・泉川 公一	4 講
6	7	月	6	呼吸器画像診断	画像診断各論（1）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	9	水	4	病理	呼吸器・びまん性肺疾患1（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	9	水	5	病理	呼吸器・びまん性肺疾患2（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	9	水	6	病理	呼吸器・間質性肺炎（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	10	木	5	呼吸器腫瘍	肺癌、良性腫瘍、放射線肺臓炎	呼吸器内科・山口 博之	2 講
6	10	木	6	呼吸器腫瘍	胸膜と胸壁腫瘍、縦隔腫瘍	呼吸器内科・山口 博之	2 講
6	14	月	5	閉塞性・職業性肺疾患	COPD、塵肺など	呼吸器内科・福島 千鶴	4 講
6	14	月	6	呼吸器感染症	日和見感染症	臨床感染症学・宮崎 泰可	4 講
6	16	水	4	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	16	水	5	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	16	水	6	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	17	木	5	呼吸器外科	外科診断技術・周術期管理・手術様式	腫瘍外科・松本 桂太郎	2 講
6	17	木	6	呼吸器画像診断	画像診断各論（2）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	2 講
6	18	金	1	放射	画像診断各論（3）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	18	金	2	放射	画像診断各論（4）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	21	月	5	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患（2）	呼吸器内科・城戸 貴志	2 講
6	21	月	6	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患（1）	呼吸器内科・坂本 憲穂	2 講
6	22	火	5	呼吸器感染症	市中肺炎、肺化膿症	呼吸器内科・迎 寛	2 講
6	22	火	6	呼吸器感染症	院内肺炎、医療・介護関連肺炎	呼吸器内科・岩永 直樹	2 講
6	23	水	4	病理	呼吸器・肺癌（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	23	水	5	病理	呼吸器・肺癌（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	23	水	6	病理	呼吸器・肺癌（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT
6	24	木	5	呼吸器外科	縦隔の外科（1）	腫瘍外科・土谷 智史	2 講
6	24	木	6	呼吸器外科	縦隔の外科（2）	腫瘍外科・土谷 智史	2 講
6	28	月	5	呼吸生理	呼吸性酸塩基平衡異常と肺による代償機能	呼吸器内科・尾長谷 靖	2 講
6	28	月	6	呼吸器感染症	気道感染症	呼吸器内科・山本 和子	2 講
6	29	火	5	TBL	特発性間質性肺炎	呼吸器内科・迎 寛	2 講
6	29	火	6	TBL	びまん性肺疾患（3）	呼吸器内科・石本 裕士	2 講
7	1	木	5	呼吸器画像診断	画像	臨床腫瘍学・芦澤 和人	2 講

呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室	
7	1	木	6	呼吸器画像診断	画像	臨床腫瘍学・芦澤 和人	2 講	
7	5	月	5	呼吸器感染症	結核、非結核性抗酸菌症	呼吸器内科・平山 達朗	4 講	
7	5	月	6	予備				4 講
7	7	水	4	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	病理診断科・福岡 順也	CBT	
7	7	水	5	病理	呼吸器(各論的疾患概論)	病理診断科・福岡 順也	CBT	
7	8	木	5	呼吸器外科	肺の外科（1）	腫瘍外科・永安 武	4 講	
7	8	木	6	呼吸器外科	肺の外科（2）	腫瘍外科・永安 武	4 講	
7	12	月	5	アレルギー性肺疾患	気管支喘息	呼吸器内科・尾長谷 靖	4 講	
7	12	月	6	予備			4 講	
7	13	火	1	薬理 呼吸器系に作用する薬	喘息治療薬、COPD治療薬、鎮咳薬、去痰薬	医科薬理学 松永隼人	4 講	
7	13	火	5	病理	呼吸器・肺癌（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT	
7	13	火	6	病理	呼吸器・肺癌（講義・実習）	病理診断科・福岡 順也	CBT	
7	15	木	5	呼吸器外科	胸部外傷	腫瘍外科・宮崎 拓郎	4 講	
7	15	木	6	呼吸器外科	肺移植	腫瘍外科・永安 武	4 講	
7	19	月	5	TBL	好酸球性肺疾患/まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4 講	
7	19	月	6	TBL	まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4 講	
8	2	月	1	予備			4 講	
8	2	月	2	予備			4 講	
8	3	火	4～6	試験			4 講	

内分泌・代謝・栄養系

責任者	氏名（教室）	川上 純（内科学第一）		
	電話番号	095-819-7260	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	8:00～9:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Endocrinology and Metabolism		

1. 授業の概要及び位置づけ

授業概要及び位置づけ；内分泌・代謝・乳腺疾患の病因、病態生理、症状・所見、検査、画像、治療、薬理作用について理解する。

2. 授業到達目標

代表的な内分泌・代謝・乳腺疾患について病因、病態生理、症状・所見、検査、画像、治療、薬理作用について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

内分泌学の基本であるホルモンは特異的な内分泌腺から分泌され、血流を介して各ホルモンの特異的な受容体を有する標的細胞に作用する生理活性物質と定義されています。講義ではまず、総論としてすべてのホルモンの共通した概念、作用機序、分泌調節機序を理解してもらい、次に各論として代表的ホルモンの分泌する内分泌腺（視床下部下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺）別に、個々のホルモンの作用、分泌調節、さらに代表的な疾患（先端巨大症、尿崩症、バセドウ病、クッシング症候群など）および最近のトピックについて話を進める予定です。

代謝・栄養系として、栄養学ならびに糖代謝について基本的な概念を習得し、その上で、糖尿病、低血糖、高脂血症、肥満、痛風などの疾患を講義します。糖尿病はインスリン分泌および作用の不足の結果、高血糖を生じますが、慢性的な高血糖が持続しますと糖尿病に特有な腎症・網膜症・神経障害などの合併症を生じます。最初に、糖尿病の分類、診断、糖尿病合併症および糖尿病の治療について講義します。また、トピックとしていくつかの遺伝子異常による糖尿病や、新しい糖尿病治療薬などについてふれます。

高脂血症とは血中脂質（コレステロール、中性脂肪）が増加した状態であり、動脈硬化性疾患（心筋梗塞、狭心症）の主な危険因子です。まず最初にリポ蛋白代謝について説明し、次に高脂血症の分類、動脈硬化の発生機序、メタボリック症候群について講義します。

外科分野として、乳癌や乳腺良性疾患および甲状腺癌、バセドウ病、副甲状腺機能亢進症などの外科治療を中心に基礎的な知識や最新のトピックスについて触れていきます。また乳癌に関しては分子標的治療薬を含めた薬物療法についても講義します。

病理学的分野では、内分泌疾患を概説し、組織学的変化と病態との関係を説明し、病理診断学についても講義します。

放射線分野として、最初に、代表的な内分泌腺として、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の、CTおよびMRIにおける正常画像解剖を説明する予定です。さらに、下垂体腺腫、副甲状腺機能亢進症、骨粗鬆症、くる病/骨軟化症、副腎腺腫（クッシング症候群、原発性アルドステロン症）、褐色細胞腫、膵内分泌腫瘍について、典型的な画像所見を概説します。最後に、多発内分泌腫瘍症（Multiple endocrine neoplasia: MEN）についてふれます。

4. 教科書・教材・参考書

最新 内分泌代謝学 中尾 一和 編 診断と治療社 14,000円

CECIL TEXTBOOK OF MEDICINE (25th ed) Lee Goldman, Andrew I. Schafer 他編 W.B. Saunders company

Harrison's PRINCIPLES of INTERNAL MEDICINE (19th ed) Fauci, Kasper, Longo, Braunwald
他編 Mc Graw-Hill
Williams textbook of Endocrinology (14th ed.) Melmed, Polnsky, Larsen 他編 Elsevier
標準外科学 (第14版) 監修: 畠山 勝義 医学書院。

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査 100%

内科、外科、放射線、病理、薬理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし総合点が60点以上であっても、原則として臨床系分野（内科、外科、放射線科）と基礎系分野（病理、薬理）の二つに分類したそれぞれの得点が5割に満たない場合は、不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考図書にて予習しておくことが望ましい。

7. 教員名

阿比留教生（第一内科）、鎌田昭江（糖尿病診療支援センター）、堀江一郎（第一内科）、池岡俊幸（第一内科）、夏田昌子（保健センター）、中嶋遥美（第一内科）、重野里代子（第一内科）、古林正和（保健センター）、大坪竜太（腫瘍外科）、森田道（移植消化器外科）、高島美和（栄養管理室）、山崎浩則（佐世保市総合医療センター）、赤澤 諭（原研国際）、林洋子（第一病理）、有賀純（医科薬理）、藤田和歌子（医科薬理）、中島正洋（原研病理）、大木望（放射線科）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	26	火	4	内分泌代謝薬理 1	糖尿病治療薬	薬理学 有賀	4 講
10	26	火	5	内分泌代謝薬理 2	高脂血症・痛風治療薬	薬理学 有賀	4 講
10	26	火	6	内分泌代謝薬理 3	内分泌代謝疾患治療薬	薬理学 藤田	4 講
10	28	木	1	脂質代謝異常 1	リポ蛋白代謝・分類、治療	非常勤講師 (佐世保市総合医療センター) 山崎	4 講
10	28	木	2	脂質代謝異常 2	リポ蛋白代謝・分類、治療	非常勤講師 (佐世保市総合医療センター) 山崎	4 講
10	28	木	3	肥満症と動脈硬化	成因・治療	非常勤講師 (佐世保市総合医療センター) 山崎	4 講
10	29	金	1	代謝栄養学	糖代謝総論	第一内科 阿比留	4 講
10	29	金	2	代謝栄養学	糖尿病の分類と診断	糖尿病診療支援センター 鎌田	4 講
10	29	金	3	代謝栄養学	栄養学、ビタミン欠乏症	栄養管理室 高島	4 講
11	1	月	1	内分泌総論	ホルモン作用機序・疾患総論	第一内科 堀江	4 講
11	1	月	2	視床下部・下垂体	下垂体前葉疾患	第一内科 堀江	4 講
11	1	月	3	視床下部・下垂体	視床下部・下垂体後葉疾患	第一内科 堀江	4 講
11	2	火	4	内分泌病理	視床下部・下垂体	原研病理 中島	2 講
11	2	火	5	内分泌病理	甲状腺・副腎	原研病理 中島	2 講
11	2	火	6	内分泌病理	消化器・糖尿病・その他	原研病理 中島	2 講
11	4	木	1	甲状腺	甲状腺腫瘍	第一内科 重野	4 講
11	4	木	2	核酸代謝	痛風・高尿酸血症	糖尿病診療支援センター 鎌田	4 講
11	4	木	3	糖尿病	糖尿病の慢性合併症	保健センター 古林	4 講
11	5	金	1	副腎	副腎皮質疾患	第一内科 池岡	4 講
11	5	金	2	副腎	副腎髄質疾患	第一内科 池岡	4 講
11	5	金	3	カルシウム代謝	高・低カルシウム血症・代謝性骨疾患	第一内科 池岡	4 講
11	8	月	1	甲状腺	甲状腺総論	第一内科 中嶋	4 講
11	8	月	2	甲状腺	甲状腺機能亢進症	第一内科 中嶋	4 講
11	8	月	3	甲状腺	甲状腺機能低下症	第一内科 中嶋	4 講
11	10	水	4	内分泌病理	実習	原研病理 中島	実1・実2
11	10	水	5	内分泌病理	実習	原研病理 中島	実1・実2
11	10	水	6	内分泌病理	実習	原研病理 中島	実1・実2
11	11	木	1	乳腺・内分泌外科	甲状腺外科	腫瘍外科 大坪	4 講
11	11	木	2	乳腺・内分泌外科	甲状腺外科	腫瘍外科 大坪	4 講
11	11	木	3	糖尿病	糖尿病治療 食事・運動療法	保健センター 夏田	4 講
11	12	金	1	糖尿病	糖尿病治療 経口血糖降下薬	第一内科 阿比留	4 講
11	12	金	2	糖尿病	糖尿病治療 注射薬	第一内科 阿比留	4 講
11	15	月	1	乳腺・内分泌外科	乳腺外科	移植消化器外科 森田	4 講
11	15	月	2	乳腺・内分泌外科	乳腺外科	移植消化器外科 森田	4 講
11	18	木	1	糖尿病	低血糖症	原研国際 赤澤	4 講

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	18	木	2	糖尿病	糖尿病昏睡・急性合併症	原研国際 赤澤	4 講
11	18	木	3	代謝栄養学	その他の代謝異常	原研国際 赤澤	4 講
11	22	月	1	TBL	糖尿病	第一内科 重野、阿比留	4 講
11	22	月	2	TBL	糖尿病	第一内科 重野、阿比留	4 講
11	29	月	1	性腺	性腺機能異常症	第一内科 堀江	3 講
11	29	月	2	その他の内分泌疾患	消化管ホルモン、多発性内分泌腺腫症、多腺性自己免疫症候群	第一内科 堀江	3 講
11	29	月	3	放射線・画像診断	代謝内分泌疾患の放射線・画像診断	放射線科 大木	3 講
11	29	月	4	内分泌病理	乳腺	第一病理 林	3 講
11	29	月	5	内分泌病理	乳腺	第一病理 林	3 講
11	29	月	6	内分泌病理	乳腺	第一病理 林	3 講
12	1	水	1	TBL	内分泌疾患	第一内科 中嶋	4 講
12	1	水	2	TBL	内分泌疾患	第一内科 中嶋	4 講
12	1	水	3	TBL	内分泌疾患	第一内科 中嶋	4 講
12	2	木	4	試験			4 講
12	2	木	5	試験			4 講
12	2	木	6	試験			4 講

消化器系

責任者	氏名（教室）	中尾 一彦（消化器内科学）		
	電話番号	7481	e-mail	kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 8:30～12:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Digestive disease		

1. 授業の概要及び位置づけ

消化器系は口腔・唾液腺に始まり、食道・胃・小腸・結腸・直腸・肛門に至る消化管系と肝臓、胆嚢、胆管、膵臓よりなる肝胆膵系に大別される。

2. 授業到達目標

消化器の病理、症状、検査、内科的消化器疾患、外科的消化器疾患、手術法などを統合包括的に把握し、消化器疾患における基礎的、臨床的な基本的知識を理解、修得する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

消化器系を消化管系と肝胆膵系に大別し、それぞれを病理学、内科学、外科学の順に講義を進行させる。

4. 教科書・教材・参考書

内科学書（改訂第8版） 中山書店 31,320円

消化器内視鏡診断テキスト 第1巻：食道・胃・十二指腸 第2巻：小腸・大腸 文光堂 各9,180円

肝臓専門医テキスト 改訂第2版 日本肝臓病学会監修 南江堂 15,120円

消化器病診療 第2版 日本消化器病学会監修 医学書院 6,480円

5. 成績評価の方法・基準等

試験は病理、薬理、内科、外科、放射線科がそれぞれの担当時間数に応じて配分された点数をもって出題する。各科目の総点を100点として評価を行う。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書、配付資料を参照し、予習復習を行うこと。

7. 教員名

中尾 一彦（消化器内科）、宮明 寿光（消化器内科）、三馬 聡（消化器内科）、赤澤 祐子（消化器内科）、柴田 英貴（消化器内科）、本田 琢也（消化器内科）、松島 加代子（消化器内科）、小澤 栄介（消化器内科）、北山 素（消化器内科）、佐々木 龍（消化器内科）、原口 雅史（消化器内科）、田渕 真惟子（消化器内科）、福島 真典（消化器内科）、塩田純也（消化器内科）、山口 直之（光学医療診療部）、橋口 慶一（光学医療診療部）、赤司太郎（消化器内科）、富永哲郎（腫瘍外科）、野中 隆（腫瘍外科）、原貴信（移植・消化器外科）、曾山明彦（移植・消化器外科）、田中貴之（移植・消化器外科）、足立智彦（移植・消化器外科）、小林慎一郎（移植・消化器外科）、石丸 英樹（放射線科）、松永 隼人（医科薬理）、中島 正洋（原研病理）、松田 勝也（原研病理）、岡野慎士（病理診断科・病理部）、片瀬 直樹（病理診断科・病理部（口腔病理学））、八尾 隆史（順天堂大学）、八橋 弘（長崎医療センター）、伊東 正博（長崎医療センター）

8. 備考

出欠チェックは1コマ毎に行う。出欠状況は成績に反映する。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	26	火	1	上部消化管総論①	構造機能	消化器内科 北山素	4 講
10	26	火	2	上部消化管総論②	症候	消化器内科 田渕真惟子	4 講
10	26	火	3	消化管内視鏡	検査と治療	消化器内科 山口直之	4 講
10	27	水	1	食道疾患	先天異常、軽質、炎症、腫瘍	消化器内科 田渕真惟子	4 講
10	27	水	2	消化管ホルモン	消化管ホルモン	消化器内科 塩田純也	4 講
10	27	水	3	大腸炎症①	感染性腸炎	消化器内科 塩田純也	4 講
10	27	水	4	胃十二指腸疾患①	胃十二指腸の炎症、潰瘍	消化器内科 橋口慶一	4 講
10	27	水	5	胃十二指腸疾患②	胃癌	消化器内科 橋口慶一	4 講
10	27	水	6	胃十二指腸疾患③	その他の疾患	消化器内科 北山素	4 講
10	28	木	4	病理	消化管病理イントロダクション-私たちはなぜ病理を学ぶのか	原研病理 赤澤祐子	4 講
10	28	木	5	病理	胃	順天堂大学 八尾先生	4 講
10	28	木	6	病理	胃	順天堂大学 八尾先生	4 講
10	29	金	4	下部消化管総論①	構造機能	消化器内科 赤司太郎	4 講
10	29	金	5	下部消化管総論②	症候、機能性疾患	消化器内科 赤司太郎	4 講
10	29	金	6	肝胆膵外科①	門脈・脾臓の外科	移植・消化器外科(肝胆膵班) 原貴信	4 講
11	1	月	4	肝胆膵外科②	膵疾患の外科(1)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 足立智彦	4 講
11	1	月	5	肝胆膵外科③	膵疾患の外科(2)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 足立智彦	4 講
11	1	月	6	肝胆膵外科④	胆道疾患の外科(1)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 田中貴之	4 講
11	2	火	1	肝胆膵外科⑤	胆道疾患の外科(2)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 田中貴之	4 講
11	2	火	2	肝胆膵外科⑥	肝疾患の外科 (1)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 曾山明彦	4 講
11	2	火	3	肝胆膵外科⑦	肝疾患の外科 (2)	移植・消化器外科(肝胆膵班) 曾山明彦	4 講
11	4	木	5	病理	胃	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	4	木	6	病理	胃	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	5	金	4	大腸腫瘍①	ポリープ、ポリポースなど	消化器内科 山口直之	4 講
11	5	金	5	大腸腫瘍②	大腸癌	消化器内科 山口直之	4 講
11	5	金	6	全身性疾患と消化管	全身性疾患と消化管	消化器内科 橋口慶一	4 講
11	8	月	4	大腸炎症②	炎症性腸疾患	消化器内科 松島加代子	4 講
11	8	月	5	小腸疾患	小腸疾患、吸収不良症候群、蛋白漏出胃腸症	消化器内科 松島加代子	4 講
11	8	月	6	大腸腫瘍③	その他の疾患	消化器内科 北山素	4 講
11	9	火	1	胆膵疾患①	主要症候	消化器内科 小澤栄介	4 講
11	9	火	2	胆膵疾患②	検査と治療	消化器内科 小澤栄介	4 講
11	9	火	3	胆膵疾患③	悪性腫瘍	消化器内科 小澤栄介	4 講
11	9	火	4	病理	胃 実習	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	9	火	5	病理	小腸・大腸	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	9	火	6	病理	小腸・大腸	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	10	水	1	肝臓総論①	正常組織・生理機能	消化器内科 中尾一彦	4 講
11	10	水	2	肝臓総論②	病態生理, 先天異常	消化器内科 中尾一彦	4 講
11	10	水	3	代謝性疾患①	NASH, ASH	消化器内科 宮明寿光	4 講
11	11	木	5	病理	口腔病理	理診断科・病理部（口腔病理学）片瀬直樹	2 講
11	11	木	6	病理	口腔病理	理診断科・病理部（口腔病理学）片瀬直樹	2 講
11	12	金	4	肝臓の腫瘍③	肝細胞癌	消化器内科 福島真典	4 講
11	12	金	5	胆膵疾患④	胆道系、膵臓の炎症、その他の疾患	消化器内科 福島真典	4 講
11	12	金	6	自己免疫疾患②	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎	消化器内科 三馬聡	4 講
11	15	月	4	特別講義	肝炎①	長崎医療センター 八橋弘	4 講
11	15	月	5	特別講義	肝炎②	長崎医療センター 八橋弘	4 講
11	15	月	6	特別講義	肝炎③	長崎医療センター 八橋弘	4 講

消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	16	火	1	肝硬変	肝硬変、静脈瘤	消化器内科 三馬聡	4 講
11	16	火	2	肝不全	肝不全、非硬変性門亢症	消化器内科 三馬聡	4 講
11	16	火	3	肝臓の腫瘍①	胆管細胞癌	消化器内科 佐々木龍	4 講
11	16	火	5	病理	食道	原研病理 上木望	CBT
11	16	火	6	病理	食道	原研病理 上木望	CBT
11	17	水	1	肝臓の腫瘍②	その他の肝腫瘍	消化器内科 佐々木龍	4 講
11	17	水	2	代謝性疾患②	薬剤性肝障害	消化器内科 宮明寿光	4 講
11	17	水	3	自己免疫疾患疾患①	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎	消化器内科 宮明寿光	4 講
11	17	水	5	病理	食道 実習	原研病理 上木望	CBT
11	17	水	6	病理	小腸・大腸実習	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	18	木	4	病理	小腸・大腸	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	18	木	5	病理	小腸・大腸	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	18	木	6	病理	小腸・大腸実習	原研病理 赤澤祐子	CBT
11	22	月	4	放射	肝胆膵の画像診断	放射線科 石丸英樹	4 講
11	22	月	5	病理	消化器・臨床と病理（肝胆）	伊東先生（長崎医療センター）	4 講
11	22	月	6	病理	消化器・臨床と病理（肝胆）	伊東先生（長崎医療センター）	4 講
11	24	水	1	化学療法①	消化管癌の化学療法	消化器内科 本田琢也	4 講
11	24	水	2	化学療法②	胆膵癌の化学療法	消化器内科 本田琢也	4 講
11	24	水	3	消化管外科①	概念と疾患群	腫瘍外科 富永哲郎	4 講
11	24	水	4	病理	細胞診（消化器/体腔）	原研病理 松田勝也	2 講
11	24	水	5	病理	細胞診（消化器/体腔）	原研病理 松田勝也	2 講
11	24	水	6	病理	細胞診（非婦人科領域）	原研病理 松田勝也	2 講
11	25	木	1	消化管外科②	食道・胃・十二指腸①	移植・消化器外科(胃・食道班) 小林慎一郎	4 講
11	25	木	2	消化管外科③	食道・胃・十二指腸②	移植・消化器外科(胃・食道班) 小林慎一郎	4 講
11	25	木	3	消化管外科④	食道・胃・十二指腸③	移植・消化器外科(胃・食道班) 小林慎一郎	4 講
11	25	木	4	（薬理）消化器系に作用	潰瘍治療薬、腸疾患治療薬、肝疾患治療薬など	医科薬理学、松永隼人	2 講
11	25	木	5	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	2 講
11	25	木	6	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	2 講
11	26	金	1	消化管外科⑤	小腸・大腸1	腫瘍外科 野中 隆	4 講
11	26	金	2	消化管外科⑥	小腸・大腸2	腫瘍外科 野中 隆	4 講
11	26	金	3	消化管外科⑦	腹壁・肛門の疾患	腫瘍外科 野中 隆	4 講
11	26	金	4	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	1講. 実1. 実2
11	26	金	5	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	1講. 実1. 実2
11	26	金	6	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	1講. 実1. 実2
11	30	火	1	TBL		消化器内科 橋口慶一、北山素、田渕真惟子、赤司太郎、塩田純也	3 講
11	30	火	2	TBL		消化器内科 橋口慶一、北山素、田渕真惟子、赤司太郎、塩田純也	3 講
11	30	火	3	TBL		消化器内科 橋口慶一、北山素、田渕真惟子、赤司太郎、塩田純也	3 講
11	30	火	4	TBL		消化器内科 佐々木龍、福島真典	4 講
11	30	火	5	TBL		消化器内科 佐々木龍、福島真典	4 講
11	30	火	6	TBL		消化器内科 佐々木龍、福島真典	4 講
12	3	金	1	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	1講. 実1. 実2
12	3	金	2	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	1講. 実1. 実2
12	3	金	3	病理	肝・胆・膵（講義・実習）	病理診断科・病理部 岡野慎士	1講. 実1. 実2
12	6	月	4～6	試験			4 講

感染症系

責任者	氏名（教室）	泉川 公一（臨床感染症学）		
	電話番号	7731	e-mail	koizumik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Infectious Diseases		

1. 授業の概要及び位置づけ

感染症は、あらゆる臓器に発症する疾病であり、原因微生物も多岐にわたる。感染症が疑われる患者にいかに関与し、的確な診断、適切な治療、さらには感染予防へと結びつけていくかを、多角的な視点から学ぶ。病原体の多様性や感染症の臨床像に対し応用力をつけ、感染予防の方法についても学ぶ。

2. 授業到達目標

到達目標：臨床医学の中における感染症の特徴を理解して、説明することができる。感染症の患者へのアプローチや診断、治療、予防を総合的にとらえて説明することができる。また、熱帯感染症についてその背景、特徴を説明することができる。院内感染について、その対策や制御および重要な原因微生物について説明することができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

内科学の一部を構成する「感染症学」に相当する内容を学習する。主に一般細菌、ウイルス、真菌、寄生虫、抗酸菌感染症の診断と治療を学習する。また、院内感染の予防や感染対策も重要な問題であるため、その対策の実践を学び、実習も行う。さらにグローバル化を背景に日本でも見られるようになったマラリア、デング熱、下痢症、新興感染症についても学ぶ。おのこの病原体の基礎知識、宿主-病原体関係について理解し感染症の病態生理を根本的に理解する。

4. 教科書・教材・参考書

以下のものを参考書として推薦する。

- ・Mandel GL, Bennett JE, Dolin R. 8th ed 「Principles and Practice of Infectious Diseases」
- ・Mayhall CG. 4th ed 「Hospital Epidemiology and Infection Control」
- ・Richard A. Harvey 山口恵三/松本哲哉 監訳 「イラストレイテッド微生物学 第2版」丸善株式会社
- ・河野 茂 編 「感染症のとらえ方」 文光堂
- ・柳原 克紀 編 「感染症の診断って、こんなちょっとしたことで差がついちゃうんですね。」 南江堂

5. 成績評価の方法・基準等

期末試験 100%。授業内容を中心に試験により行う。60%未満の得点は不合格とする。

本論、病理の各分野を総合し、60%以上を合格とする。
ただし、総合点が60%以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

すでに2年次に履修した感染系の各項目を復習しておくこと。

7. 教員名

泉川 公一（臨床感染症学）、田中 健之（感染制御教育センター）、宮崎 泰可（臨床感染症学）、高園 貴弘（臨床感染症学）、田代 将人（臨床感染症学）、山本 和子（呼吸器内科）、藤田 あゆみ（感染制御教育センター）、芦澤 信之（感染制御教育センター）、今村 圭文（呼吸器内科）、平山 達郎（呼吸器内科）、森内 浩幸（小児科）、柳原 克紀（病態解析・診断学）、有吉 紅也（熱研内科）、高橋 健介（熱研内科）、松井 昂介（熱研内科）、泉田 真生（熱研内科）、山梨 啓友（総合診療科）、森田 公一（熱帯医学研究所）、濱野 真二郎（熱帯医学研究所）、大沢 一貴（比較動物医学）、山本 善裕（富山大学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	A

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	7	月	1	世界と日本における感染症の現状(1)	致死率の高い流行性感染症の現状、耐性菌の拡大とその対策など、感染症を取り巻く現状と課題について、感染症系でマスターすべきことを確認する。	臨床感染症学・泉川	4 講
6	7	月	2	世界と日本における感染症の現状(2)	新型コロナウイルス感染症の現状と今後	臨床感染症学・泉川	4 講
6	7	月	3	感染症診断の基本的アプローチ	感染症の古典的な鏡顕や培養、抗血清による診断法から、近年開発された尿中抗原検査や遺伝子診断まで適応や意義を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	4 講
6	8	火	5	感染症の予防(1)：能動免疫	ワクチン接種による感染症の予防法についての総論と、代表的なワクチンの各論について学ぶ。	小児科・森内	4 講
6	8	火	6	感染症の予防(2)：受動免疫, その他	免疫グロブリン療法による受動免疫やその他の手段による感染症の予防法について学ぶ。	小児科・森内	4 講
6	9	水	1	ウイルス感染症の診断	ウイルス感染症の診断法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの診断法の各論を概説する。	小児科・森内	オンライン
6	9	水	2	ウイルス感染症の治療	ウイルス感染症の治療法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの治療法の各論を概説する。	小児科・森内	オンライン
6	14	月	1	不明熱とsepsis	不明熱の3大原因の一つが感染症である。不明熱をみた場合に鑑別すべき感染症と診断法について学ぶ。	臨床感染症学・宮崎	2 講
6	14	月	2	感染症の救急診療	感染症領域における救急診療のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	感染制御教育センター・田中	2 講
6	14	月	3	感染症の画像診断	感染症領域における画像診断のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	第二内科・山本	2 講
6	15	火	5	グローバルヘルスと感染症	熱帯感染症を概説するとともに、国境を越えた課題として感染症を地球規模でとらえる視野を持たせる。	熱研内科・有吉	2 講
6	15	火	6	現代医療における易感染性宿主と日和見感染症	抗がん剤治療や臓器移植後の免疫不全と併発する感染症の病態生理を講義する。	臨床感染症学・泉川	2 講
6	16	水	1	耐性菌による感染症	現在、各種領域で問題となっている耐性菌を紹介するとともに、耐性菌による感染症の発症に至る機序や治療について学ぶ。	臨床感染症学・田代	オンライン
6	16	水	2	難治性感染症	問題となる難治性感染症の原因として耐性菌やバイオフィルム感染症などがあるが、具体的な疾患について学ぶ。	第二内科・平山	オンライン
6	21	月	1	深在性真菌症の診断と治療	深在性真菌症の主要な病原菌、重要な基礎疾患、エビデンスに基づく抗真菌薬療法について学ぶ。	臨床感染症学・高園	2 講
6	21	月	2	抗菌薬の選択法と適正使用	最新の一般抗菌薬の種類、各系統のスペクトルや副作用の特徴、典型的な適応症について学ぶ。	病態解析・診断学・柳原	2 講
6	21	月	3	消化管感染症	食中毒をはじめ、消化管感染症の特徴と、感染症届け出も含めた感染症法を学ぶ	感染制御教育センター・芦澤	2 講
6	28	月	1	抗酸菌感染症の診断と治療	結核症と非結核性抗酸菌症の疫学、病態と鑑別診断、治療法について学ぶ。	富山大学・山本	2 講
6	28	月	2	熱帯でよくみる細菌感染症の診断と治療	主に熱帯地でみられる、細菌性感染症について、病態、診断法、治療法について学ぶ。	総合診療科・山梨	2 講
6	28	月	3	熱帯地方のウイルス感染症の診断と治療	熱帯地域で重要な日本脳炎、デング出血熱、西ナイル熱、チクング熱について学ぶ。	熱研・森田	2 講
7	5	月	1	寄生虫感染症の診断と治療	熱帯地でみられる寄生虫感染症の疫学・病態・診断・治療法について学ぶ。	熱研・濱野	4 講
7	5	月	2	院内感染とその対策Ⅰ	接触感染、飛沫感染、空気感染の違いと、院内感染対策の上で重要な病原菌の病態や対処方法を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	4 講
7	5	月	3	院内感染とその対策Ⅱ	院内感染を防止するための理論と対策を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	4 講
7	6	火	4	院内感染対策実習 (1)	院内感染防止の具体的手順について実習する。	臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター 田中	2 講

感染症系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	6	火	5	院内感染対策実習（2）	院内感染防止の具体的手順について実習する。	臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター 田代	2 講
7	6	火	6	院内感染対策実習（3）	院内感染防止の具体的手順について実習する。	臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター 田代	2 講
7	7	水	1	HIV/AIDSの疫学、自然経過、予防	国内外のエイズ流行の動向について概説し、エイズの疫学	熱研内科・有吉	4 講
7	7	水	2	HIV/AIDSの臨床、治療	HIV感染者・エイズ患者に対する臨床的アプローチの仕	熱研内科・有吉	4 講
7	12	月	1	マラリアの診断と治療および予防	熱帯地でみられるマラリアを中心とする原虫疾患の疫学	熱研内科・松井	オンライン
7	12	月	2	インフルエンザの臨床、治療	インフルエンザウイルス感染に関連する様々な臨床像は	臨床感染症学・高園	オンライン
7	14	水	1	性行為感染と母子感染	ヒトの再生に関わる性行為、妊娠、分娩、授乳の営みを	小児科・森内	4 講
7	14	水	2	TBL準備		臨床感染症学・熱研内科・総合診療科・第二内科・感染科	4 講
7	19	月	1	予備			4 講
7	19	月	2	TBL		臨床感染症学・熱研内科・総合診療科・第二内科・感染科	4 講
7	19	月	3	TBL		臨床感染症学・熱研内科・総合診療科・第二内科・感染科	4 講
7	26	月	5	人獣共通感染症	人獣共通（動物由来）感染症について、微生物の概説、	比較動物医学・大沢	オンライン
7	26	月	6	（感染病理）		（病院病理部・岡野）	オンライン
7	29	木	1	TBL		臨床感染症学・熱研内科・総合診療科・第二内科・感染科	4 講
7	29	木	2	TBL		臨床感染症学・熱研内科・総合診療科・第二内科・感染科	4 講
7	30	金	4～6	試験			4 講

運動系

責任者	氏名（教室）	尾崎 誠（整形外科（構造病態整形外科））		
	電話番号	7321	e-mail	mosaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Musculo-skeletal system, lecture		

1. 授業の概要及び位置づけ

四肢、脊椎、顔面等の運動器では、炎症、変性、腫瘍、外傷、先天異常、代謝疾患、血行障害など数多くの疾患が生じる可能性を含んでいる。これらの疾患を理解するためには、骨・関節系統のみならず神経・筋系統の広範な領域にわたる正常の機能を把握する必要がある。これらの疾患の治療目的は、生命の維持と疾患の予防ならびに機能確保・機能再建である。

2. 授業到達目標

運動器疾患の基礎となる骨・関節・筋・神経の生理・代謝・構造を理解する。種々の検査法を含めた診断学、さらに治療学の概略ならびに各部位別の疾患とその治療法を理解する。急性疾患における適切な救急処置を理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

主にプリントとスライドによる講義である。

4. 教科書・教材・参考書

標準整形外科 中村 利孝・内田 淳正ほか 医学書院 9,870円
標準形成外科学 第7版 平林慎一監修 鈴木茂彦・岡崎 睦編集 医学書院 6,260円
TEXT形成外科学 第3版 波利井清紀監修 中塚貴志・亀井 譲編集 南山堂 6,480円

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験（出題範囲は講義内容と上記教科書）。

評価には出席日数を考慮する。

本論、放射線、病理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

再試験は原則として1回のみ行う。

6. 事前・事後学修の内容

解剖学、生理学、生化学等の基礎的知識を整理しておくこと。

7. 教員名

尾崎 誠（整形外科）、宮本 俊之（整形外科）、田口 憲士（整形外科）、梶山 史郎（整形外科）、松林 昌平（整形外科）、野村 賢太郎（整形外科）、辻本 律（整形外科）、岡崎 成弘（整形外科）、千葉 恒（整形外科）、津田 圭一（整形外科）、山田 周太（整形外科）、米倉 暁彦（整形外科）、小林 恭介（整形外科）、富田 雅人（整形外科）、中添 悠介（整形外科）、白石 和輝（整形外科）、横田 和明（整形外科）、田中 克己（形成外科）、今村 禎伸（形成外科）、岩尾敦彦（形成外科）、小関 弘展（保健学科）、上谷 雅孝（放射線科）、福岡 順也（病理診断科・病理部）、小田 義直（九州大学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

運動系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	13	月	4	運動系総論(1)	骨・軟骨の構造と生理	整形外科・野村賢太郎	3 講
9	13	月	5	運動系総論(2)	診断学・治療学	整形外科・辻本 律	3 講
9	13	月	6	上肢の疾患(1)	上肢(1)	整形外科・辻本 律	3 講
9	15	水	1	運動系総論(3)	総論・歴史	尾崎 誠	3 講
9	15	水	2	骨・関節の外傷(1)	外傷総論	外傷センター・宮本俊之	3 講
9	15	水	3	骨・関節の外傷(2)	外傷各論 (高齢者外傷)	外傷センター・宮本俊之	3 講
9	17	金	4	骨・関節の外傷(3)	外傷各論 (小児外傷)	外傷センター・宮本俊之	3 講
9	17	金	5	リハビリテーション(1)	リハビリテーション (総論)	保健学科・小関弘展	3 講
9	17	金	6	骨・関節の外傷(4)	外傷各論 (成人外傷)	外傷センター・田口憲士	3 講
9	22	水	1	下肢の疾患(1)	股関節(1)	整形外科・小林恭介	4 講
9	22	水	2	下肢の疾患(2)	股関節(2)	整形外科・小林恭介	4 講
9	22	水	3	画像診断	骨・関節の画像診断(1)	放射線科・上谷雅孝	4 講
9	22	水	4	病理	運動系病理	第二病理 福岡順也	1 講
9	22	水	5	病理	運動系病理	小田義直 (九州大学)	1 講
9	22	水	6	病理	運動系病理	小田義直 (九州大学)	1 講
9	27	月	4	再建外科	四肢組織欠損に対する機能・整容再建	形成外科・外傷センター 岩尾敦彦	3 講
9	27	月	5	腫瘍性疾患(1)	骨軟部腫瘍総論	整形外科・富田雅人	3 講
9	27	月	6	腫瘍性疾患(2)	腫瘍各論(1) 良性骨軟部腫瘍	整形外科・富田雅人	3 講
9	29	水	1	手の外傷	手の機能解剖と診断・治療	形成外科・田中克己	3 講
9	29	水	2	脊椎(1)	脊椎(1)	整形外科・山田周太	3 講
9	29	水	3	脊椎(2)	脊椎(2)	整形外科・山田周太	3 講
9	29	水	4	画像診断	骨・関節の画像診断(2)	放射線科・上谷雅孝	3 講
10	1	金	4	(運動系予備)			4 講
10	1	金	5	炎症性疾患(1)	骨・関節の感染症	整形外科・岡崎成弘	4 講
10	1	金	6	炎症性疾患(2)	関節リウマチ・リウマチ類似疾患	整形外科・千葉 恒	4 講
10	4	月	4	腫瘍性疾患(3)	腫瘍各論(2) 悪性骨軟部腫瘍(1)	整形外科・野村賢太郎	3 講
10	4	月	5	腫瘍性疾患(4)	腫瘍各論(3) 悪性骨軟部腫瘍(2)	整形外科・野村賢太郎	3 講
10	4	月	6	顔面外傷	顔面外傷総論：軟部組織損傷・顔面骨骨折	形成外科・今村禎伸	3 講
10	6	水	1	下肢の疾患(3)	股関節(3) (小児)	整形外科・松林昌平	3 講
10	6	水	2	リハビリテーション(2)	リハビリテーション (各論1)	整形外科・松林昌平	3 講
10	6	水	3	リハビリテーション(3)	リハビリテーション (各論2)	整形外科・松林昌平	3 講
10	8	金	4	(運動系予備)			3 講
10	8	金	5	上肢の疾患(2)	上肢の疾患(2)	整形外科・梶山史郎	3 講
10	8	金	6	上肢の疾患(3)	上肢の疾患(3)	整形外科・梶山史郎	3 講
10	11	月	4	(運動系予備)			3 講
10	11	月	5	下肢の疾患(4)	膝関節(1)	整形外科・米倉暁彦	3 講
10	11	月	6	下肢の疾患(5)	膝関節(2)・足関節・足趾	整形外科・米倉暁彦	3 講
10	13	水	1	脊椎(3)	脊椎(3)	整形外科・津田圭一	3 講
10	13	水	2	脊椎(4)	脊椎(4)	整形外科・津田圭一	3 講
10	13	水	3	脊椎(5)	脊椎(5)	整形外科・津田圭一	3 講
10	19	火	1	TBL		整形外科・中添悠介	4 講
10	19	火	2	TBL		整形外科・横田和明	4 講
10	19	火	3	TBL		整形外科・白石和輝	4 講
10	20	水	4～6	試験			4 講

腎泌尿器系

責任者	氏名（教室）	酒井 英樹（腎泌尿器病態学（泌尿器科学））		
	電話番号	7340	e-mail	hsakai@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 16:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Nephro-urology		

1. 授業の概要及び位置づけ

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象にした腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解する。

2. 授業到達目標

- 1) 腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる一特に腎の生理と排尿の生理を理解することが重要である。
- 2) 腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。
- 3) 腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。
- 4) 腎・泌尿器科の病理検査を理解し、治療法選択や予後との関連を説明できる。
- 5) 各疾患の治療法を概説できる。また、小児と成人の差違、内科的あるいは外科的治療の差違について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

体液の恒常性維持における腎の機能について学び、腎・泌尿器系疾患の病態、症候、検査、診断および治療について系統的に講義する。その検査法には、放射線学的、病理学的な方法も含まれる。この系で学ぶ主要な疾患は、腎不全、糸球体疾患、ネフローゼ症候群、尿細管間質病変、高血圧・腎血管病変、全身性疾患に合併した腎病変、小児の腎疾患、外科的処置が必要な腎・尿路系疾患（腫瘍、結石、外傷）、排尿障害、尿路感染症である。

4. 教科書・教材・参考書

エッセンシャル腎臓内科学 富野 康日己 編 医歯薬出版 5,000円

ダイナミックメディシン6巻 下条 文武・斉藤 康 西村書店 3,800円

講義録 泌尿器科学 荒井 陽一 小川 修 編 メジカルビュー 6,000円

Smith's General Urology Emil Tanagho Lange 8,000円

病気が見える腎・泌尿器 医療情報科学研究所 3,564円

Renal disease: classification and atlas of glomerular disease. Churg/Bernstain/ Glasscock IGAKU/SHOIN 23,900円

小児腎臓病学 改訂第2版 日本小児腎臓病学会編 診断と治療社 9,720円

図解腎臓内科学テキスト 富野 康日己 編 中外医学社 7,600円

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験を行う。各分野の配点は、腎臓内科40点、泌尿器科40点とし、小児科・放射線科・病理診断科20点とし、合計60点以上を合格とする。

また、各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

再試験は1回実施する。

6. 事前・事後学修の内容

腎・尿路系の解剖、生理、病理学、さらに、腎・泌尿器系疾患の病態、病理、画像診断、治療法や疫学・予後について復習しておくこと。

7. 教員名

酒井 英樹（泌尿器科）、宮田 康好（泌尿器科）、大庭 康司郎（泌尿器科）、木原 敏晴（泌尿器科）、松尾 朋博（泌尿器科）、望月 保志（血液浄化）、西野 友哉（腎臓内科）、牟田久美子（腎臓内科）、阿部 伸一（腎臓内科）、鳥越 健太（腎臓内科）、辻 清和（腎臓内科）、山下 鮎子（腎臓内科）、白川 利彦（小児科）、福岡 順也（病理診断科）、石山 彩乃（放射線科）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

腎泌尿器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	8	火	1	泌尿器科	腎・泌尿器系 イントロダクション	泌尿器科・酒井英樹	4 講
6	8	火	2	腎臓内科	臨床総論：腎臓の構造・機能、腎疾患の主要症候	腎臓内科：西野友哉	4 講
6	10	木	1	腎臓内科	腎疾患の検査(検尿異常、腎機能検査)	腎臓内科：辻 清和	2 講
6	10	木	2	腎臓内科	糸球体疾患総論	腎臓内科：西野友哉・阿部伸一	2 講
6	10	木	3	腎臓内科	糸球体疾患各論	腎臓内科：阿部伸一	2 講
6	15	火	1	腎臓内科	糸球体疾患：診断へのアプローチ	腎臓内科：鳥越健太	4 講
6	15	火	2	腎臓内科	二次性腎障害	腎臓内科：鳥越健太	4 講
6	17	木	1	腎臓内科	尿細管間質性疾患、電解質異常(水、Na異常)	腎臓内科：辻 清和	4 講
6	17	木	2	腎臓内科	電解質異常(K異常、酸塩基異常)	腎臓内科：辻 清和	4 講
6	17	木	3	腎臓内科	輸液の基本	腎臓内科：山下鮎子	4 講
6	22	火	1	腎臓内科	腎病理	腎臓内科：牟田久美子	2 講
6	22	火	2	腎臓内科	その他の腎疾患	腎臓内科：牟田久美子	2 講
6	23	水	1	腎臓内科	慢性腎不全、CKD、CKD-MBD(Ca・P代謝)	腎臓内科：山下鮎子	4 講
6	23	水	2	腎臓内科	腎代替療法、アフェレーシス	腎臓内科：山下鮎子	4 講
6	24	木	1	腎臓内科	急性腎不全、AKI	腎臓内科：山下鮎子	2 講
6	24	木	2	小児科	小児の腎泌尿器疾患（小児内科の立場から）	小児科 白川利彦	2 講
6	24	木	3	小児科	小児の腎泌尿器疾患（小児内科の立場から）	小児科 白川利彦	2 講
6	29	火	1	泌尿器科	泌尿器科学総論：解剖・生理	泌尿器科・宮田康好	2 講
6	29	火	2	泌尿器科	泌尿器科学総論：症候・検査法	泌尿器科・宮田康好	2 講
6	30	水	1	泌尿器科	性機能障害	泌尿器科・宮田康好	4 講
6	30	水	2	泌尿器科	尿路性器外傷	泌尿器科・宮田康好	4 講
6	30	水	4	病理	泌尿器病理 イントロダクション	第二病理・福岡順也	CBT
6	30	水	5	病理	泌尿器病理 尿路疾患	第二病理・福岡順也	CBT
6	30	水	6	病理	泌尿器病理 腎疾患	第二病理・福岡順也	CBT
7	1	木	1	泌尿器科	腎腫瘍	血液浄化・望月保志	2 講
7	1	木	2	泌尿器科	腎腫瘍（課題検討）	泌尿器科、大庭康司郎	2 講
7	1	木	3	泌尿器科	尿路結石	久留米大・井川掌	2 講
7	6	火	1	泌尿器科	尿路癌（疫学、診断、治療）	泌尿器科・宮田康好	2 講
7	6	火	2	泌尿器科	尿路癌（課題討論）	泌尿器科・宮田康好	2 講
7	8	木	1	泌尿器科	小児泌尿器疾患	泌尿器科・木原敏晴	4 講
7	8	木	2	泌尿器科	排尿機能障害	泌尿器科・松尾朋博	4 講
7	8	木	3	泌尿器科	腎血管性病変・腎形態異常	血液浄化・望月保志	4 講
7	13	火	2	放射	泌尿器系の画像診断	放射線科・石山彩乃	4 講
7	14	水	4	病理	泌尿器病理 分子病理・男性生殖器疾患	第二病理・福岡順也	CBT
7	14	水	5	病理	泌尿器病理 男性生殖器疾患	第二病理・福岡順也	CBT
7	15	木	1	泌尿器科	炎症性疾患	泌尿器科・酒井英樹	4 講
7	15	木	2	TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・鳥越健太	4 講
7	15	木	3	TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・鳥越健太	4 講
7	26	月	1	腎臓内科	腎臓内科：総括	腎臓内科：牟田久美子	オンライン
7	26	月	2	小児科	小児の腎泌尿器疾患（小児内科の立場から）	小児科 白川利彦	オンライン
7	26	月	3	泌尿器科	泌尿器科：総括	泌尿器科・宮田康好	オンライン
7	27	火	1	TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科・松尾朋博	4 講
7	27	火	2	TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科、大庭康司郎	4 講
7	28	水	4～6	試験			4 講

生殖系

責任者	氏名（教室）	三浦清徳（産科婦人科学）		
	電話番号	7363	e-mail	kiyonori@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～17:30		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Reproductive Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

男女の生殖器の解剖、生理および病理について系統的に学習する。正常および異常妊娠、分娩について系統的に学習する。授業内容は講義形式を用いる。

2. 授業到達目標

女性生殖器、男性生殖器の解剖、発生およびその異常について説明できる。男性不妊症や主な男性生殖器疾患について説明できる。女性の性周期、妊娠成立の仕組み、不妊症および不育症について説明できる。正常妊娠、胎児、分娩の経過およびその異常としてのハイリスク妊娠、分娩について説明できる。おもな女性生殖器疾患について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義時間は55コマである。内訳は第三解剖1コマ、病理5コマ、泌尿器科4コマ、産婦人科45コマである。

4. 教科書・教材・参考書

ムーア人体発生学 Moore, Persaud 医歯薬出版 9,500円
 新泌尿器科学 内藤 誠二 南山堂 8,700円
 標準産科婦人科学 岡井 崇 他編 医学書院 8,610円
 病気が見える 産科 メディックメディア 3,600円
 病気が見える 婦人科・乳腺外科 メディックメディア 3,300円

5. 成績評価の方法・基準等

出席点および筆記試験により評価する。出席数が全講義数の2/3に満たない場合は失格とし、筆記試験を受けることができない。筆記試験問題は担当教員が分担して作成する。

本論、病理の各分野を総合し、60%以上を合格とする。

本試で合格しなかった場合は再試を行う。再試は60点以上を合格とする。再試験は1回のみ行う。

試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り受験を認める。

6. 事前・事後学修の内容

教科書、参考書を読み、予習復習を行うこと

7. 教員名

三浦清徳（長崎大学産婦人科）、北島道夫（長崎大学産婦人科）、三浦生子（長崎大学産婦人科）、嶋田貴子（長崎大学産婦人科）、長谷川ゆり（長崎大学産婦人科）、北島百合子（長崎大学産婦人科）、森崎佐知子（長崎大学産婦人科）、松本加奈子（長崎大学産婦人科）、原田亜由美（長崎大学産婦人科）、朝永千春（長崎大学産婦人科）、梶村慈（長崎大学産婦人科）、重富典子（長崎大学産婦人科）、吉村泰典（非常勤講師）、檜原久司（非常勤講師）、片淵秀隆（非常勤講師）、吉野潔（非常勤講師）、中島久良（非常勤講師）、藤下晃（非常勤講師）、小寺宏平（非常勤講師）、野々下晃子（非常勤講師）、吉田敦（非常勤講師）、酒井英樹（長崎大学泌尿器科）、宮田康好（長崎大学泌尿器科）、柴田恭明（長崎大学組織生物学）、林洋子（長崎大学病理診断科）、三上芳喜（非常勤講師）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	14	火	1	イントロダクション	生殖系講義概論	産婦人科・三浦清	3 講
9	14	火	2	性分化と性器の発生□	性線・性器の発生／性分化異常	解剖3・柴田	3 講
9	14	火	3	不妊（1）	性分化異常／男性不妊症	泌尿器科・宮田	3 講
9	14	火	5	男性生殖器（1）	前立腺肥大症	泌尿器科・酒井	3 講
9	14	火	6	男性生殖器（2）	前立腺癌	泌尿器科・酒井	3 講
9	15	水	4	病理	生殖系・卵巣（講義・実習）	一病理・林	3 講
9	15	水	5	病理	生殖系・卵巣（講義・実習）	一病理・林	3 講
9	15	水	6	病理	生殖系・卵巣（講義・実習）	一病理・林	3 講
9	16	木	1	婦人科診察	女性性器の構造／婦人科診察	非常勤・藤下	3 講
9	16	木	2	性器の位置異常	性器形態異常／位置異常／損傷と瘻	非常勤・藤下	3 講
9	16	木	3	性分化異常と無月経	精巢性女性化症候群／Turner症候群など。無月経／PMS／神経性食欲不振症	産婦人科・北島百	3 講
9	16	木	5	男性生殖器（2）	精巣腫瘍／陰茎腫瘍	泌尿器科・酒井	3 講
9	16	木	6	不妊（2）	不妊症／ART／OHSS／不育症	産婦人科・北島道	3 講
9	21	火	1	婦人科腫瘍の病因学	ノーベル生理学医学賞と子宮頸癌予防HPVワクチン	非常勤・片淵	3 講
9	21	火	2	婦人科類腫瘍病変	子宮内膜症／子宮腺筋症／子宮筋腫／月経困難症	産婦人科・濱口	3 講
9	21	火	3	加齢に伴う変化	加齢にともなう性機能の変化／POF／更年期障害／老年期／萎縮性膣炎／尿失禁／骨盤内臓器脱	産婦人科・北島百	3 講
9	21	火	5	性器の炎症	STI／外陰膣の炎症／子宮の炎症／付属器炎骨盤炎	産婦人科・北島百	3 講
9	21	火	6	子宮の疾患（1）	子宮内膜増殖症／子宮体癌	産婦人科・嶋田	3 講
9	28	火	1	婦人科腫瘍	卵巣悪性腫瘍の診断・治療	非常勤・吉野	3 講
9	28	火	2	絨毛性疾患	絨毛性疾患／絨毛癌／胞状奇胎	産婦人科・長谷川	3 講
9	28	火	3	付属器腫瘍（2）	卵巣癌／卵管癌	産婦人科・嶋田	3 講
9	28	火	5	付属器腫瘍（1）	卵巣腫瘍	非常勤・小寺	3 講
9	28	火	6	妊娠・授乳と薬剤	妊娠と薬剤／産褥と薬剤	産婦人科・松本	3 講
9	29	水	5	妊娠の生理（1）	妊娠の成立／配偶子／受精／着床／初期の分化／妊娠維持機構	産婦人科・北島道	3 講
9	29	水	6	妊娠の生理（2）	胎芽－胎児期の成長／胎児－胎盤系の生理／産褥の生理	産婦人科・三浦生	3 講
9	30	木	1	女性ホルモン・月経	女性ホルモンの種類と作用／月経周期の調節機構	非常勤・檜原	3 講
9	30	木	2	妊娠の生理（3）	妊娠に伴う母体変化／母体の生理学的変化	産婦人科・三浦生	3 講
10	5	火	1	医療倫理	生殖医療と生命倫理	非常勤・吉村	3 講
10	5	火	2	妊娠中の胎児評価（1）	妊婦の栄養管理／母体と胎児の管理 妊婦健診の流れ／超音波検査	産婦人科・原田	3 講
10	5	火	3	妊娠中の胎児評価（2）	胎児心拍モニタリング／BPS	産婦人科・原田	3 講

生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	5	火	5	ゲノム医療	着床前診断／出生前診断／がんゲノム	産婦人科・三浦生	3 講
10	5	火	6	妊娠の異常（3）	常位胎盤早期剥離／前置胎盤／癒着胎盤	産婦人科・松本	3 講
10	6	水	4	子宮の疾患（2）	子宮頸部異形成	非常勤・中島	3 講
10	6	水	5	子宮の疾患（3）	子宮頸癌・外陰癌・陰癌	非常勤・中島	3 講
10	6	水	6	妊娠の異常（4）	胎児発育不全／羊水異常	産婦人科・重富	3 講
10	7	木	1	妊娠の異常（1）	妊娠悪阻／流産／異所性妊娠	非常勤・藤下	3 講
10	7	木	2	妊娠の異常（5）	多胎妊娠／血液型不適合妊娠	産婦人科・梶村	3 講
10	7	木	3	妊娠の異常（6）	早産／切迫早産／絨毛膜羊膜炎／頸管無力症／前期破水	産婦人科・野々下	3 講
10	7	木	5	生殖病理	生殖系・子宮頸部（講義・実習）	非常勤・三上	3 講
10	7	木	6	生殖病理	生殖系・子宮頸部（講義・実習）	非常勤・三上	3 講
10	12	火	1	妊娠の異常（7）	母子感染症	産婦人科・長谷川	4 講
10	12	火	2	合併症妊娠（1）	婦人科疾患／糖代謝異常合併妊娠	産婦人科・森崎	4 講
10	12	火	3	合併症妊娠（2）	代謝・内分泌疾患／膠原病／血液疾患 腎・泌尿器疾患／消化器疾患／呼吸器・循環器疾	産婦人科・森崎	4 講
10	12	火	5	正常分娩	分娩の流れ／分娩の3要素／正常分娩の経過／回旋／分娩の評価	産婦人科・松本	4 講
10	12	火	6	分娩の異常（1）	分娩機転の異常／陣痛の異常／産道の異常／胎勢・回旋・胎位の異常／進入の異常	産婦人科・朝永	4 講
10	13	水	4	分娩の異常（2）	臍帯の異常／胎児機能不全／過期産	産婦人科・森崎	3 講
10	13	水	5	分娩の異常（3）	分娩時大量出血／産科ショック	産婦人科・長谷川	3 講
10	13	水	6	分娩の異常（4）	産科DIC／弛緩出血／羊水塞栓症／分娩時の裂傷	産婦人科・朝永	3 講
10	14	木	1	TBL	周産期	産婦人科・朝永	4 講
10	14	木	2	TBL	腫瘍	産婦人科・嶋田	4 講
10	14	木	3	TBL	生殖内分泌	産婦人科・北島道	4 講
10	14	木	5	妊娠の異常（2）	妊娠高血圧症候群／子癇／HELLP症候群	非常勤・吉田	4 講
10	14	木	6	分娩の異常（5）	分娩介助／子宮内容除去術／陣痛誘発・陣痛抑制／急速遂娩	産婦人科・重富	4 講
10	15	金	1	産褥の異常	産褥の異常／子宮復古不全／産褥熱／深部静脈血栓症／肺血栓塞栓症	産婦人科・梶村	3 講
10	15	金	2	産婦人科の手術解剖	ロボット手術／広汎子宮全摘術／帝王切開術	産婦人科・三浦清	3 講
10	18	月	4～6	試験			4 講

放射線医学

責任者	氏名（教室）	上谷 雅孝（放射線医学（放射線診断治療学））		
	電話番号	7353	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Radiology		

1. 授業の概要及び位置づけ

放射線医学は、放射線診断学、核医学および放射線治療学から成り立っている。本講義では各臓器疾患に共通する内容として、核医学検査と放射線治療、放射線学的手技を応用した治療（interventional radiology）について学習する。各臓器毎の放射線診断（画像診断）については、それぞれの臓器別の講義で行われる。

2. 授業到達目標

- 1 核医学検査の種類と基本的原理、検査の特徴と適応、診断の要点を理解する。
- 2 放射線治療の種類と基本的原理、特徴と適応、副作用について理解する。
- 3 IVRの種類、手技の実際、適応について理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

核医学検査 2 コマ、放射線診断 2 コマ、IVR 1 コマ

4. 教科書・教材・参考書

標準放射線医学（第7版） 西谷 弘 他編 医学書院 10,500円

5. 成績評価の方法・基準等

試験にて60%以上の得点率にて合格とする。再試験は1回のみとする。

6. 事前・事後学修の内容

【予習】 授業予定内容の教科書の該当部分を予習しておくこと（1h）
 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。（1h）

7. 教員名

工藤 崇（原研放射）、山崎 拓也（放射線科）、江川 亜希子（放射線科）、末吉 英純（放射線科）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	D

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	8	木	4	放射線医学	核医学1	工藤	4 講
4	8	木	5	放射線医学	核医学2	工藤	4 講
4	8	木	6	放射線医学	血管造影・IVR	末吉	4 講
4	12	月	1	放射線医学	放射線治療1	江川	オンライン
4	12	月	2	放射線医学	放射線治療2	山崎	オンライン
4	13	火	1～2	放射線医学	試験		4 講

臨床検査医学

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Laboratory Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

患者の病態を把握するために必要な検査が何かを学び、それぞれの検査の特徴を知った上で、それらを適切に使い分け、かつ適切に結果を解釈する思考を構築する。検査値から鑑別を広く挙げ、病態を深く読む視点を養う。

2. 授業到達目標

臨床検査の意義とその解釈を説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

正しい臨床診断を得るためには、検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。病院の中核部門の1つである検査部や輸血部で行われている検査について理解を深める。各種検査についての基本的知識や解釈、原理、異常値が出る病態生理学的機序を理解する授業を行う。

4. 教科書・教材・参考書

臨床検査ガイド 文光堂
 標準臨床検査医学 医学書院
 臨床検査法提要 金原出版
 よくわかる輸血学・改訂版 大久保 光夫 羊土社
 移植・輸血検査学 講談社
 血液細胞アトラス 文光堂
 Handbook of Hematologic Pathology Marcel Dekker Inc, USA
 Molecular Diagnostics Methods and Clinical Applications Lela Buckingham F.A.Davis
 戸田新細菌学 吉田眞一、柳雄介、吉開泰信 南山堂
 標準臨床検査学「微生物学・臨床微生物学・医動物学」 一山智、田中美智男 医学書院
 医療スタッフのための 微生物検査のススメ 柳原克紀 ヴァンメディカル

5. 成績評価の方法・基準等

成績評価の方法：定期考査100%。成績評価の基準：60点以上を合格とする。特別な理由なく講義に1/3以上欠席した場合は、定期考査の受験資格はない。再試験有り（1回）

6. 事前・事後学修の内容

授業の前に参考書で予習をしておくこと。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）、長井 一浩（細胞療法部）、長谷川 寛雄（臨床検査医学）、坂本 啓（臨床検査医学）、小佐井康介（臨床検査医学）、加勢田富士子（臨床検査医学）、太田 賢治（臨床検査医学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

臨床検査医学

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	13	月	1	臨床検査総論	臨床検査総論	柳原克紀	3 講
9	13	月	2	臨床検査総論	臨床検査総論	柳原克紀	3 講
9	13	月	3	臨床検査総論	臨床検査総論	柳原克紀	3 講
9	17	金	1	一般検査	一般検査	長谷川寛雄	3 講
9	17	金	2	血液学検査	血液学検査	長谷川寛雄	3 講
9	17	金	3	血液学検査	血液学検査	長谷川寛雄	3 講
9	27	月	1	臨床化学総論	臨床化学総論	坂本啓	3 講
9	27	月	2	臨床化学各論	臨床化学各論	太田賢治	3 講
9	27	月	3	臨床化学各論	臨床化学各論	加勢田富士子	3 講
10	4	月	1	微生物検査	微生物検査	小佐井康介	3 講
10	4	月	2	微生物検査	微生物検査	小佐井康介	3 講
10	4	月	3	微生物検査	微生物検査	小佐井康介	3 講
10	8	金	1	輸血検査	輸血検査	長井一浩	3 講
10	8	金	2	輸血検査	輸血検査	長井一浩	3 講
10	8	金	3	輸血検査	輸血検査	長井一浩	3 講
10	11	月	1	免疫血清検査	免疫血清検査	加勢田富士子	3 講
10	11	月	2	遺伝子検査総論	遺伝子検査総論	長谷川寛雄	3 講
10	11	月	3	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	太田賢治	3 講
10	21	木	1	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	坂本啓	4 講
10	21	木	2	生理機能検査	生理機能検査	坂本啓	4 講
10	21	木	3	検査の実際	検査の実際	柳原克紀	4 講
10	25	月	4～6	試験			4 講

プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（グローバルヘルス研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1 年次前期：各教室による研究内容等の紹介セミナーを受講する。
- 1 年次後期、2 年次、3 年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

- 1 年次前期：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。
- 1 年次後期～3 年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

配属教室は、1年次前期終了時に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。
また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

リサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	池田裕明（腫瘍医学）		
	電話番号	095-819-7081	e-mail	hikedada@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00-17:00		

対象年次・学期	3年次・後期 4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	11.5
科目英語名	Research Seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

有能な医師になる為には、基礎研究を理解し実施する能力、理論的かつ批判的に考察する能力が必須である。医学はまだ発展途上にあり、有能な医師は、その発展の一端を担える能力、研究成果の是非を判断する能力を習得しなければならない。現在、専門医の重要性が強調される裏側で、研究に対する意識が薄らぐ傾向にあると言えるが、リサーチセミナーでは、研究の実践を通じて「医学」が「科学」としていかに発展するかというプロセスを学ぶ。

2. 授業到達目標

セミナー期間中は、熱帯医学研究所・原爆後障害医療研究所を含む基礎系教室で終日研究活動に従事し、配属先の基礎医学系教員とマンツーマンの指導を受け、研究背景を学術論文から理解し、研究計画書を作成して実践し、研究結果をまとめ、発表および討論を行う能力を身につけることを目標とする。なお合同発表会は、可能な限り一般公開する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

3年次後期（1～2月）、各配属教室において研究実習を行い、報告書を提出する。
4年次前期（5月）、リサーチセミナー発表会において、研究内容の発表を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

5. 成績評価の方法・基準等

研究報告書・担当教員の評価・発表会の評価から総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

毎回の予習復習課題として文献資料を読むこと。

7. 教員名

池田裕明（腫瘍医学）

8. 備考

【研究テーマの選択方法】

1. 各教室から研究テーマ、そのテーマを指導する責任教員名とそのテーマに従事する学生数が公示される。
2. 各学生は希望する教室とテーマを1つ選択して提出する。
3. この時点で学生自身がテーマを提案してもよい。その場合にはそのテーマについて指導す

ることを承諾する講座を必要とする。

4. 各研究テーマの定員を超過した場合には、学生間の抽選により決定する。
5. 抽選にもれた学生は、定員に満たないテーマの中から、テーマを1つ選択して提出する。
6. 全学生が何れかのテーマに属するまで上記4. と5. の操作を繰り返す。

【リサーチセミナー履修の認定の条件】

1. セミナー開始時にオリエンテーション（総合オリエンテーション、実験動物についての講義）、必要な動物実験施設やアイソトープ実験施設の使用に関する説明会に出席していること。
2. 研究活動に200時間以上に従事していること。
3. 研究報告書（A4のフォーマットを準備）を学務課へ提出すること。（※切：3月1日）（ワープロまたはボールペン書きのものに限る。鉛筆書きは不可）
4. 実際の研究記録は配属教室の指導責任者に提出すること。配属教室ではリサーチセミナー終了時に発表会を開き、研究記録とともに評価をしてもらう。指導教員はこの評価をリサーチセミナー責任者に提出する。（※切：3月1日）
5. 4年次の5月に開催される「リサーチセミナー発表会」に出席し、発表・討論を行うこと。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E

国際医療英語

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13：0-17：00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	2～3年	講義形態	講義
必修・選択	必修（国際プログラム）	単位数	各1
科目英語名			

準備中
完成次第更新予定

医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次：前期・後期、 3～4年次：後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1
科目英語名	Small group medical seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教員と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。

2. 授業到達目標

各担当教員による。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員による。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

- 1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

医学英語Ⅲ

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13:00-17:00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical English III		

1. 授業の概要及び位置づけ

器官別のMedical Terminologyを医学英単語の構造から学び、医学英語Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで全器官を網羅します。また、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を学習します。

【Medical Terminology】

・医学英単語の成り立ち ・図解と名称 ・発音聴き取り ・日常語への置き換え 他

【医学英語論文】

・医学英文法 ・論文の種類と構成 ・疾病の基本知識 ・研究成果の読み取り ・要約 他

2. 授業到達目標

医学英単語の語彙力を身に付けるとともに、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を修得することを目標とします。

3. 授業内容（講義・実習項目）

対面授業8回、web学習7回の全15回で行います。

4. 教科書・教材・参考書

eラーニング教材を用います。詳細は初回授業時に説明します。

5. 成績評価の方法・基準等

授業への参加状況、eラーニングの受講状況、終了テストの結果を総合的に判断します。なお、大学全体で受験するTOEIC IPテストのスコアを成績評価の一部に用います。

6. 事前・事後学修の内容

eラーニングの受講は計画的に行うこと。

7. 教員名

トッド・サンダース（感染分子解析学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	15	水	7	ガイダンス			3 講
				Web1 Med. Terminology (5)	・ 図解と名称 ・ 医学用語の部品 ・ 医学用語の定義 ・ 日常語と専門用語 ・ 正解選択	—	自宅学習
9	29	水	7	対面授業 1		トッド	3 講
				Web2 医学英語論文 (3-1)	子供の肥満、有病率と予防	—	自宅学習
10	6	水	7	対面授業 2		トッド	3 講
				Web3 医学英語論文 (3-2)	子供の肥満、有病率と予防	—	自宅学習
10	13	水	7	対面授業 3		トッド	3 講
				Web4 Med. Terminology (6)	・ 図解と名称 ・ 医学用語の部品 ・ 医学用語の定義 ・ 正解選択	—	自宅学習
10	27	水	7	対面授業 4		トッド	4 講
				Web5 医学英語論文 (4-1)	Swedish snusによる二重盲検によるプラセボを使った減煙・禁煙のためのランダム化比較臨床試験	—	自宅学習
11	10	水	7	対面授業 5		トッド	4 講
				Web6 医学英語論文 (4-2)	Swedish snusによる二重盲検によるプラセボを使った減煙・禁煙のためのランダム化比較臨床試験	—	自宅学習
11	17	水	7	対面授業 6		トッド	2 講
				Web7 Med. Terminology (7)	・ 図解と名称 ・ 医学用語の定義 ・ 正解選択	—	自宅学習
11	24	水	7	対面授業 7		トッド	2 講
				試験	終了テスト(web)	—	

【暫定版:2021.5.11】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 4年前期

月	日	月								日	火								日	水								日	木								日	金																															
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8																								
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$																								
		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40																								
4																												1	免アレ系		皮膚系				2	皮膚系		医と社会		研究医コース																													
	5	皮膚系		免アレ系						6	免アレ系		皮膚病理				7	免アレ		皮膚系		英語				8	免アレ系		免放		皮膚系		9	免アレ		免アレ																																	
	12	免アレ系		皮膚系						13	皮膚系		目王学習				14	自主学習		皮膚系試験		英語				15	免アレ系		自主学習				16	免アレ試験		医と社会																																	
	19	脳神経系		精神系						20	脳放		神経薬理		脳神経系		21	神経病理		脳神経系						22	脳神経系		医と社会				23	精神系		医と社会																																	
5	26									27									28	脳神経系		神経病理		英語				29	昭和の日								30	精神系		医と社会																													
	3	憲法記念日								4	みどりの日								5	こどもの日								6	精神系		脳神経系				7	精神系		人体構造系Ⅲ		研コ																													
	10	脳神経系		精神系						11	リサーチセミナー発表会						12	リサーチセミナー発表会				英語				13	脳神経系				精神系		14	脳神経系																																			
	17	精神系		脳神経系						18	健康診断		脳神経系				19	脳神経系		神経病理		英語				20	脳神経系				精神系		21	精神系																																			
6	24	脳神経系		自主学習						25	自主学習		脳神経系試験				26	精神系		自主学習						27	自主学習		精神系試験				28			視覚系																																	
	31	耳鼻咽喉系				視覚系				1	耳鼻咽喉系				視覚系		2	視覚系				耳鼻咽喉系		英語		3			視覚系		耳鼻咽喉系		4			視覚系																																	
	7	耳鼻咽喉系				視覚系				8	耳鼻咽喉系				視覚系		9	視覚系				耳鼻咽喉系		英語		10			視覚系		耳鼻咽喉系		11	耳鼻咽喉系																																			
	14	視覚系		自主学習						15	自主学習		視覚系試験				16	耳鼻咽喉系		自主学習						17	自主学習		耳鼻咽喉系試験				18			耳鼻咽喉系																																	
7	21			小児系		総診・医情				22	総診・医情						23			総診・医情		英語				24			総診・医情		小児系		25	総合病理学																																			
	28			小児系		臨床薬理				29	臨床薬理				小児系		30	総合病理学		総診・医情		英語				1	臨床薬理				小児系		2			臨床薬理試験		医と社会																															
	5	自主学習		人体構造系Ⅲ試験						6	総診・医情						7									8			自主学習				9	臨床薬理試験				医と社会																															
	12	小児系		自主学習						13	自主学習		小児系試験				14					地域医療学				15	公衆衛生学		衛生・臨床疫				16	東洋医学																																			
8	19	衛生・臨床疫		医と社会		公衆衛生学				20	公衆衛生学				衛生・臨床疫		21	公衆衛生学				衛生・臨床疫		英語		22	海の日								23	スポーツの日																																	
	26									27	地域医療学								28			公衆衛生/地域医療試験						29	衛生・臨床疫		自主学習				30	自主学習		衛生・臨床疫試験																															
	2	東洋医学		公衆衛生学						3	地域医療学		自主学習						4	自主学習								5	東洋医学		自主学習				6	東洋医学/総診・医情試験																																	
	9	振替休日								10	夏季休業								11	夏季休業								12	夏季休業								13	夏季休業																															
9	16	夏季休業								17									18									19									20																																
	23									24									25									26									27																																
	30	再試験期間								31	再試験期間								1	再試験期間								2	再試験期間								3	再試験期間																															
9	6	再試験期間								7	再試験期間								8	再試験期間								9	再試験期間								10	再試験期間																															
	13									14									15									16									17																																

医と社会Ⅳ

責任者	氏名（教室）	安武 亨（先端医育センター）		
	電話番号	7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	4年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Medical ethics and philosophy 4		

1. 授業の概要及び位置づけ

がん患者などのターミナルケアなどの医療場面では、たびたび対応が難しい場面に遭遇する。このような状況でのがん患者などへのインフォームドコンセントの取り方及び患者や家族の心の葛藤及びケアについて学ぶ。大学病院及び地域医療におけるターミナルケアの現状及び取り組みについても学ぶ。また、コア・カリキュラムにもあげられているリスクマネジメント、医療事故及び医療法制、死生学を取り上げる。臨床の現場で、医療事故を如何に防止するか安全管理に関する心構えを身に付け、かつ倫理面を認識した上での医事法制を学ぶ。また、前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深める。

2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
5. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握するこ

3. 授業内容（講義・実習項目）

がん患者やその家族の心の葛藤及びケアについて学ぶとともに、医師としてのがん患者やターミナルケアにおける実際の接し方を学ぶ。また大学病院及び地域医療でターミナルケアがどのように実践されているかを学ぶ。その他ターミナルケアが必要ながん患者へのインフォームドコンセントの行い方を模擬患者を使って経験する。

また、医療マネジメント、医療事故に関し具体例をあげ、医療リスクマネジメントの実際を学ぶ。さらに医師にとって重要である医療情報のITとその安全管理や医事法制について、また、倫理観、宗教観からみた死生学について学ぶ。また、地域包括ケアシステムの理解を深めるため、地域包括支援センターや訪問看護の役割等について学習する。多職種連携症例検討も行う。さらに、リハビリテーションについても学ぶ。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。医療マネジメント、医事法制などの出版物は少なくない。必要に応じて各講義で紹介する。

5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

7. 教員名

安武 亨（先端医育センター）、田中 邦彦（先端医育センター）、江川 亜希子（先端医育センター）、北山 素（先端医育センター）、濱崎 景子（IR室兼先端医育センター）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、川尻 真也（地域医療学）、井口 茂（保健学科）、平野 裕子（保健学科）、藤原 卓（歯学部）、木村 泰男（歯学部）、中嶋 幹郎（薬学部）、都田 真奈（薬学部）、北里 海雄（薬学部）、高畠 英昭（リハビリテーション科）、酒井 和香（リハビリテーション科）、山下 和範（高度救命救急センター）、山野 修平（高度救命救急センター）、栗原 慎太郎（安全管理部）、石井 浩二（麻酔科）、芦澤 和人（臨床腫瘍学）、福田 実（臨床腫瘍学）、本田 琢也（臨床腫瘍学）、本多 功一（臨床腫瘍学）、早島 理（滋賀医科大学）、浅野 直人（福岡大学）、潮谷 有二（日本社会事業大学）、上村 英美（佐々町役場 住民福祉課地域包括支援センター）、福田 浩久（弁護士）、原 信太郎（愛野記念病院）

8. 備考

リハビリテーション分野責任者：高畠 英昭

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	E

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	金	4～5	保健学科共修	多様化する健康観	保健学科 平野 裕子	オンライン
4	2	金	5～6	保健学科共修	災害医療	高度救命救急センター 山下 和範	オンライン
4	9	金	4	救急医学	急性中毒	高度救命救急センター 山野 修平	4 講
4	16	金	4	医療安全	医療の質と安全の確保①	安全管理部 栗原 慎太郎	ボードイン
4	16	金	5～6	法医学	死生学	滋賀医科大学名誉教授 早島 理	ボードイン
4	22	木	5～6	法医学	医療事故と医師の民事責任	福岡大学名誉教授 浅野 直人	ボードイン
4	23	金	4	医療安全	医療の質と安全の確保②	安全管理部 栗原 慎太郎	ボードイン
4	23	金	5	法医学	法社会と医療	弁護士 福田 浩久	ボードイン
4	23	金	6	リハビリテーション	リハビリテーション各論1 呼吸器リハビリテーション	リハビリテーション科 酒井 和香	ボードイン
4	30	金	4	医療安全	医療のクオリティマネジメントと安全管理	歯学部 藤原 卓	4 講
4	30	金	5	リハビリテーション	リハビリテーション各論2 心大血管リハビリテーション	リハビリテーション科 高島 英昭	4 講
4	30	金	6	リハビリテーション	リハビリテーション各論3 廃用症候群、嚥下障害と口腔ケア、 がんリハビリテーション	リハビリテーション科 高島 英昭	4 講
7	2	金	4～5	地域包括	地域包括ケアシステムと多職種連携Ⅰ 地域包括ケアシステムと多職種連携Ⅱ	日本社会事業大学 潮谷 有二	2 講
7	2	金	6	地域医療学	地域包括ケアに向けた佐々町の取り組み	佐々町役場住民福祉課 地域包括支援センター 上村 芙美	2 講
7	9	金	4～6	地域包括	包括事例検討	地域包括ケア教育センター	1 講、セミナー室、視聴覚室
7	16	金	4～5	社会性	ケアの質 高め向き合う死の臨床	愛野記念病院 原 信太郎	4 講
7	16	金	6	リハビリテーション	リハビリテーション各論4 運動器リハビリテーション、切断、脊髄損傷	リハビリテーション科 高島 英昭	4 講
7	19	月	4	緩和ケア	大学病院における緩和ケア	麻酔科 石井 浩二	2 講
9	27	月	3	リハビリテーション	リハビリテーション各論5 脳血管疾患等リハビリテーション (脳卒中、頭部外傷、神経・筋疾患、脳性麻痺)	リハビリテーション科 酒井 和香	4 講
10	4	月	3	リハビリテーション	リハビリテーション各論6 精神・知的・発達障害のリハビリテーション	リハビリテーション科 酒井 和香	4 講
10	5	火	4	医療安全	医療の質と安全の確保③	安全管理部 栗原 慎太郎	4 講
11	1	月	4	臨床腫瘍学	我が国のがん対策と臨床腫瘍学	臨床腫瘍学 芦澤 和人	3 講
11	1	月	5	臨床腫瘍学	がんの放射線診断と治療	臨床腫瘍学 本多 功一	3 講
11	1	月	6	地域包括	共修事前学習	地域包括ケア教育センター	3 講
11	1	月	7～8	共修	医歯薬共修	地域包括ケア教育センター	3 講・4 講・歯学部 3 A
11	8	月	4	臨床腫瘍学	がん薬物療法総論1	臨床腫瘍学 福田 実	3 講
11	8	月	5	臨床腫瘍学	がん薬物療法総論2	臨床腫瘍学 本田 琢也	3 講
11	8	月	6	地域包括	共修事前学習	地域包括ケア教育センター	3 講
11	8	月	7～8	共修	医歯薬共修	地域包括ケア教育センター	3 講・4 講・歯学部 3 A

人体構造系Ⅲ

責任者	氏名（教室）	弦本 敏行（肉眼解剖学（解剖学第二））		
	電話番号	7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00～19:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Human Body Structure 3		

1. 授業の概要及び位置づけ

人体の構造に関する知識は、すべての臨床科目の理解・習得において必須のものである。人体構造系ⅠおよびⅡにおいては人体解剖学に関する基礎的知識を習得した。人体構造系Ⅲのねらいは、次の3点である。

（1）臨床科目を学習した上で、解剖学に関する知識を再確認するとともに、各臓器における様々な病態・疾患の解剖学的背景を理解すること。

（2）各臓器の3次元構造およびそれら相互の位置関係を理解し、各種画像診断のための臨床解剖学的知識を習得すること。

（3）実習対象のご遺体は例外なく、死に至るまでに多くの疾病に罹患し、また様々な治療を施されている。そのような実態を自らの目で再確認し、疾患に関する理解を深めること。

2. 授業到達目標

人体構造のうち内臓器をはじめとする諸構造を理解し、それらの臨床解剖学的意義を説明できること。

3. 授業内容（講義・実習項目）

胸部・腹部・骨盤・頸部等の内臓器を中心に、決められた手技に則って解剖学実習を行う。

4. 教科書・教材・参考書

★グラント解剖学実習 新井良八 監訳 西村書店

★ネッター解剖学アトラス 相磯貞和 訳 南江堂

★グレイ解剖学（for students）塩田浩平 他訳 エルゼビア・ジャパン

臨床のための解剖学 佐藤達夫・坂井建雄 監訳 MEDSi

（★は教科書、必携）

5. 成績評価の方法・基準等

解剖学実習について、筆答試験を行う

（1）受験資格 原則として皆出席

（2）試験と評価 マークシートによる本試験と再試験（1回）

再試験後、課題レポート等も併せて総合的に評価する

6. 事前・事後学修の内容

【予習】 シラバスを参考に、胸部・腹部・骨盤・頸部等の各臓器に関する解剖学的知識を再確認しておくこと。（2h）

【復習】 実習後は、その日の内容を振り返りながら理解をさらに深めていく。（2h）

7. 教員名

弦本敏行（肉眼解剖分野）、岡本圭史（肉眼解剖分野）、佐伯和信（肉眼解剖分野）、高村敬子（肉眼解剖分野）、遠藤 大輔（肉眼解剖分野）、村井清人（肉眼解剖分野）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	7	金	4	内臓系解剖実習 1-1	オリエンテーション	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	2 講
5	7	金	5～6	内臓系解剖実習 1-2	胸膜、腹膜、自然位の腹部内臓	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
5	14	金	4～6	内臓系解剖実習 2	胸膜、肺、縦隔・心臓	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
5	21	金	4～6	内臓系解剖実習 3	小腸・大腸・上腹部臓器①	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
5	28	金	4～6	内臓系解剖実習 4	小腸・大腸・上腹部臓器②、後腹膜臓器（自然位での観察）、骨盤内臓（自然位での観察）	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
6	4	金	4～6	内臓系解剖実習 5	骨盤内臓 頸部内臓（外観） 腋窩、肩部、上腕	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
6	11	金	4～6	内臓系解剖実習 6	骨盤の血管・神経 前腕、手掌 レポート課題	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
6	18	金	4～6	内臓系解剖実習 7	鼻腔・咽頭・喉頭 殿部、大腿 レポート課題	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
6	25	金	4～6	内臓系解剖実習 8	口腔・眼窩・耳 下腿、足背、足底 レポート課題、全体の復習	解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	解剖実習室
7	5	月	4～6	試験		解剖 2・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	2 講

精神系

責任者	氏名（教室）	小澤 寛樹（精神神経学（精神神経科学））		
	電話番号	7293	e-mail	ozawa07@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 12:00～13:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Neuropsychiatry		

1. 授業の概要及び位置づけ

精神と行動の障害として表現される精神疾患の症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて理解する。精神疾患（精神障害）を、分子レベルから、神経系・内分泌系・免疫系・循環系が交錯する脳、個体、家族、社会、文化、倫理などの多次元の病理が個人の精神と行動の障害として現れたものとして理解し説明するために自主性を持って学習する。さらに、精神疾患に対する治療とケアを通して、多様な思考力や想像力を養う。

2. 授業到達目標

精神疾患に罹患した人々の内的苦悩を実感できる。
精神疾患の病態と成因、治療・ケアの基本的な理解ができる。
こころと行動の理解を目指す諸科学のめざましい発展の実状を理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

精神障害の成り立ちや治療を理解する上での精神医学全般に関する知識の提供。精神医学分野でのbio-psycho-social-ethicalといった多軸的な観点を養う。

4. 教科書・教材・参考書

標準精神医学 尾崎紀夫、三村将、水野雅文、村井俊哉 医学書院 6,500円
現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版 7,500円
精神医学 大月三郎 文光堂 7,200円
シネマサイキアトリー 映画からみる精神医学 小澤寛樹 中外医学社 4,968円
おとなの発達症のための医療系支援のヒント 今村明 星和書店 3,024円

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査（筆記試験）80%、レポート20点、合計100点とし、60点以上を合格とする。なお、出席が6割に満たないものは試験の受験資格を失う。

6. 事前・事後学修の内容

特に事前の学修は求めないが、事後は確実に理解し記憶すること。

7. 教員名

小澤寛樹（精神科）、今村明（精神科）、木下裕久（精神科）、金替伸治（精神科）、森本芳郎（精神科）、肥田裕久（非常勤講師）、岡崎祐士（非常勤講師）、小野慎治（非常勤講師）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	0

精神系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	19	月	4	精神医学入門	歴史、主な理論・分野	小澤	4 講
4	19	月	5	精神疾患の分類と診断/精神症候学	分類概念、分類体系、診断基準、治療模擬患者VTR、精神病症状、感情障害症状	金替	4 講
4	19	月	6	精神疾患の分類と診断/精神症候学	分類概念、分類体系、診断基準、治療模擬患者VTR、精神病症状、感情障害症状	金替	4 講
4	23	金	1	精神療法・摂食障害	精神分析、摂食障害	金替	4 講
4	23	金	2	神経症性障害	神経症の全般的説明、強迫性障害、パニック障害、全般性不安障害	金替	4 講
4	26	月	4	児童・青年期における精神障害①	自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症	今村	4 講
4	26	月	5	児童・青年期における精神障害②	児童虐待、子どものトラウマ、その他	今村	4 講
4	26	月	6	統合失調症の症状と治療	精神薬理学、早期介入、薬物療法	森本	4 講
4	30	金	1	災害精神医学	トラウマの概念、PTSDの疫学、介入、治療	木下	4 講
4	30	金	2	症状評価・検査法	面接法、評価尺度、生理学検査（脳波など）、脳画像検査、心理検査（投影法、非投影法など）	金替	4 講
5	6	木	1	生理機能障害①	睡眠障害	森本	2 講
5	6	木	2	生理機能障害②	睡眠障害	森本	2 講
5	6	木	3	リエゾン・コンサルテーション精神医学	概説、対象疾患、せん妄、チーム医療の概説	森本	2 講
5	7	金	1	TBL		金替	4 講
5	7	金	2	TBL		金替	4 講
5	10	火	1	最近の検査機器と治療	NIRS・SPETC・ECT	森本	オンライン
5	10	火	2	精神作用物質性障害/ パーソナリティ障害①	アルコールと薬物関連精神障害、急性中毒、依存症候群（モルヒネ、アンフェタミン、大麻など）、 パナルギールの概念中、分類、診断基準	森本	オンライン
5	10	火	3	精神作用物質性障害/ パーソナリティ障害②	アルコールと薬物関連精神障害、急性中毒、依存症候群（モルヒネ、アンフェタミン、大麻など）、 パナルギールの概念中、分類、診断基準	森本	オンライン
5	13	木	5	気分障害の病態生理と治療①	脳形態、精神生理、心理学、生化学、薬物療法	小澤	4 講
5	13	木	6	気分障害の病態生理と治療②	脳形態、精神生理、心理学、生化学、薬物療法	小澤	4 講
5	17	月	1	司法精神医学	精神保健福祉法、触法精神障害、精神鑑定	金替	4 講
5	17	月	2	統合失調症の病態生理と成因①	脳形態、精神生理、心理学、遺伝疫学、分子遺伝学	非常勤・岡崎	4 講
5	17	月	3	統合失調症の病態生理と成因②	脳形態、精神生理、心理学、遺伝疫学、分子遺伝学	非常勤・岡崎	4 講
5	20	木	5	「ひだクリニック」の活動①	ユーザーによる社会的行動	非常勤・肥田	オンライン
5	20	木	6	「ひだクリニック」の活動②	ユーザーによる社会的行動	非常勤・肥田	オンライン
5	21	金	1	認知症の症候学、疫学、病態、治療、 ケア①	症候学、病態、疫学、薬物療法、非薬物療法	金替	4 講
5	21	金	2	認知症の症候学、疫学、病態、治療、 ケア②	症候学、病態、疫学、薬物療法、非薬物療法	金替	4 講
5	26	水	1	器質性・症状性精神障害	概説、対象疾患、せん妄、身体疾患に伴う精神障害、症状精神病の概説	森本	4 講
5	26	水	2	精神医学における今日のニューロサイ エンス	精神障害のニューロサイエンスの最近の研究から	非常勤・小野	4 講
5	26	水	3	まとめ	まとめ	小澤	4 講
5	27	木	4～6	試験			4 講

免疫・アレルギー疾患系

責任者	氏名（教室）	川上 純（内科学第一）		
	電話番号	095-819-7260	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日の午後		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Immunology and Allergy		

1. 授業の概要及び位置づけ

免疫・アレルギー疾患、特にリウマチ・膠原病の病態・診断・治療について講義する。リウマチ・膠原病の分野は病態解析、診断技術、治療法の進歩が著しい分野である。これら疾患群の共通所見、疾患特異的所見および病態に応じた治療法の選択などを学んでほしい。内容は各疾患を講義した後に、これら疾患群の理解に重要な臓器病変や治療のまとめおよび最近のトピックスも授業する。

2. 授業到達目標

生体防御機構における免疫の特徴について理解し、自己免疫疾患の発症原因と考えられている免疫担当細胞や治療ターゲットを説明できる。発熱・皮疹・関節痛など膠原病疾患でよくみられる主な症候・各疾患によるターゲットとなりやすい臓器障害を説明できる。各疾患の原因、分類、診断および治療を学ぶ。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義主体（スライドとシラバス）

4. 教科書・教材・参考書

シラバス（各講義担当者）、膠原病・リウマチ診療（東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター著、MEDICAL VIEW）、膠原病学（改訂第6版）（塩沢俊一著、丸善）、膠原病診療ノート第3版（三森明夫著、日本医事新報社）

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験の点数60%以上で合格とする。

本論、放射線の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書を参照し、予習復習を行うこと。

7. 教員名

川上 純（リウマチ膠原病内科）、上谷雅孝（放射線科）、右田清志（福島県立医科大学医学部リウマチ膠原病内科学講座）、折口智樹（保健学科）、井田弘明（久留米大学医学部膠原病内科）、西野友哉（腎臓内科）、坂本憲穂（呼吸器内科）、一瀬邦弘（リウマチ膠原病内科）、岩本直樹（リウマチ膠原病内科）、鋤塚さやか（皮膚科）、寶來吉朗（長崎医療センター臨床研究センター）、藤川敬太（JCHO諫早総合病院）、古賀智裕（リウマチ膠原病内科）、清水俊匡（リウマチ膠原病内科）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	S
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	A

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	1	木	1	総論1	自己免疫、リウマチ性疾患総論	第一内科：川上	オンライン
4	1	木	2	総論2	リウマチ膠原病の主要徴候、臨床検査	非常勤講師：右田	オンライン
4	1	木	3	総論3	リウマチ膠原病の臨床検査	非常勤講師：右田	オンライン
4	5	月	4	各論1	成人発症スチル病ほか	第一内科：岩本	4講
4	5	月	5	各論2	シェーグレン症候群	第一内科：清水	4講
4	5	月	6	各論3	関節リウマチの病態と診断	第一内科：川上	4講
4	6	火	1	各論4	全身性エリテマトーデスの病態と診断	第一内科：一瀬	4講
4	6	火	2	各論5	全身性エリテマトーデスの治療	第一内科：一瀬	4講
4	6	火	3	各論6	高齢者のリウマチ性疾患	保健学科：折口	4講
4	7	水	1	各論7	関節リウマチの治療	第一内科：川上	4講
4	7	水	2	各論8	多発性筋炎・皮膚筋炎	第一内科：川上	4講
4	7	水	3	各論9	強皮症、混合性結合組織病	第一内科：古賀	4講
4	8	木	1	各論10	血管炎症候群1-大型血管炎	保健学科：折口	オンライン
4	8	木	2	各論11	血管炎症候群2-中小型血管炎	保健学科：折口	オンライン
4	8	木	3	放射	放射線科	放射線科：上谷	オンライン
4	9	金	1	リウマチ性疾患の腎病変	リウマチ性疾患と腎	第二内科：西野	4講
4	9	金	2	リウマチ性疾患の肺病変	リウマチ性疾患と肺	第二内科：坂本	4講
4	9	金	5	膠原病の皮膚症状	膠原病の皮膚症状	皮膚科： 鯨塚	4講
4	9	金	6	各論12	脊椎関節炎	非常勤講師：藤川	4講
4	12	月	1	TBL	免疫・アレルギー系 TBL	第一内科：岩本	2講
4	12	月	2	TBL	免疫・アレルギー系 TBL	第一内科：岩本	2講
4	15	木	1	各論13	ベーチェット病	非常勤講師：寶來	オンライン
4	15	木	2	各論14	自己炎症性疾患、不明熱	非常勤講師：井田	オンライン
4	16	金	1～2	試験	免疫・アレルギー系 試験		4講

脳・神経系

責任者	氏名（教室）	辻野 彰（脳神経内科）		
	電話番号	7262	e-mail	akrtjn@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Diseases of Nervous System		

1. 授業の概要及び位置づけ

人間の脳・神経系は巧みに構築された高次構造・ネットワークによって機能している。神経疾患は、種々の原因（先天異常・遺伝子異常・感染症・炎症・外傷・血管障害・腫瘍・脱髄・変性・免疫異常など）に基づいたこれらの異常によって生じてくる。脳・神経系は中枢神経・末梢神経・神経筋接合部・筋に分けられるが、それらの場において、多種多彩な病因・病態が存在する。

2. 授業到達目標

神経学に必要な基礎的領域をもとに、神経疾患をSystematicに学ぶことができる。脳・神経系疾患では、症状と経過を問診により詳細に把握すること、神経学的診察を行い、責任病巣を正確にとらえることにより、よりの確な病因的診断に結びつく。本講義により、そのプロセスを学ぶことができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

神経内科学14、脳神経外科学12、小児神経学7、整形外科学4、精神神経学2、放射線医学2、病理学9、薬理学4時間から、構成されている。神経学総論は、解剖学・生理学などの基礎的知識をもとに全ての神経系を網羅し、主として神経内科学が担当して行われる。加えて小児神経学の立場から、発達神経学の基礎知識の修得、精神神経学より知能についての講義が行われる。更に、神経診断学を含めた神経学的検査法が、神経内科学、脳神経外科学的立場より講義される。神経学各論では、個々の機能的、器質的疾患に関して、神経内科、脳神経外科、小児神経、整形外科、精神神経科学的領域よりそれぞれ講義される。脳神経系疾患の放射線診断（画像診断）、病理診断、薬理作用に関して、放射線医学、病理学、薬理学的立場から講義される。

4. 教科書・教材・参考書

神経内科ハンドブック 水野美邦 医学書院 14,500 円
 Pediatric Neurology Swaiman Mosby
 標準整形外科学 広畑 和志 他 医学書院 8,700 円
 ニュースタンダード脳神経外科学 生塩之敬、種子田護、山田和雄 三輪書店 7,350 円
 標準放射線医学（第7版） 西谷 弘 他編 医学書院 10,500円

5. 成績評価の方法・基準等

本論、放射線、病理、薬理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書、LACS資料などを参照し、予習復習を行うこと

7. 教員名

辻野 彰（脳神経内科）、立石 洋平（脳神経内科）、宮崎 禎一郎（脳神経内科）、吉村 俊祐（脳神経内科）、長岡 篤志（脳神経内科）、島 智秋（脳神経内科）、金本 正（脳神経内科）、松尾 孝之（脳神経外科）、案田 岳夫（脳神経外科）、角田 圭司（脳神経外科）、出雲 剛（脳神経外科）、堀江 信貴（脳神経外科）、吉田 光一（脳神経外科）、日 宇 健（脳神経外科）、氏福 健太（脳神経外科）、馬場 史郎（脳神経外科）、戸田 啓介（非常勤講師）、里 龍晴（小児科）、梶山 史郎（整形外科）、田上 敦士（整形外科）、森本 芳郎（精神神経科）、中島 正洋（病理学）、島田 厚良（病理学）、有賀 純（薬理学）、藤田 和歌子（薬理学）、森川 実（放射線科）、井手口 怜子（放射線科）

8. 備考

講義ごとに学習テーマを呈示する。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

脳・神経系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	19	月	1	脳神経内科学総論	脳・神経系の構成と機能局在	脳神経内科・辻野	2 講
4	19	月	2	脳神経内科学総論	神経症候学と神経学的検査	脳神経内科・辻野	2 講
4	19	月	3	脳神経内科学各論	虚血性脳血管障害 1	脳神経内科・立石	2 講
4	20	火	1	放射	脳神経系の画像診断1	放射線科・森川	4 講
4	20	火	2	薬理	抗てんかん薬・抗不安薬	医科薬理・藤田	4 講
4	20	火	3	薬理	抗パーキンソン病薬・抗認知症薬	医科薬理・藤田	4 講
4	20	火	5	脳神経内科学各論	虚血性脳血管障害 2	脳神経内科・金本	4 講
4	20	火	6	脳神経内科学各論	頭痛・めまい	脳神経内科・立石	4 講
4	21	水	1	病理	腫瘍・循環障害・感染症（講義）	原研病理・中島	4 講
4	21	水	2	病理	腫瘍・循環障害・感染症（講義）	原研病理・中島	4 講
4	21	水	3	病理	腫瘍・循環障害・感染症（講義）	原研病理・中島	4 講
4	21	水	4	脳神経内科学各論	末梢神経障害	脳神経内科・島	4 講
4	21	水	5	脳神経内科学各論	てんかん	脳神経内科・宮崎	4 講
4	21	水	6	脳神経内科学各論	中枢脱髄疾患	脳神経内科・吉村	4 講
4	22	木	1	脳神経内科学各論	パーキンソン病	脳神経内科・長岡	オンライン
4	22	木	2	脳神経内科学各論	神経変性疾患	脳神経内科・吉村	オンライン
4	22	木	3	脳神経内科学各論	髄膜炎・脳炎	脳神経内科・吉村	オンライン
4	26	月	1	小児神経総論①	神経系の発達と精神運動機能	小児科・里	2 講
4	26	月	2	小児神経総論②	小児神経学的診察	小児科・里	2 講
4	26	月	3	脳神経内科学各論	認知症疾患	脳神経内科・宮崎	2 講
4	27	火	1	放射	脳神経系の画像診断2	放射線科・井手口	2 講
4	27	火	2	薬理	抗精神病薬	医科薬理・有賀	2 講
4	27	火	3	薬理	抗うつ薬・気分安定薬	医科薬理・有賀	2 講
4	27	火	5	脳神経外科総論	脳神経診療における脳神経外科の役割	脳神経外科・松尾	2 講
4	27	火	6	脊椎脊髄	脊椎脊髄外科	脳神経外科・角田	2 講
4	28	水	1	小児	小児脳神経外科	脳神経外科・角田	4 講
4	28	水	2	脳腫瘍④	転移性脳腫瘍、小児脳腫瘍	脳神経外科・吉田	4 講
4	28	水	3	脳腫瘍③	下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫	脳神経外科・馬場	4 講
4	28	水	4	病理	変性疾患（講義）	非常勤・島田	オンライン (ZOOM)
4	28	水	5	病理	変性疾患（講義）	非常勤・島田	オンライン (ZOOM)
4	28	水	6	病理	変性疾患（講義）	非常勤・島田	オンライン (ZOOM)
5	6	木	5	てんかん（a）	てんかんの外科的治療	非常勤・戸田	2 講

脳・神経系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	6	木	6	脳血管障害③	脳血管内治療	脳神経外科・堀江	2 講
5	10	月	1	脳血管障害①	くも膜下出血	脳神経外科・案田	オンライン
5	10	月	2	脳腫瘍①	神経膠腫、悪性リンパ腫	脳神経外科・氏福	オンライン
5	10	月	3	脳血管障害②	脳卒中の外科治療	脳神経外科・出雲	オンライン
5	13	木	1	頭部外傷	頭部外傷一般	脳神経外科・案田	4 講
5	13	木	2	脳腫瘍②	髄膜腫、血管芽腫、神経鞘腫	脳神経外科・日宇	4 講
5	13	木	3	筋疾患・麻痺性疾患/末梢神経(b)	筋疾患，麻痺性疾患の診断と治療 末梢神経の解剖，生理とその診断治療	整形外科・梶山	4 講
5	14	金	1	筋疾患・麻痺性疾患/末梢神経(b)	筋疾患，麻痺性疾患の診断と治療 末梢神経の解剖，生理とその診断治療	整形外科・梶山	2 講
5	14	金	2	脳神経内科学各論	筋疾患	脳神経内科・長岡	2 講
5	17	月	4	小児神経各論③	小児てんかんの診断治療と基礎疾患	小児科・里	4 講
5	17	月	5	小児神経各論④	小児変性疾患・周産期障害	小児科・里	4 講
5	17	月	6	小児神経各論⑤	小児の急性疾患	小児科・里	4 講
5	18	火	5	てんかん(b)	遅発性（非小児期）発症てんかん てんかんと精神症状	精神科・森本	4 講
5	18	火	6	知能低下	知能の定義・測定法・因子構成 知能低下の諸様相	精神科・森本	4 講
5	19	水	1	小児神経各論①	フロッピーインファント	小児科・里	4 講
5	19	水	2	小児神経各論②	小児てんかんの診断・治療	小児科・里	4 講
5	19	水	4	病理	腫瘍・循環障害・感染症（実習）	原研病理・中島	実2・実1
5	19	水	5	病理	腫瘍・循環障害・感染症（実習）	原研病理・中島	実2・実1
5	19	水	6	病理	腫瘍・循環障害・感染症（実習）	原研病理・中島	実2・実1
5	20	木	1	脊椎・脊髄疾患	頸椎，頸髄疾患 胸椎，胸髄疾患（火・木へ）	整形外科・田上	2 講
5	20	木	2	脊椎・脊髄疾患	脊髄の生理・解剖 （火・木へ）	整形外科・田上	2 講
5	20	木	3	脳神経内科学各論	重症筋無力症とLambert-Eaton筋無力症候群	脳神経内科・長岡	2 講
5	24	月	1	TBL		脳神経内科・宮崎	4 講
5	24	月	2	TBL		脳神経内科・宮崎	4 講
5	24	月	3	TBL		脳神経内科・宮崎	4 講
5	25	火	4～6	試験			4 講

皮膚系

責任者	氏名（教室）	室田 浩之（皮膚科学（皮膚病態学））		
	電話番号	7331	e-mail	h-murota@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～17:00 ※必ず事前にアポイントを取ること		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Dermatology		

1. 授業の概要及び位置づけ

皮膚病変は実際に目で見る事が出来る病変であり、生検も容易に行える点が特異といえる。しかし皮膚病変の原因は無数にあり、診断名も煩雑であることが理解されにくい一因であろう。この系では、臨床医に必要な皮膚疾患の概説を行うが、単なる暗記ではなく、皮膚の構造と状態を理解し、病変を見た場合の診断の仕方を、(1)皮疹の見方、(2)病理所見、(3)病因、(4)病態などを把握しながら学んでほしい。

また、「皮膚は内臓の鏡」ともいわれ、思わぬ内臓疾患が判明することもある。皮膚病変の位置づけを全身疾患との関連性の面でも理解してほしい。

2. 授業到達目標

発疹学が説明できるようになり、多彩な皮膚病変を分類することができ、その症状、発生病理を説明できること。

3. 授業内容（講義・実習項目）

全25時間の講義は、皮膚科と形成外科からなる。講義は皮膚の解剖、生理、病理、診断に始まり、皮膚科からは各種皮膚疾患の講義を、形成外科より形態異常、熱傷、瘢痕及びケロイド、皮膚潰瘍などの講義を行い、皮膚と内臓病変、治療をもって終了とする。詳細は講義日程を参照のこと。

4. 教科書・教材・参考書

要点はLACSに掲載するが、全てはカバーできないため、参考書はぜひ一冊持ってほしい。

＜皮膚科、病理＞

あたらしい皮膚科学 第3版 清水 宏 著 中山書店 8,580円

皮膚科学 第10版 大塚藤男 著 金芳堂 13,750円

＜形成外科＞

標準形成外科学 第7版 平林慎一監修 鈴木茂彦・岡崎 睦編集 医学書院 6,380円

TEXT形成外科 第3版 波利井清紀 監修 南山堂 6,600円

5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に筆記試験を行う。各科の時間数に応じて配点を割り当て、総計100点として評価する。60点以上を合格とするが、60点以上であっても各分野での得点が40点に満たない時は不合格となることもある。また、評価には出席率も考慮する。再試験は1回のみ行う。コロナウイルスの感染拡大の状況により、評価方法や基準が変更になることもある。

6. 事前・事後学修の内容

【予習】上記参考資料で、当該部分を一読しておくこと。（1h）【復習】授業の資料を、教科書等を参考にしながら、しっかり復習する。（1h）

7. 教員名

室田浩之（皮膚科）、竹中 基（皮膚科）、鋤塚 大（皮膚科）、小池雄太（皮膚科）、鋤塚 さやか（皮膚科）、岩永 聡（皮膚科）、田中克己（形成外科）、檜山和也（形成外科）、土居華子（形成外科）、岩尾敦彦（形成外科）、四津里英（熱帯医学）、村山直也（非常勤講師）、宿輪哲生（非常勤講師）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	1	木	4	皮膚科学	皮膚科総論	皮膚科・室田	オンライン
4	1	木	5	形成外科学	形成概論、組織移植、人工医用材料	形成外科・田中	オンライン
4	1	木	6	皮膚病理学	皮膚病理学	皮膚科・岩永	オンライン
4	2	金	1	皮膚科学	湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹	皮膚科・室田	オンライン
4	2	金	2	皮膚科学	膠原病	皮膚科・室田	オンライン
4	5	月	1	皮膚科学	水疱症・膿疱症	九大・村山	2 講
4	5	月	2	皮膚科学	紫外線皮膚障害	九大・村山	2 講
4	5	月	3	皮膚科学	乾癬、角化症など	皮膚科・小池	2 講
4	6	火	4	皮膚科学	母斑・色素異常症	皮膚科・鉾塚(さ)	4 講
4	6	火	5	皮膚科学	ウイルス感染症・細菌感染症	皮膚科・鉾塚(さ)	4 講
4	6	火	6	皮膚科学	毛髪・爪の異常、脂腺系疾患	原爆・宿輪	4 講
4	7	水	4	皮膚科学	真皮結合組織異常	皮膚科・岩永	4 講
4	7	水	5	皮膚科学	皮膚腫瘍(1)	皮膚科・鉾塚(大)	4 講
4	7	水	6	形成外科学	創傷治癒、瘢痕・ケロイド、褥瘡・難治性潰瘍	形成外科・檜山	4 講
4	8	木	4	皮膚科学	皮膚生理学:触覚、発汗	皮膚科・室田	オンライン
4	8	木	5	皮膚科学	熱帯皮膚感染症	熱研・四津	オンライン
4	8	木	6	形成外科学	熱傷・化学損傷	形成外科・土居	オンライン
4	12	月	3	皮膚科学	皮膚腫瘍(2)	皮膚科・鉾塚(大)	2 講
4	12	月	4	形成外科学	皮膚縫合法、植皮・各種皮弁、Z形成術	形成外科・岩尾	4 講
4	12	月	5	皮膚科学	TBL	皮膚科・	4 講
4	12	月	6	皮膚科学	TBL	皮膚科・	4 講
4	13	火	1	皮膚科学	真菌症・虫による皮膚病	皮膚科・竹中	2 講
4	13	火	2	皮膚科学	薬疹	皮膚科・竹中	2 講
4	13	火	3	皮膚科学	紅斑症、膠原病関連疾患	皮膚科・竹中	2 講
4	13	火	4	皮膚科学	皮膚リンパ腫及び関連疾患	皮膚科・小池	2 講
4	14	水	4～6	試験			4 講

視覚系

責任者	氏名（教室）	北岡 隆（眼科学（眼科・視覚科学））		
	電話番号	7344	e-mail	tkitaoka@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 18:00～19:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Ophthalmology		

1. 授業の概要及び位置づけ

外界からの情報の80%以上は視覚を通して得られ、「失明宣告」は「死の宣告」にも匹敵する。本授業ではこの重要な感覚器である眼と付属器を基礎医学の知識をもとに体系づけて学習し、眼科学と他臓器疾患との関連性を理解していく。

具体的には、視覚器の構造と機能を学習し、視覚を脅かす疾患について理解を深める。また全身疾患から生じる視機能障害の原因と症状を学ぶ。さらに内科的検査で視診に相当する細隙灯検査・眼底検査の基本的検査から、蛍光造影検査・光干渉断層計等の眼科特有の検査について学び、視機能を回復させる眼科治療についても学習する。

2. 授業到達目標

眼科学の基本を体系的に学び、他臓器疾患との関連性を理解する。

すべての医師にとって必要な眼科領域の知識を習得し、糖尿病・高血圧などの全身疾患から生じる眼合併症の重要性を認識する。また眼科疾患とわからずに内科・総合診療科等を受診し、見逃される可能性の高い眼科疾患についても鑑別できることを目標とする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義内容：眼と付属器の解剖および生理、視機能とその検査、眼瞼疾患、涙器疾患、結膜疾患、角膜疾患。ぶどう膜疾患、水晶体疾患、網膜硝子体疾患、緑内障、視神経・視路疾患、視覚期の発生・小児の視機能とその発達・斜視弱視、外眼筋疾患、眼窩疾患、全身病（循環器疾患、糖尿病、先天代謝異常、血液疾患、悪性腫瘍、内分泌疾患、ビタミン欠乏、皮膚疾患、膠原病、感染症、医原性疾患・中毒・薬剤副作用、染色体異常、未熟児網膜症、筋・骨・結合組織疾患、その他）と眼、外傷、眼科救急疾患

思考過程を重視し、考える講義にする。スライドおよび実際の眼科診療機材を提示し、視覚的アプローチを重視した講義を行う。

4. 教科書・教材・参考書

1. Vaughan & Asbury's General Ophthalmology. 19th Ed. Paul Riordan-Eva, Emmett T. Cunningham Jr. McGraw-Hill Medical Publishing 約12,000円
2. Clinical Ophthalmology: A Systematic Approach 9th Ed. Jack J. Kanski Butterworth-Heinemann Medical 約33,000円
3. 現代の眼科学 第13版 所敬（監）、吉田晃敏、谷原秀信（編）金原出版 約7,800円

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験にて可否を判定するが、出席状況も加味し、60点以上を合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

眼球および付属器に関して、今までに学んできた知識をもって授業に臨むこと。

7. 教員名

北岡 隆（眼科）、上松聖典（眼科）、築城英子（眼科）、大石明生（眼科）、松本牧子（眼科）、草野真央（眼科）、前川有紀（眼科）、原田史織（眼科）、井上大輔（眼科）、山田香菜子（眼科）、山之内宏一（思案橋ツダ眼科）、嵩 義則（ダケ眼科）、今村直樹（南長崎ツダ眼科）、三島一晃（三島眼科）、吉田茂生（久留米大学 眼科）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

視覚系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	28	金	1	眼科総論	眼の構造・機能Ⅰ	眼科・北岡	2 講
5	28	金	2	眼科総論	眼の構造・機能Ⅱ	眼科・北岡	2 講
5	31	月	5	眼科総論	眼科検査Ⅰ	眼科・北岡	2 講
5	31	月	6	眼科総論	眼科検査Ⅱ	眼科・草野	2 講
6	1	火	5	全身疾患と眼	糖尿病網膜症	眼科・吉田	オンライン
6	1	火	6	眼科総論	眼科検査Ⅲ	眼科・前川	オンライン
6	2	水	1	眼科総論	眼科症候学	眼科・松本	オンライン
6	2	水	2	神経眼科	神経眼科	眼科・大石	オンライン
6	2	水	3	遺伝	全身疾患・遺伝と眼疾患	眼科・大石	オンライン
6	3	木	1	眼底	黄斑疾患	眼科・前川	2 講
6	3	木	2	眼底	網膜循環障害	眼科・築城	2 講
6	3	木	3	リハビリテーション	ロービジョンケア	非常勤・山之内	2 講
6	4	金	1	眼窩・神経眼科	眼窩疾患	非常勤・三島	2 講
6	4	金	2	網膜	網膜疾患	眼科・築城	2 講
6	7	月	4	中間透光体	水晶体	眼科・松本	2 講
6	7	月	5	発生	発生・奇形	眼科・上松	2 講
6	7	月	6	発達・眼位	斜視・弱視	眼科・上松	2 講
6	8	火	5	緑内障	緑内障Ⅰ	非常勤・嵩	オンライン
6	8	火	6	緑内障	緑内障Ⅱ	眼科・井上	オンライン
6	9	水	1	前眼部	角膜・涙液	非常勤・今村	4 講
6	9	水	2	前眼部	眼瞼・結膜・涙道	眼科・上松	4 講
6	10	木	1	ぶどう膜	ぶどう膜炎Ⅰ	眼科・原田	4 講
6	10	木	2	ぶどう膜	ぶどう膜炎Ⅱ	眼科・山田	4 講
6	10	木	3	救急	眼科救急と外傷	眼科・草野	4 講
6	14	月	1～3	TBL	緑内障及び糖尿病網膜症	眼科・大石	4 講
6	15	火	4～6	試験			4 講

耳鼻咽喉口腔系

責任者	氏名（教室）	熊井 良彦（耳鼻咽喉・頭頸部外科学（展開医療科学講座））		
	電話番号	7349	e-mail	ykumai426@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:30～19:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Otorhinolaryngology—Head and Neck Surgery		

1. 授業の概要及び位置づけ

感覚器を中心とした耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の基礎を学び、検査、診断、治療法を理解する。また救急処置の基本を学び、併せて全身ないしは環境と耳鼻咽喉科領域の関連について学習をする。

2. 授業到達目標

耳科学、平衡神経学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、頭頸部外科学の基礎的内容や主要疾患について理解できる。臨床実習および医師国家試験、さらに卒後臨床研修においても応用ができる知識が得られる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義は4年次前期より始まる。耳科学、平衡神経学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、頭頸部外科学に分類される。

4. 教科書・教材・参考書

STEP 耳鼻咽喉科学 第3版 渡辺建介、高橋茂樹 海馬書房 4,428円
新耳鼻咽喉科学 改訂11版 野村 恭也、加我 君孝 南山堂 17,280円

5. 成績評価の方法・基準等

講義内容について、筆記試験にて60点以上を合格とする。
講義は出欠をとり、出席状況が試験の採点に反映される。

6. 事前・事後学修の内容

事前学習としては頭頸部領域の解剖と生理、特に聴覚・平衡覚の生理の予習を推奨する。
事後学習としては講義内容をレジュメとともに復習し、内容を理解するように努め、将来的に実臨床で活かせるようにする。

7. 教員名

熊井良彦（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、吉田晴郎（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、木原千春（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、北岡杏子（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、西秀明（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、佐藤智生（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、池永まり（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、渡邊 毅（地域医療支援センター）、隈上秀高（長崎原爆病院）、神田幸彦（神田E・N・T医院）、金子賢一（長崎医療センター）、江上直也（江上耳鼻咽喉科医院）、寺門万里子（事務補佐）（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、矢野朱実（事務補佐）（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

耳鼻咽喉口腔系

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	31	月	1	耳科学	耳の解剖・生理	耳鼻咽喉科・吉田	2 講
5	31	月	2	耳科学	様々な聴力検査について	耳鼻咽喉科・吉田	2 講
5	31	月	3	耳科学	耳疾患各論①：外耳・画像診断	耳鼻咽喉科・木原	2 講
6	1	火	1	耳科学	耳疾患各論②：中耳	耳鼻咽喉科・北岡	オンライン
6	1	火	2	耳科学	耳疾患各論③：内耳	耳鼻咽喉科・北岡	オンライン
6	1	火	3	平衡神経学	めまい①平衡機能検査	耳鼻咽喉科・木原	オンライン
6	2	水	5	喉頭科学	喉頭疾患、音声外科	耳鼻咽喉科・金子	4 講
6	2	水	6	気管食道科学	気管・食道疾患の総論・各論	耳鼻咽喉科・金子	4 講
6	3	木	4	耳鼻咽喉科学	側頭骨・頭蓋底総論 顔面神経など	耳鼻咽喉科・佐藤	2 講
6	3	木	5	嚥下医学	嚥下① 生理と障害	耳鼻咽喉科・熊井	2 講
6	3	木	6	嚥下医学	嚥下② リハビリと手術	耳鼻咽喉科・熊井	2 講
6	7	月	1	頭頸部外科学	頭頸部腫瘍① 総論 頭頸部癌	耳鼻咽喉科・西	2 講
6	7	月	2	頭頸部外科学	頭頸部腫瘍② 疾患各論	耳鼻咽喉科・西	2 講
6	8	火	1	耳鼻咽喉科学	側頭骨・頭蓋底疾患各論	耳鼻咽喉科・山本	オンライン
6	8	火	2	平衡神経学	めまい②疾患各論など	耳鼻咽喉科・隈上	オンライン
6	8	火	3	平衡神経学	めまい③診断と疾患など	耳鼻咽喉科・江上	オンライン
6	9	水	4	口腔・咽頭科学	口腔・咽頭・唾液腺疾患	耳鼻咽喉科・山本	4 講
6	9	水	5	鼻科学	鼻・副鼻腔① 解剖と生理・検査	耳鼻咽喉科・渡邊	4 講
6	9	水	6	鼻科学	鼻・副鼻腔② 疾患各論	耳鼻咽喉科・渡邊	4 講
6	10	木	4	耳科学	補聴器と先天性難聴	耳鼻咽喉科・神田	4 講
6	10	木	5	耳科学	耳の手術	耳鼻咽喉科・熊井	4 講
6	10	木	6	耳科学	人工内耳	耳鼻咽喉科・佐藤	4 講
6	11	金	1	耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉画像診断・頸部良性疾患	耳鼻咽喉科・吉田	2 講
6	11	金	2	耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科の救急疾患	耳鼻咽喉科・吉田	2 講
6	16	水	1	TBL	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科・渡邊	4 講
6	16	水	2	TBL	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科・渡邊	4 講
6	16	水	3	TBL	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科・渡邊	4 講
6	17	木	4～6	試験	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科・吉田	4 講

小児系

責任者	氏名（教室）	森内 浩幸（小児科学）		
	電話番号	095-819-7298	e-mail	hiromori@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00 -18:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Pediatrics & Pediatric Surgery		

1. 授業の概要及び位置づけ

ヒトが胎芽期、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期を駆け抜けながら刻々と成長発達していく過程における生理と病理を、内科的および外科的な観点から学んでいく。『小児は大人を小さくしたものではない』ことを理解してもらう

2. 授業到達目標

正常発達過程を理解することができる。小児の特異性を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。成長発達していく過程で生じる主な内科的・外科的疾患の病態生理・臨床的特徴・診断法・予防法・治療法を覚える。（小児科総括講義と併せて）小児患者に対する症候学的アプローチの基礎を習得し、小児科臨床実習を行うにあたって必要な臨床知識を整理することができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

概要：オムニバス形式で小児の正常発達、（他の系で取り上げられていない）小児内科的疾患、小児外科的疾患、小児形成外科的疾患、小児歯科学を講義する。

4. 教科書・教材・参考書

形成外科：『標準形成外科学 第7版 平林慎一監修 鈴木茂彦・岡崎 睦編集 医学書院 6,260円』、『TEXT形成外科学 第3版 波利井清紀監修 中塚貴志・亀井 譲編集 南山堂 6,480円』

小児外科：小児外科 『標準小児外科学 鈴木・横山・岡田 編 医学書院』

小児科：小児科に関しては、特に指定しない。必要な資料は適宜紹介する。

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査によって、主な小児疾患の病態生理・臨床像・診断・予防・治療法の理解と習得できた知識のレベルを評価する。

6. 事前・事後学修の内容

小児の疾患については他の多くの系の授業の中でも取り上げられており、それらを総合して始めて小児の疾患を網羅的に学ぶことができる。小児系とこれらの系の関連講義で学んだことを相互に連結されるように予習・復習する。

7. 教員名

森内 浩幸（小児科）、木下 史子（小児科）、伊達木 澄人（小児科）、橋本 邦生（小児科）、藤原 卓（小児歯科）、田中 克己（形成外科）、樫山 和也（形成外科）、田浦 康明（第一外科）、小坂 太一郎（第二外科）、近藤 達郎（みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家）、本山 和徳（みさかえの園あゆみの家）、平松 公三郎（みさかえの園あゆみの家）、小柳 憲司（長崎県立こども医療福祉センター）、岡田 雅彦（みさかえの園あゆみの家）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	21	月	1～3	総論・成長・発達・育児	総論・成長・発達・育児：乳幼児期は感受性が高く、両親から多くを学び、親子が共に急速に成長する時期である。妊娠・出産・子育てを理解し、人生で最も大事な時期を医師として如何に支援していくかを学ぶ。	小児科・森内 浩幸	4 講
6	22	火	4～6	先天異常・遺伝	メンデル遺伝、多因子遺伝、ミトコンドリア遺伝、染色体異常、後成的修飾による疾患を各々概説し、遺伝性疾患患者がおかれている諸問題及びそれに対するの遺伝カウンセリングについて論じる。	小児科・伊達木 澄人	4 講
6	23	水	4	感染症	小児の免疫学的特徴を理解し、種々の病原体の疫学と生態学を知り、小児における主な感染症を学ぶ。	小児科・森内 浩幸	4 講
6	23	水	5～6	内分泌・代謝・栄養	小児の成長の特性について理解するとともに、発達期の栄養と内分泌代謝疾患の概要を把握する。	小児科・伊達木 澄人	4 講
6	24	木	4～6	小児外科（1）	顔面・頸部、胸部（胸壁・肺・気管・縦隔・横隔膜・乳腺・食道）、消化管（胃・十二指腸・空回腸・結腸・直腸）疾患の発生、病態、診断、治療について理解する。	第一外科・田浦 康明	4 講
6	28	月	1～2	小児心療内科	小児の心と身体に関わりについて学ぶ。小児の心身症、行動障害、不登校など、心身医学的配慮が必要な病態と、その対応について理解する。	非常勤・小柳 憲司	4 講
6	28	月	3	発達障害	発達障害の概念、医療的対応について述べ、児の早期発達支援ならびに家族支援の重要性を学ぶ。	非常勤・本山 和徳	4 講
6	29	火	4～6	小児外科（2）	肝胆膵・腹壁・移植・腫瘍（特に胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症）、腹壁形成異常（臍帯ヘルニア、腹壁破裂）、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、小児の移植、小児固形腫瘍と集学的治療について概説する。	第二外科・小坂 太郎	4 講
6	30	水	4	小児歯科	①口腔や歯に影響を及ぼす疾患や薬剤について、②齲蝕原性細菌の伝播と齲蝕の発生メカニズムについて	小児歯科・藤原 卓	4 講
6	30	水	5	発達障害	発達障害の概念、医療的対応について述べ、児の早期発達支援ならびに家族支援の重要性を学ぶ。	非常勤・本山 和徳	4 講
6	30	水	6	内分泌・代謝・栄養	小児の成長の特性について理解するとともに、発達期の栄養と内分泌代謝疾患の概要を把握する。	小児科・伊達木 澄人	4 講
7	1	木	4～6	新生児	新生児期は胎児期から乳児・小児期への移行期にあたり、特殊な生理・病態を呈する。胎児・新生児の生理をよく理解してもらった上で、早産に代表されるハイリスク新生児の病態や疾患について解説する。	小児科・木下 史子	4 講
7	6	火	4	小児形成外科	正常発生と先天性疾患の病態・治療を学ぶ	形成外科・田中 克己	4 講
7	6	火	5	小児形成外科	正常発生と先天性疾患の病態・治療を学ぶ	形成外科・檜山 和也	4 講
7	6	火	6	療育医療	医療を要する重度重複障害児の存在を認識し、命を支え障害と共に生きるために必要な医療について理解する。	非常勤・岡田 雅彦	4 講
7	7	水	4	呼吸器・アレルギー・免疫	①小児気管支喘息の病態生理・診断・重症度分類・治療（急性発作への対応、長期管理のための薬物療法）	小児科・橋本 邦生	4 講
7	7	水	5	呼吸器・アレルギー・免疫	②食物アレルギーの臨床型分類・診断・治療・予防、③アナフィラキシーの定義・対応を学ぶ。	小児科・橋本 邦生	4 講
7	7	水	6	呼吸器・アレルギー・免疫	④小児期に発症する自己免疫疾患を習得する。	小児科・橋本 邦生	4 講
7	12	月	1～3	TBL		非常勤・岡田 雅彦	2 講
7	13	火	4～6	試験			4 講

法医学系

責任者	氏名（教室）	池松 和哉（法医学）		
	電話番号	7076	e-mail	k-ikema@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30～17:30		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Forensic Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

法医学は「医学的解明助言を必要とする法律上の案件・事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的な人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的」としており、これを達成するために必要な知識獲得を到達目標とする。

2. 授業到達目標

1. 「異状死」という概念を説明できること。

2. 医師の専任事項である死体検案（死後診察）について確実に理解できること。

特に、検案の主目的である「死因」、「死亡推定時刻」、「個人識別」、「法医学的異状の有無」に関しては、論理的で正確な判断を行なえること。

3. 医師として必要な「死亡診断書（死体検案書）」を正確に記載・作成できること。

3. 授業内容（講義・実習項目）

到達目標に則して、死因論、損傷論、個人識別、及び異状死の概念と死体検案の方法並びに死体検案書の記載・作成法等の講義を行なう。

4. 教科書・教材・参考書

学生のための法医学（改訂6版） 田中 宣幸 他 南山堂 5,300円

死体検案マニュアル2010年 日本法医学会 日本法医学会 2,000円

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査70%、小テスト15%、レポート15%で評価する。

上記到達目標を60%以上到達できた場合を合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

講義前に教科書を読み、法医学用語を学習しておく。

7. 教員名

池松 和哉（法医学）、梅原 敬弘（法医学）、村瀬 壮彦（法医学）、山下 裕美（法歯学）、神田 芳郎（久留米大学法医学）、久保 真一（福岡大学法医学）、木下 博之（香川大学法医学）、北村 修（杏林大学法医学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	21	火	1	死体現象	死体現象と死後経過時間の推定	池松 和哉	1 講
9	21	火	2	死の判定と死因(外因死と内因死)	生から死への過程、死の判定、死因、死因論・外因死と内因死の定義	池松 和哉	1 講
9	24	金	1	個人識別 (1)	個人識別の実際	梅原 敬弘	3 講
9	24	金	2	死後画像診断	法医学における画像診断	村瀬 壮彦	3 講
9	27	月	1	個人識別 (2)	歯科所見による個人識別	山下 裕美	4 講
9	27	月	2	内因死	法医学における内因性急死	北村 修	4 講
9	28	火	1	損傷 (1)	損傷の評価法	池松 和哉	4 講
9	28	火	2	損傷 (2)	頭部外傷の特徴を法医剖検症例をもとに概説する。	久保 真一	4 講
9	30	木	1	損傷 (3)	損傷総論	池松 和哉	4 講
9	30	木	2	損傷 (4)	鈍器損傷	池松 和哉	4 講
10	1	金	1	血液型と遺伝子多型	・唾液・精液・尿・汗・涙・皮膚垢・毛髪・爪・歯肉・骨髄・血液型と遺伝子多型について説明できる。	神田 芳郎	3 講
10	1	金	2	損傷 (5)	鋭器・銃器損傷	池松 和哉	3 講
10	4	月	1	法医中毒学 (1)	中毒総論 (特徴、発生要因、診断、検査)	木下 博之	4 講
10	4	月	2	法医中毒学 (2)	中毒各論 (一酸化炭素、農薬、医薬品)、アルコール	木下 博之	4 講
10	5	火	1	損傷 (6)	交通事故による損傷	池松 和哉	4 講
10	5	火	2	損傷 (7)	児童・配偶者・高齢者・障害者等に対する虐待	池松 和哉	4 講
10	7	木	1	窒息死 (1)	窒息総論	池松 和哉	4 講
10	7	木	2	窒息死 (2)	頸部圧迫による窒息死 1	池松 和哉	4 講
10	8	金	1	窒息死 (3)	頸部圧迫による窒息死 2	池松 和哉	4 講
10	8	金	2	溺死	溺死体と水中死体	村瀬 壮彦	4 講
10	11	月	1	胎・嬰兒の死	嬰兒殺	池松 和哉	2 講
10	11	月	2	異常環境下の死	高温による障害・低温による障害	池松 和哉	2 講
10	13	水	4	検案の実際	検案の実際	池松 和哉	4 講
10	13	水	5	法医学演習 (1)	症例の検討	池松 和哉	4 講
10	13	水	6	法医学演習 (2)	症例の検討	池松 和哉	4 講
10	15	金	1～3	試験			4 講

衛生学・臨床疫学

責任者	氏名（教室）	佐藤泉美（臨床疫学）		
	電話番号	095-819-7738	e-mail	izumisato@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 13:00～15:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Hygiene and Clinical Epidemiology		

1. 授業の概要及び位置づけ

衛生学は社会医学の学問体系である。衛生学・公衆衛生学は集団を対象としており、地域社会の人の健康の維持向上や健康障害の予防への取組みである。現在の衛生学・公衆衛生学の範囲は多岐に渡り、環境衛生、感染症、予防医学、母子・学校・精神・国際保健、食品保健、栄養など広範囲に及ぶ。人の健康に広範囲に関連する衛生学・公衆衛生学では、集団での疾病の頻度や分布、その関連因子を検討する疫学が重要な役割を果たす。本授業では、感染症、国際保健、食品保健、栄養、疫学の基礎から実践までを体系的に学ぶ。

2. 授業到達目標

1. 疫学概念と指標や試験デザインの理解
2. 研究倫理と患者の人権の理解
3. 感染症対策の理解
4. 食品保健・栄養の理解
5. 国際保健の理解
6. 法医学（医事法制）の理解

3. 授業内容（講義・実習項目）

本授業では、以下の項目を各専門家によるオムニバス形式で講義を行う。

1. 感染症概論
2. 研究倫理と臨床試験・治験
3. 疫学
4. 国際保健
5. 感染症対策一般
6. 食品保健・栄養
7. 法医学（医事法制）

4. 教科書・教材・参考書

特に指定はないが、以下を参考図書としてあげる。

1. ロスマンの疫学 第2版 篠原出版新社
2. 疫学－医学的研究と実践のサイエンス メディカルサイエンスインターナショナル
3. 標準公衆衛生・社会医学（標準医学シリーズ） 第2版 医学書院

5. 成績評価の方法・基準等

4年前期試験期間に行う定期考査70%、課題レポート30%とし、総合得点の60点以上を合格とする。なお、法医学領域の評価は別途実施する。

6. 事前・事後学修の内容

参考図書等を参照し、予習復習を行うこと。

7. 教員名

佐藤 泉美（臨床疫学）、山本 太郎（熱研国際）、福島 千鶴（臨床研究センター）、高村 昇（原研国際）、池松 和哉（法医学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

衛生学・臨床疫学

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	15	木	4	衛生学・臨床疫学	ガイダンス	臨床疫学・佐藤	2 講
7	15	木	5	感染症	感染症概論	熱研国際・山本	2 講
7	15	木	6	研究倫理	研究倫理と臨床試験・治験	臨床研究センター・福島	2 講
7	19	月	1	疫学	疫学概論	臨床疫学・佐藤	4 講
7	19	月	2	疫学	疫学で使われる指標	臨床疫学・佐藤	4 講
7	19	月	3	疫学	疫学研究のデザイン 1	臨床疫学・佐藤	4 講
7	20	火	5	疫学	疫学研究のデザイン 2	臨床疫学・佐藤	4 講
7	20	火	6	疫学	検査の指標, EBMの実践	臨床疫学・佐藤	4 講
7	21	水	4	国際保健	国際保健 1	原研国際・高村	4 講
7	21	水	5	国際保健	国際保健 2	原研国際・高村	4 講
7	21	水	6	疫学	統計解析の基礎	臨床疫学・佐藤	4 講
7	26	月	1	感染症	感染症法・検疫法・予防接種法	臨床疫学・佐藤	4 講
7	26	月	2	感染症	主要感染症の動向	臨床疫学・佐藤	4 講
7	26	月	3	感染症	院内感染対策	臨床疫学・佐藤	4 講
7	27	火	5	食品保健	食品保健概論	臨床疫学・佐藤	4 講
7	27	火	6	食品保健	食中毒	臨床疫学・佐藤	4 講
7	28	水	4	栄養	栄養概論	臨床疫学・佐藤	2 講
7	28	水	5	法医学	医事法制 1	法医学・池松	2 講
7	28	水	6	法医学	医事法制 2	法医学・池松	2 講
7	29	木	1	法医学	医事法制 3	法医学・池松	2 講
7	29	木	2	法医学	死亡診断書の書き方	法医学・池松	2 講
7	29	木	3	衛生学・臨床疫学	まとめと補足	臨床疫学・佐藤	2 講
7	30	金	4～6	試験			2 講

公衆衛生学

責任者	氏名（教室）	青柳 潔（公衆衛生学）		
	電話番号	7065	e-mail	kiyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・火・水曜日 12:00～13:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Medical Care & Public Health		

1. 授業の概要及び位置づけ

この科目は社会医学の中で、公衆衛生学を主体としたものである。人間が生物的・社会的存在であるとの理解の上に、その健康擁護（Health Care）を図るのが社会医学の基本的立場である。本科目の講義を通じて人々の健康像・疾病像が生活環境や保健医療システムに大きく関わっていること、および地域あるいは職域の保健医療等の知識を得る。

2. 授業到達目標

社会・環境と健康、生活習慣と疾病、母子保健、学校保健、環境保健、産業保健の制度を説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義及び実習を行う。講義は4年前期に行われる。実習は4～5年期の臨床実習期間内に離島において行う。

4. 教科書・教材・参考書

教科書は特に指定しない。必要に応じプリントを配布する。

<参考書>

シンプル衛生公衆衛生学 鈴木 庄亮、久道 茂 監修 南江堂
厚生指針「国民衛生の動向」 厚生統計協会

5. 成績評価の方法・基準等

4年前期に筆答試験を行う。60点以上を講義分の合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

参考書等で予習・復習を行うこと

7. 教員名

青柳潔（公衆衛生学）、有馬和彦（公衆衛生学）、水上諭（公衆衛生学）、重藤和弘（研究開発推進寄稿）、草野洋介（非常勤講師）、今井秀樹（非常勤講師）、實森千香子（非常勤講師）、安部恵代（非常勤講師）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

公衆衛生学

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	14	水	1	公衆衛生学序論	健康と社会環境	公衆衛生・青柳	2 講
7	14	水	2	母子保健	現状、母子保健	非常勤・安部	2 講
7	14	水	3	母子保健	母体保護、児童虐待防止	非常勤・安部	2 講
7	15	木	1	学校保健	学校保健安全法、保健管理	公衆衛生・有馬	2 講
7	15	木	2	予防医学・健康増進	ヘルスプロモーション、行動変容	公衆衛生・水上	2 講
7	15	木	3	予防医学・健康増進	生活習慣病と保健	公衆衛生・水上	2 講
7	19	月	5	産業保健	労働衛生行政、労働安全衛生法、産業医	公衆衛生・青柳	2 講
7	19	月	6	産業保健	労働衛生管理、労働災害	公衆衛生・青柳	2 講
7	20	火	1	保健・医療・福祉	社会保障制度	公衆衛生・青柳	オンライン
7	20	火	2	産業保健	重金属中毒	公衆衛生・有馬	オンライン
7	20	火	3	産業保健	農薬中毒	公衆衛生・有馬	オンライン
7	21	水	1	環境保健	環境保全、公害、廃棄物処理	非常勤・今井	4 講
7	21	水	2	環境保健	内分泌攪乱物質	非常勤・今井	4 講
7	21	水	3	環境保健	環境モニタリング	非常勤・今井	4 講
7	26	月	5	保健・医療・福祉	障害と社会、障害者福祉	研究推進・重藤	4 講
7	26	月	6	保健・医療・福祉	医療保険・公費医療・医療経済	研究推進・重藤	4 講
7	28	水	1	産業保健	騒音と振動、異常気圧・気温	公衆衛生・有馬	2 講
7	28	水	2	産業保健	職業癌、頸肩腕障害	非常勤・安部	2 講
7	28	水	3	産業保健	腰痛、VDT	非常勤・安部	2 講
8	2	月	4	産業保健	ガス中毒・酸欠	非常勤・實森	2 講
8	2	月	5	産業保健	有機溶剤・化学物質中毒	非常勤・實森	2 講
8	2	月	6	予防医学・健康増進	健康日本21、健康増進法、プライマリ・ヘルス・ケア	非常勤・草野	2 講
8	4	水	4～6	試験			4 講

地域医療学

責任者	氏名（教室）	永田 康浩（地域医療学分野）		
	電話番号	095-819-7189	e-mail	ynagata1961@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9：00～15：00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Community Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

包括的な地域医療にかかわっている要素は多岐にわたり、保健・医療・福祉・介護等の様々な専門職が有機的に連携しながら地域の大きなヘルス・ケアシステムが動いている。リアルな地域医療を理解するためには個々の機能や役割だけでなく、相互の連携や地域社会全体の仕組みについて理解を深めることが重要である。本科目の講義を通じて、地域のヘルス・ケアシステムを俯瞰的に理解し、地域医療実習につなげるとともに地域医療に貢献するための知識を身に付ける。

2. 授業到達目標

包括的な地域医療の現状と多職種・多施設連携の実態、そして関連する主な制度を説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

地域社会の変化と保健・医療・福祉・介護に関する実務や担っている役割、そしてその活動を支えている制度と社会ネットワークを中心とした講義を行う。そして、4年次後期以降に実施する離島医療・保健実習、地域病院実習、地域包括ケア実習につなぐ。

4. 教科書・教材・参考書

教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

〈参考書〉

国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会監修 診断と治療社
地域医療テキスト 自治医科大学監修 医学書院

5. 成績評価の方法・基準等

ブロック制授業終了後に筆記試験を行う。60点以上を合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

参考書（国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門 診断と治療社）等で予習・復習を行うこと。

7. 教員名

前田隆浩（総合診療科）、川尻真也（地域医療学）、永田康浩（地域医療学）、野中文陽（離島・へき地医療学講座）、延末謙一（離島・へき地医療学講座）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	D

地域医療学

(4年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	14	水	4	医療関連法規	医師法、医療法	総合診療科 前田 隆浩	4 講
7	14	水	5	医療体制	へき地医療・医療費適正化計画	総合診療科 前田 隆浩	4 講
7	14	水	6	医療体制	医療計画	地域医療学 川尻 真也	4 講
7	27	火	1	高齢者保健	地域包括ケアシステムと保健・医療・福祉の連携	地域医療学 永田 康浩	オンライン
7	27	火	2	高齢者保健	高齢者医療・介護保険制度	地域医療学 永田 康浩	オンライン
7	27	火	3	医療体制	地域における救急医療	地域医療学 川尻 真也	オンライン
8	3	火	1	高齢者保健	保健・医療・福祉施設と従業者	地域医療学 永田 康浩	4 講
8	3	火	2	保健統計	社会環境の変動と国民の健康	離島・へき地医療学 野中 文陽	4 講
8	4	水	4～6	試験			4 講

診断学

責任者	氏名（教室）	前田 隆浩（総合診療学）		
	電話番号	7591	e-mail	tmaeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～16:00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
科目英語名	Physical Diagnosis		

1. 授業の概要及び位置づけ

診断学では、臨床の第一歩として医師－患者信頼関係を重視した医療面接技能及び基本的臨床技能を修得する。さらに症候から診断への的確なアプローチ法を学ぶとともに患者の立場に立った医療を行える医師となるための基礎を築くことを目標とする。

2. 授業到達目標

患者と接する際の基本的マナーを身につける。
医療面接において円滑なコミュニケーションと情報収集が行える。
基本的な診察手技を身につけ、目的に応じた身体診察所見を取ることができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

講義：総論として医療面接技能、基本的身体診察技能とともに内科、外科、臨床検査診断、放射線、症候診断、眼底、鼓膜診察法を教授する。

実習：実習要領に沿って総論実習2回と項目についての各論実習を10回行う。
総論実習では、チューターとなる教官がそれぞれのグループの学生に基本的診察技能を指導する。各論実習では、それぞれの専門医が主要症候から診断法、身体診察法を指導する。

4. 教科書・教材・参考書

内科診断学 武内重五郎 南江堂 8,964 円
診察診断学 高久史麿 監修 橋本信也、福井次矢 医学書院 6,480 円
内科診断学（第3版） 編集：福井次矢、奈良信雄 医学書院 10,260円
各自、以下の物品を授業開始までに必ず生協等で購入すること。
・聴診器（ベル型と膜型の両方が付いている物を標準とします。）
・打腱器（購入する型式に迷う場合は、米式を推奨）
・ペンライト（種類は問わない）
また、以下の冊子を授業開始までに学務課にて取得し、毎回必ず持参すること。
・「基本的臨床技能学習マニュアル」
・「診療参加型臨床実習に参加する受験生に必要とされる技能と態度に関する学習・評価項目」

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験：講義及び実習内容について筆答試験を行う。
実技試験：共用試験OSCE（客観的臨床技能試験）により実技試験を行い修得度を判定する。
出席：講義・実習とも出席状況を評価に入れる。講義の出席が全体の3分の2に満たない場合、筆記試験の受験資格を与えないので注意すること。
評価方法：筆記試験と実技試験を総合して評価する。再試験は1回のみ行なう。
成績評価の基準：総点の60%以上かつ実技試験の60%以上を合格とする

6. 事前・事後学修の内容

実習の前には、基本的臨床技能マニュアル（長崎大学医学部編）やその他の教科書であらかじめ予習しておくこと。
LACS（医学部OSCE）に掲載されている動画資料（診療参加型臨床実習に参加する受験生に必要とされる技能と態度教育・学習用動画）を必ず視聴すること。（学習項目毎にあり）

7. 教員名

川上 純（第一内科）、一瀬 邦弘（第一内科）、岩本 直樹（第一内科）、重野 里代子（第一内科）、堀江 一郎（第一内科）、古賀 智裕（第一内科）、清水 俊匡（第一内科）、井川 敬（第一内科）、池岡 俊幸（第一内科）、辻野 彰（脳神経内科）、立石 洋平（脳神経内科）、宮崎 禎一郎（脳神経内科）、吉村 俊祐（脳神経内科）、長岡 篤志（脳神経内科）、迎 寛（第二内科）、尾長谷 靖（第二内科）、福島 千鶴（第二内科）、坂本 憲穂（第二内科）、石本 裕士（第二内科）、西野 友哉（腎臓内科）、阿部 伸一（腎臓内科）、牟田 久美子（腎臓内科）、山下 鮎子（腎臓内科）、鳥越 健太（腎臓内科）、辻 清和（腎臓内科）、前村 浩二（循環器内科）、河野 浩章（循環器内科）、池田 聡司（循環器内科）、深江 学芸（循環器内科）、武居 明日美（循環器内科）、土居 寿志（循環器内科）、吉牟田 剛（循環器内科）、米倉 剛（循環器内科）、江口 正倫（循環器内科）、荒川 修司（循環器内科）、赤司 良平（循環器内科）、南 貴子（循環器内科）、泉田 誠也（循環器内科）、佐藤 大輔（循環器内科）、中尾 一彦（消化器内科）、山口 直之（消化器内科）、宮明 寿光（消化器内科）、松島 加代子（消化器内科）、三馬 聡（消化器内科）、小澤 栄介（消化器内科）、本田 琢也（消化器内科）、佐々木 龍（消化器内科）、原口 雅史（消化器内科）、赤澤 祐子（消化器内科）、橋口 慶一（消化器内科）、北山 素（消化器内科）、田渕 真惟子（消化器内科）、福島 真典（消化器内科）、宮崎 泰司（血液内科）、今泉 芳孝（血液内科）、澤山 靖（血液内科）、有吉 紅也（感染症内科）、泉田 真生（感染症内科）、清水 真澄（感染症内科）、熊井 良彦（耳鼻咽喉科）、渡邊 毅（耳鼻咽喉科）、北岡 隆（眼科）、上松 聖典（眼科）、上谷 雅孝（放射線科）、森川 実（放射線科）、前田 隆浩（総合診療科）、中道 聖子（総合診療科）、山梨 啓友（総合診療科）、赤羽目 翔悟（総合診療科）、柳原 克紀（臨床検査医学）、長谷川 寛雄（臨床検査医学）、小佐井 康介（臨床検査医学）、坂本 啓（臨床検査医学）、加勢田 富士子（臨床検査医学）、永安 武（腫瘍外科）、野中 隆（腫瘍外科）、松本 恵（腫瘍外科）、江口 晋（移植・消化器外科）、金高 賢悟（移植・消化器外科）、井上 悠介（移植・消化器外科）、田中 貴之（移植・消化器外科）、丸屋 安広（移植・消化器外科）、尾崎 誠（整形外科）、米倉 暁彦（整形外科）、千葉 恒（整形外科）、中添 悠介（整形外科）、小林 恭介（整形外科）、白石 和輝（整形外科）、田崎 修（救命救急センター）、早川 航一（救命救急センター）、平尾 朋仁（救命救急センター）、山野 修平（救命救急センター）、山下 和範（救命救急センター）、猪熊 孝実（救命救急センター）、野崎 義宏（救命救急センター）、田島 吾郎（救命救急センター）、泉野 浩生（救命救急センター）、上村 恵理（救命救急センター）、泉川 公一（感染制御教育センター）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、安武 亨（先端医学センター）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	D

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	26	火	1	診断学総論①	診断のプロセス，医療面接	総合診療科 前田隆浩，中道聖子	3 講
10	26	火	2	診断学総論②	基本的身体診察	総合診療科 前田隆浩，中道聖子	3 講
10	26	火	3	放射線診断学総論①	X線・CTの基本	放射線科 上谷雅孝	3 講
10	26	火	4	各論実習①	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	26	火	5	各論実習①	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	26	火	6	各論実習①	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	27	水	1	放射線診断学総論②	MRIの基本	放射線科 森川 実	3 講
10	27	水	2	放射線診断学総論③	造影剤・医療被ばく	放射線科 森川 実	3 講
10	27	水	3	臨床検査医学総論①	微生物検査診断学	検査部 小佐井康介	3 講
10	27	水	4	各論実習②	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	27	水	5	各論実習②	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	27	水	6	各論実習②	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	28	木	1	臨床検査医学総論②	血液診断学	検査部 長谷川寛雄	3 講
10	28	木	2	臨床検査医学総論③	血清診断学	検査部 加勢田 富士子	3 講
10	28	木	3	臨床検査医学総論④	生理学的検査	検査部 坂本 啓	3 講
10	28	木	4	各論実習③	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	28	木	5	各論実習③	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	28	木	6	各論実習③	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	29	金	1	循環器内科学総論	心臓の聴診法	循環器内科 前村浩二	3 講
10	29	金	2	症候診断学①	胸痛	循環器内科 前村浩二	3 講
10	29	金	3	症候診断学②	体重増加・体重減少	内分泌代謝内科 重野里代子	3 講
10	29	金	4	各論実習④	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	29	金	5	各論実習④	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
10	29	金	6	各論実習④	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	1	月	1	症候診断学③	貧血，リンパ節腫脹	血液内科 宮崎泰司	3 講
11	1	月	2	症候診断学④	吐血・下血，便秘・下痢	消化器内科 橋口慶一	3 講
11	1	月	3	外科学診断学総論②	直腸・肛門の診察，外科縫合	第2外科 井上悠介	3 講
11	2	火	1	外科学診断学総論①	乳腺の診察・手洗い・ガウンテクニック	第1外科 松本 恵	3 講
11	2	火	2	症候診断学⑤	発熱患者の診かた	感染症内科 山梨啓友	3 講
11	2	火	3	診断学総論③	限られた医療資源での診断の実際	総合診療科 前田隆浩、山梨啓友	3 講
11	2	火	4	各論実習⑤	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	2	火	5	各論実習⑤	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	2	火	6	各論実習⑤	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	4	木	1	症候診断学⑥	浮腫，血尿・蛋白尿	腎臓内科 山下鮎子	3 講
11	4	木	2	脳神経内科学総論	神経診察法	脳神経内科 辻野 彰	3 講
11	4	木	3	症候診断学⑦	ショック	救命救急センター 上村恵理	3 講
11	4	木	4	各論実習⑥	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	4	木	5	各論実習⑥	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	4	木	6	各論実習⑥	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	5	金	1	症候診断学⑧	頭痛，運動麻痺，筋力低下	脳神経内科 長岡篤志	3 講
11	5	金	2	症候診断学⑨	胸水、動悸	循環器内科 前村浩二、深江学芸	3 講
11	5	金	3	予備 1：動画視聴推奨			3 講
11	5	金	4	各論実習⑦	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	5	金	5	各論実習⑦	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	5	金	6	各論実習⑦	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	8	月	1	症候診断学⑩	心停止	救命救急センター 平尾朋仁	3 講
11	8	月	2	症候診断学⑪	外傷・熱傷	救命救急センター 野崎義宏	3 講
11	8	月	3	予備 2：動画視聴推奨			3 講
11	9	火	1	症候診断学⑫	嚥下困難，腹痛，悪心・嘔吐	消化器内科 北山 素	3 講

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	9	火	2	症候診断学⑬	けいれん，意識障害，失神	脳神経内科 立石洋平	3 講
11	9	火	3	症候診断学⑭	全身倦怠感・脱水	総合診療科 前田隆浩、赤羽目翔梧	3 講
11	9	火	4	各論実習⑧	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	9	火	5	各論実習⑧	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	9	火	6	各論実習⑧	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	10	水	1	鼓膜の診察法①	耳鏡の使い方～基本編～	耳鼻咽喉科 渡邊 毅	3 講
11	10	水	2	鼓膜の診察法②	耳鏡の使い方～実践編～	耳鼻咽喉科 渡邊 毅	3 講
11	10	水	3	予備 3：動画視聴推奨			3 講
11	10	水	4	各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	10	水	5	各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	10	水	6	各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	11	木	1	症候診断学⑮	食思不振，黄疸，腹部膨隆	消化器内科 宮明寿光	3 講
11	11	木	2	眼底の診察法	眼底検査の理論と実際	眼科 上松聖典	3 講
11	11	木	3	症候診断学⑯	尿量・排尿の異常	腎臓内科 阿部伸一	3 講
11	11	木	4	各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	11	木	5	各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	11	木	6	各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	1内・2内・循内・消内・脳内・原内・総診・救命・整外・1外・2外・地域包括	—
11	12	金	1	症候診断学⑰□	AIとIoTの診断学への応用	リウマチ膠原病内科 川上 純	3 講
11	12	金	2	症候診断学⑱	咳・痰，血痰・喀血，呼吸困難	呼吸器内科 迎 寛	3 講
11	12	金	3	予備 4：動画視聴推奨			3 講
11	12	金	4	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	1内・2内・循内・消内・原内・感内・総診	—
11	12	金	5	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	1内・2内・循内・消内・原内・感内・総診	—
11	12	金	6	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	1内・2内・循内・消内・原内・感内・総診	—
11	15	月	1	予備 5：動画視聴推奨			3 講
11	15	月	2	OSCEについて	試験の概要，心構え等	先端医育センター 安武 亨，北山 素	3 講
11	15	月	3	予備 6：動画視聴推奨			3 講
11	15	月	4	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	1内・2内・循内・消内・原内・感内・総診	—
11	15	月	5	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	1内・2内・循内・消内・原内・感内・総診	—
11	15	月	6	内科診断学総論実習①	内科診断学総論実習要項参照	1内・2内・循内・消内・原内・感内・総診	—
11	29	月	4～6	試験			4 講

各論実習ローテーション表

<各論実習>

下記の日程に従って、医療面接、感染症、呼吸器、腎臓、循環器、神経、消化器、血液、四肢と脊柱、外科、膠原病、内分泌、全身状態とバイタル、BLSについての基本的診断手技の実習を行う。

実習期日			10/26	10/27	10/28	10/29	11/2	11/4	11/5	11/9	11/10	11/11	11/12	11/15
実習項目 担当責任教員	実習時間	集合場所 実習場所	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	火曜日	木曜日	金曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	月曜日
医療面接 (地域包括ケア 教育センター) 永田康浩 (総合診療科) 中道聖子	13:30～15:00	第3講義室	I・II (中道)		IX・X (中道)			VII・VIII (永田)		V・VI (永田)		III・IV (中道)	診断学 総論実習	診断学 総論実習
感染症 (感染制御教育センター) 泉川 公一	15:20～16:50	第3講義室	I・II		IX・X			VII・VIII		V・VI		III・IV		
神経疾患 (脳神経内科) 宮崎禎一郎 吉村俊祐	13:30～15:00	第3講義室		I・II		IX・X	VII・VIII		V・VI		III・IV			
	15:20～16:50			I・II		IX・X	VII・VIII		V・VI		III・IV			
血液疾患・頭頸部診察 (原研内科) 澤山 靖	13:30～15:00	病院3階 血液内科外来	III・IV		I・II			IX・X		VII・VIII		V・VI		
四肢と脊柱 (整形外科) 米倉暁彦, 千葉 恒, 中添悠介, 小林恭介, 白石和輝	15:20～16:50	歯学部3階 PBL室⑩	III・IV		I・II			IX・X		VII・VIII		V・VI		
ガウンテクニック・ 手洗い・乳房診察 (1外科) 野中 隆	13:30～15:00	中央診療棟4階 多目的研修室(奥)		III・IV		I・II	IX・X		VII・VIII		V・VI			
縫合 (2外科) 田中貴之 丸屋安広	15:20～16:50	中央診療棟4階 多目的研修室(奥)		III・IV		I・II	IX・X		VII・VIII		V・VI			
腹部診察 (消化器内科) 佐々木 龍	13:30～15:00	中央診療棟4階 シミュレーション室	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII		
	15:20～16:50		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII			
関節痛と関節腫脹・全身状態と バイタル・甲状腺診察 (第1内科) 一瀬邦弘, 井川 敬, 岩本直樹, 古賀智裕, 清水俊匡, 池岡俊幸	15:20～16:50	医学部基礎棟1階 セミナー室3～5		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		
呼吸器疾患 胸部診察 (呼吸器内科) 尾長谷靖	13:30～15:00	中央診療棟4階 多目的研修室(手前)	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X		
	15:20～16:50		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X			
腎臓疾患 叩打痛・静脈採血・導尿 (腎臓内科) 山下鮎子, 牟田久美子, 鳥越健太, 辻 清和, 阿部伸一	15:20～16:50	中央診療棟4階 多目的研修室(手前)		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		
循環器疾患 胸部・血圧測定・心電図 (循環器内科) 深江学芸, 江口正倫, 吉牟田 剛, 泉田誠也, 荒川修司, 赤司良平, 土居寿志, 南 貴子, 佐藤大輔, 米倉 剛, 武居明日美	13:30～15:00	中央診療棟4階 シミュレーション室	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II		
	15:20～16:50		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II			
BLS (救命) 平尾朋仁, 山野修平, 山下和範, 諸熊孝実, 野崎義宏, 田島吾郎, 泉野浩生, 上野恵理	15:20～16:50	中央診療棟4階 シミュレーション室		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		

- ☆ I・IIは各論実習のグループ編成を示す。以下同様
- ☆ グループ編成は後日知らせる。
- ☆ 総論と各論でグループ編成が異なることに注意
- ☆ BLS: Basic Life Support
- ☆ 実習 (各論) の開始は13:30からである。講義とは異なっているので気をつけること

内科診断学総論要項

<総論実習>

基本的身体診察法を学ぶための実習2回（11/12(金), 11/15(月)のいずれも午後）は、A～Pの16グループに分かれて、下表の指導教員のもとで行う。各実習日の13:30に下表の場所に集合すること。

グループ	指導担当教員	集合場所・実習場所
A	(第1内科) 堀江一郎 (11/15 午後)	シミュレーション室1
B	(第1内科) 古賀智裕 (11/12 午後)	
C	(第1内科) 一瀬邦弘 (11/12 午後)	
D	(第2内科) 尾長谷靖	病院3階 呼吸器内科外来集合
E	(第2内科) 福島千鶴	
F	(第2内科) 坂本憲穂	
G	(循環器内科) 河野浩章、池田聡司	病院2階 循環器内科外来
H	(循環器内科) 河野浩章、池田聡司	
I	(消化器内科) 山口直之	病院3階 消化器内科外来
J	(消化器内科) 宮明寿光	病院9階 チェアマン室
K	(原研内科) 今泉芳孝	病院3階 血液内科外来
L	(原研内科) 澤山 靖	
M	(感染症内科) 泉田真生	病院3階 呼吸器感染症外来
N	(感染症内科) 清水真澄	
O	(総合診療科) 中道聖子	11/12 病院1階 総合診療科外来・11/15 第3講義室
P	(総合診療科) 赤羽目翔悟	11/12 第3講義室・11/15 病院1階 総合診療科外来

☆ A・Bは総論実習のグループ編成を示す。以下同様

☆ グループ編成は後日知らせる。

☆ 実習（総論）の開始は13:30からである。講義とは異なっているので気をつけること。

外科治療学

責任者	氏名（教室）	江口 晋（移植・消化器外科学）		
	電話番号	7312	e-mail	sueguchi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17：00～18：00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Surgical Therapeutics		

1. 授業の概要及び位置づけ

外科治療学では外科総論、救急医学、臓器移植と人工臓器および麻酔科学について学ぶ。

2. 授業到達目標

外科総論においては外科的侵襲と患者の病態生理、術前術後管理が理解できる。救急医学においては救急患者の診断および重症病態の管理について理解できる。臓器移植においては臓器移植の種類・内容と移植免疫、人工臓器においては種類と必要条件および問題点を理解できる。麻酔科学においては麻酔法、麻酔薬および呼吸循環管理など周術期管理を理解できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

外科総論においては外科的侵襲と手術患者の病態生理、基本的手術手技や術前術後管理を中心に学ぶ。救急医学においては救急患者の診断および重症病態の管理について学ぶ。臓器移植においては臓器移植の種類、内容と移植免疫、人工臓器においては人工臓器の種類と必要条件および問題点を中心に学ぶ。麻酔科学においては麻酔法、麻酔薬および呼吸循環管理など周術期管理を中心に学ぶ。

4. 教科書・教材・参考書

標準外科学 13版 監修：加藤 治文 医学書院
 Principles of Surgery, 9th ed. Schwartz S.I. McGraw-Hill 15,513円
 Textbook of Surgery, 19th ed Sabiston D.C Saunders 16,334円
 T E X T麻酔・蘇生学 4版 澄川耕二、土肥 修司 編 南山堂 6,800円
 外傷初期診療ガイドライン 日本外傷学会・日本救急医学会 監修 へるす出版 16,800円

5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。再試験は1回行う。

6. 事前・事後学修の内容

解剖学、生理学、臓器機能・体液系を復習しておく。

7. 教員名

土谷 智史（腫瘍外科）、松本 桂太郎（腫瘍外科）、宮崎 拓郎（腫瘍外科）、野中 隆（腫瘍外科）、大坪 竜太（腫瘍外科）、荒井 淳一（腫瘍外科）、松本 恵（腫瘍外科）、富永 哲郎（腫瘍外科）、江口 晋（移植・消化器外科）、日高 匡章（移植・消化器外科）、久芳 さやか（移植・消化器外科）、小坂 太一郎（移植・消化器外科）、小林 慎一朗（移植・消化器外科）、原 貴信（移植・消化器外科）、松島 肇（移植・消化器外科）、丸屋 安広（移植・消化器外科）、森田 道（移植・消化器外科）、岡田 怜美（移植・消化器外科）、今村 一步（移植・消化器外科）、足立 利幸（移植・消化器外科）、原 哲也（麻酔科）、村田 寛明（麻酔科）、石井 浩二（麻酔科）、樋田 久美子（麻酔科）、関野 元裕（集中治療部）、東島 潮（麻酔科）、一ノ宮大雅（麻酔科）、田崎 修（救命救急センター）、山下 和範（救命救急センター）、平尾 朋仁（救命救急センター）、田島 吾郎（救命救急センター）、猪熊 孝実（救命救急センター）、山野 修平（救命救急センター）、宮本 俊之（外傷センター）、松丸 一朗（心臓血管外科）、望月 保志（泌尿器科）、大塚 隆生（鹿児島大学消化器乳腺甲状腺外科）

8. 備考

通常の講義時間割とは別に、以下の時間割に従って実施する。

午前…① 8:50-9:50、② 9:55-10:55、③ 11:00-12:00

午後…④ 13:00-14:00、⑤ 14:05-15:05、⑥ 15:10-16:10

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	21	火	4	外科の歴史と外科医の立場	(1)外科の歴史、(2)外科医と法、(3)専門医制度	腫瘍外科 野中 隆	4 講
9	21	火	5	問診ならびに外科的診察法	(1)病歴、(2)理学的所見	腫瘍外科 荒井 淳一	4 講
9	21	火	6	麻酔学(1)	歴史・麻酔学の領域	麻酔科 原 哲也	4 講
9	22	水	1	基本的外科手術手技	(1)手術器具、(2)基本的手術操作、(3)小外科手術手技	移植・消化器外科 江口 晋	3 講
9	22	水	2	術前・術後の患者管理(1)	(1)術前の患者管理一般、(2)術前の特殊状態の評価と管理	移植・消化器外科 久芳さやか	3 講
9	22	水	4	麻酔学(2)	全身麻酔：吸入麻酔薬・静脈麻酔薬	麻酔科 原 哲也	3 講
9	22	水	5	術前・術後の患者管理(2)	(3)術後の患者管理一般、(4)術後合併症とその対策	移植・消化器外科 小林慎一郎	3 講
9	22	水	6	救急医学(1)	救急医学概論、救急医療システム	救命救急センター 田崎 修	3 講
9	24	金	4	麻酔学(3)	全身麻酔：オピオイド・筋弛緩薬	麻酔科 原 哲也	3 講
9	24	金	5	ショック(1)	(1)ショックの概念、(2)ショックの原因と分類、(3)ショックの病態	移植・消化器外科 田中貴之	3 講
9	24	金	6	救急医学(2)	救急診察法及び診断、外傷初期診療	救命救急センター 猪熊 孝実	3 講
9	27	月	4	麻酔学(4)	局所麻酔薬	麻酔科 村田寛明	4 講
9	27	月	5	麻酔学(5)	区域麻酔	麻酔科 村田寛明	4 講
9	27	月	6	救急医学(3)	心肺蘇生法と脳死判定	救命救急センター 平尾 朋仁	4 講
9	28	火	4	ショック(2)	(4)ショックの治療、(5)ショックの合併症とショック臓器	移植・消化器外科 足立 利幸	4 講
9	28	火	5	救急医学(4)	環境異常と生体反応	救命救急センター 田島 吾郎	4 講
9	28	火	6	損傷と創傷治癒	(1)機能的損傷、(2)非機能的損傷、(3)創傷の治癒過程、(4)創傷治癒を左右する因子、(5)創傷管理の実際	腫瘍外科 大坪 竜太	4 講
9	29	水	1	麻酔学(6)	周術期循環管理	麻酔科 一ノ宮大雅	4 講
9	29	水	2	救急医学(5)	熱傷、化学損傷、電撃症	救命救急センター 山野 修平	4 講
9	29	水	4	腫瘍	(1)良性腫瘍と悪性腫瘍、(2)発癌メカニズム、(3)悪性腫瘍の病態(4)臨床診断と特殊検査、(5)悪性腫瘍の治療、(6)悪性腫瘍の疫学	腫瘍外科 富永 哲郎	4 講
9	29	水	5	麻酔学(7)	周術期呼吸管理	麻酔科 原 哲也	4 講
9	29	水	6	麻酔学(8)	周術期体液管理	麻酔科 原 哲也	4 講
9	30	木	4	血液凝固異常と輸血	(1)止血機構、(2)止血機構の傷害、(3)輸血の目的、(4)血液製剤の種類と特徴、(5)輸血法、(6)輸血の副作用と合併症	腫瘍外科 松本恵	4 講
9	30	木	5	救急医学(6)	災害医療	救命救急センター 山下和範	4 講
9	30	木	6	外科と免疫(1)	(1)免疫機構と調節、(2)腫瘍免疫	腫瘍外科 土谷智史	4 講

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	1	金	4	炎症と感染(1)	(1)炎症の概念と病態生理、(2)臨床症状と所見、(3)外科的感染症の起炎菌	移植・消化器外科 森田 道	3 講
10	1	金	5	麻酔学(9)	集中治療 1	集中治療部 関野元裕	3 講
10	1	金	6	消化器外科	膵嚢胞性疾患に対する外科治療	鹿児島大学消化器乳腺甲状腺外科 大塚 隆生	3 講
10	4	月	4	小児外科の特徴	(1)小児外科の特徴、(2)新生児・未熟児の特徴、(3)術前・術後の栄養管理	移植・消化器外科 小坂 太一郎	4 講
10	4	月	5	麻酔学(10)	集中治療 2	麻酔科 東島 潮	4 講
10	4	月	6	体液の変動と輸液	(1)正常体液分布、(2)侵襲と体液変動、(3)水・電解質異常、(4)酸塩基平衡傷害、(5)輸液療法	腫瘍外科 松本恵	4 講
10	5	火	5	救急医学(7)	外傷治療プロトコール	外傷センター 宮本 俊之	4 講
10	5	火	6	麻酔学(11)	ペインクリニック	麻酔科 樋田久美子	4 講
10	6	水	1	炎症と感染(2)	(4)全身感染症と敗血症、(5)外科的特殊感染症、(6)治療	移植・消化器外科 原 貴信	4 講
10	6	水	2	外科と栄養(1)	(1)外科における栄養管理の意義、(2)栄養アセスメント	移植・消化器外科 丸屋 安広	4 講
10	6	水	4	麻酔学(12)	緩和医療	麻酔科 石井浩二	4 講
10	6	水	5	老人外科の特徴	(1)老人外科の特徴、(2)手術適応、(3)周術期管理の特徴	移植・消化器外科 岡田 怜美	4 講
10	6	水	6	外科と栄養(2)	(3)経腸栄養、(4)経静脈栄養	移植・消化器外科 今村 一步	4 講
10	7	木	4	外科的侵襲と生体反応(1)	(1)神経内分泌系の反応、(2)循環系の反応、(3)代謝系の反応	腫瘍外科 宮崎拓郎	4 講
10	7	木	5	外科的侵襲と生体反応(2)	(4)免疫系の反応、(5)血液凝固系の反応、(6)術後の生体反応と回復過程	腫瘍外科 宮崎拓郎	4 講
10	7	木	6	移植と人工臓器	消化器系の移植と人工臓器	移植・消化器外科 日高 匡章	4 講
10	8	金	4	移植と人工臓器	泌尿器系の移植と人工臓器	泌尿器科 望月 保志	4 講
10	8	金	5	外科と免疫(2)	(3)移植免疫、(4)免疫不全と日和見感染	腫瘍外科 土谷智史	4 講
10	8	金	6	移植と人工臓器	呼吸器系の移植と人工臓器	腫瘍外科 松本桂太郎	4 講
10	11	月	4	移植と人工臓器	循環器系の移植と人工臓器	心臓血管外科 松丸 一朗	4 講
10	11	月	5	TBL		移植・消化器外科 日高匡章	4 講
10	11	月	6	TBL		移植・消化器外科 日高匡章	4 講
10	13	水	1～3	試験			4 講

総合診療学・医療情報学

責任者	氏名（教室）	前田 隆浩（総合診療科）		
	電話番号	095-819-7591	e-mail	tmaeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:30～18:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	General Medicine・Medical Informatics		

1. 授業の概要及び位置づけ

〔総合診療学〕

地域医療を支える病院、診療所の現場では、急速な高齢化を踏まえて包括的な健康に適切に対応する医師の必要性が高くなっている。そのため、総合的な診療能力の知識とその実践法に關しての授業を行う。

〔医療情報学〕

医療分野におけるICT化に向けた政府や厚生労働省の動向、病院情報システムや地域医療情報システムの実態とその問題点を把握し、病院における患者データの管理や研究支援に關してその方法を理解する。資料およびPC等を用いた講義形式により授業を展開する。

2. 授業到達目標

〔総合診療学〕

日常遭遇する疾病等に対して適切な初期対応、継続的な診療を提供し、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看取りなどを提供する方法を学ぶ。

〔医療情報学〕

医療分野におけるICT化の動向、医療機関における情報システム・電子カルテと特徴と問題点、地域医療連携システムの実情とメリット、離島医療支援の経過と現状、データの標準化、セキュリティに關して概ね基礎的内容が説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

〔総合診療学〕

包括的統合アプローチ、一般的な健康問題に対する診療能力、患者中心の医療・ケア、連携重視のマネジメント、地域包括ケアを含む地域志向アプローチ、公益に資する職業規範、多様な診療の場に対応する能力についての講義及び演習

〔医療情報学〕

医療情報システム、病院情報システム、広域医療情報ネットワーク、システム運用、患者データベース、データの再利用などに關しての講義

4. 教科書・教材・参考書

＜参考書＞ 病院家庭医：新たなSpeciality 森川暢，他3名（編集、監修） 南山堂 4,290円
 マクウィニー家庭医療学 上巻、下巻 Ian R. McWhinney, 他1名 3,960円
 日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック 南山堂 4,000円
 医療情報 医療情報システム編 題5版 篠原出版新社 3,300円

5. 成績評価の方法・基準等

〔総合診療学〕 出席および定期試験で評価を行う。定期試験の受験資格は3分の2以上の出席したものとする。

〔医療情報学〕 出席状況、レポートによる評価。レポートの評価の基準は、与えられたテーマについて調査し、適切なキーワードを用いて的確に内容が説明できているかどうかを判断基準とする。

6. 事前・事後学修の内容

〔総合診療学〕 これまで学習した総合診療学を復習しておく。

〔医療情報学〕 これまで学習した情報処理関連の講義・演習等を復習しておく。

7. 教員名

前田隆浩（総合診療科）、松本武浩（医療情報学）、中道聖子（総合診療科）、山梨啓友（総合診療科）、杉本尊史（総合診療科）、赤羽目翔悟（総合診療科）、松下哲朗（総合診療科）、松原大（総合診療科）、寺澤佳洋（総合診療科）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	B

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	21	月	4	総合診療学総論	総論（病院総合診療医・病院家庭医）	前田隆浩	4 講
6	21	月	5	総合診療学各論	慢性疾患のケア、継続的なケア	赤羽目翔悟	4 講
6	21	月	6	総合診療学各論	グローバルヘルス、へき地・離島医療	山梨啓友	4 講
6	22	火	1	総合診療学各論	患者中心の医療の方法	山梨啓友	4 講
6	22	火	2	総合診療学各論	地域包括ケアと地域志向性プライマリ・ケア	松下哲朗	4 講
6	22	火	3	総合診療学各論	高齢者のケア、ケア・コーディネーションと地域連携/ケア移行	赤羽目翔悟	4 講
6	23	水	3	総合診療学各論	障害者支援・リハビリテーション	松原大	2 講
6	24	木	3	総合診療学各論	緩和ケアおよび人生の最終段階におけるケア	中道聖子	4 講
6	28	月	4	医療情報学	病院情報システムの進歩I - なぜ医療の情報化が必要か？-	松本武浩	4 講
6	28	月	5	医療情報学	病院情報システムの進歩II - 医療の情報化の効果-	松本武浩	4 講
6	28	月	6	総合診療学各論	在宅医療	杉本尊史	4 講
6	29	火	3	総合診療学各論	ヘルスプロモーションと疾病予防	中道聖子	4 講
6	30	水	3	医療情報学	病院情報システムの進歩III - 医療情報学	松本武浩	2 講
7	1	木	3	医療情報学	病院情報システムの進歩IV - 医療情報学	松本武浩	4 講
7	6	火	1	総合診療学各論	患者医師関係、医療の文脈性、価値に基づいた医療	杉本尊史	4 講
7	6	火	2	総合診療学各論	家族志向の医療/ライフサイクルに応じたケア	山梨啓友	4 講
7	6	火	3	総合診療学各論	生物心理社会モデル	寺澤佳洋	4 講
7	7	水	3	総合診療学総論	これからの総合診療	前田隆浩	2 講
8	6	金	1～3	試験			4 講

臨床薬理学

責任者	氏名（教室）	兒玉 幸修（臨床薬物動態学（薬剤部））		
	電話番号	7246	e-mail	y-kodama@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00以降		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Clinical Pharmacology		

1. 授業の概要及び位置づけ

臨床で薬物治療を実施する場合、薬剤の体内動態を合理的に予測し、病態に影響する各種要因や最新の相互作用・副作用の情報を考慮し、適正な製剤を選択し、総合的な投与計画を設計する必要がある。この講義では、薬物投与設計のための薬物速度論を理解し、相互作用や製剤の基礎知識を深め、実際に臨床で応用できる能力を身に付ける。

2. 授業到達目標

医薬品に関わる法規制について概説できる。
 処方設計における注意点を理解し、処方箋の書き方を実践できる。
 薬物動態について説明でき、薬物速度論による投与設計ができる。
 TDMの意義について理解し、実施すべき薬物を列举できる。
 薬物の相互作用について説明できる。
 製剤学的工夫がされた薬剤について概説できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

薬物の臨床使用を想定した点滴投与、経口投与などの薬物速度論を講義する。さらに、薬物投与設計のための投与量、投与間隔、投与方法などの理論を学び、実際の薬物について、自分で投与設計を行う。また、Therapeutic Drug Monitoringの症例をもとに影響因子を考察する。さらに、処方設計の考え方、薬物相互作用の基礎知識、新規製剤の知識、特定薬剤治療管理料を算定できる薬剤の詳細について講義する。

4. 教科書・教材・参考書

LACSを用いて授業資料を事前配布する。

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査（70%）と、出席・小テスト（30%）を考慮して判定する。

6. 事前・事後学修の内容

LACSを用いて授業資料を事前配布する。

7. 教員名

佐々木 均（薬剤部）、兒玉 幸修（薬剤部）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	D

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	24	木	1	医薬品概論	医薬品開発の歴史、医薬品に関わる法規制について概説する	薬剤部・兒玉	4 講
6	24	木	2	処方設計	処方箋の法律的意義や処方設計における注意点などに関して講義する	薬剤部・兒玉	4 講
6	29	火	1	薬物動態1	薬物の体内動態（吸収・分布）の原理と影響する各種要因について講義する	薬剤部・兒玉	4 講
6	29	火	2	薬物動態2	薬物の体内動態（代謝・排泄）の原理と影響する各種要因について講義する	薬剤部・兒玉	4 講
7	1	木	1	薬物速度論	静脈注射、経口投与、点滴注射などの基礎理論を講義する	薬剤部・兒玉	4 講
7	1	木	2	TDM	Therapeutic Drug Monitoring対象薬剤の紹介および処方における注意点を症例をもとに講義する	薬剤部・兒玉	4 講
7	8	木	1	製剤	種々の製剤の特徴に関して講義する	薬剤部・兒玉	2 講
7	8	木	2	相互作用	薬物の製剤学的、生物薬剤学的、薬理学的な相互作用について講義する	薬剤部・兒玉	2 講
7	9	金	1～2	試験	臨床薬理学の理解度を確認するための試験を実施する	薬剤部・兒玉	4 講

東洋医学

責任者	氏名（教室）	有賀 純（医科薬理学）		
	電話番号	7043	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Kampo (Japanese traditional medicine)		

1. 授業の概要及び位置づけ

保険適応の医療用薬剤として漢方薬は30年以上の歴史があり、多くの医師が様々な疾患の治療に漢方薬を使用する。日本の漢方薬は、米国など海外でも治療体系に組み込まれている。診療に必要な和漢薬治療の基本、漢方薬の基礎概念を学ぶ。同時に、漢方薬を含めた薬剤反応（薬効）の個人差（多様性）の遺伝子レベルでの理解を深め、より実践的な「薬物療法の論理」を学び、将来臨床の場において「自家薬籠中の薬（P-drug）」を正しく形成する基盤を作ること为目标とする。

2. 授業到達目標

漢方医学の基本的な考え方について概説できる。
代表的な漢方処方の構成と効果、副作用を概説できる。
漢方医学が臨床において用いられている現状を概説できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

漢方医学を用いている臨床、西洋医学（エビデンス）の観点から漢方処方、生薬についての研究、漢方医学の歴史、漢方医学における診察法と証などについて、それぞれの分野の専門家が講義を行う。生薬を観察する、漢方薬の試飲を行うなどの体験学習、学生が患者とその家族、医師などの役を演じるロールプレイ学習も予定されている。

4. 教科書・教材・参考書

プリント資料配布

<参考書>

漢方医学テキスト 日本東洋医学会学術教育委員会 南江堂

症例から学ぶ和漢診療学 寺澤捷年 医学書院

はじめての漢方診療ノート 三瀧忠道 医学書院

5. 成績評価の方法・基準等

試験は筆答形式で行い、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

日常生活の中で漢方薬がどのように用いられているかに注意を払い、触れる機会があればその都度、調べてみることにする。

7. 教員名

有賀 純（医科薬理学）、松永 隼人（医科薬理学）、田原 英一（飯塚病院）、境 徹也（佐世保共済病院）、松島 加代子（消化器内科）、田中 隆（薬学部・天然物化学）、宮崎 恭子（山崎産婦人科医院）、柳田 俊彦（宮崎大学・医学部）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	16	金	1	漢方薬Ⅰ	生薬の有効成分について	田中 隆	4 講
7	16	金	2	漢方薬Ⅱ	漢方薬の臨床 1 (麻酔科)	境 徹也	4 講
7	16	金	3	漢方薬Ⅴ	漢方薬の臨床 2 (産婦人科)	宮崎 恭子	4 講
8	2	月	1	漢方薬Ⅴ	漢方医学の診断・治療 1	田原 英一	2 講
8	2	月	2	漢方薬Ⅵ	漢方医学の診断・治療 1	田原 英一	2 講
8	2	月	3	漢方薬Ⅲ	漢方薬の臨床 3 (消化器科)	松島 加代子	2 講
8	5	木	1	特別講義	ロールプレイ 1	柳田 俊彦	ボードイン
8	5	木	2	特別講義	ロールプレイ 2	柳田 俊彦	ボードイン
8	5	木	3	特別講義	ロールプレイ 3	柳田 俊彦	ボードイン
8	6	金	1～3	試験			4 講

総合病理学

責任者	氏名（教室）	中島 正洋（原研病理）		
	電話番号	7105	e-mail	moemoe@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 12:00～15:00		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Clinical pathology		

1. 授業の概要及び位置づけ

臨床医としての診療の中で、病因解明や死因究明のため亡くなられた患者さんの剖検の機会があり、病理解剖の結果を踏まえてのCPC(clinico-pathological conference)を通じて、今後の診療に役立てることが求められる。また、臨床研修制度の中で、病理解剖症例のCPCレポートが義務づけられている。CPCは病理医と臨床医が、貴重な剖検例から得られる全身臓器に観られる病理変化を通じて病態を考察する、総合病理学である。

2. 授業到達目標

本授業の目的は、学生が与えられた病理解剖症例を通して、CPCを体験し、患者さんの病態を総合的に解析し、最終診断に至る過程を学ぶことである。

3. 授業内容（講義・実習項目）

病理学講座（旧第1、第2病理）と原研病理の教員が各1回ずつ担当する。

授業は、病理解剖症例を用いて、CPC方式で行う。

実際の病理解剖症例について、臨床病歴、現症、検査データ、画像などのプレゼンテーション資料から病態を推察し臨床診断を行い、さらに問題点を提起する。

その後、病理解剖所見（肉眼所見・組織所見）を観察（標本検鏡を含む）し、病理診断をまとめ、総合討論する。

4. 教科書・教材・参考書

病理解剖マニュアル：病理と臨床 第30巻 臨時増刊号 文光堂
外科病理学 第4版 文光堂

5. 成績評価の方法・基準等

期末試験は行わず、卒業試験科目として卒業判定時に出席点と受講態度を重視して評価する。正当な理由なく3回（症例）以上欠席したものは失格とする。

6. 事前・事後学修の内容

事前に病理学総論・各論の総括的復習を行うこと。

7. 教員名

中島 正洋（原研病理）、林 洋子（第1病理）、福岡 順也（第2病理）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	18	金	1	剖検症例 1	CPC形式	病理1・林	実 2
6	18	金	2	剖検症例1	CPC形式	病理1・林	実 2
6	23	水	1	剖検症例2	CPC形式	原研病理・中島	実 2
6	23	水	2	剖検症例2	CPC形式	原研病理・中島	実 2
6	25	金	1	剖検症例3	CPC形式	病理2・福岡	CBT室
6	25	金	2	剖検症例3	CPC形式	病理2・福岡	CBT室
6	30	水	1	剖検症例4	CPC形式	病理2・福岡	CBT室
6	30	水	2	剖検症例4	CPC形式	病理2・福岡	CBT室
7	2	金	1	剖検症例5	CPC形式	病理1・林	実 2
7	2	金	2	剖検症例5	CPC形式	病理1・林	実 2
7	7	水	1	剖検症例6	CPC形式	原研病理・中島	実 2
7	7	水	2	剖検症例6	CPC形式	原研病理・中島	実 2

臨床推論PBL

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	4年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
科目英語名	Problem-based learning		

1. 授業の概要及び位置づけ

Problem-based learning (PBL)は、4年次の学生に対し臨床各科ローテーションが始まる前に、課題探索・自己問題解決能力のトレーニングとして、平成16年度から導入された教育方法である。

医学部（医学科）学生はこの時期までは、主に座学により医学的知識の蓄積に努めてきたが、実際の臨床医療を学ぶためには自主的問題解決型の思考、学習が必要となる。よって、臨床実習前に、あるテーマに対して調査、討論を重ねて解答、解決法を自ら見出す学習としてPBLを行う。

2. 授業到達目標

- (1) 与えられた知識の記憶にとどまらず、必要な知識を自ら獲得する方法と習慣を身に付ける。
- (2) 臨床に即した問題解決が行えるよう、病態の基礎医学的理解から診断・治療までを症例に基づいて一貫して学ぶことにより、臨床実習に必要な基本的知識と考え方を習得する。
- (3) グループ学習を通じてコミュニケーション能力を身に付け、チーム医療の基本を学ぶ。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員よりテーマとなる疾患等を示し、学生はそのテーマに対して調査・検討を行い、解決法を探る。

4. 教科書・教材・参考書

適宜資料等を提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

出席の状況、討論への参加状況をもとに評価する。

6. 事前・事後学修の内容

これまでに学んだ医学的知識を体系的に確認しておくこと。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

ローテーション表及び各科時間割は、別途手引きとして配付する。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	C

臨床実習

責任者	氏名（教室）	上谷 雅孝（放射線医学）		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	4年次・後期 5年次・通年	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	64
科目英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

1. 授業の概要及び位置づけ

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。目標は、①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種との役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

2. 授業到達目標

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

3. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

4. 教科書・教材・参考書

適宜資料等を配付する。

5. 成績評価の方法・基準等

各科の実習および臨床実習入門で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。なお、期間を通じた到達目標達成度・mini-CEX・ポートフォリオ・チーム医療実習においても評価する。

6. 事前・事後学修の内容

診療科により異なる。

7. 教員名

「臨床実習の手引」を参照

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B

リサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	池田裕明（腫瘍医学）		
	電話番号	095-819-7081	e-mail	hikedata@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00-17:00		

対象年次・学期	3年次・後期 4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	11.5
科目英語名	Research Seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

有能な医師になる為には、基礎研究を理解し実施する能力、理論的かつ批判的に考察する能力が必須である。医学はまだ発展途上にあり、有能な医師は、その発展の一端を担える能力、研究成果の是非を判断する能力を習得しなければならない。現在、専門医の重要性が強調される裏側で、研究に対する意識が薄らぐ傾向にあると言えるが、リサーチセミナーでは、研究の実践を通じて「医学」が「科学」としていかに発展するかというプロセスを学ぶ。

2. 授業到達目標

セミナー期間中は、熱帯医学研究所・原爆後障害医療研究所を含む基礎系教室で終日研究活動に従事し、配属先の基礎医学系教員とマンツーマンの指導を受け、研究背景を学術論文から理解し、研究計画書を作成して実践し、研究結果をまとめ、発表および討論を行う能力を身につけることを目標とする。なお合同発表会は、可能な限り一般公開する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

3年次後期（1～2月）、各配属教室において研究実習を行い、報告書を提出する。
4年次前期（5月）、リサーチセミナー発表会において、研究内容の発表を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

5. 成績評価の方法・基準等

研究報告書・担当教員の評価・発表会の評価から総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

毎回の予習復習課題として文献資料を読むこと。

7. 教員名

池田裕明（腫瘍医学）

8. 備考

【研究テーマの選択方法】

1. 各教室から研究テーマ、そのテーマを指導する責任教員名とそのテーマに従事する学生数が公示される。
2. 各学生は希望する教室とテーマを1つ選択して提出する。
3. この時点で学生自身がテーマを提案してもよい。その場合にはそのテーマについて指導す

ることを承諾する講座を必要とする。

4. 各研究テーマの定員を超過した場合には、学生間の抽選により決定する。
5. 抽選にもれた学生は、定員に満たないテーマの中から、テーマを1つ選択して提出する。
6. 全学生が何れかのテーマに属するまで上記4. と5. の操作を繰り返す。

【リサーチセミナー履修の認定の条件】

1. セミナー開始時にオリエンテーション（総合オリエンテーション、実験動物についての講義）、必要な動物実験施設やアイソトープ実験施設の使用に関する説明会に出席していること。
2. 研究活動に200時間以上に従事していること。
3. 研究報告書（A4のフォーマットを準備）を学務課へ提出すること。（※切：3月1日）（ワープロまたはボールペン書きのものに限る。鉛筆書きは不可）
4. 実際の研究記録は配属教室の指導責任者に提出すること。配属教室ではリサーチセミナー終了時に発表会を開き、研究記録とともに評価をしてもらう。指導教員はこの評価をリサーチセミナー責任者に提出する。（※切：3月1日）
5. 4年次の5月に開催される「リサーチセミナー発表会」に出席し、発表・討論を行うこと。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E

アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30～17:30		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（研究医コース）	単位数	1
科目英語名	Advanced research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につける。

2. 授業到達目標

科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

5. 成績評価の方法・基準等

評価は発表会（8、9月頃）の得点による。

6. 事前・事後学修の内容

各配属教室による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

【配属教室の選択方法】

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次：前期・後期、 3～4年次：後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1
科目英語名	Small group medical seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教員と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。

2. 授業到達目標

各担当教員による。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員による。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

- 1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

医学英語Ⅳ

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13:00-17:00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	4年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical English IV		

1. 授業の概要及び位置づけ

器官別のMedical Terminologyを医学英単語の構造から学び、医学英語Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで全器官を網羅します。また、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を学習します。

【Medical Terminology】

・医学英単語の成り立ち ・図解と名称 ・発音聴き取り ・日常語への置き換え 他

【医学英語論文】

・医学英文法 ・論文の種類と構成 ・疾病の基本知識 ・研究成果の読み取り ・要約 他

2. 授業到達目標

医学英単語の語彙力を身に付けるとともに、医学英語論文の講読・要約を通し、医学研究に必要な基礎知識を修得することを目標とします。

3. 授業内容（講義・実習項目）

対面授業8回、web学習7回の全15回で行います。

4. 教科書・教材・参考書

eラーニング教材を用います。詳細は初回授業時に説明します。

5. 成績評価の方法・基準等

授業への参加状況、eラーニングの受講状況、終了テストの結果を総合的に判断します。

6. 事前・事後学修の内容

eラーニングの受講は計画的に行うこと。

7. 教員名

トッド・サンダース(感染分子解析学)

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教室	教室
4	7	水	7	ガイダンス		トッド	4 講
				Web1 Med. Terminology(8) Unit12-眼/Unit13-耳	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・正解選択	—	自宅学習
4	14	水	7	対面授業 1		トッド	4 講
				Web2 医学英語論文(5-1) (Case Report-2)	重大な院内感染におけるTigecyclineの使用	—	自宅学習
4	28	水	7	対面授業 2		トッド	2 講
				Web3 医学英語論文(5-2) (Case Report-2)	重大な院内感染におけるTigecyclineの使用	—	自宅学習
5	19	水	7	対面授業 3		トッド	2 講
				Web4 Med. Terminology(9) Unit14-皮膚/Unit15-内分泌系	・図解と名称 ・医学用語の部品 ・医学用語の定義 ・正解選択	—	自宅学習
6	9	水	7	対面授業 4		トッド	4 講
				Web5 医学英語論文(6-1) (Original Article-2)	認知症の危険因子について	—	自宅学習
6	23	水	7	対面授業 5		トッド	4 講
				Web6 医学英語論文(6-2) (Original Article-2)	認知症の危険因子について	—	自宅学習
6	30	水	7	対面授業 6		トッド	4 講
				Web7 医学英語論文(7) (Abstract&References・まとめ)	論文知識の補足・まとめ	—	自宅学習
7	21	水	7	対面授業 7		トッド	4 講
				試験	終了テスト(web)	—	自宅学習

【暫定版:2021.4.22】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 5年前期

月	日	月							日	火							日	水							日	木							日	金						
		1	2	3	4	5	6	7		8	1	2	3	4	5	6		7	8	1	2	3	4	5		6	7	8	1	2	3	4		5	6	7	8			
		8:50 5	10:00 5	11:10 5	13:00 5	14:10 5	15:20 5	16:30 5		17:40 5	8:50 5	10:00 5	11:10 5	13:00 5	14:10 5	15:20 5		16:30 5	17:40 5	8:50 5	10:00 5	11:10 5	13:00 5	14:10 5		15:20 5	16:30 5	17:40 5	8:50 5	10:00 5	11:10 5	13:00 5		14:10 5	15:20 5	16:30 5	17:40 5			
9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	
4																									1	春季休業							2	春季休業						
	5	臨床実習 ⑤							6	臨床実習 ⑤							7	臨床実習 ⑤							8	臨床実習 ⑤							9	臨床実習 ⑤						
	12								13								14								15								16							
	19	臨床実習 ⑤							20	臨床実習 ⑥							21	健康診断		臨床実習 ⑥					22	臨床実習⑥							23	臨床実習 ⑥						
	26								27								28								29	昭和の日							30							
5	3	憲法記念日						4	みどりの日						5	こどもの日						6	自主学習						7	自主学習										
	10	臨床実習 ⑦						11	臨床実習 ⑦						12	臨床実習 ⑦						13	臨床実習 ⑦						14	臨床実習 ⑦										
	17							18							19							20							21											
	24	臨床実習 ⑧						25	臨床実習 ⑧						26	臨床実習 ⑧						27	臨床実習 ⑧						28	臨床実習 ⑧										
6	31							1							2							3							4											
	7	臨床実習 ⑨						8	臨床実習 ⑨						9	臨床実習 ⑨						10	臨床実習 ⑨						11	臨床実習 ⑨										
	14							15							16							17							18											
	21	臨床実習 ⑩						22	臨床実習 ⑩						23	臨床実習 ⑩						24	臨床実習 ⑩						25	臨床実習 ⑩										
7	28							29							30							1							2											
	5	臨床実習 ⑪						6	臨床実習 ⑪						7	臨床実習 ⑪						8	臨床実習 ⑪						9	臨床実習 ⑪										
	12	臨床実習 振り返り						13							14							15							16											
	19	臨床実習 ⑫						20	臨床実習 ⑫						21	臨床実習 ⑫						22	海の日						23	スポーツの日										
	26							27							28							29	臨床実習 ⑫							30	臨床実習 ⑫									
8	2	夏季休業						3	夏季休業						4	夏季休業						5	夏季休業						6	夏季休業										
	9	振替休日						10	夏季休業						11	夏季休業						12	夏季休業						13	夏季休業										
	16	夏季休業						17	夏季休業						18	夏季休業						19	夏季休業						20	夏季休業										
	23	夏季休業						24	夏季休業						25	夏季休業						26	夏季休業						27	夏季休業										
9	30	臨床実習 ⑬						31	臨床実習 ⑬						1	臨床実習 ⑬						2	臨床実習 ⑬						3	臨床実習 ⑬										
	6							7							8							9							10											
	13	臨床実習 ⑭						14	臨床実習 ⑭						15	臨床実習 ⑭						16	臨床実習 ⑭						17	臨床実習 ⑭										

令和3年度 授業時間割 5年後期

月	日	月								日	火								日	水								日	木								日	金									
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8											
		8:50 ㄱ	10:00 ㄱ	11:10 ㄱ	13:00 ㄱ	14:10 ㄱ	15:20 ㄱ	16:30 ㄱ	17:40 ㄱ		8:50 ㄱ	10:00 ㄱ	11:10 ㄱ	13:00 ㄱ	14:10 ㄱ	15:20 ㄱ	16:30 ㄱ	17:40 ㄱ		8:50 ㄱ	10:00 ㄱ	11:10 ㄱ	13:00 ㄱ	14:10 ㄱ	15:20 ㄱ	16:30 ㄱ	17:40 ㄱ		8:50 ㄱ	10:00 ㄱ	11:10 ㄱ	13:00 ㄱ	14:10 ㄱ	15:20 ㄱ	16:30 ㄱ	17:40 ㄱ											
9	20	敬老の日								21	臨床実習 ⑭									22	臨床実習 ⑭									23	秋分の日								24	臨床実習 ⑭							
	27	臨床実習 ⑮								28	臨床実習 ⑮									29	臨床実習 ⑮									30	臨床実習 ⑮								1	臨床実習 ⑮							
10	4	臨床実習 ⑮								5	臨床実習 ⑮								6	臨床実習 ⑮								7	臨床実習 ⑮								8	臨床実習 ⑮									
	11	臨床実習 ⑮								12	臨床実習 ⑮								13	臨床実習 ⑮								14	臨床実習 ⑮								15	臨床実習 ⑮									
	18	臨床実習 ⑮								19	臨床実習 ⑮								20	臨床実習 ⑮								21	臨床実習 ⑮								22	臨床実習 ⑮									
11	25	臨床実習 ⑰								26	臨床実習 ⑰								27	臨床実習 ⑰								28	臨床実習 ⑰								29	臨床実習 ⑰									
	1	臨床実習 ⑱								2	臨床実習 ⑱								3	文化の日								4	臨床実習 ⑱								5	臨床実習 ⑱									
	8	臨床実習 ⑱								9	臨床実習 ⑱								10	臨床実習 ⑱								11	臨床実習 ⑱								12	臨床実習 ⑱									
	15	臨床実習 ⑱								16	臨床実習 ⑱								17	臨床実習 ⑱								18	臨床実習 ⑱								19	臨床実習 ⑱									
	22	臨床実習 ⑲								23	勤労感謝の日								24	臨床実習 ⑲								25	臨床実習 ⑲								26	臨床実習 ⑲									
	29	臨床実習 振り返り								30	臨床実習 ⑲								1	臨床実習 ⑲								2	臨床実習 ⑲								3	臨床実習 ⑲									
12	6	臨床実習 ⑳								7	臨床実習 ⑳								8	臨床実習 ⑳								9	臨床実習 ⑳								10	臨床実習 ⑳									
	13	臨床実習 ⑳								14	臨床実習 ⑳								15	臨床実習 ⑳								16	臨床実習 ⑳								17	臨床実習 ⑳									
	20	冬季休業								21	冬季休業								22	冬季休業								23	冬季休業								24	冬季休業									
1	27	冬季休業								28	冬季休業								29	冬季休業								30	冬季休業								31	冬季休業									
	3	成人の日								4	高次臨床実習オリエンテーション								5	高次臨床実習 ①								6	高次臨床実習 ①								7	高次臨床実習 ①									
	10	高次臨床実習 ①								11	高次臨床実習 ①								12	高次臨床実習 ①								13	高次臨床実習 ①								14	高次臨床実習 ①									
	17	高次臨床実習 ①								18	高次臨床実習 ①								19	高次臨床実習 ①								20	高次臨床実習 ①								21	高次臨床実習 ①									
2	24	高次臨床実習 ①								25	高次臨床実習 ①								26	高次臨床実習 ①								27	高次臨床実習 ①								28	高次臨床実習 ①									
	31	高次臨床実習 ②								1	高次臨床実習 ②								2	高次臨床実習 ②								3	高次臨床実習 ②								4	高次臨床実習 ②									
	7	高次臨床実習 ②								8	高次臨床実習 ②								9	高次臨床実習 ②								10	高次臨床実習 ②								11	建国記念の日									
	14	高次臨床実習 ②								15	高次臨床実習 ②								16	高次臨床実習 ②								17	高次臨床実習 ②								18	高次臨床実習 ②									
3	21	高次臨床実習 ②								22	高次臨床実習 ②								23	天皇誕生日								24	高次臨床実習 ②								25	高次臨床実習 ②									
	28	春季休業								1	春季休業								2	春季休業								3	春季休業								4	春季休業									
	7	春季休業								8	春季休業								9	春季休業								10	春季休業								11	春季休業									
	14	春季休業								15	春季休業								16	春季休業								17	春季休業								18	春季休業									
	21	春分の日								22	春分の日								23	春分の日								24	春分の日								25	春分の日									
	28	春季休業								29	春季休業								30	春季休業								31	春季休業									春季休業									

臨床実習

責任者	氏名（教室）	上谷 雅孝（放射線医学）		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	4年次・後期 5年次・通年	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	64
科目英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

1. 授業の概要及び位置づけ

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。目標は、①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種との役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

2. 授業到達目標

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

3. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。「臨床実習の手引」を参照。

4. 教科書・教材・参考書

適宜資料等を配付する。

5. 成績評価の方法・基準等

各科の実習および臨床実習入門で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。なお、期間を通じた到達目標達成度・mini-CEX・ポートフォリオ・チーム医療実習においても評価する。

6. 事前・事後学修の内容

診療科により異なる。

7. 教員名

「臨床実習の手引」を参照

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B

高次臨床実習

責任者	氏名（教室）	上谷 雅孝（放射線医学）		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	5年次・後期 6年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	27.5
科目英語名	Clinical Clerkship II (Elective Clerkship courses)		

1. 授業の概要及び位置づけ

学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを主旨とする。5年次の臨床実習と比較し、より診療参加型の実習となる。

2. 授業到達目標

診療科により異なる。「高次臨床実習学習要項」を参照。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各診療科または学外実習先より6つの実習先を選択し、1ターム4週間の実習を6ターム行なう。詳細は「高次臨床実習学習要項」を参照。

4. 教科書・教材・参考書

資料は適宜提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

各タームで、出席状況、実習状況等を総合し、評価表に基づいて評価する。6ターム全ての合格を以て高次臨床実習の合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

各診療科により異なる。

7. 教員名

「高次臨床実習学習要項」を参照

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	A

アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	4年次 前期・後期 5年次 前期・後期 6年次 前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（研究医コース）	単位数	各1
科目英語名	Advanced research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につける。

2. 授業到達目標

科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

5. 成績評価の方法・基準等

- 4年次から研究医コースに配属した学生の場合（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅴの5回分の評価）

（1）4年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。

（2）4年後期、5年前期・後期の評価は学期ごとに学生から研究ノートを提出させて行う。

※研究ノート提出時は、配属先担当教員の確認印を得ることとする。

（3）6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

- 5年次から研究医コースに配属した学生の場合（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅲの3回分の評価）

（1）5年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。

（2）5年後期の評価は学生から研究ノートを提出させて行う。

※研究ノート提出時は、配属先担当教員の確認印を得ることとする。

（3）6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

なお、6年次前期の評価は、論文提出による評価を可能とする。”

6. 事前・事後学修の内容

各配属教室による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

【配属教室の選択方法】

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

【暫定版:2021.4.22】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 6年前期

月	日	月								日	火								日	水								日	木								日	金									
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		
		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		
4																												1	卒業試験(第1回)								2	卒業試験(第1回)								研究 医 コ ー ス	
	5	高次臨床実習 ⑨								6	高次臨床実習⑨ 健康診断								7	高次臨床実習 ⑨								8	高次臨床実習 ⑨								9	高次臨床実習 ⑨									
	12									13									14									15									16										
	19									20									21									22									23										
	26									27									28									29	昭和の日								30										
5	3	憲法記念日								4	みどりの日								5	こどもの日								6	自主学習								7	自主学習								研究 医 コ ー ス	
	10	高次臨床実習 ⑩								11	高次臨床実習 ⑩								12	高次臨床実習 ⑩								13	高次臨床実習 ⑩								14	高次臨床実習 ⑩									
	17									18									19									20									21										
	24									25									26									27									28										
6	31	高次臨床実習 ⑪								1	高次臨床実習 ⑪								2	高次臨床実習 ⑪								3	高次臨床実習 ⑪								4										高次臨床実習 ⑪
	7									8									9	10	11																										
	14									15									16	17	18																										
	21									22									23	24	25																										
7	28									29									30	1	2																										
	5	高次臨床実習 ⑫								6	高次臨床実習 ⑫								7	高次臨床実習 ⑫								8	高次臨床実習 ⑫								9	高次臨床実習 ⑫									
	12									13									14	15	16																										
	19									20									21	22	海の日								23	スポーツの日																	
8	26									27									28	29	高次臨床実習⑫								30	高次臨床実習⑫																	研コ
	2	夏季休業								3	夏季休業								4	夏季休業								5	夏季休業								6	夏季休業									
	9	振替休日								10									11	12	13																										
	16	夏季休業								17									18	19	20																										
	23									24									25	26	27																										
	30									31	卒前集中講義								1	卒前集中講義								2	卒前集中講義								3	卒前集中講義									
9	6	卒前集中講義								7	卒前集中講義								8	卒前集中講義								9	卒前集中講義								10										
	13									14									15									16									17	Post-CC OSCE									

令和3年度 授 業 時 間 割 6年後期

月	日	月								日	火								日	水							日	木								日	金		
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--

高次臨床実習

責任者	氏名（教室）	上谷 雅孝（放射線医学）		
	電話番号	095-819-7355	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00～12:00		

対象年次・学期	5年次・後期 6年次・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	27.5
科目英語名	Clinical Clerkship II (Elective Clerkship courses)		

1. 授業の概要及び位置づけ

学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを主旨とする。5年次の臨床実習と比較し、より診療参加型の実習となる。

2. 授業到達目標

診療科により異なる。「高次臨床実習学習要項」を参照。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各診療科または学外実習先より6つの実習先を選択し、1ターム4週間の実習を6ターム行なう。詳細は「高次臨床実習学習要項」を参照。

4. 教科書・教材・参考書

資料は適宜提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

各タームで、出席状況、実習状況等を総合し、評価表に基づいて評価する。6ターム全ての合格を以て高次臨床実習の合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

各診療科により異なる。

7. 教員名

「高次臨床実習学習要項」を参照

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	A

アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	4年次 前期・後期 5年次 前期・後期 6年次 前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（研究医コース）	単位数	各1
科目英語名	Advanced research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につける。

2. 授業到達目標

科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

5. 成績評価の方法・基準等

- 4年次から研究医コースに配属した学生の場合（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅴの5回分の評価）
 - 4年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
 - 4年後期、5年前期・後期の評価は学期ごとに学生から研究ノートを提出させて行う。
※研究ノート提出時は、配属先担当教員の確認印を得ることとする。
 - 6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。
- 5年次から研究医コースに配属した学生の場合（※アドバンストリサーチセミナーⅠ～Ⅲの3回分の評価）
 - 5年前期の評価は発表会（8、9月頃）の得点による。
 - 5年後期の評価は学生から研究ノートを提出させて行う。
※研究ノート提出時は、配属先担当教員の確認印を得ることとする。
 - 6年前期の評価は高次臨床実習（5年次1月～6年次7月）のうち1タームの期間中、研究医コース配属先の教室で研究を行い、総括発表会（7、8月頃）の得点により成績評価を行う。

なお、6年次前期の評価は、論文提出による評価を可能とする。”

6. 事前・事後学修の内容

各配属教室による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

【配属教室の選択方法】

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

令和3年度 卒前集中講義

※ 1校時…8:50～9:50、2校時…10:00～11:00、3校時…11:10～12:10、
4校時…13:00～14:00、5校時…14:10～15:10、6校時…15:20～16:20

月	日	曜日	校時	授業項目	担当講座等	担当教員 ○…オーガナイザー	備考
8	31	火	1	腹痛	腫瘍外科	安武 亨	
			2	特徴的な画像所見がある中枢神経疾患	放射線科	森川 実	
			3	国家試験のための画像診断の知識	放射線科	上谷 雅孝	
			4	膠原病－血管炎症候群を中心として	内科学第一	折口 智樹	
			5	肝炎・肝硬変・肝癌	消化器内科	宮明 寿光	
			6	先天性疾患と遺伝性疾患①	小児科	伊達木 澄人	
9	1	水	1	先天性疾患と遺伝性疾患②	産婦人科	三浦 清徳	
			2	白血病	原研内科	宮崎 泰司	
			3	貧血	原研内科	波多 智子	
			4	絶対覚える胸部・縦隔腫瘍のポイント	内科学第二	山口 博之	
			5	押さえておくべき耳鼻咽喉疾患のTips	耳鼻咽喉科	渡邊 毅	
			6	めまい①	耳鼻咽喉科	渡邊 毅	
9	2	木	1	めまい②	脳神経外科	出雲 剛	
			2	運動麻痺・筋力低下①	脳神経外科	出雲 剛	
			3	運動麻痺・筋力低下②	脳神経内科	宮崎 禎一郎	
			4	消化管疾患	消化器内科	山口 直之	
			5	胸部外科領域の押さえておくべきポイント	腫瘍外科	永安 武	
			6	精神疾患のキーポイント	精神神経科	小澤 寛樹	
9	3	金	1	リウマチ性疾患:関節炎を中心に	内科学第一	川上 純	
			2	国家試験対策 代謝疾患の考え方	内科学第一	阿比留 教生	
			3	泌尿器疾患ケーススタディ	泌尿器科	酒井 英樹	
			4	腎不全・蛋白尿	腎臓内科	西野 友哉・阿部 伸一	
			5	高齢者保健	総合診療科	前田 隆浩	
			6	急性創傷と慢性創傷	形成外科	田中 克己	
9	6	月	1	運動麻痺・筋力低下③	整形外科	富田 雅人	
			2	これだけで十分！リハビリ国家試験対策	リハビリテーション科	高畠 英昭	
			3	救急蘇生, 小児救急	小児科	橋本 邦生	
			4	救急蘇生	高度救命救急センター	田崎 修	
			5	救急の輸液管理, ショック	高度救命救急センター	山下 和範	
			6	救急の輸液管理, ショック, 電解質異常	腎臓内科	山下 鮎子・牟田 久美子	
9	7	火	1	産業保健	公衆衛生学	青柳 潔	
			2	脳腫瘍	脳神経外科	松尾 孝之	
			3	失神	総合診療科	中道 聖子	
			4	月経異常、妊娠初期の異常	産婦人科	北島 道夫	
			5	神経疾患の診断と治療	脳神経内科	辻野 彰	
			6	腹部外科領域の押さえておくべきポイント	移植・消化器外科	江口 晋	
9	8	水	1	ためになる皮膚科学補講	皮膚科	室田 浩之	
			2	感染症の診断と治療①	熱研内科	有吉 紅也	
			3	感染症の診断と治療②	感染症学	泉川 公一	
			4	先天性心疾患	心臓血管外科	三浦 崇	
			5	不整脈	循環器内科	深江 学芸	
			6	Post-CC OSCE学生説明	先端医育センター	安武 亨	
9	9	木	1	検査値の見方:国家試験:輸血医療からのアプローチ	臨床検査医学 細胞療法部	○柳原 克紀 長井 一浩	
			3	胸痛①	内科学第二	尾長谷 靖	
			4	胸痛②	循環器内科	前村 浩二	
			5	呼吸困難①	循環器内科	前村 浩二	
			6	呼吸困難②	耳鼻咽喉科	熊井 良彦	
			1	呼吸困難③	内科学第二	迎 寛	
9	10	金	2	小児に特徴的な cOmmOn diseases	小児科	森内 浩幸	
			3	眼底所見(糖尿病を含む)	眼科	北岡 隆	
			4	化膿性関節炎	整形外科	尾崎 誠	
			5	心エコー	循環器内科	吉牟田 剛	
			6	心電図の読み方	循環器内科	前村 浩二	